

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第12集

大谷川(稻妻地区)

昭和60年度巴川(大谷川放水路工区)特定河川緊急整備事業
埋蔵文化財発掘調査報告書(神明原・元宮川遺跡)

1988

財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第12集

大谷川(稻妻地区)

昭和60年度巴川(大谷川放水路工区)特定河川緊急整備事業
埋蔵文化財発掘調査報告書(神明原・元宮川遺跡)

1988

財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所

序

神明原・元宮川遺跡は、弥生時代から奈良時代にかけての低湿地における集落遺跡として知られ、周囲には登呂遺跡、有東遺跡、汐入遺跡などの著明な集落遺跡のほか、宮川古墳群、伊庄谷横穴群、上ノ山遺跡などの古墳群もみられ、この地の中心的な遺跡と考えられていた。昭和55・56年度には、静岡市教育委員会による大谷川河川改修関連事業の調査が実施されて遺跡の性格の一端が明らかにされたのであった。

この静岡市教育委員会の調査の成果を受けて、昭和58年度から60年度にかけて当研究所で現地調査を実施し、昭和61年度より資料整理作業を継続している。その成果はめざましく古代の大谷川の流路から人形・馬形木製品・斎串・ト骨やおびただしい数の土器などの祭祀遺物が出土し、神明原・元宮川遺跡を流れる大谷川が古代の大規模な「水辺の祭」の場であったことが確認された。この事実は、今までの静岡平野における歴史認識に大きな変更を迫るものであり、今後静岡平野の歴史を構成する上で貴重な手がかりとなるであろう。そしてまた、日本の古代祭祀形態を考える上に重要な資料をもたらすものであろう。

大谷川（稲妻地区）は、この神明原・元宮川遺跡の北端部分にあたり、当初は遺跡から外れるものと考えられていたが、工事中多量の土器が発見され、遺跡が統一していることが確認された。関係者の協議の結果、発掘調査が実施されたわけであるが、やはり多量の土器をはじめとする祭祀遺物が検出された。また、そうした祭祀遺物に混じって木製馬鍔や袋状鉄斧の装着された斧柄なども出土している。本報告書はこうした稲妻地区の発掘調査をまとめたものであるが、「大谷川」の報告書とあわせて活用いただければ幸いである。

なお、この調査に深い理解と協力をいただいた静岡県静岡土木事務所の方々に深い感謝の言葉をささげるものである。あわせて、調査に従事し、その整理や報告書の執筆に関係した静岡県教育委員会文化課の職員の労苦に感謝したい。

昭和63年3月

財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所

所長 斎藤 忠

例　　言

1. 本書は、静岡市大谷地先に所在する神明原・元宮川遺跡（稻妻地区）の発掘調査報告書である。
2. 調査は「昭和60年度巴川（大谷川放水路工区）特定河川緊急整備事業埋蔵文化財発掘調査業務」として静岡県静岡土木事務所の委託を受けて、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が実施機関となり、静岡県教育委員会文化課と協力して実施した。
3. 調査は、昭和61年1月16日から昭和61年3月31日まで行った。
4. 調査担当者には静岡県教育委員会文化課の小杉達・及川司・山田元広（現小山町立須走中学校教諭）・鈴木良孝があたり、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所職員が隨時協力した。
5. 調査の資料及び出土遺物については、昭和61年度・昭和62年度の2ヶ年、及川・鈴木が中心となって整理作業を行った。
6. 本書の執筆分担は以下の通りである。

第Ⅰ章1・2、第Ⅲ章、第Ⅳ章1、第Ⅴ章	及川 司
第Ⅰ章3、第Ⅱ章、第Ⅳ章2～4	鈴木 良孝
7. 本書の編集は及川・鈴木があたった。

凡　例

本書の記述については、以下の基準に従い、統一をはかった。

1. 調査区の位置は、大谷川の河口起点よりの距離を用いた。
2. 発掘区の中の一部分を限定する場合、南北・東西のグリット座標により、A-110区、B-111区のように表記した。
3. 大谷川旧流路内の出土遺物の取り上げについては、10m方眼のグリットを下記のように八分割し、それぞれ番号を付した。また、それとは別に種類別の通しの遺物番号も付した。

NW1	NE1
NW2	NE2
SW1	SE1
SW2	SE2

4. 遺構・遺物の標記は次のとおりである。

遺構 SD…溝状遺構 SE…井戸 SP…小穴・土坑 SX…不明遺構
遺物 W…木製品 E…土製品 S…石製品 B…装飾品 土器は番号のみで符号なし

5. 遺物出土状況図の中で一部記号を用いて表したものがあるが、次のとおりである。

○…木製品（斎串） △…木製品（人形） □…その他の木製品
●…ミニチュア土器 ▲…土製品（人形） ■…土製品（馬形）
*（大きいもの）…装飾品 *…（小さいもの）…石製紡錘車

大 谷 川 (稻妻地区)

昭和60年度巴川(大谷川放水路工区)特定河川緊急整備事業
埋蔵文化財発掘調査報告書(神明原・元宮川遺跡)

目 次

序	
例 言	
目 次	
第Ⅰ章 調査の経過	1
1. 調査に至る経過	1
2. 調査の方法	1
3. 調査の経過	3
第Ⅱ章 環 境	7
1. 遺跡の位置	7
2. 歴史的環境	7
第Ⅲ章 造構の概要	9
1. 微高地上の造構	9
2. 旧大谷川河道跡	24
第Ⅳ章 遺物の概要	39
1. 土器・陶磁器	39
2. 木製品	43
3. 土製品	47
4. その他	48
第Ⅴ章 まとめ	104

挿図目次

第1図 位置図	2
第2図 大谷川（稻妻地区）グリッド設定図	5
第3図 大谷川（稻妻地区）発掘区全体図	10
第4図 稲妻1区左岸微高地上遺構群平面図	11
第5図 稲妻1区右岸微高地上遺構群平面図	13
第6図 稲妻1区S P035実測図	18
第7図 稲妻1区S E001実測図	18
第8図 稲妻2区S D048・S D049・S X008実測図	20
第9図 稲妻2区微高地上遺構群平面図	21
第10図 稲妻2区S D051遺物出土状況図	23
第11図 稲妻2区S X010遺物出土状況図	23
第12図 大谷川旧流路地形図	25
第13図 稲妻1区E-109付近旧流路内遺物出土状況図	26
第14図 稲妻1区E-111~113区旧流路内遺物出土状況図	27
第15図 稲妻1区D・E-114・115区旧流路内遺物出土状況図	29
第16図 稲妻1区D-F-115区旧流路内遺物出土状況図	31
第17図 稲妻1区D-116・117区旧流路内遺物出土状況図	33
第18図 稲妻2区旧大谷川河道土層図	35
第19図 稲妻2区G-116・117区旧流路内遺物出土状況図	36
第20図 稲妻2区F・G-118・119区旧流路内遺物出土状況図	37
第21図 旧大谷川時期別流路変遷想定図	38
第22図 出土遺物実測図（土器1）	49
第23図 出土遺物実測図（土器2）	50
第24図 出土遺物実測図（土器3）	51
第25図 出土遺物実測図（土器4）	52
第26図 出土遺物実測図（土器5）	53
第27図 出土遺物実測図（土器6）	54
第28図 出土遺物実測図（土器7）	55
第29図 出土遺物実測図（土器8）	56
第30図 出土遺物実測図（土器9）	57
第31図 出土遺物実測図（土器10）	58

第32図 出土遺物実測図（土器11）	59
第33図 出土遺物実測図（土器12）	60
第34図 出土遺物実測図（土器13）	61
第35図 出土遺物実測図（土器14）	62
第36図 出土遺物実測図（土器15）	63
第37図 出土遺物実測図（土器16）	64
第38図 出土遺物実測図（土器17）	65
第39図 出土遺物実測図（木製品1）	66
第40図 出土遺物実測図（木製品2）	67
第41図 出土遺物実測図（木製品3）	68
第42図 出土遺物実測図（木製品4）	69
第43図 出土遺物実測図（木製品5）	70
第44図 出土遺物実測図（木製品6）	71
第45図 出土遺物実測図（木製品7）	72
第46図 出土遺物実測図（木製品8）	73
第47図 出土遺物実測図（木製品9）	74
第48図 出土遺物実測図（木製品10）	75
第49図 出土遺物実測図（木製品11）	76
第50図 出土遺物実測図（土製品1）	77
第51図 出土遺物実測図（土製品2）	78
第52図 出土遺物実測図（その他の遺物）	79

挿表目次

第1表 稲妻1区土坑・小穴(S P)計測表.....	17
第2表 稲妻2区土坑・小穴(S P)計測表.....	24
第3表 土器観察表(1)	80
第4表 土器観察表(2)	81
第5表 土器観察表(3)	82
第6表 土器観察表(4)	83
第7表 土器観察表(5)	84
第8表 土器観察表(6)	85
第9表 土器観察表(7)	86
第10表 土器観察表(8)	87
第11表 土器観察表(9)	88
第12表 土器観察表(10)	89
第13表 土器観察表(11)	90
第14表 土器観察表(12)	91
第15表 土器観察表(13)	92
第16表 土器観察表(14)	93
第17表 土器観察表(15)	94
第18表 土器観察表(16)	95
第19表 土器観察表(17)	96
第20表 土器観察表(18)	97
第21表 土器観察表(19)	98
第22表 土器観察表(20)	99
第23表 木製品計測表(1)	100
第24表 木製品計測表(2)	101
第25表 木製品計測表(3)	102
第26表 土製品計測表(1)	102
第27表 土製品計測表(2)	103

図版目次

- 図版1 1. 遺跡遠景（西より）
2. 発掘区全景（北より）
- 図版2 1. 稲妻1区全景（航空写真）
2. 稲妻2区全景（航空写真）
- 図版3 1. 稲妻1区完掘状況（南より）
- 図版4 1. 稲妻1区南半部（北より）
2. 稲妻1区E-115区付近（北より）
- 図版5 1. 稲妻1区旧流路内遺物出土状況 E-109・110区
2. 同 上 E-109区
3. 同 上 D-111区
- 図版6 1. 稲妻1区旧流路内遺物出土状況 D-113区
2. 同 上 D-114区東側
3. 同 上 D-114区北西側
- 図版7 1. 稲妻1区旧流路内遺物出土状況 D-115区
2. 同 上 E-115・116区
3. 同 上 E-116区
- 図版8 1. 稲妻1区微高地上遺構群（北より）
2. 稲妻1区溝状遺構群
- 図版9 1. 稲妻1区こまり川旧流路断面
2. 稲妻1区S P 035
3. 稲妻1区S E 001断面
- 図版10 1. 稲妻1区S E 001井戸枠
2. 稲妻1区S E 001井戸枠（転用材）
3. 稲妻1区S.E 001完掘状況
- 図版11 稲妻2区完掘状況（南より）
- 図版12 1. 稲妻2区S D 051遺物出土状況
2. 稲妻2区S D 048・S D 049・S X 008
3. 稲妻2区G-115・116区
- 図版13 1. 稲妻2区北半部完掘状況（北より）
2. 稲妻2区旧流路内遺物出土状況（南より）
- 図版14 1. 稲妻2区旧流路内遺物出土状況 F-117区

2. 同 上 F・G-118区
3. 同 上 G-119区
- 図版15 1. 稲妻2区旧流路内遺物出土状況 G-118区
2. 同 上 G-118区
3. 同 上 G-118区
- 図版16 1. 柄付鉄斧出土状況
2. 同 上鉄斧部分
3. 馬歛出土状況
- 図版17 1. 須恵器大甕出土状況 2. 土師器甕・甌出土状況 3. 子持勾玉出土状況
4. ミニチュア土器(甕)出土状況 5. ミニチュア土器(短頸壺)出土状況
- 図版18 1. ミニチュア土器(甕)・馬形土製品出土状況 2. 馬形土製品出土状況
3. 馬形土製品出土状況 4. 人形土製品出土状況 5. 人形木製品出土状況
6. 人形木製品出土状況 7. 人形木製品出土状況 8. 人形木製品出土状況
- 図版19 1. 人形木製品・斎串出土状況 2. 刀形木製品出土状況 3. 斧柄出土状況
4. 木皿出土状況 5. 杵出土状況 6. 曲物・木盆出土状況
7. ヘリコプターによる航測実施状況 8. 同 左
- 図版20 出土遺物1 土器1(稲妻1区大谷川旧流路)
- 図版21 出土遺物2 土器2(稲妻1区大谷川旧流路)
- 図版22 出土遺物3 土器3(稲妻2区大谷川旧流路)
- 図版23 出土遺物4 土器4(稲妻2区大谷川旧流路)
- 図版24 出土遺物5 土器5(稲妻2区大谷川旧流路)
- 図版25 出土遺物6 土器2(稲妻1区S P 035、稲妻2区大谷川旧流路・包含層)
- 図版26 出土遺物7 木製品1 人形・斎串・馬形(大谷川旧流路)
- 図版27 出土遺物8 木製品2 刀形・舟形地(大谷川旧流路)
- 図版28 出土遺物9 木製品3 用具・容器(大谷川旧流路)
- 図版29 出土遺物10 土製品 人形・馬形・ミニチュア土器(大谷川旧流路)
- 図版30 出土遺物11 その他の遺物 装飾品・銅錢・石製品他

第Ⅰ章 調査の経過

1. 調査に至る経過

静岡市街地の北郊、麻機山地にその源を発し、浅畠低地・清水平野の北方を通り、清水市街地を抜け折戸湾に注ぐ巴川の流域は水はけが悪く、古くから浸水被害が度々と発生している。さらにこの流域の自然遊水地にも市街化が進んでおりわずかの雨でも災害を引き起こすようになった。そのため静岡県(静岡土木事務所)では、「巴川総合治水対策特定河川事業」として河道の改修・放水路の建設・遊水地の整備をはじめとする事業を進めている。その一つとして静岡市の南東部を流れる大谷川を改修して巴川と繋ぎ、放水路として機能させる工事を実施することになった。しかし、大谷川の下流域には神明原・元宮川遺跡があり、大谷川放水路建設工事に伴い、事前に発掘調査を実施することになった。各年度における調査は次のとおりである。

昭和55年度 静岡市教育委員会 高松地区(右岸330m~610m)、1,800m²

昭和56年度 静岡市教育委員会 高松地区(右岸610m~710m)、1,300m²

昭和58年度 静岡埋蔵文化財調査研究所 西大谷1・2区(左岸660m~830m)、宮川1区(右岸1,377m~1,407m)、宮川2区(左岸1,377m~1,400m)、計3,905m²

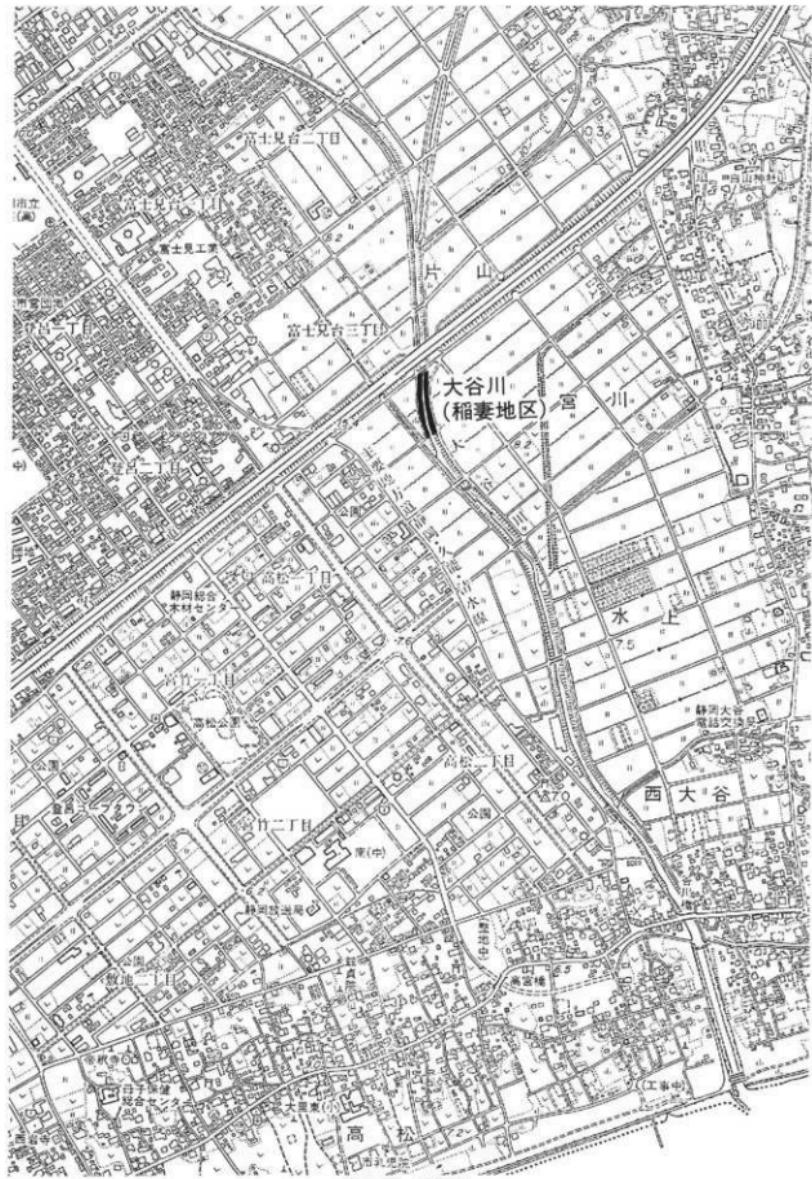
昭和59年度 静岡県埋蔵文化財調査研究所 大谷1・2区、西大谷4~7区(左岸370m~660m)、西大谷3区、水上1・2区(左岸830m~997m)、西大谷8区、水上4~6区(右岸720m~988m)、計8,913m²

昭和60年度 静岡県埋蔵文化財調査研究所 水上3区、水上7~9区、宮川4区(左岸997m~1,377m)、宮川6区(左岸1,400m~1,500m)、水上10~11区、宮川3区(右岸988m~1,377m)、宮川5区(右岸1,407~1,500m)、計16,550m²

こうした大谷川放水路建設工事に先立ち、雨季における水害対策のため、巴川と大谷川を仮通水する暫定掘削工事が、静岡土木事務所により特定河川緊急整備事業として、昭和60年12月より実施されることになった。昭和61年1月の初め、この暫定掘削工事に際し、当初遺跡の範囲外とされていた大谷川右岸宮川5区の北側で多量の土器が出土した。そのため、急遽静岡土木事務所と県教育委員会文化課がこの遺跡の取扱について協議した。その結果、工事を一旦中止し、事前に静岡県埋蔵文化財調査研究所を実施機関として発掘調査を行うことになった。しかし、静岡県埋蔵文化財調査研究所も他の現場の調査をかかえており、この調査を担当する調査員をさくことは困難であった。そのため、文化課が全面的に協力することとなり、3月までを目処として調査を実施することになった。1月16日付けで、「昭和60年度巴川(大谷川放水路工区)特定河川緊急整備事業埋蔵文化財発掘調査業務」として契約がなされ、大谷川右岸1,500m~1,635m部分、同左岸1,500m~1,647m部分、計3,273m²を発掘調査対象とした。調査は契約と同時に現地に着手し、3月20日には終了することができた。

2. 調査の方法

調査区については付近の小字名「稻妻坪」から稻妻地区と命名した。大谷川河口起点から1,500m上流~



第1図 位置図

1,635m上流地点の右岸部を稲妻1区、同じく1,500m上流～1,647m上流地点の左岸部を稲妻2区とした。

調査区全域には大谷川改修用に合わせて設定した総合治水対策河川事業に伴う発掘調査の10m×10mのグリットを延長する形でグリット網を設定した。グリット網には南から北へ110・111・112…の数字を、西から東へはA・B・C…のアルファベットを付し座標を組んだ。各グリットはこの座標によりA-110、B-111…というように標記した。なお、南北列の数字は総合治水対策特定河川事業に伴う調査のものから連続しており、東西列のアルファベットはこの地区だけのものである。

調査の実施にあたり、調査区の周囲には安全柵を設置し事故防止に備えた。表土は重機により除去し、その後は人力により包含層を掘り下げ、ベルトコンベアにより排土した。

現地調査の写真は6×7版の中型カメラを主に35mmカメラを併用した。6×7版・35mm版の白黒写真と35mm版のカラースライドの組合せで写真記録とし、作業状況等の記録には35mm版のネガカラーを用いた。また、調査区の全景写真については航空写真撮影を委託により実施した。

実測については、調査区全体の平面図はアジア航測株式会社に委託し、航空写真測量により1/20のものを作成、併せて1/100の全体図も作成した。また、個々の遺構の断面図等は1/20で作成したが、遺物の出土状況図については1/10で作成した。現地調査で作成した実測図について、航測のものはマイラーベースの原図を作成し、他のものはすべてマイクロフィルムに撮影しアバチュアカード化した。

なお、遺構・遺物の標記については凡例に示した通りである。

これらの整理作業については61年度・62年度に実施したが、遺物実測作業の内330個の土器・土製品は(株)バスコに委託し、磁界作用3次元測定機(3 SPACE)を用いた機械実測を実施した。それらについては写真撮影・トレース作業も併せて委託した。さらに、木製品の一部については、財團法人元興寺文化財研究所に委託し、保存処理を実施している。

3. 調査の経過

前述のように、調査員が現地に入り調査を開始したのは1月16日であった。調査は川の右岸部の1区より行なわれ、調査期間の問題から遺構の実測については写真測量を行なうこととし1区については3月1日の航空写真の撮影をもってほぼ終り、2区については1月23日の重機による表土除去から開始され、3月13日には航空写真撮影を終了し、翌14日には現地調査の殆どを終了した。以後は室内整理作業と並行し、機材整理・プレハブ調査棟のかたづけ等を行ない、3月20日には撤収を完了し、現地調査の全日程を終了することとなった。以下に現地発掘調査の進展状況の概要を、週単位に日を追って述べ、調査の経過に変えることとする。

調査第1週（1月16日～18日）

調査開始の16日には重機により現流路側の法面を清掃し、土層堆積状況の観察・把握を行ない、複数の旧流路が認られた。翌17日より観察の結果をもとに、重機による表土の除去が開始された。また、掘削に伴い遺物が出土し調査の端緒となったE-114区～117区については精査を開始した。

調査第2週（1月20日～25日）

前週に引き続き重機による表土除去とE-114区～117区を中心に精査・遺物検出・写真撮影を行ない、

7本の旧流路を確認した。表土除去については1600ラインまでの表土除去を終了する。この間の20日には子持ち勾玉が検出され、23日には2区(左岸)の川側の法面を重機により掘削・削りを行ない、24日・25日にはプレハブ調査棟及び調査区周辺の安全防護柵を設置した。また、測量基準点の設定・基準杭の設置(1区)もこの週に行なわれ、実測の準備を行なった。

調査第3週 (1月27日～2月1日)

前週までに写真撮影の終了しているE-114区～117区の遺物出土状況図・平面図の作成を行ない、遺物を取り上げる。D-111区～116区・E-109,110区の旧流路部分について人力による排土・遺物の検出を行う。また、29日から2区についても重機による表土除去を1500ラインより北に向かい開始した。

調査第4週 (2月3日～8日)

E-109,110区(旧流路内)遺物出土状況実測及び遺物取り上げ、旧流路内(C-E-111区～116区)遺物検出・精査を行なう。左岸微高地(E, F-110区～114区)・右岸微高地(C-E-117区～119区)の精査、造構検出作業を行なう。C-118区の精査において北東から南西方向に並行して走る溝状造構が数本検出された。重機による表土除去については1区では1600ラインより北側の残された部分の排土を行ない、2区については1600ラインまで終了した。

調査第5週 (2月10日～15日)

E-109,110区補測及び遺物取り上げを行い、旧流路内(C-E-111区～116区)の遺物検出作業を続行し、写真撮影を行う。右岸微高地(C-E-117区～121区)の造構検出及び検出造構の掘り上げを行なう。2区では重機の排土面の清掃を行ない、精査・遺物包含層の掘り下げを行ない、並行して測量基準点の設定、基準杭の設置を行なう。

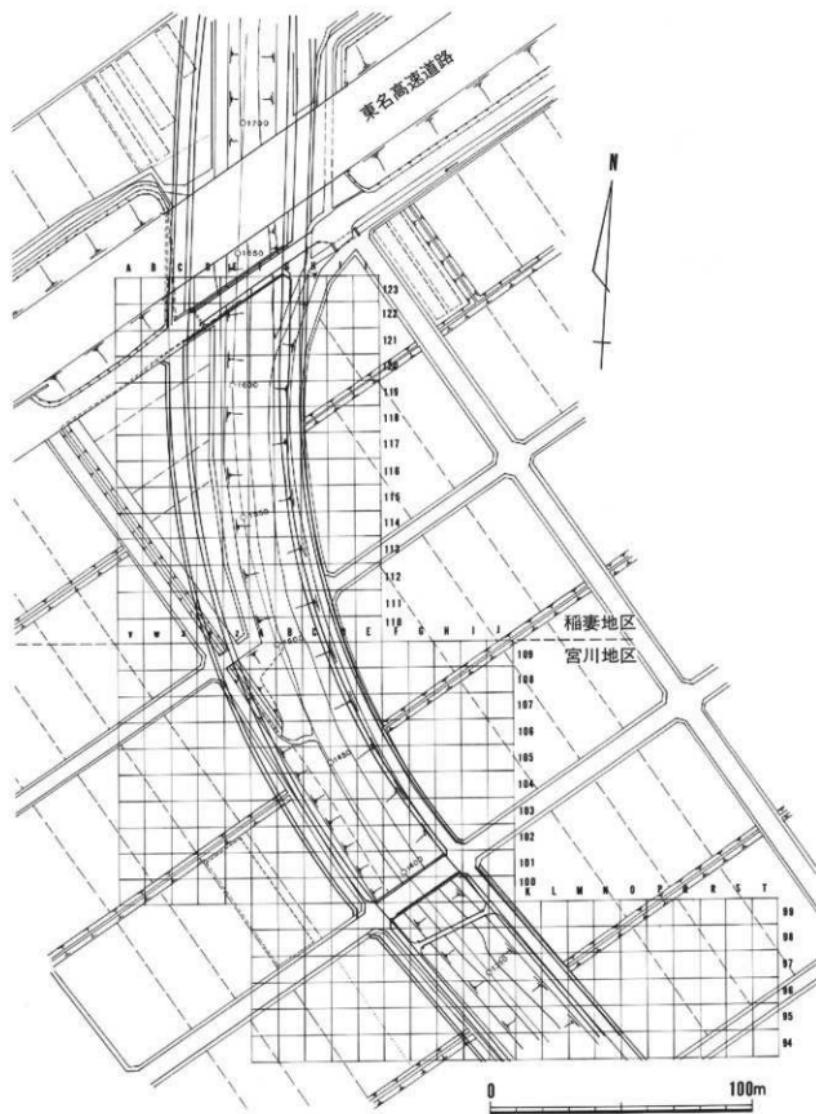
調査第6週 (2月24日～3月1日)

旧流路内(C-E-111区～116区)の遺物出土状況実測及び遺物取り上げを行なう。右岸微高地(C-E-117区～121区)では検出された造構の掘り上げ作業を続行し、造構の土層断面図を作成する(井戸SE-001については平面図・断面図を調査員が作成)。清掃の後3月1日(2月28日予定が強風により1日順延)に航空写真撮影(写真測量用)を行ない、撮影終了後1区の完掘写真の撮影をタワーから行なう。2区は左岸微高地部分(G-H-111区～117区)の遺物包含層を掘り下げ、並行して旧流路内(F-H-115区～119区)の排土及び遺物検出作業を進め、木製品等の特殊遺物については隨時出土状況写真を撮影する。

調査第7週 (3月3日～8日)

1区については前週の航空写真撮影により調査はほぼ終了し、一部造構(井戸SE-001)の補測作業を3日に終え調査を終了する。2区については前週に続き微高地部分の造構検出を進め、検出造構の掘り上げと断面図作成を行ない、一部(H-111区)の遺物出土状況の実測を行なう。旧流路内(F-H-115区～119区)についても排土及び遺物検出作業を進め、遺物出土状況写真を撮影するとともに、遺物出土状況の実測を行なう。一方この週より調査の終了した1区を中心に機材等の撤収を始め、配電盤・発電機・ベルトコンベア等の撤収を開始する。

調査第8週 (3月10日～15日)



第2図 大谷川（稻妻地区）グリット設定図

週の初めに天候が悪く作業が遅れたが、一部残った遺物出土状況の実測を行ない、旧流路内を中心には遺物の取り上げを行なう。遺物取り上げ作業の終了した調査区の清掃を行ない、3月13日には航空写真撮影（写真測量用）を実施し、撮影終了後2区の完掘写真をタワーより撮影し、現地調査をほぼ終了する。その後14日には旧流路部分（G-118区-120区）の土層断面図を作成し、現地調査は終了する。以降現地調査と並行して実施されてきた出土遺物及び図面等の室内整理作業、機材等の撤収の準備をプレハブ調査棟で行なう。

調査第9週（3月17日～20日）

前週に続き室内整理及び撤収準備をプレハブ調査棟で行ない、3月20日には機材を含め現地の撤収を完了して、現地発掘調査を終了する。以後24日にはプレハブ調査棟の解体も行なわれた。

第II章 環 境

遺跡の地理的・歴史的環境については、同じ神明原・元宮川遺跡の調査報告書である「大谷川I」で述べられ、同じく「大谷川II」では周辺の条里地割の問題について詳しく述べられている。ここでは地理的・歴史的環境についての概略を述べるに留め、環境等については上記の文献も参照願いたい。

1. 遺跡の位置

稻妻地区は第I章で述べられたように、当初は神明原・元宮川遺跡の範囲外で、從来考えられていた遺跡範囲の北側部分であった。この地点はJR静岡駅の東南約3km付近で大谷川と東名高速道路が交差する部分の南側である。

神明原・元宮川遺跡の所在する静岡平野は、北を竜爪山、東を有度山、西を花沢山・高草山と三方を開まれて、南を駿河湾に開く平野で、主に安倍川の堆積作用によって形成された沖積平野である。静岡平野の西半分を占める安倍川扇状地は平野中に孤立丘として残されている谷津山・八幡山・有東山の近くに迫り、その末端には孤立丘の隙間沿いに自然堤防が何本か延びている。残された平野東側半分については、これらの自然堤防により南側を閉ざされた形となる谷津山の北及び東側の一帯は低湿地(巴川一麻機低地)となり、雨水等は巴川を通り三保に注ぎ安倍川とは水系を異なる。一方、孤立丘の南側部分すなわち有度丘陵と安倍川の自然堤防に挟まれた部分も南北に細長い形の低湿地(大谷一池田低地)となっている。大谷川はこの低地を流れる周辺市街地を集水系とする小河川で、かつては低地を縫うように蛇行しながら流れていたが、昭和17年の改修工事により現在はかなり直線的に流れている。

2. 歴史的環境

神明原・元宮川遺跡の所在する静岡市内の遺跡はその殆どが静岡平野及び平野周辺の丘陵地に分布している。大谷一池田低地周辺では平野中の孤立丘の谷津山・八幡山・有東山や平野の東を区切る有度山等の丘陵部とその縁辺部、平野中の微高地とそれに隣接する低地に多く所在している。旧石器時代遺跡についてはこれまで有度山の宮川遺跡や大段I遺跡(片山丘陵遺跡群)等で遺物の出土が伝えられるが詳細は不明で今後資料の増加が待たれる。縄文時代遺跡についても、有度山で早期から後期にかけての遺物の出土が各地で見られ、小鹿丘陵を中心にして広範囲に縄文時代遺跡が分布すると考えられるが、発掘調査によりその内容が分かる遺跡は少なく宮川遺跡(早期)・上ノ山遺跡(中期)等が知られる程度である。しかしながら周辺での土地開発が進みつつある現状もあり、今後注目される地域であろう。弥生時代遺跡は中期に入り平野部にも遺跡が知られるようになり、安倍川扇状地から延びる微高地の縁辺近くに集落を形成し、隣接する低地に水田を営むといった形の立地が多い。久能街道微高地には市内では最大規模の弥生遺跡とみられる有東遺跡(中期・後期)があり、国指定特別史跡の登呂遺跡(後期)は富士見微高地の支脈に位置する。この他石田微高地には鷹の道遺跡、中田微高地の南端に汐入遺跡があり、小黒遺跡(後期)・曲金遺跡(後期)・豊田遺跡(後期)は小黒微高地及び曲金微高地に所在し

ている。一方これらの平野部の遺跡に対し、丘陵上に所在する遺跡には先述した有度山丘陵上の宮川遺跡（後期）・上ノ山遺跡（後期）等がある。古墳時代遺跡は、弥生時代以来の立地を引き継ぎ平野部の微高地及び隣接する低地に集落遺跡が引き続き営まれ、平野を囲む丘陵地に多くの古墳が築造される。集落遺跡については調査により詳細が明確となっている遺跡は少ないが、平野部の弥生時代遺跡の多くはその上部に古墳時代の遺構・遺物を伴っており、古墳時代においては弥生時代の立地を引き継ぎ更に規模を拡大する形でかなりの密度で集落が形成されていたと考えられる。これらの集落遺跡に対し古墳は周辺の丘陵に築造される。前期古墳には静清地域最古最大の古墳で古代庵原國の首長墓と見られる植木山神古墳（谷津山1号墳 前方後円墳 全長110m）が平野に孤立丘として残る谷津山丘陵上に築造される。後期になると古墳の数は飛躍的に増加し、群構成を持つものが多い。有度山丘陵上にも全域にわたって後期古墳が分布するが、池田一大谷低地に面する有度山北西側斜面では発達した開析谷の南向き斜面または山麓の西向き斜面に古墳群が築造され、北から谷田古墳群・池田山古墳群・石棺が5個安置されていた小鹿山ノ神古墳（円墳 径20m）を含む小鹿古墳群・丸山古墳（方墳 1辺20m）や大規模な横穴式石室（全長13.5m）を持つアサオサン古墳（方墳 1辺18m）等を含む宮川古墳群・井庄段古墳群等が知られる。これら墳丘墳に対し、静岡平野では唯一の横穴群と見られる伊庄谷横穴群が同じ有度山西側斜面に所在する。伊庄谷横穴群は南谷・北谷・片山の3支群からなり開析谷の南向き斜面に構築されている。片山支群については存在が知られるのみであるが南谷・北谷の両支群は調査が実施され、確認された基數は南谷支群で31基、北谷支群で30基を数える。この近接する地域に横穴と墳丘墓という異なる造墓形態が存在していたことは横穴墓制の性格や造墓形態の変遷及び当時の社会構成を考える上で興味深い事例であろう。歴史時代の遺跡には国指定史跡でかつては駿河国分寺とも考えられた片山庵寺があり度山北西麓に所在し、墨書き器を出したケイセイ遺跡は中田微高地に形成されていたと考えられる。この他、周辺の条里地割については『大谷川II』に詳述されているのでここでは省略する。

第三章 遺構の概要

神明原・元宮川遺跡（稻妻地区）での調査の結果、本地区では北東方向から南西方向へと調査区中央を斜めに横切り、調査区外南西で大きく蛇行、さらに南東方向へと流れる形の大谷川の旧流路を検出した。また、その大谷川の旧流路両岸の微高地上では、溝状遺構、土坑・小穴、井戸（S E）、不明遺構（S X）等の遺構を検出している。以下、大きく微高地上の遺構と大谷川の旧流路と分けてその概略を記す。

1. 微高地上の遺構

前述のように大谷川の旧流路の両岸の微高地上からは、溝状遺構、土坑・小穴、井戸、不明遺構が検出されている。ここでは便宜上稻妻1区、2区に分けてそれらの遺構の概要を記す。

《稻妻1区》

稻妻1区では溝状遺構35、土坑・小穴67、井戸1、不明遺構8が検出されている。

溝状遺構（S D）

S D001 E-112区に一部が検出された。東西方向に掘られている。幅100cm、深さ8cmで覆土は管鉄を多く含む暗茶灰色土である。

S D002 E-112、S D001の北側に平行して延びる。幅80cm程、深さ16cm程、覆土は管鉄を多く含む暗青灰色粘土である。

S D003 E-114区の南東隅の部分で大きく屈曲して南側に延びる。幅40~100cm、深さ6cm程である。覆土は管鉄を多く含む暗茶灰色土である。

S D004 C-117区からD-116区の北西から南東方向へ延びる。一部旧こまり川の流路と切り合うが、S D004の方が新しい。幅30~100cm、深さ20cm程である。覆土は暗灰色ブロックを含む暗褐色土である。

S D005 D-116区北側ではほぼN-50°-Eの方向に延びる。幅70~80cm、深さ22cm、覆土は暗緑灰色粘土で、底近くは明灰色土が混じる。S D004に切られる。

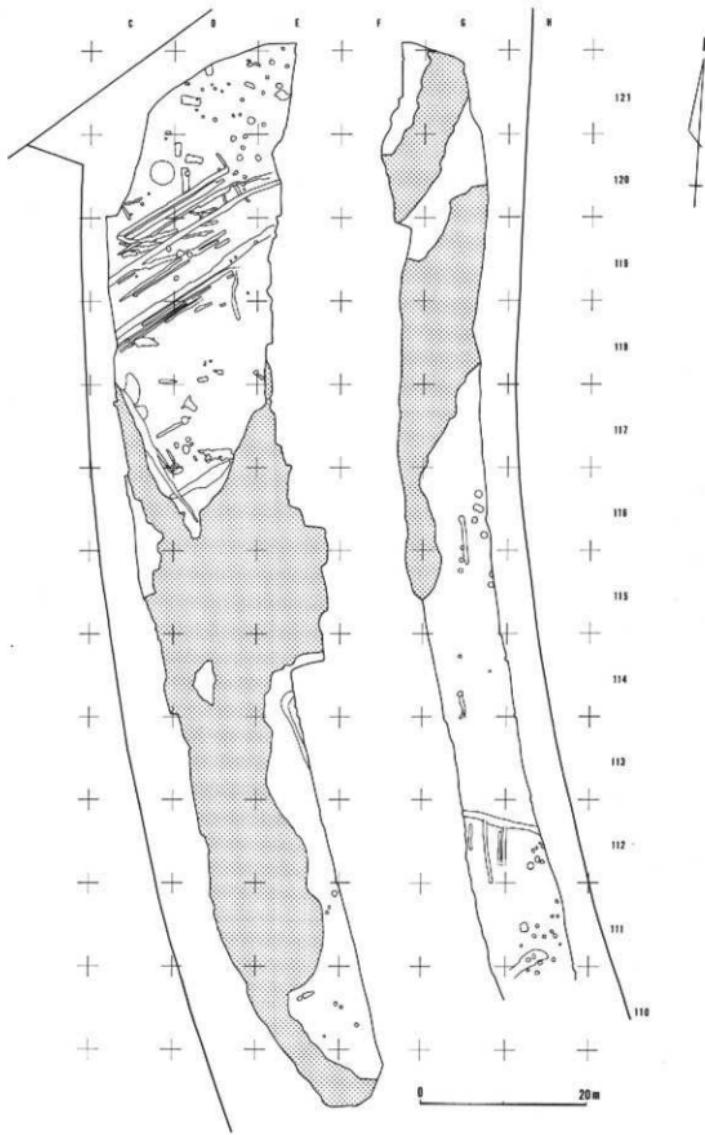
S D006 C-117区南東隅にS D004に平行する形で検出された。幅30cm、長さ180cm、深さ3cmを測る。覆土は管鉄を多く含む暗茶灰色土である。

S D007 C-117区からD-118区で、S D005にはほぼ平行に延びる。幅30~40cm、深さ6cm、覆土は管鉄を多く含む暗茶灰色土である。

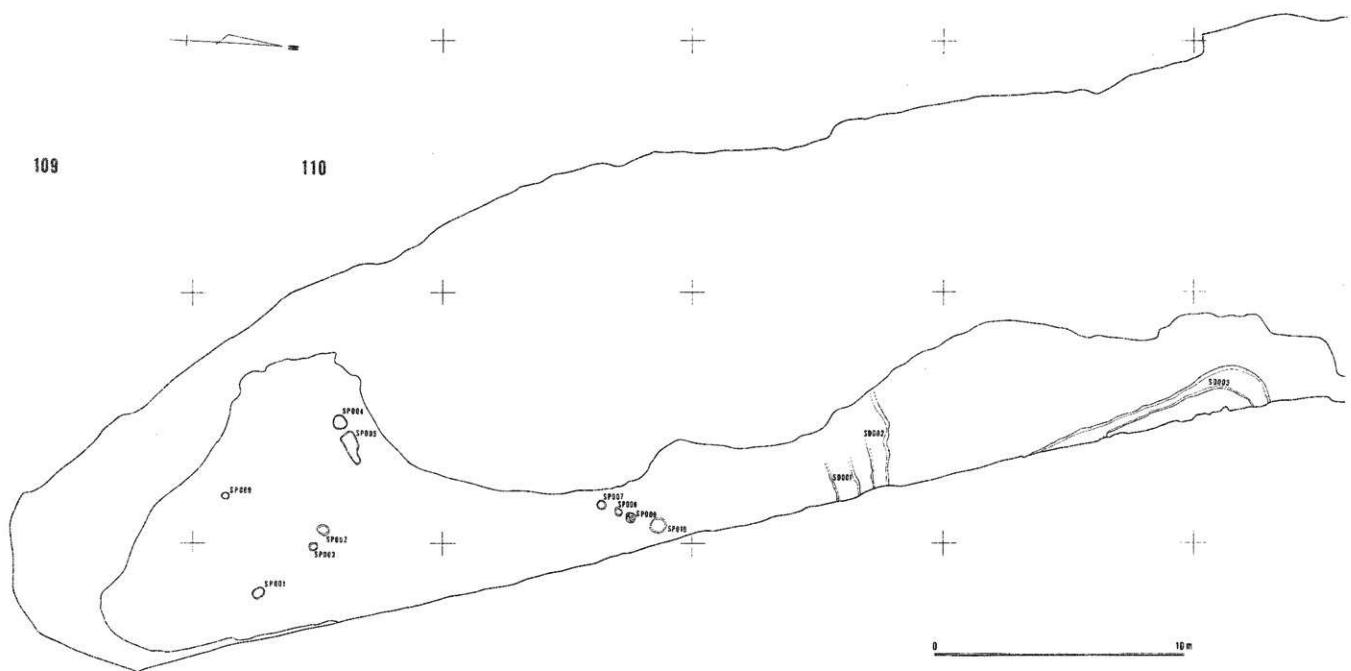
S D008 C-118区、ほぼ東西方向に延びる。幅40cm、長さ185cm、深さ3cmを測る。覆土は管鉄、白灰色粘土ブロックを含む暗茶灰色土である。

S D009 C-119区からD-119区でS D013とはほぼ平行に延びる。一部S X002によって切られる。幅25~40cm、深さ6cmを測り、覆土は管鉄を多く含む暗茶灰色土である。

S D010 C-118区からD-119区でS D009のすぐ北側をほぼ平行に延びる。幅25~30cm、深さ9cmを測り、管鉄を多く含む暗茶灰色の覆土を持つ。



第3図 大谷川（福崎地区）発掘区全体図



第4図 稲妻1区左岸微高地上遺構群平面図

116

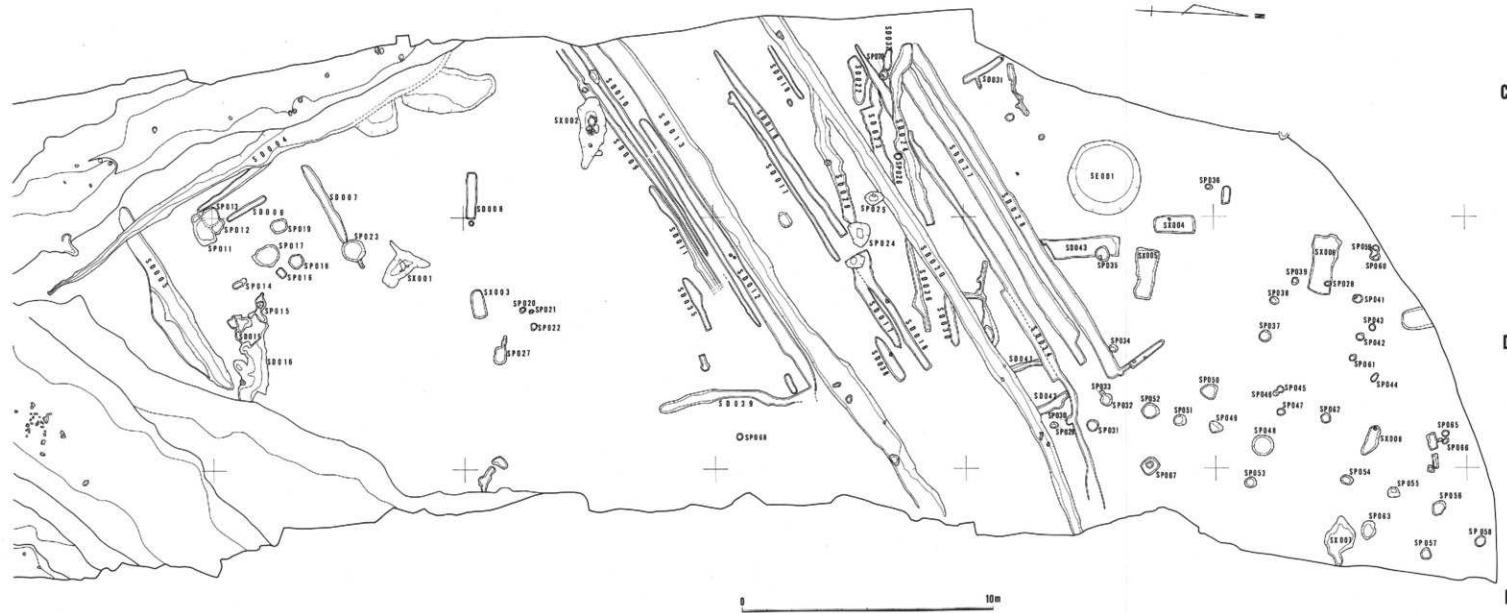
117

118

119

120

121



第5図 稲妻1区右岸微高地上遺構群平面図

- S D011** D-118区、S D009の南側に平行に延びる。幅25~30cm、深さ12cmを測る。覆土はS D009、S D010と同様管鉄を多く含む暗茶灰色土である。
- S D012** C-118区からD-119区でS D013の南側に接するように平行して延びる。幅30~50cm、深さ7cmを測る。覆土は管鉄、白灰色粘土粒子を多く含む暗茶灰色土である。
- S D013** C-118区からD-119区、調査区を横断する形ではばN-50°-Eの方向に延びる。他のものに比べしっかりとした溝である。幅65~120cm、深さ9cm程を測る。覆土は暗茶灰色土である。
- S D015** C-117区、かなり不規則な形を呈する。幅70cm、長さ170cm程、深さ17cmを測る。覆土は管鉄を含む暗灰色砂質土である。
- S D016** C-117区、S D115と同様不規則な形を呈する。幅80cm、長さ230cm、深さ27cmを測る。覆土は3層に分けることができたが、基本的には暗灰色砂質土である。
- S D017** C-119区からD-119区、S D013の北側にやや離れて平行に延びるが、一旦とぎれる。幅25~40cm、深さ3cmを測る。覆土は管鉄・白灰色粘土ブロックを含む。
- S D018** C-119区からD-119区にS D017に平行して延びる。幅40cm、深さ4cm、覆土は管鉄を多く含む暗茶灰色土である。
- S D019** C-119区、S D020の南側にある。幅25cm、深さ3cm、覆土は管鉄を多く含む暗茶灰色土である。
- S D020** C-119区からE-120区、S D013に平行する形で調査区を横切る。幅70~80cm、深さ16cmを測る。覆土は管鉄を多く含む暗茶灰色土である。
- S D022** C-119区、幅70cm、長さ200cm、細長い土坑に近い形を呈する。
- S D023** C-119区、S D034とS D020を斜めに繋ぐ形である。幅40~60cm、深さ6cm、覆土は管鉄・炭化物を含む暗茶灰色土である。土器片を多く含む。
- S D024** C-119区、S D034を切る形で延びる。幅50cm、深さ6cm、覆土は管鉄を含む暗茶灰色土である。
- S D027** C-119区からD-120区にS D020に平行する形でS D034の北側に延びる。幅55cm、深さ13cmを測り、覆土は管鉄・青灰色砂質土を多く含む暗茶灰色土である。土器片を含む。
- S D028** S D027の北側に近接して平行に延びる。幅50cm、深さ9cm程を測り、覆土は管鉄を含む暗茶灰色土である。
- S D029** C-119区、S D020から枝状に延びる。幅60cm、深さ12cmを測り、覆土は暗緑灰色粘土である。
- S D030** D-119区、S D020から短く枝状に延びる。幅35cm、長さ200cm程、深さ5cm、覆土は管鉄を含む暗茶灰色土である。
- S D031** C-120区の南西隅に南北に延びる。幅30cm、長さ190cm、深さ7cmを測り、覆土は暗茶灰色土である。
- S D032** C-119区、S D024の西隅にある。幅30cm、長さ80cm、深さ5cmを測り、覆土は暗茶灰色土である。

S D 035 D-118区、S D011の南側に平行して延びる。幅45cm、長さ230cm、深さ6cmを測り、覆土は暗茶灰色土である。

S D 036 D-119区、S D020から枝状に東西に延びる。幅30cm、長さ380cm、深さ12cmを測り、覆土は管鉄を含む暗茶灰色土である。

S D 038 D-119区、S D017の東端に平行して延びる。幅45cm、長さ200cm、深さ11cmを測り、覆土は管鉄を含む暗茶灰色土である。

S D 039 D-118~119区、S D012の東端から南に緩いSの字状に湾曲して延びる。幅45cm、深さ6cm、覆土は暗青灰色粘土である。

S D 041 D-120区、S D034とS D020を繋ぐ形で南北に延びる。幅25cm、深さ5cm、覆土は暗緑灰色粘土である。

S D 042 D-120区、S D041と同様にS D034とS D020を繋ぐ形で南北に延びる。幅35cm、深さ10cm、覆土は暗緑灰色粘土である。

S D 043 D-120区、幅広く南北に延びる。幅75cm、長さ310cm、深さ15cmを測り、一部S P 035によつて切られる。覆土は管鉄を多く含む暗茶褐色土である。

以上、稻妻1区で検出された溝状遺構の概要であるが、その性格についてははっきりしたものはなかつた。しかし、右岸部（調査区北側）のC・D-118~120区に広がる溝状遺構の内、ほぼN-50°-Eの方向に延びる一群は条里の方向とほぼ一致するところから田園等の地境の溝もしくは用水路と想定される。わずかではあるが、溝の中から出土した遺物などから見て、これらの溝は平安時代の前半頃かと考えられる。

土坑・小穴（S P）

土坑・小穴については数が多いため第1表にまとめたが、主なものについてその概要を記す。

S P 035 D-120区にある。61cm×53cmの規模を持ち、平面形は玉子形に近い橢円形を呈する。深さ42cmで、覆土は2層に分けられる。上層は管鉄を多く含む暗茶灰色土であり、下層は地山である青灰色砂質土が混入する暗茶褐色土である。このS P 035はS D043を切る形で掘り込まれており、上層から須恵器の大型片が、また下層の底近くからは須恵器短頸壺が出土している。短頸壺は2/3個体ほどのものであり、古墳時代後期のものと考えられる。このS P 035の性格について考えてみると、中から出土した短頸壺がはたして人為的にここに埋設されたものかどうかはっきりしない。上層の堆積状況や短頸壺が完形でないという点からみて自然流入かと考えられる。

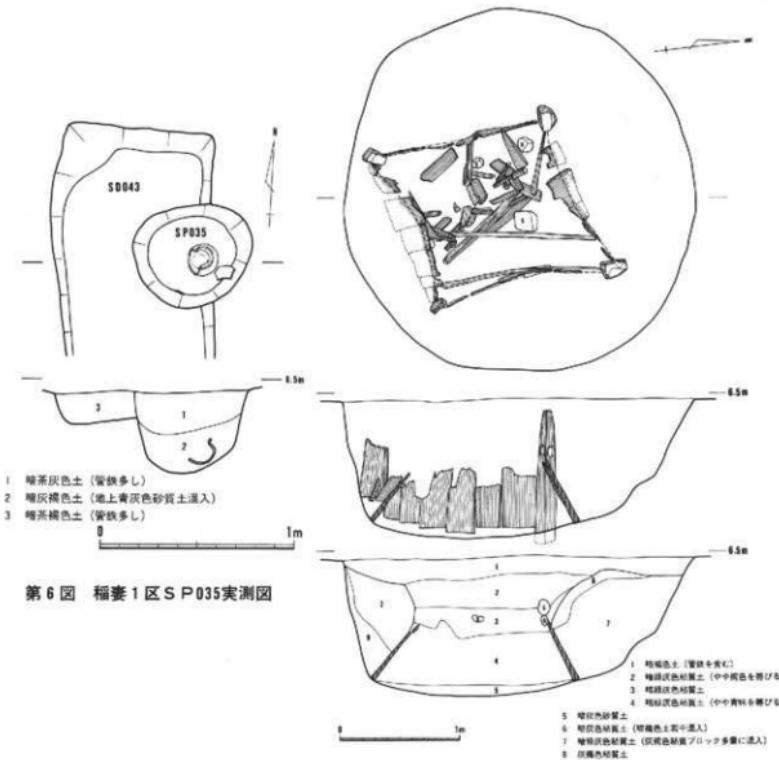
稻妻1区で検出された土坑・小穴は全部で67基であるが、大きいもので径80cm程、小さいものでは径30cm程のものである。様々にバラエティに富んでおり、明かに柱穴と考えられるものも見られるが、建物としてまとまったものはなかった。付近からは井戸も検出されており、この微高地上に集落が在った可能性が高いのであるが、川に近いこともあるいは今度の調査区から外れた部分に広がっているのかも知れない。

第1表 稲妻1区土坑・小穴(S P) 計測表

遺構番号	規 模	深 さ	覆 土・その他の	遺構番号	規 模	深 さ	覆 土・その他の
S P 0 0 1	52cm×42cm	9cm	暗茶褐色土、管鉄多し	S P 0 3 5	81cm×53cm	42cm	詳細本文
S P 0 0 2	50cm×40cm	16cm	暗青灰色粘土、管鉄多し	S P 0 3 6	30cm×25cm	10cm	暗茶灰色土、管鉄多し
S P 0 0 3	37cm×32cm	2cm	同 上	S P 0 3 7	50cm×48cm	5cm	暗茶褐色土、管鉄多し
S P 0 0 4	60cm×53cm	4cm	暗茶褐色砂質土、管鉄多し	S P 0 3 8	36cm×32cm	10cm	暗茶灰色土、管鉄多し
S P 0 0 5	82cm×57cm	6cm	同 上	S P 0 3 9	30cm×28cm	8cm	同 上 塩化物含む
S P 0 0 6	56cm×30cm	12cm	同 上	S P 0 4 1	40cm×35cm	10cm	暗青灰褐色土
S P 0 0 7	39cm×36cm	4cm	暗茶灰色土、管鉄多し	S P 0 4 2	34cm×32cm	12cm	同 上
S P 0 0 8	38cm×30cm	10cm	同 上	S P 0 4 3	30cm×27cm	3cm	茶褐色土、炭化物・土器片
S P 0 0 9	42cm×32cm	14cm	暗青灰色粘土	S P 0 4 4	42cm×22cm	10cm	暗青灰褐色土
S P 0 1 0	67cm×63cm	10cm	暗茶灰色土	S P 0 4 5	33cm×30cm	16cm	暗青色粘質土
S P 0 1 1	134cm×80cm	22cm	暗綠灰色粘質土	S P 0 4 6	26cm×24cm	13cm	同 上(やや明るい)
S P 0 1 2	65cm×?	11cm	暗綠灰色土	S P 0 4 7	34cm×30cm	19cm	暗青色粘質土
S P 0 1 3	74cm×72cm	11cm	暗茶褐色土、管鉄多し	S P 0 4 8	88cm×80cm	21cm	暗青灰色粘質土、土器片
S P 0 1 4	63cm×25cm	10cm	暗茶灰色土	S P 0 4 9	60cm×47cm	18cm	暗綠灰色粘質土
S P 0 1 5	110cm×50cm	20cm	同 上	S P 0 5 0	76cm×60cm	12cm	暗茶褐色土
S P 0 1 6	42cm×30cm	15cm	同 上	S P 0 5 1	49cm×47cm	22cm	暗綠灰色粘質土
S P 0 1 7	110cm×88cm	25cm	同 上	S P 0 5 2	71cm×64cm	20cm	同 上
S P 0 1 8	60cm×60cm	16cm	同 上	S P 0 5 3	47cm×43cm	19cm	同 上
S P 0 1 9	70cm×54cm	16cm	同 上	S P 0 5 4	52cm×40cm	14cm	同上 炭化物・土器片
S P 0 2 0	27cm×22cm	20cm	暗茶灰色土、管鉄多し	S P 0 5 5	50cm×43cm	15cm	同上 炭化物・土器片
S P 0 2 1	22cm×16cm	18cm	同 上	S P 0 5 6	58cm×54cm	20cm	暗綠灰色粘質土、土器片
S P 0 2 2	30cm×26cm	15cm	同 上	S P 0 5 7	46cm×33cm	11cm	茶褐色土、管鉄多し
S P 0 2 3	96cm×90cm	21cm	暗灰色土、管鉄多し	S P 0 5 8	51cm×41cm	7cm	同 上
S P 0 2 4	98cm×88cm	24cm	暗茶灰色土、管鉄多し	S P 0 5 9	36cm×33cm	4cm	茶灰色土、管鉄多し
S P 0 2 5	78cm×54cm	29cm	同 上	S P 0 6 0	40cm×34cm	7cm	暗灰色土、管鉄多し
S P 0 2 6	36cm×25cm	18cm	同 上	S P 0 6 1	34cm×27cm	4cm	暗茶褐色土、管鉄多し
S P 0 2 7	120cm×47cm	10cm	同 上	S P 0 6 2	41cm×38cm	6cm	暗綠灰色粘質土、土器片
S P 0 2 8	25cm×22cm	20cm	暗綠灰色粘土	S P 0 6 3	77cm×59cm	12cm	暗茶褐色土、管鉄多し
S P 0 2 9	34cm×24cm	13cm	同 上	S P 0 6 5	29cm×25cm	6cm	暗綠灰色砂質土
S P 0 3 0	36cm×30cm	10cm	同 上	S P 0 6 6	30cm×20cm	4cm	暗灰色砂質土
S P 0 3 1	48cm×47cm	8cm	同 上	S P 0 6 7	72cm×62cm	20cm	暗綠灰色粘土
S P 0 3 2	50cm×50cm	10cm	同 上	S P 0 6 8	30cm×28cm	5cm	暗灰色土
S P 0 3 3	20cm×20cm	5cm	同 上	S P 0 6 9	33cm×27cm	5cm	暗茶褐色土
S P 0 3 4	34cm×32cm	11cm	同 上				

井戸 (SE)

SE001 C-120区の東側に検出された。径3.0m、検出面からの深さ1.1mの規模の掘り方を持つ。その中に一辺1.4~1.5m程の平面形菱形に近い形で井戸枠が組まれている。縦板組隅横桟どめの構造を持つものであり、土圧のためかやや内側に倒れ込んだ形で検出されている。四隅には20cm×10~15cm程の角材を用い、その中の1本はホゾ穴があいており、転用材である。縦板は幅20cm程、厚さ2~3cmの割り板である。桟木は東辺のものしか残存していなかったが、径5cm程の丸太である。こうした井戸枠の廻りは灰褐色粘質土を多量に混入する暗緑灰色粘質土で固められていた。井戸の底には特に水溜の施設はみられず、暗灰色砂質土がそのまま広がり、これが湧水層と考えられる。井戸枠内の部分には多量の木材が在ったが、板材、丸太等である。しかしながら、この井戸の年代を推定する上で必要な土器等の遺物は上層から須恵器・土師器・陶器の破片が各1点出土しただけであり、このSE001の構築年代をはっきりさせることはできなかった。周囲の状況等から考えて平安時代の前半頃のものかと考えられる。



第6図 稲妻1区SP035実測図

第7図 稲妻1区SE001実測図

不明造構 (S X)

S X 001 D-117区北西隅にある。160cm×190cmの規模を持ち、平面形は北側と南西側に突出す不整形を呈する。深さ44cm、覆土は管鉄を多く含む暗茶灰色土であり、20cm大の石があった。また、底の部分で土師器片を検出している。

S X 002 C-118区中央にある。110cm×290cmの規模を持ち、平面形は東西に長い形を呈する。深さ56cm、覆土は暗茶灰色土であり、上層は管鉄を多く含み、下層は地山である青灰色砂質土ブロックを多く含む。下層上面の部分に15cm～30cmの石があった。

S X 003 D-118区南側にある。55cm×115cmの規模を持ち、平面形は東西に長い隅丸方形を呈する。深さ5cm、覆土は管鉄を多く含む暗茶灰色土である。

S X 004 D-120区北西隅にある。75cm×166cmの規模を持ち、平面形は南北に長い隅丸方形を呈する。深さ7cm、覆土は管鉄を多く含む暗茶褐色土である。

S X 005 D-120区、S X 004のすぐ南東側にある。95cm×200cmの規模を持ち、平面形は東西に長い隅丸方形を呈する。深さ12cm、覆土は管鉄を多く含む暗茶褐色土である。

S X 006 D-121区の西側にある。110cm×244cmの規模を持ち、平面形は東西に長いやや不整形な長方形を呈する。深さ16cm、覆土は管鉄を多く含む暗茶褐色土である。

S X 007 E-121区の西側にある。120cm×200cmの規模を持ち、平面形は不整形を呈する。深さ11cm、覆土は管鉄を多く含む暗茶褐色土である。

S X 008 D-121区の東側にある。50cm×128cmの規模を持ち、平面形は東西に長い楕円形に近い形を呈する。

《稻妻2区》

稻妻2区では溝状造構10、土坑・小穴28、不明造構2が検出されている。

溝状造構 (S D)

S D 048 G-114区に検出された。北西方向から南東方向に延びる溝状造構であり、その南東部分をSD 049によって切られている。幅110cm程、深さ27cmを測る。覆土は管鉄を多く含む灰白褐色土である。

S D 049 C D 048の東側に南北に延びる。幅60cm～100cm、深さ10cm～25cmを測る。その南側にははっきりしなくなる。覆土は管鉄及び炭化物を多く含む灰褐色土であり、7世紀代のものを中心とする須恵器・土師器片が混入していた。

S D 050 H-111～110区、北東側から南西側に延びる溝状造構。南西側にははっきりしない。幅110cm～170cm、深さ16cm程を測る。覆土は暗緑褐色土である。

S D 051 G・H-112区を東西に延びる溝状造構である。幅65cm～110cm、検出面での深さ20cm程を測る。覆土は暗緑褐色土であり、多くの須恵器・土師器片が検出された。これらの土器片は6世紀末から7世紀代のものと考えられ、このSD 051の年代も概ねその時期と考えられる。なお、SD 051は後述するSD 053・SD 055によって切られている。

S D 052 G-112区、SD 051の南西部に南北に延びる。幅35cm、深さ9cm程を測る。覆土は暗緑褐

色土である。

S D 053 S D 052の東側にS D 051を切る形で南北に延びる。幅40cm、深さ13cm程を測る。覆土は暗緑褐色土である。

S D 054 S D 053の東側にS D 055と平行する形で南北に延びる。幅30cm、深さ10cm程を測る。覆土は暗緑褐色土である。

S D 055 S D 054の東側に近接し、平行する形で南北に延び、S D 051を切る。幅43cm、深さ10cm程を測る。覆土は暗緑褐色である。

S D 056 G-114区、S D 049の下から検出された南北に延びる溝状遺構である。幅30cm~45cm、深さ10cm程を測る。覆土は緑灰褐色土であり、7世紀前半代の須恵器・土師器片が出土している。

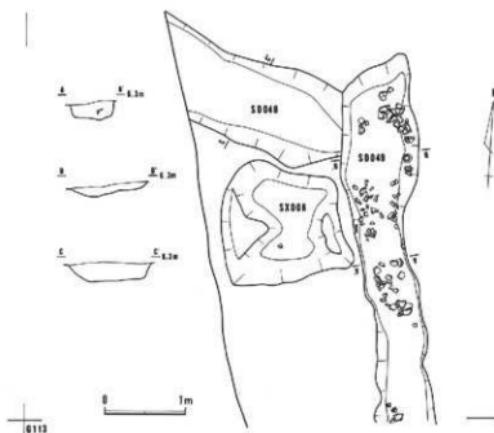
S D 057 G-115から116区に南北に延びる溝状遺構であり、幅50cm、深さ9cmを測る。覆土は暗緑灰褐色土である。S P 093に切られる。

土坑・小穴 (S P)

稻妻2区で検出された土坑・小穴は全部で28基あるが、その概要については第2表にまとめた。こうしたものの中には明かに柱穴と考えられるものもあるが、建物としてまとまるものはなかった。しかし、この微高地に集落が広がっていた可能性は高く、調査区の東側に広がると想定される。

不明遺構 (S X)

S X 010 H-111区のS P 082の北側に200cm×150cm程の落ち込みが見られ、その部分には須恵器壺片、土師器甕、坏片がまとまって出土した。遺構というよりは、窪地に土器が流れ込んだような状態であった。



S X 011 G-116区、S P 092とS P 091に挟まれた所にある。120cm×65cm程の規模を持ち、平面形は長方形に近い不整形を呈する。深さは15cm程で、覆土はオレンジ色の粒子を含む緑灰褐色土である。

第8図 稲妻2区 S D 048・S D 049・S X 008実測図

111

112

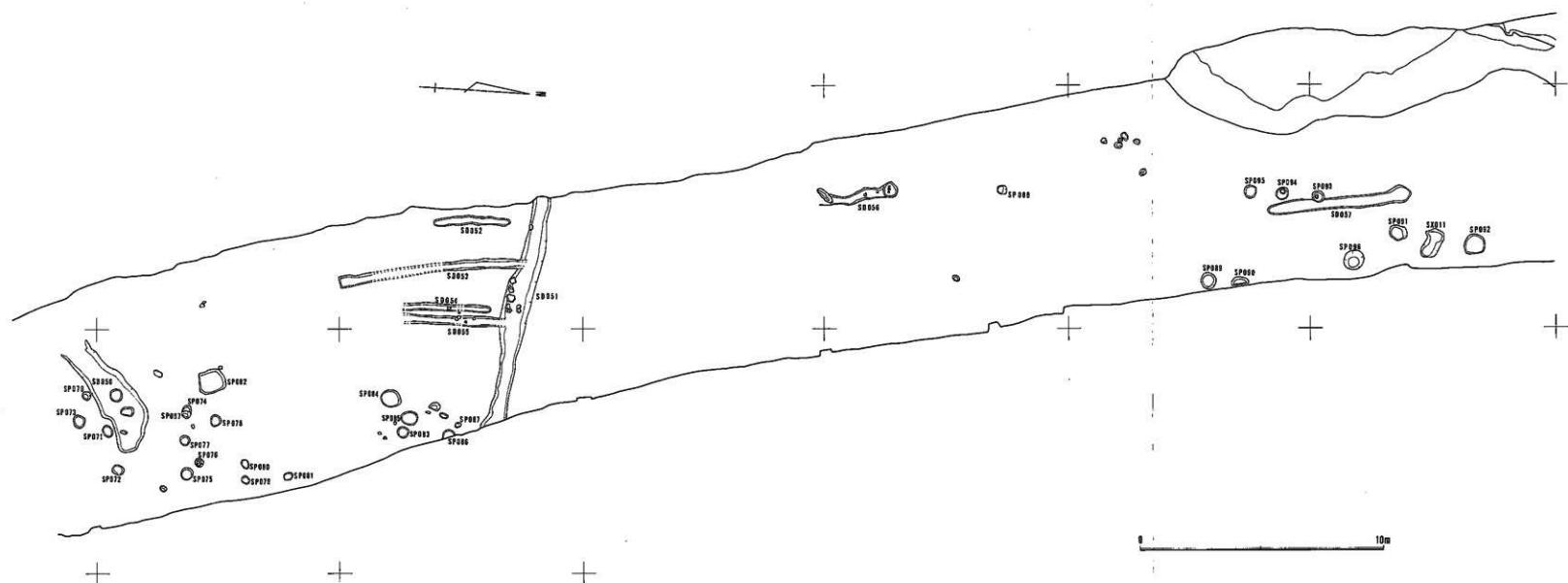
113

114

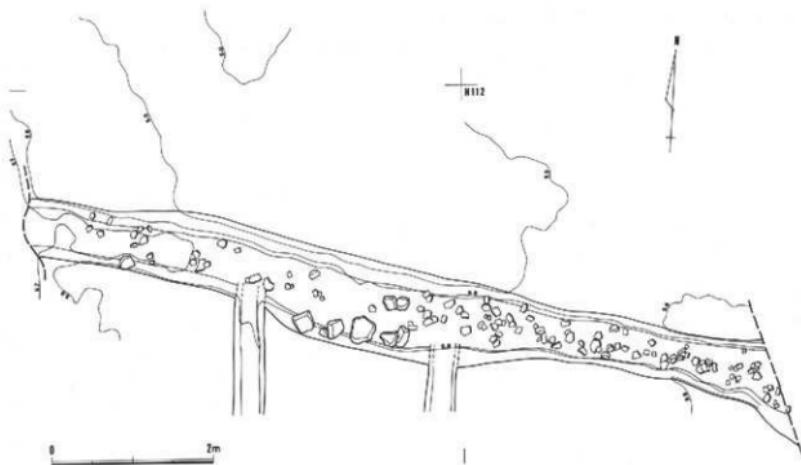
115

116

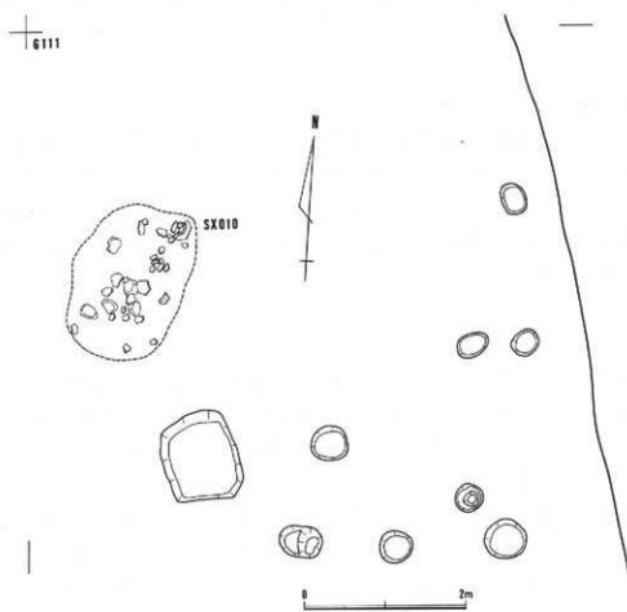
F



第9図 稲妻2区微高地上造構群平面図



第10図 稲妻2区 S D 051遺物出土状況図



第11図 稲妻2区 S X 010遺物出土状況図

第2表 稲妻2区土坑・小穴(SP)計測表

遺構番号	規 模	深 さ	覆 土 ・ そ の 他	遺構番号	規 模	深 さ	覆 土 ・ そ の 他
S P 0 7 0	35cm × 35cm	18cm	暗緑褐色土、炭化物含む	S P 0 8 4	83cm × 70cm	15cm	暗緑褐色土
S P 0 7 1	52cm × 38cm	5cm	暗緑褐色土	S P 0 8 5	73cm × 58cm	13cm	同 上
S P 0 7 2	52cm × 42cm	10cm	同 上	S P 0 8 6	52cm × 7 cm	10cm	同 上
S P 0 7 3	50cm × 48cm	4cm	同 上	S P 0 8 7	26cm × 20cm	8cm	同 上
S P 0 7 4	7 cm × 40cm	6cm	同上、SP097に切られる	S P 0 8 8	39cm × 36cm	15cm	綠灰褐色土
S P 0 7 5	53cm × 50cm	14cm	同 上	S P 0 8 9	67cm × 62cm	30cm	暗緑灰褐色土
S P 0 7 6	35cm × 34cm	15cm	同 上	S P 0 9 0	70cm × 7 cm	5cm	同 上
S P 0 7 7	43cm × 42cm	10cm	同 上	S P 0 9 1	70cm × 63cm	15cm	暗緑灰褐色相砂質土
S P 0 7 8	48cm × 46cm	9cm	同 上	S P 0 9 2	90cm × 84cm	16cm	綠灰褐色土
S P 0 7 9	36cm × 28cm	10cm	同 上	S P 0 9 3	50cm × 47cm	15cm	暗緑灰褐色土、SD057を切る
S P 0 8 0	40cm × 28cm	10cm	同 上	S P 0 9 4	53cm × 51cm	18cm	同 上
S P 0 8 1	38cm × 33cm	11cm	同 上	S P 0 9 5	54cm × 51cm	12cm	同 上
S P 0 8 2	110cm × 96cm	31cm	同 上	S P 0 9 6	85cm × 77cm	34cm	同 上
S P 0 8 3	50cm × 46cm	10cm	同 上	S P 0 9 7	40cm × 30cm	12cm	暗緑褐色土、SP074を切る

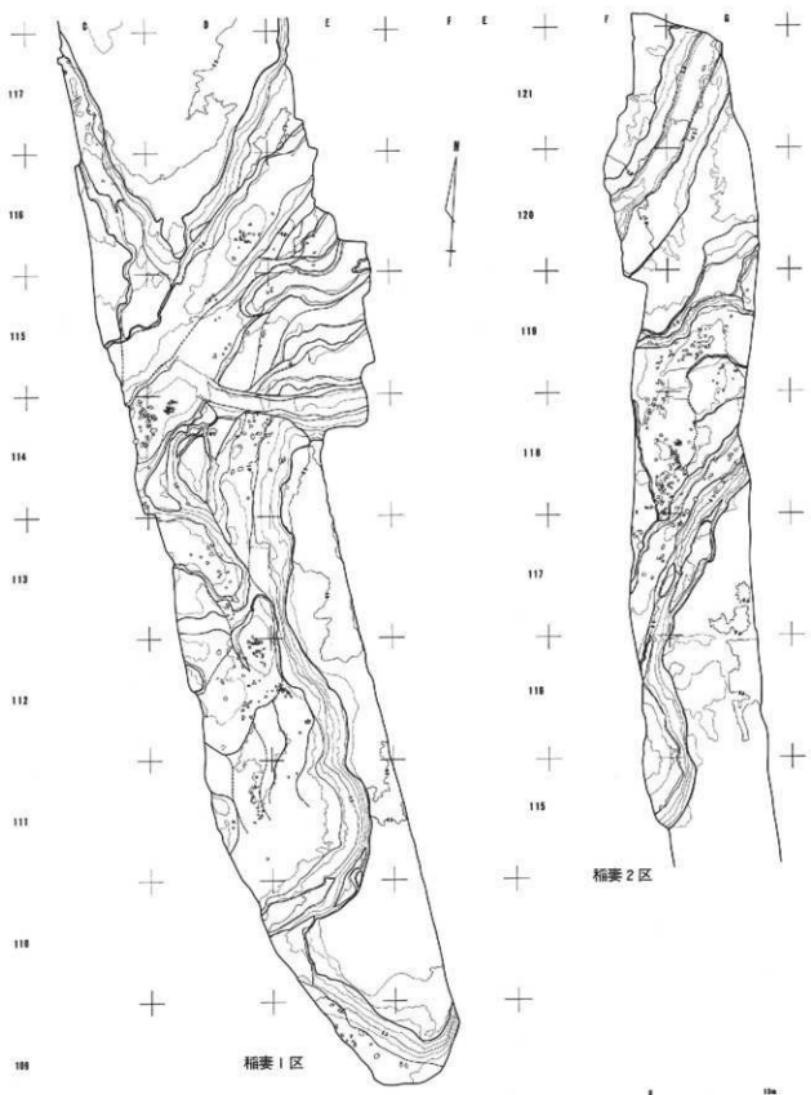
2. 旧大谷川河道跡

稻妻地区では旧大谷川が調査区の北東方向から南西方向へとその中心部を斜めに横切り、調査区外南西で大きく蛇行、さらに南東方向へと流れる形で検出された。この旧大谷川の河道は当然時期的にその流れを変えており、今回の調査では流路部分の微地形の検討、堆積土の検討、遺物の堆積状況、その遺物の年代の検討を行った結果、7本の流路を想定することができた。以下、それらを流路I～VIIとし、その概要と遺物の出土状況を記す。

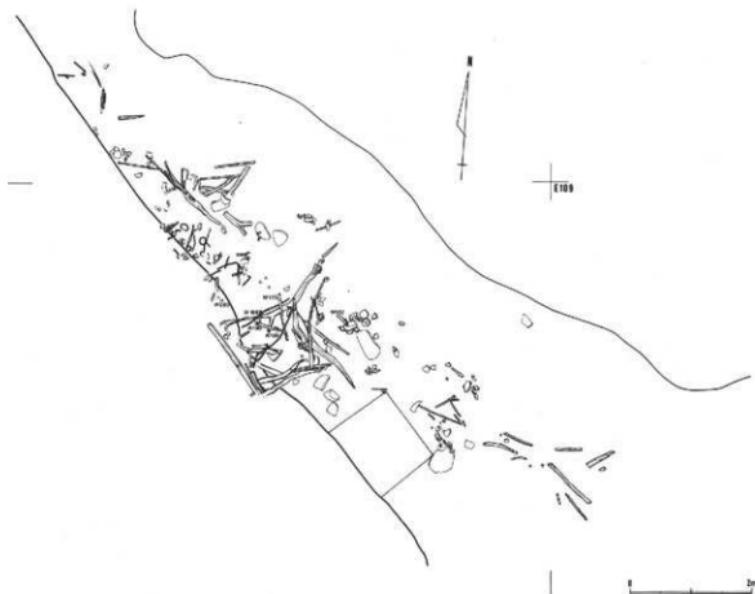
流 路 I

稻妻2区部分ではG-118区からF-117区へと僅かに蛇行しながら、調査区を斜めに流れる。確認面での幅は4mから5m程であり、底面の標高はG-118区東側部分で4.4m、F-117区東側部分で4.6mを測る。底面の標高で見れば、この部分では下流に向かって僅かに高くなっている。また、検出面からの深さは1.4mから1.5m程となる。

現大谷川を挟んで、稻妻1区ではE-115区で西に向かって流れ、D-115区東側で大きく蛇行、南に向かって流れる。その後、D-113区の南東部分で西に向かって流れを変え、調査区外で蛇行、D-111区で蛇行する一部と考えられる部分が見られ、E・F-109区で南東の方向に向かって流れる部分が認められた。しかし、稻妻1区における流路IはD・E-114区部分、E・F-109区部分以外は、それ以降の流路により削られており、はっきりとはしない。遺物の出土状況、旧大谷川の河道跡内の微地形など



第12図 大谷川旧流路地形図



第13図 稲妻1区E-109付近旧流路内遺物出土状況図

の検討により推定した結果である。D・E-114区部分の確認面での幅は4mから5m程であり、底面の標高は北側部分で4.9m、南側部分で4.6mを測る。流れる方向に向かってやや深くなる様子がみられる。またE・F-109区部分では調査区内で検出されたのは流路の片側だけであり、その幅は不明であるが、やはり4.5m程の幅をもっていたと考えられる。この部分での底面の標高は4.5m程である。流路Iの堆積土は基本的には最下層が黒褐色有機質土であり、その上に灰褐色ないしは暗灰色の粘質土が堆積する。

流路Iにおいては最下層の黒褐色有機質土層より濃密に遺物が出土している。特に以降の流路によつて削られない部分、G-118区・F-117区部分、D・E-114区部分が顕著である。ほとんどが完形に近い土師器環を主体に須恵器蓋・横瓶等、土師器壇・短頸壺・甕等と、人形等の木製品、人形・馬形・ミニチュア土器等の土製品が重なり合うような形で検出された。そうした中で珍しいものとしてはF-117区で出土した馬鍔があげられる。

流路Iの年代としては遺物等から見て、古墳時代後期、6世紀末から7世紀代の時期が考えられる。

流 路II

ほぼ流路Iに沿う形で流れていると推定される。稻妻2区ではやはり、G-118区からF-117区へと調査区を斜めに横切る形で流れ、稻妻1区ではE-116区から南に向かって流れ。その後D-113区で



第14図 稲妻1区 E-111~113区旧流路内遺物出土状況図



第15図 稲妻1区D・E-114・115区旧流路内遺物出土状況図

西に流れを変え、調査区外で蛇行、D-111区で一部調査区に流れを見せる。そして、E・F-109区で南東方向に向かって流れしていく。大部分の場所で流路IIは流路Iの堆積土を削る形で流れているが、底面の標高は流路Iより25cmから30cm程高く、遺物包含層である最下層まで達していない。両者の切り合については他の流路によって削られていないG-118・F-117区部分、D・E-114区付近でその状況を観察することができる。流路IIの幅は検出面で考えれば、流路Iと同様、4mから5m程となる。流路IIの堆積土は基本的には上から暗褐色粘土層、灰褐色粘土層、暗灰褐色粘土層となる。遺物は下の2層から出土している。

遺物は前述のように最下層とその上の層から出土しているが、やはりほとんどが完形に近い土師器壺を主体としている。しかし、その量は流路Iのものに比較すると少ない。

流路IIの年代としては遺物等から見て、古墳時代後期末、7世紀後半頃と想定される。

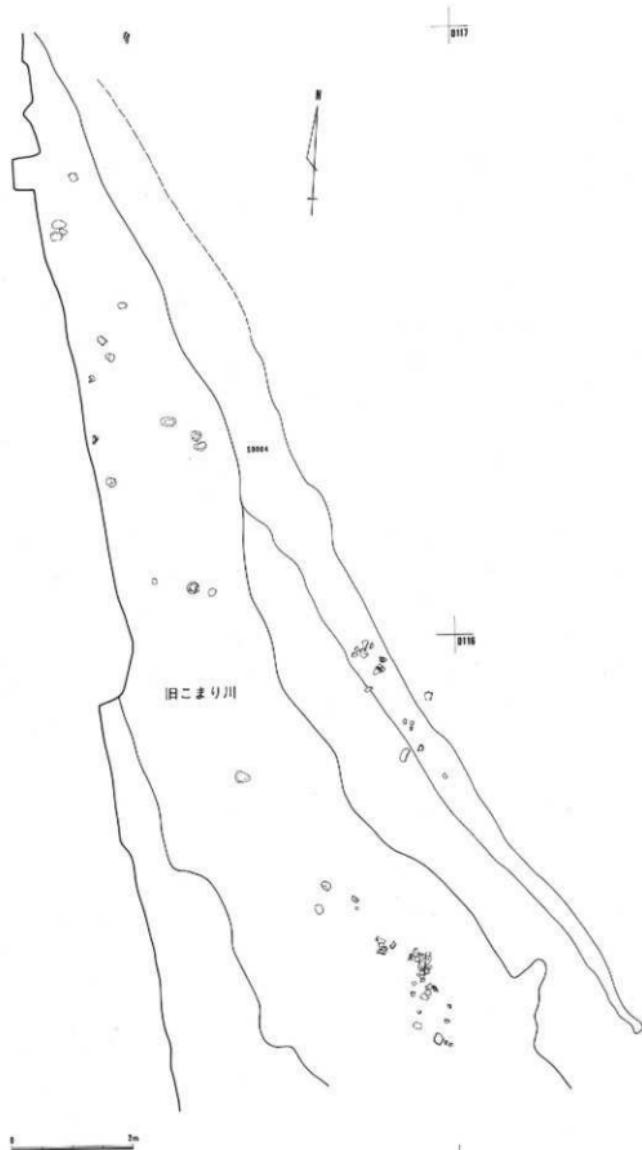
流 路III

前期の流路I・IIより大きくその流れを変えている。稻妻2区ではG-119区では南西方に向かって流れ、F-119区で南へと流れを変える。そして、F-117区で流路I・IIを削る形となり、再び南西方へと流れを変える。稻妻1区ではE-115区北側から南西方向に向かって緩く蛇行しながら流れる。D-115区の西側部分では北西方向から流れてくる旧こまり川と考えられる流路と合流する。その後、C-114区の調査区外で大きく流れを南東方向に変え、更にD-113・112区付近で再び南西方向へと流れを変える。その先は調査区外のためはっきりはしないが、更に蛇行していると考えられ、D-111区にその流れの一部と考えられる部分が見られる。この流路IIIの幅があるが、はっきりと確認できるところは少ないため推定であるが、検出面レベルで5mから7m程ではないかと考えられる。底面の標高は流れの順を追つていけば、G-119区で4.0m、F-118区で4.7m、E-115区で4.2m、D-115区で4.7m、C-114区北側で4.2m、D-113区北側で4.1m、D-112区北側で4.2mとなる。4.1mから4.2mというところは、比較的深くなる所であり、他は4.5mから4.7m程の標高となっている。また、これに流れ込む旧こまり川は検出面での幅3mから3.5m程であり、底面の標高はC-117区で5.4m、D-115区部分では5.1mとなっている。流路IIIの堆積は基本的には暗緑灰色ないしは黒緑灰色の砂質土と有機質土の互層であり、最下層は暗褐色粘土と砂層の細かい互層となっている。遺物は最下層から出土している。

遺物の出土状況を見ると、前述した底面の標高の低い所を中心まとまった状態で出土している。しかしながら、流路I・IIでは完形のものが多かったのに比べ、流路IIIでは破片となったものが多いという特徴がみられる。出土遺物には須恵器壺・長頸壺・横瓶等、土師器壺・塊・短頸壺・甕等、灰釉陶器、土馬・ミニチュア土器等の土製品、人形等の木製品や玉類等の装身具の他、馬の骨等がある。こうした遺物は古墳時代後期から平安時代のものとかなり年代幅を持つ。古墳時代の遺物については流路I・IIからの混入と考えられるが、そうしてみてもこの流路IIIの年代については奈良・平安期というように漠然としたものしか考えられなかった。



第16図 稲妻1区D～F-115区旧流路内遺物出土状況図



第17図 稲妻1区D-116・117区旧流路内遺物出土状況図

流 路 IV

中世の古い段階のものと考えられた流路である。稻妻2区ではG-119・118区、F-118区部分を東からやや蛇行して南西に流れ、F-117区付近で南東に流れを変える。そして、F-115・116区東側で微高地を削るような形で南北方向に流れを変える。稻妻1区ではC・D・E-114・115区を東西方向に流れる。その後調査区外西で大きく蛇行、更にD-112・111区で南東方向から南北方向へと蛇行、流れを変える。幅は検出面で5mから7m程と想定でき、底面の標高はG-119区で4.5m、F-116区で4.6m、D-114区で4.7m、D-111区で4.6mを測る。

流路IVの堆積土は基本的には下から有機質を含む暗緑灰色土、暗緑灰褐色砂質土、有機質を含む暗緑灰色土、暗灰褐色土、緑灰色粘土質となる。遺物は主として最下層の暗緑灰色土層に含まれていた。

この流路IVからは須恵器蓋坏・甌、土師器坏、山茶碗、陶磁器片の他、G-119区では曲物・割物・杵等の木製品が出土している。全体として遺物の量は少なく、前の時期の流路からの遺物の混入が多い。E-115区の本流路の岸近くで出土した古墳時代後期のものと考えられる子持勾玉もそうした混入品であろう。

流 路 V

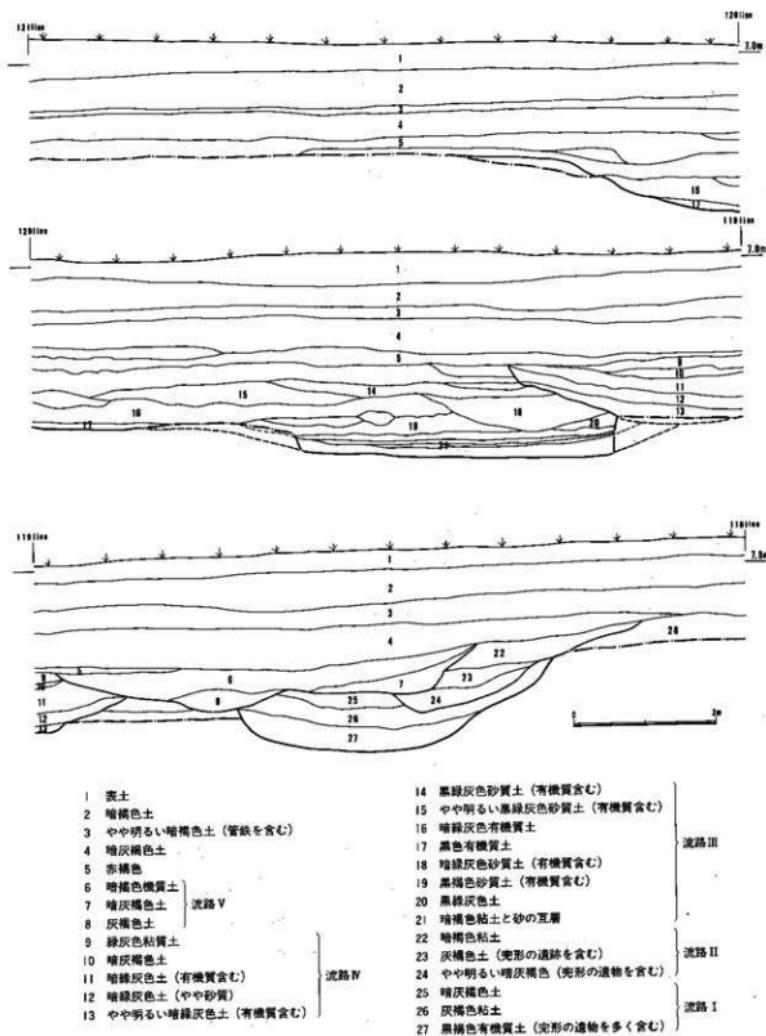
中世のやや新しい段階のものと考えた流路である。基本的には流路IVとほぼ同じような形で蛇行し、流れている。稻妻2区ではF・G-118区をやや南に向かって流れ、その後大きく南東方向に流れを変え、流路IVと同様F-115・116区部分の微高地を削るような形で今度は南北方向に流れを変える。稻妻1区ではD・E-115区で西に向かい、C-114区部分で南東方向に大きく流れを変える。その後、E-111・112区部分の微高地を削る形で流れを南北方向へと流れを変え、調査区外へ向かう。幅はG-118区断面では検出面レベルで6m程であり、全体としては検出面レベルで6mから8m程と推定される。底面の標高はG-118区部分で4.8m、F-115区部分で4.9m、D-114区部分で4.7m、D-112区部分で4.5m、D-110区部分で4.5mを測る。

流路Vの基本的な堆積は最下層に灰褐色土、その上に暗褐色有機質土が堆積する形である。遺物はこれらの層から出土している。

出土遺物はところどころにまとまった形で出土するが、多くはそれ以前の流路の堆積層にあった遺物の混入であり、古墳時代の須恵器・土師器片が大半である。そうした中で山茶碗、石臼等のこの時期と考えられる遺物も僅かながら出土している。

流 路 VI

稻妻1区のE-116区からC-115区に向かって南北方向に流れる流路であり、近世の古い段階のものと考えた流路である。稻妻2区では後述する流路VIIとほとんど重なっているためか明確な形で検出することはできなかった。検出面での幅は4.5m程を測り、底面の標高はE-116区部分で4.7m、D-116区東側部分には4.4mとやや深くなった所があり、D-115区西側では4.8mほどを測る。堆積土は上層部分は流路VIIが流れしており、下層部分しか残っていないが暗灰色の粘土層である。



第18圖 船堀2区旧木谷川河道土層図

遺物はやはり古い時期の流路の堆積層のものが混入する形であり、須恵器や土師器片が出土している。特にD-116区の深みの部分にはやまとまった形で出土している。

流路VII

近世から昭和17年の河川改修以前までの時期のものと考えた流路である。稲妻2区ではH-121区からF-120区に南西方に向に向かって流れるが、現在も現大谷川に流れ込む小川となっている。また、稲妻1区ではE-117区からC-115区へと南西方向に向かって流れている。特に稲妻1区では流路VIの上層を削



第19図 稲妻2区G-116+117区旧流路内遺物出土状況図

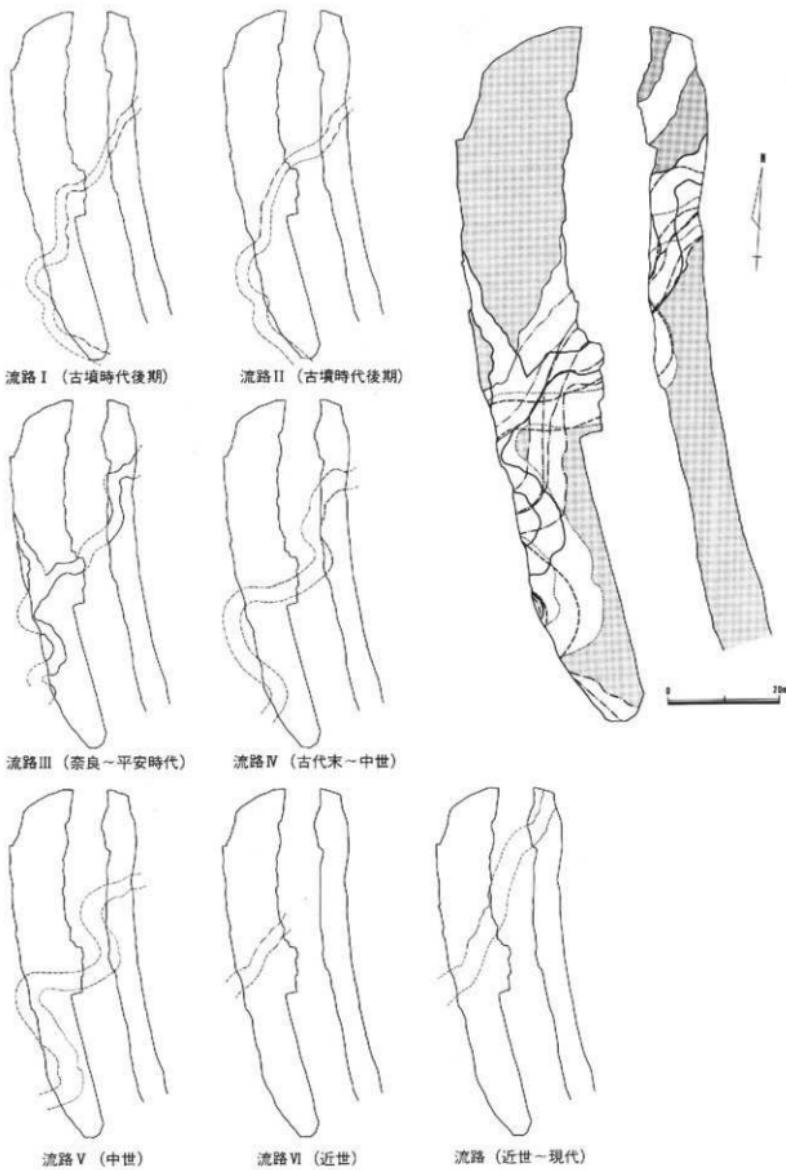
る形で流れている状況を確認することができた。幅は確認面で7m程であり、底面の標高はE-117区で5.0m程であり、他の流路に比べかなり高い位置を流れている。堆積土は赤褐色の砂礫である。

遺物はほとんど含まれておらず、僅かに混入したものと考えられる土器片が出土したにすぎない。

東年報等の概要報告では流路VI・VIIを1つの流路と考え、全部で6本の流路が確認されたとしたが、その後の検討の結果、流路VIと流路VIIは別々の流路と考えた方がよいと判断したのでここで訂正する。



第20図 稲妻2区F・G-118・119区旧流路内遺物出土状況図



第21図 旧大谷川時期別流路変遷想定図

第Ⅳ章 遺物の概要

今回の調査では、大谷川の旧河道の堆積層及び微高地の遺構・包含層からのものを中心に多くの遺物が出土しており、ボリコンテナ250箱にもなる。そして、そのほとんどは大谷川の旧河道の堆積層から出土しており、祭祀に伴うものが大半を占めると考えられる。

出土遺物には須恵器(蓋環・高环・長頸壺・短頸壺・魁・横瓶・平瓶・甕)、土師器(环・高环・壺・鉢・短頸壺・甕・瓶)、灰釉陶器の壺、山茶碗、青磁等の土器、陶磁器類、木製品(人形・馬形・刀形・舟形・斎串等の祭祀遺物、斧柄・曲物・挽物・鉗物・杵・箸状木製品・フォーク状木製品等の木製用具)、土製品(人形・馬形・ミニチュア土器等の祭祀遺物、土錐)、装身具(丸玉・土玉・耳環)、銅錢(隆平永寶・祥符元寶・皇宋通寶・元祐通寶・紹聖元寶)、石製品(滑石製子持勾玉、紡錘車・砥石・叩き石)がある。以下、その概要を記す。

1. 土器・陶磁器

大谷川旧河道の堆積層出土の土器・陶磁器

須恵器 旧河道の堆積層から出土した須恵器には蓋環・高环・長頸壺・短頸壺・横瓶・平瓶・魁・甕がある。

环蓋で蓋受けを持つ环身とセットとなるタイプのものでは、口径12.8~12.9cmの91・92、口径11.3~11.8cmの1・93~95、口径9.5~10.5cmの2・4・96~102、口径8.8~9.4cmの4・5・103~105がある。91は器高が低く天井部と口縁部の境に沈線を持ち、92は器高が高く稜を持つ。後はいずれも器高が高く口径8.8~9.4cmのもので、中には天井部中央が平坦となるものも見られる。川江編年試案²¹でいえば第Ⅲ期後葉から末葉にあたるものと考えられるが、91はやや古い様相が窺われる。106~108・134・135は天井部につまみを持ち、内面に身受けのかえりを持つ、同じく川江編年の第Ⅳ期のものにあたると考えられるものである。106・134・135は乳頭状のつまみを持ち、最大径10.0~10.5cmのものであり、前葉に、また107・108は扁平な擬宝珠状のつまみを持ち、最大径12.1~12.3cmのものであり、中葉にあたると考えられる。第Ⅴ期のものは14・109~112であり、109が扁平な擬宝珠状のつまみを持つが、他は中央部の窪む扁平なつまみである。14と109が口径15.0cmと大きく、112は12.5cmとやや小さい。

环身で蓋受けを持つタイプは6~12、113~128がある。6と113はそれぞれ最大径14.3cmと15.3cmであり、器高が低く、立ち上がりがやや短く内傾する点、第Ⅲ期の中葉にあたるものと考えられる。114は最大径14.4cmを測るが、器高が高い点やや新しくなると考えられる。7・115・116は最大径12.0~12.6cmを測り、8~11・117~122は最大径10.8~11.8cmを測る。立ち上がりは短くなり、器高は高い。これらは第Ⅲ期後葉にあたるものと考えられる。12・121~128は最大径9.8~10.9cmを測る。これらは立ち上がりが極く短

注1 川江秀孝「2 静岡県下出土の須恵器について」「須恵器—古代陶質土器—の編年」静岡県考古学会シンポジューム2 静岡県考古学会 1979

く、122～125・128は底部が平らとなる。第III期末葉にあたるものと考えられる。13は第IV期のものと考えられる环身であり、口径10.2cmを測る。第V期のものとしては5～19・129～132がある。129は底部が丸底を呈し、高台より出るタイプであり、15～17・132は器高が低く、底部が平らとなるタイプである。また、18・19・130・131は比較的深く、シャープな器形を呈するタイプである。なお、15の底部には「前口口」^{前口口}と読める人名かと考えられる墨書があった。133は平底の無高台のものであり、底部はヘラケズリ調整が行われている。9世紀代のものと考えられる。

その他の須恵器の器種としては、高环(138・139)、長頸壺等の蓋と考えられるもの(20・136)、魁(22・140)、長頸壺(21・24・148～150)、短頸壺(141・142)、横瓶(23・143～145)、平瓶(146・147)、甕(25・151～155)がある。138・139の高环はいずれも脚部のみの残存であり、ラッパ状に開き裾端部が断面三角形を呈する。20の蓋はつまみを欠くが、かえりは長く、136は擬宝珠状のつまみを持ち、かえりは極く短い。22の魁は口頸部を欠くが、大きくラッパ状に開くものを持つと考えられる。140は胴部が角張り、注口部がやや突出する。21は口頸部を欠くためはっきりしないが、長頸の壺かと考えられる。24・148～150の長頸壺はいずれも高台を持つタイプのものである。141・142の短頸壺は、141が口縁部が短く直立するタイプであり、142が口縁部が開くタイプである。23・143～145の横瓶はいずれもいわゆるフ拉斯コ壺と呼ばれるタイプのものであり、144は胴部がやや扁平となる。146の平瓶は底部が丸底で、肩部が張り、口頸部が直線的にやや開くタイプのものである。147はあるいは横瓶のものかもしれない。甕についていえば、151は小型のものであり口頸部が短い。25・152・153は中形のものであり、口頸部が152は短く、25・153は大きく開く。154・155は大型のものであり、いずれも大きく口頸部が開く。154の頸部には2段の波状文が施され、155には1段の刺突文が施されている。蓋環を除くこれらの須恵器の年代はそのほとんどが7世紀代のものと考えられるが、22・137・142等のように6世紀代のものと考えられるものもある。

土師器 大谷川の旧河道の堆積層から出土した土師器には环・高环・壺・鉢・短頸壺・球胸甕・瓶がある。そのほとんどを环が占めており、また、祭祀に伴うと考えられるものがほとんどである。环や壺の類は完形で出土したもののが多かった。

环についてはその器形から大きく3つに分けることができる。A類…いわゆる稜を持つタイプのものであり、須恵器の模倣环の退化したものと考えられる1群である。B類…いわゆる稜を持たないタイプのものであり、体部から口縁部へそのまま移行する器形の1群である。C類…いわゆる盤状を呈するタイプのものであるが、このタイプは298の1点のみであった。これらをさらに細かく見ていくと、まず、A類については底部の形状によって2つに別れる。1つは丸底を呈するもので(a)、いま1つが平底に近いものである(b)。また、口縁部の形態で見れば、外反して開くもの(1)、直立するもの(2)、内傾するもの(3)である。このうち、(3)の内傾するタイプは今回の調査では確認できなかった。(1)の外反するタイプについては、大きく外反して開くタイプ(1')、短く外反するタイプ(1'')も見られる。B類についてみると、底部ではやはり、丸底のもの(a)、平底に近いもの(b)の2つがある。また、口縁部の形態では、そのまま外上方に開くもの(1)、直立に近くなるもの(2)、内側するもの(3)の3つが見られる。こうした土師器环の整形技法であるが、そのほとんどが指頭整形+ナデ調整である。

が、一部の土器（26・27・64・66・68・71・72・165・231・238）には底体部外面に手持ちヘラケズリ調整が見られる。また、暗文状のヘラミガキがなされるものには27・47・68・71等である。底部の木葉痕であるが、そのほとんどはヘラ描きによる疑似木葉痕と考えられ、確実に木葉痕と考えられるのは26・29・52・57・65・75・183・205・208・274・280・293・295・297等僅かである。今回の調査で出土したものを見る限り、指頭整形と底部の疑似木葉痕という技法が主体を成すようである。底体部外面の手持ちヘラケズリ、また、底部の木葉痕という技法を持つものは比較的大型のものが多い傾向が見られ、時期的にやや古くなるのではないかと考えられる。

上記の壺からは大きく年代の降った土師器壺としては、85～88のものがある。いずれもロクロを使用したものであり、86が底部外面をヘラケズリする他は回転糸切り無調整である。いずれも体部から口縁部へと直線的ないしはやや外反して大きく開く器形であり、85は底部が僅かに台状になっている。なお、88の体部には「い」と思われる墨書きがあった。

壺に比べ比較的大型で深い器形のものを施した。この中には299～301・305のように壺に近いようなものも含まれている。これらの壺についてもいくつかのグループに分けることができる。口縁部と体部の境に稜を持ち、口縁部が外反するもの（77・78・80・300・311・307～311）…77は外反が強く、78は緩いSの字状を呈する。308・309・311は外反がゆるやかであり、80は僅かに外反する程度である。また、307・310は口縁部が短く、300は小型である。弱い稜を持ち、口縁部が直立に近いもの（81・303・306・312）…81・306は僅かに口縁部が開く。また、312は口縁部が短い。肩が大きく張るもの（79・313～315）…79・315は弱い稜を持つ。弱い稜を持ち、口縁部が内傾するもの（304）、口縁部が体部からそのまま移行し、内側する形となるもの（82・305）等である。301は鉢状に開いて、口縁部が強く外反する。これらの壺の中で体部外面に手持ちヘラケズリが施されるのは、77・79・82・309・311・312であり、313も一部認められる。

316は鉢であり、底部は平底を呈し、体部は開くように立ち上がり口縁部は外反して開く。体部外面は手持ちヘラケズリが施される。321は盤であり、底部は平底に近くなり、体部から口縁部にかけて内側する形となる。体部外面指頭整形であり、他は指頭によるナデ調整が施される。

短頭壺と呼んだ1群も大きく2つに分けられる。胸部がやや膨らみ、口縁部が外反して開くもの（83・84・317～319・320・324）と胸部が大きく膨らみ、口縁部が短く直立ないしは内傾するもの（312・325・326）である。84はやや下膨れとなり、320・324は稜を持たない。また、317・318は小型のものである。223については胸部より口縁部が大きく開く点鉢に近い形である。これら短頭壺で手持ちヘラケズリが施されるのは84・322・324～326である。

327は高壺である。壺部の口縁部は緩やかに内側して立ち上がり、内面には放射状のヘラミガキが施される。

328～337の球胴壺はいわゆる駿東型の壺と呼ばれている1群である。胸部が球形を呈し、底部は小さな平底を呈する。口頭部は肩部から「く」の字状に屈曲して開き、口唇部の内側が肥厚する例が多い。器面調整はハケ目調整を主体とする等の特徴を持つものであり、静岡県東部地域を主体として分布する壺である。大型と小型の2種が認められ、今回の調査でも大小2種のものが出土している。328～334が

大型のものであり、335～337が小型のものである。これらの甕は口唇部内側の肥厚を1つの特徴とするが、肥厚のあまり目立たないもの（328・330）、口唇部内側に段状に肥厚させるもの（329・335）、口唇部を内側に折り返す形で肥厚させるもの（331・336・337）、口唇部に粘土帯を接合する形で肥厚させるもの（332）、単純に肥厚させるもの（334）、等バラエティに富んでいる。こうした中で333は他とかなり違った様相を見せる。口径が胴部に比較して大きくかなり開いた形となり、口唇端部は沈線状に窪んでいる。また、胴部外面の調整もハケ日調整の後、横位のナデ調整が施されている。

338は瓶であり、口縁部と把手部分を欠損している。外面の器面調整は手持ちヘラケズリが施されており、底部内面にも一部及んでいる。胴部内面は指頭整形であり、指頭圧痕が観察された。

以上の土師器の年代であるが、明かに年代が降ると思われる85～88を別にすれば、その大半が7世紀から8世紀初頭のものと考えられ、一部6世紀代に入るものもあるといえよう。

灰釉陶器・山茶碗・その他 今回の調査ではその量は少ないが、灰釉陶器（156～158）、山茶碗（89・90）、青磁片等が出土している。156は下方や外に延びる高台を持ち、体部はゆるく内側に口縁部が外反する。全体に薄手であり、釉は濁け掛けで発色が悪い。愛知県猿投窯の編年^{註2}でいえば、東山72号窯式にあたるものかと考えられる。157・158は共に底部のみの残存であるが、高台部が断面三角形を呈する。百代寺窯式にあたるものと考えられる。

89は山茶碗の碗であり、断面三角形の高台を持ち、体部が内側気味に立ち上がる。口縁部はやや肥厚して外反するものである。90もほぼ同様の形態を呈するが、口径11.9cmと小型のものである。共に12世紀代のものと考えられる。

この他に青磁等の陶磁器片が僅かであるが、出土している。しかしながら、いずれも小破片であり、図示することはできなかった。

微高地上的遺構及び包含層出土の土器

S P 035 339の須恵器短頸甕が出土している。底部平底状を呈し、肩部が強く張る。口頸部は短く外反し、口縁端部は断面三角形を呈する。胴部下半から底部の外面が回転ヘラケズリ調整がなされるものであり、8世紀代のものかと思われる。

S D 049 IV期前葉のものと思われる坏蓋（340）が出土している。つまみ部分は欠損し、身受けのかえりは極く短い。

S D 051 6世紀後半から7世紀前半と考えられる須恵器・土師器が出土している。344・345は須恵器坏蓋である。共に口径13.1～14.5cmとやや大型のものであり、扁平な器形を呈する。344は内面に弧もしくは同心円状の叩き目状の痕跡を持つ。III期中葉頃のものかと考えられる。346は須恵器高环の坏部である。口部は内側して立ち上がり、口縁端部は内側に斜めに平坦となる。土師器は坏を中心になぐ・高环？・短頸甕・甕等が出土している。坏についてみれば、比較的大型で扁平なものが多い。

註2 植崎彰一「猿投窯の編年について」『愛知県古窯跡分布調査報告(Ⅲ)(尾北地区・三河地区)』 愛知県教育委員会 1983

347は厚手で口縁部が直立する。348～353は口縁部が開く形のものである。354・355は口縁部がやや外反し、直立に近い形となるものである。356・357は覗く屈曲して稜をつくりだし、口縁部が外反するものである。358・359は小型のものであり、口縁端部が覗くつくりだされている。360～364は体部から口縁部へ内側する形のものであり、360は小型のものである。365は碗である。全体に厚手で、平底に近くなる。口体部は内側する形となる。366・367は短頸壺である。胴部がやや膨らみ、口縁部は短く直立する。368は高环の脚部と考えられるものであり、基部が太く短く開く。369は球胴壺の口頭部である。口縁端部が内側に突き出すように肥厚する。370は長胴壺かと考えられる。口頭部が「く」の字状に外反して、口縁部内側がやや肥厚する。371は壺の口縁部と考えられる。口縁端部が平坦となり、断面三角形を呈する。

S X010 H-112区の土器溜りの出土遺物である。372は須恵器横瓶であり、いわゆるプラスコ壺と呼ばれるものである。373は須恵器の壺であり、口頭部が短く、大きく開く。374は土師器環で、底部は平底に近い形となり、口縁部は内側する形となる。375は土師器壺で、丸底を呈し、口縁部は内側する形となる。体部は手持ちヘラケズリ調整である。376～378は土師器球胴壺である。376は大型のものであり、口縁部内側が折り返しにより肥厚する。377・378は小型のものであり、いずれも口縁部内側が特徴的に肥厚する。

包含層出土の土器 稲妻2区の包含層から出土した遺物である。379は口径14.4cmと大型であり、扁平な器形を呈する。Ⅲ期中葉に近いものと考えられる。380は口径11.6cmを測る环蓋であるが、薄手で全体的にシャープなつくりであり、口縁端部の処理等古い様相が窺われる。381・382はそれぞれ須恵器蓋環の壺と身であるが、Ⅲ期末葉のものと考えられる。383は环部が壺状を呈する高环であるが、7世紀代のものかと考えられる。384は球形を呈する胴部を持ち、肩部に一对の粘土塊が付けられた横瓶である。385～391は土師器であるが、环・高环・短頸壺・瓶がある。385～387の环はいずれも口縁部が内側するタイプのものであり、387が小型となる。388の高环は脚の基部が棒状を呈するものである。389の短頸壺は胴部がやや下膨れとなるものであり、390はやや扁平な球形を呈する胴部を持つ。391の瓶は左右に角状の把手を持ち、直線的に底部に向かってやすばむ形を呈する。

S X010及び包含層出土の土器は一部380のように古い様相を見せるものもあるが、概ね6世紀後半から7世紀前半のものと考えられる。

2. 木製品

稻妻地区の調査で出土した木製品には、人形・馬形を初めとする祭祀関係の遺物、曲物等の容器関係の遺物、手斧・堅杵等の用具類の遺物、建材関係及びそのほかの遺物等がある。

祭祀遺物

人形 木製人形は、扁平な短冊状の板材を切り欠き人間を表現したものであり、人間の側面全身を表したものや顔面のみのものもあるが、稻妻地区で出土した人形は全て最も一般的な正面全身の人形で、出土した人形の点数は25体である。墨書きをもつものは見られなかった。多くは古墳時代後期と考えられる旧流路から出土している。本書ではその内比較的保存が良好で全体像が明確な14体について掲載した。

木製人形の分類方法はいくつかのものがあるが、ここでは部位ごとの形状をもとに簡単な分類を行うことにとする。

頭部：大部分が主頭形（1類・20点）で平頭のものは見られない、頭角は最大109.5°・最小53.5°で平均は61°である。丸みを帯び葱坊主形の形状（2類・1点）のものもある。この他頭部の形状の特長として頭部の左右側面の長さが異なり左右非対称のものが目立つ。

頸部：原則として三角形の切り欠きで表現されているが、切り欠きが二等辺三角形（1類・16点）、頸の部分は急角度で切り込むのに対し肩は下方から大きく切り込み撫肩の表現をとるもの（2類・1点）、逆に頸の部分を上方から大きく切り込み肩を急角度で切り込み怒り肩の表現をとるもの（3類・3点）の3者があり、1類が最も多い。

腕部：腕は下方からの切り込みで表現されるが、腕の表現のあるもの（1類・2点）、腕が表現されないもの（0類・15点）があり、表現のない0類が大部分である。

腰部：腰の表現のないもの（0類・1点）を除き、腰の表現は側面の切り欠きで表現されるが、切り欠きが二等辺三角形のもの（1類・5点）、上方は急角度で切り込むのに対し足側は下方から大きく切り込むもの（2類・4点）、逆に上方からは大きく切り込み足側は急角度で切り込むもの（3類・1点）があるが破損等で不明確のものも多い。

脚部：下方からの三角形の切り欠きで表現されるもの（1類・12点）が殆どであるが、下方から平行する2本の切り込みを入れ折り取ったと見られるもの（2類・1点）もある。

この他足先部分の造りからさらに細分できる可能性がある。

以上5つの部位に分けそれぞれ見てきたが、これらの組み合わせについては、保存上の問題から細部が不明のものが多いが、11011類・1102類・11001類等の110類（主頭・二等辺三角形の切り欠きによる頭部・腕の表現なし）が最も多く、次いで130類が多い。これらの類型とその年代との関係についてはその出土地点・共伴遺物等からは明確にはできない。今後他の資料との比較検討を待ちたい。

斎 串 斎串は細長い板材の端部を尖らせた串状の木製品である。稻妻地区からは30点が出土しており、ここでは25点を図示した。形態は多様だが、ここでは端部の形状等を中心に大きく4つに分ける。

A類（15～30）：端部を両側面から切り落として尖らせるもの。端部を失っているためにはっきりしないものもあるが数量的には最も多く、片端のみが残存しているものを含めて20点を数える。表面に線刻のあるものが3例あり（18～20、19については両端を欠失しA類かは不明）、平行する斜線が描かれている。

B類（31・32）：端部を片側から切り落とし尖らせるもので、2例が見られる。31は両端が残存しており台形状を呈しているが、32については片端部を欠失している。

C類（33～37）：細長い形状で串状もしくは棒状のもの。A・B類に含まれ得るものもあるが幅が狭く（1.5cm以下）際立って細長い印象を与えるもので、36については厚みがあり棒状である。片端部を欠失したものもあるが恐らく両端部共に尖っていたと思われる。

D類（38・39）：頭部の造り出しのあるもの。38については上端部寄りの両側面に2ヶ所の三角形の切り込みを入れ、頭部は平頭である。下端部の形状は欠損で不明である。39については主頭状の

頭部を造り、頭部寄りと中央やや上寄りの2ヶ所に三角形の切り込みを、中央付近に弧状の浅い切り込みを両側辺に入れ、下端部は両側から鋭く切り落とし尖らせてある。

これらの分類は便宜的に行なったもので、特にA・B類とした中で端部等を欠失しているものについては欠失した端部の形状が逆の分類のものも可能性もある等今後更に検討が必要であろう。

馬 形 馬形は、薄い板材を切り取り馬の全身を表現したと思われるものである。馬形には裸馬を表現したものと鞍を置いた飾り馬を表現したものがあるが、稻妻地区で出土したものはすべて裸馬を表現したもので、合計8点が出土している。ここでは全体の形状等を基に分類した。

A類 (40・41) : 板材の前後両端を上方から外側に向かって切り落とし、全体の形状が台形状を呈するものである。2例あり、40については欠失のため細部は不明だが、41については上辺のほぼ中央部を浅く切り欠き背を表現するが、下辺部には特に表現はなく立てるために細棒を挿したと見られる小孔が中央やや前寄りに残されている。

B類 (42-47) : A類と異なり前後両端を平行に切り落とし、全体の形状が平行四辺形を呈するものである。B類は更に背のみを表現する1類 (42・43) と下辺部にも切り欠きがあり頭・腹・尾等の表現もある2類 (44-47) が見られ、どちらにも腹部にあたる部分に細棒を挿した小孔が見られるものがある。2類の下辺部の切り欠きについては破損等で不明瞭なものもあるが前後の2ヶ所にあるものが大半である。

このA・B両類間の年代的差異等については、出土地点や共伴遺物の面からは明確にできなかった。また、同じ神明原・元宮川遺跡の他地区では今回はその例が見られなかったA類で下辺に切り欠きがあるもの (A2類) が比較的見られる (『大谷川I』による) こと等もあり今後の検討が必要であろう。

刀 形 板材を切り取り刀の形状を表現した木製品で、稻妻地区では8点出土している。いずれも節大刀を模したものと考えられ、刀身部と柄部を造り出す。刀身は先端を斜めに切り落として切先を表現し、刃部の表現は51については刀身の断面が三角形で刃部を作っているが他のものは断面が長方形で刃部の表現はない。柄部については端部を両側から切り落とし山形の柄頭を表現するが、鈸の表現は殆どのもの (52については鈸の表現が考えられる) では見られない。刀身部と柄頭の間の握り部は下側 (刀部側) を弧状に抉り、上側 (背側) は2ヶ所に切り込みを入れ下側の曲線と平行な形状の表現を意図したものと思われる。明瞭な区別の基準はないが細身でかなり写実的な製品 (48・51等) と幅広でやや定型的な製品 (49・50・52等) がある。

舟 形 厚みのある材を削り抜いて舟を表現したもので、稻妻地区からは2点が出土している。いずれも丸木舟を表現している。56は上面が一部破損しているが、丸底で船首・船尾共に尖る。削抜きは大略楕円形で船首側をやや広く残し、両側共に横長の小抉込みが見られる。57も上面が一部破損しているが、平底で船首・船尾は丸みを帯びて尖る。削抜きは大略長方形でやはり船首側をやや広く残す。船尾には穿孔が見られる。

その他 第45図に挙げた内の舟形以外の遺物については、建材等の明らかに祭祀遺物とは考えられないものもあるが、その性格が明確でないものが多く、祭祀遺物の可能性を持つものもあるためここに記述する。58の有頭棒は陽物形木製品として祭祀遺物とも考えられる。59のフォーク形木製品は約半分が

欠損し、本来歯は5本と考えられる。歯の先端は尖っておらず加工は丁寧である。柄は完存しており明瞭な繊縫痕等は見られずこのままで使用したと考えられる。現状では祭祀に関連する遺物か何らかの実用品かは判断できず、今後類例の増加や調査の進展が期待される。60・61は木筒状の形態の木札である。両者とも赤外線テレビカメラによる観察でも墨書きは認められない。62・63は何らかの木材の一部と考えられる。64~65は箸状の木製品で細棒の先端を尖らせたものである。先端の断面型は扁平で特に65の先端の形状からは馬形等の祭祀遺物を押し立てるための棒と考えられる。

木製用具

木製の用具には堅杵及び木製柄がある。また、保存が極めて悪く現在保存処理中のため図示は出来なかったが馬鍔が1点出土している。

堅杵 1点(67)が出土している。中央部を細かくし握り部として両端を抜き部としたもので、材は心持丸太材で杵の中心と木目の中心は一致する。片側の抜き部は先端部及び裏面を欠損しているもう一方の抜き部はほぼ完存し、先端は丸みをもつがやや尖った形状で使用痕も見られる。

工具 木製柄が3点(68~70)が出土し、内2点(68・70)は袋状鉄斧を装着する斧柄である。68は縦斧の木製柄の部分のみが出土し、柄は着装部が一部欠損しているがほぼ完存している。木の幹と枝の股部分を使用し、枝から握りを幹から斧台を造り出したものである。握り部(長さ38.3cm)は直線的で元の枝の大きさをそのまま残していると思われ、端部に焼け焦げが見られる。斧台(長さ13.2cm)は基部と着装部とには特に段差などの明瞭な区別はなく削り込んで徐々に幅・厚みを減じている。70は横斧で袋状鉄斧が装着された状態で出土している。握り部は基部を除き欠失し、斧台の一部と共に半分に割れている。木の幹と枝の股部分を使用しているが、握りは斧台に対しややよじれている。斧台の基部と着装部の間には特に段差等の明瞭な区別はなく、厚みを若干減じて袋状鉄斧を装着する。鉄斧は一部に欠損があり袋部はそれほど深くない。同様な出土例としては兵庫県上原田遺跡出土の鉄斧柄があり類似するが鉄斧の装着が逆になっており、本例では合せ目は斧台の下に向けて装着されている。69は木製柄の先端が欠損している。柄の断面型は楕円形で、下端部以外の握りは加工痕が不明瞭で基本的には樹皮を剥いた程度と考えられる。柄尻部分は鈎状をなし、すべり止めとなる。基端部は丸く整形される。刃の着装部等が欠損しているため明確にはできないが鎌等の柄であろうと考えられる。

木製容器

木製容器には曲物及び挽物・剣物がある。

曲物 図示した他に蒸籠が出土している。71は曲物の底板と考えられるが約半分を欠失している。本来は直径24cm程度の円形であったと考えられる。上面の縁辺は5mmほどの幅で一段下げられている。側板をとめるための穿孔が2ヶ所残り、樹皮が三重に巻かれて残存している。72も曲物の底板と考えられる。周辺部を中心に破損している。元は直径14cm程度の円形と思われる。上面の縁辺は7mmほどの幅で一段下げられている。釘を押したらしい痕跡が側面にあり、側板をとめていたものと思われる。一部が焦げて炭化している。73は側板のみで底板等はない。現状は楕円形を呈するが元は直径15cm程度の円形とおもわれる。下部に小穿孔が見られ、底板とは釘結合と考えられる。縫合せは2ヶ所で2列前上外下内2段後上外下内1段綴じと1列上外下内1段綴じである。74は保存が悪く不明瞭だが円形の曲物

の底板もしくは蓋板と思われる。

剝物・挽物 剥物・挽物は4点を図示したが、いずれも白木作りで塗りは認められない。

75は完形の挽物の浅い皿である。内面及び外面側面には轆轤整形だが、外面底面は削り加工にとどまる。内面底面には刃痕が見られ、外面底面の中央には「西」の焼印？が見られる。76は容器の底部の破片である。形状は円形に近く立ち上がりも少し残存し皿かと思われるが明確にできない。内外共に轆轤挽きの痕跡はなく、剝物と思われる刃痕が内外に見られる。77は保存が悪く残存している部分も大きく4つに割れている。挽物の皿で、75に比べ小型だが立ち上がりはやや深い。表面はかなり風化しており加工痕は不明瞭である。78は側面上半を欠損しているが立ち上がりは浅く、おそらくは円形から橢円形に近い剝物の皿と思われる。外面底面には削りの加工痕が見られ、内面には刃痕が見られる。

3. 土製品

土製品には人形・馬形・ミニチュア土器等の祭祀関係の土製模造品の他土錐がある。また、本来は土器の項で扱うべき遺物であるがスペースの都合で一部の土器をここで扱っている。

馬形 土製模造品の中で最も数量が多かったものが馬形土製品である。破片を含めて24点が出土している。出土した馬形には鞍を置いた飾り馬と鞍の表現のない裸馬の両者があるが、飾り馬が多数で飾り馬が見られない木製馬形の場合とは異なっている。形状は多様であるが足・顔が長く比較的写実的な製品と鞍等の抽象的表現による胴が太く足が短い製品に大別される。1～8は比較的写実的なもので9～15は抽象的なものである。

人形 出土した点数は破片を含め11点である。いずれも極めて抽象的に人間を表現しており、21を除き脚部の表現だけを以て人形と認識できる。16・17は不明瞭ながら頭部・胴部・脚部の区別がなされるが、18・19・20は更に簡略で頭部・胴部の区別が見られない。21は刺突によって顔が表現されている。また股部には小穴が見られ、木製馬形の様に細棒を挿し立てたものとも考えられるが穴の位置から性器を表現したものと考えられる。

ミニチュア土器 実用には適さない小型の土器で祭祀用具と考えられる土器の土製模造品である。いくつかの器種が見られるが、明確にセット関係を把握できる出土状況のものはなかった。器種には瓶・高杯・短頸壺・壺・皿・横瓶が見られるが出現数は瓶が最も多かった。いずれも手捏で整形され指頭による整形痕が観察され、瓶の把手は貼り付けによる。また22～34の各種の土器と横瓶を中心とする35～38の土器の間にはその写実性や制作にかなりの開きがあり、器種の違いや時期差による差異の可能性が考えられる。

その他の土器 先述した様に土器の項に載せるべき遺物である。39・40は土師質の手捏土器であるがミニチュア土器ではなく、実用品と考えられる。出土地点等から中世以降の遺物と考えられる。41・42は外耳鍋の把手部分であり、これも中世以降の遺物と考えられる。43については須恵器の獸足である。獸足部のみで全体の器形を窺い知ることはできないが、恐らく奈良時代から平安時代にかけての遺物と思われる。

土錐 土製の網の錐と見られるものが3点出土しているが、3点ともその形状や大きさにバラツキ

が見られる。時期的に極めて新しい遺物の可能性がある。

4. その他の遺物

その他の遺物として扱った製品には、玉類・耳環の装身具、銅錢、子持ち勾玉・紡錘車等の石製品、砥石・叩き石等の石器があり、この他に図示はできなかったが金属製品として刀子・鉄斧・煙管・飾り金具等が見られた。

装身具 玉類と耳環が出土している。玉類は24点が出土しているがいずれも石製もしくは土製で祭祀関係の遺物が含まれていることも考えられる。1~22は丸玉でいずれも蛇紋岩と思われる石製品で、灰褐色から黒褐色の色調である。23は土製の丸玉で手捏で製作され穿孔がある。24は石製の丸玉と同様な材質をやや細長く整形しており穿孔は見られない。

耳環は銅製のやや小型の耳環で1点のみが出土している。金か銀貼りであったと考えられるが現存せず銅の地金が露出している。玉類・耳環共に古墳時代の遺物と考えられる。

銅 錢 出土した銅錢は5点である。1は隆平永寶で延暦15年(796)皇朝十二銭の4番目に延暦15年(796)に鋳造された銅錢である。2~5はいずれも渡来銭で北宋錢である。鋳造年はそれぞれ、2の紹聖元寶の篆書体は紹聖元年(1094)、3の祥符元寶は大中祥符元年(1008)、4の元祐通寶の篆書体は元祐元年(1086)、5の皇宋通寶は宝元2年(1039)である。これらの北宋錢は貿易により多量に日本にもたらされ中世にはかなり広く流通しており、国内でも私鑄錢(鎔錢)が作られている。1については古代の祭祀に関連し、2~5の渡来銭については中世の遺物と考えられる。

石製品 石製品には子持ち勾玉・紡錘車等があり図示したが、この他に流路V(中世新)から石臼の断片が出土している。

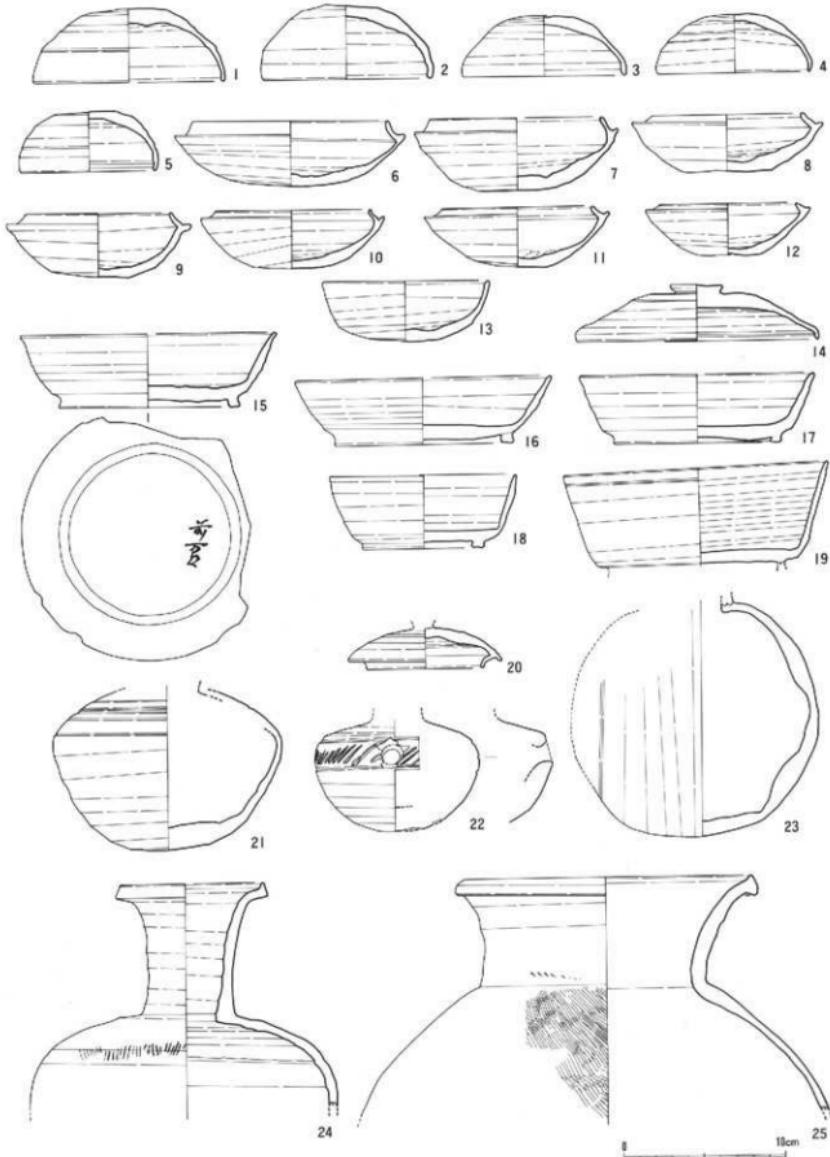
子持ち勾玉(1) 古墳時代後期の遺物と考えられるが位置は流路IV(中世古)より出土している。滑石製で褐色がかった明灰色の色調である。大きく欠損し、頭部のみが残るが表面全体にキズが多く見られる。子勾玉は背面と左側面に1個が一部破損して残るが、二連の小突起状を呈している。

紡錘車(2~4) 石製紡錘車は破片を含め3点が出土しているかい、2については割れた状態で若干離れて出土している。いずれも研磨で仕上げられており、特に3の側面部は縦方向の研磨が5mmほどの幅の単位で明確に捉えられる。また2では側面部ほぼ中央に沈線が一周する。

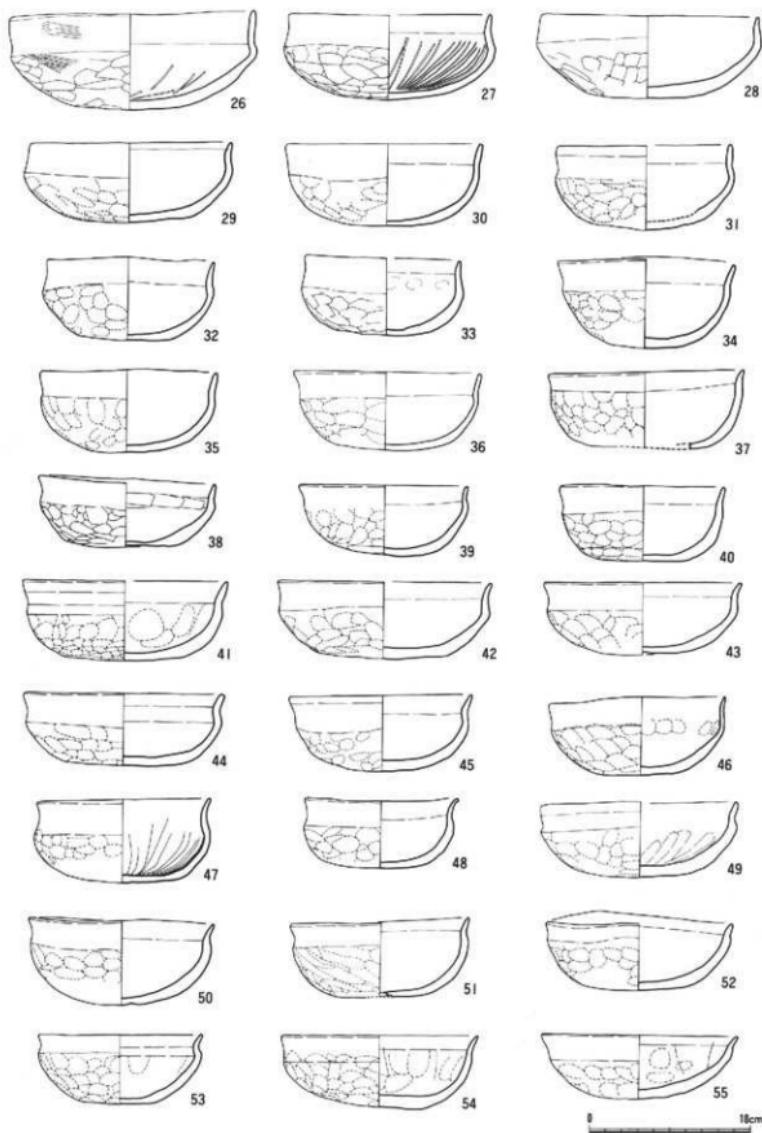
石 器 砥石及び叩き石が見られる。

砥 石(1~3) 1は一端が欠損しているが4面を砥石面として使用している他、先端部を叩き石としても利用している。2・3は欠損している面を除き全面が砥石として使用されている。

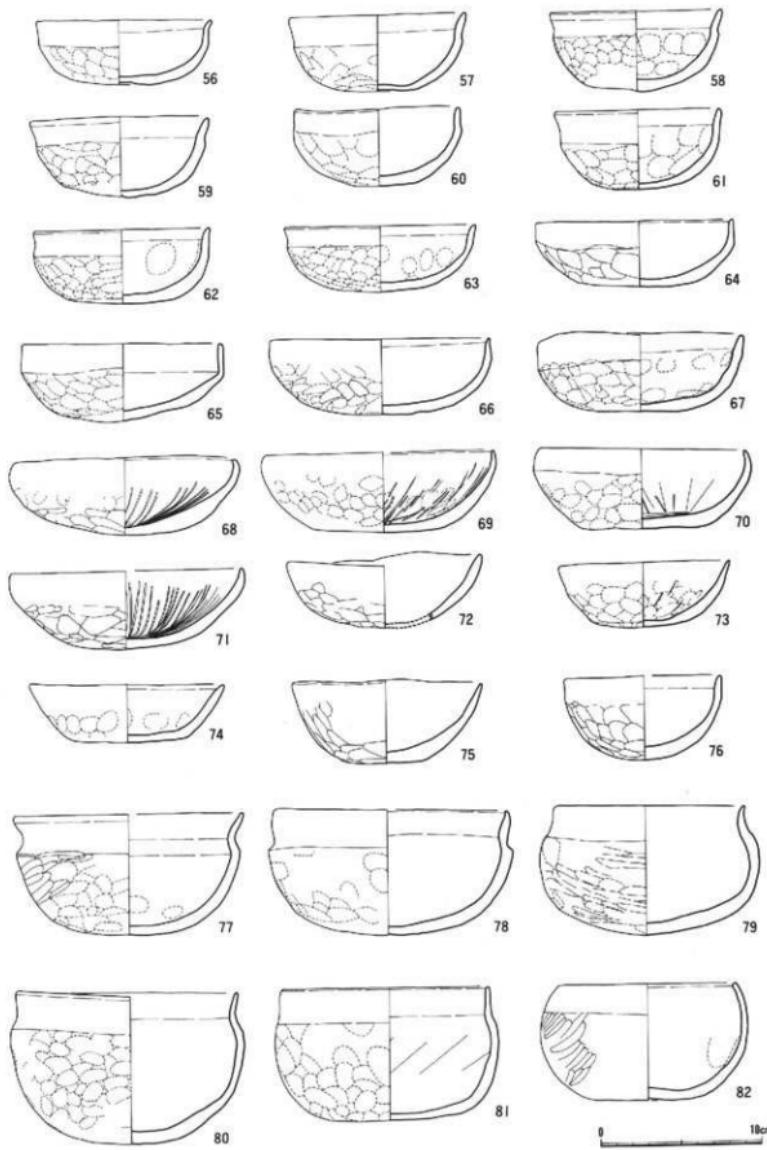
叩き石(4・5) いずれも細長い自然石を利用しておらず、両端部を中心に敲打痕が見られ叩き石として使用されていたものと思われる。



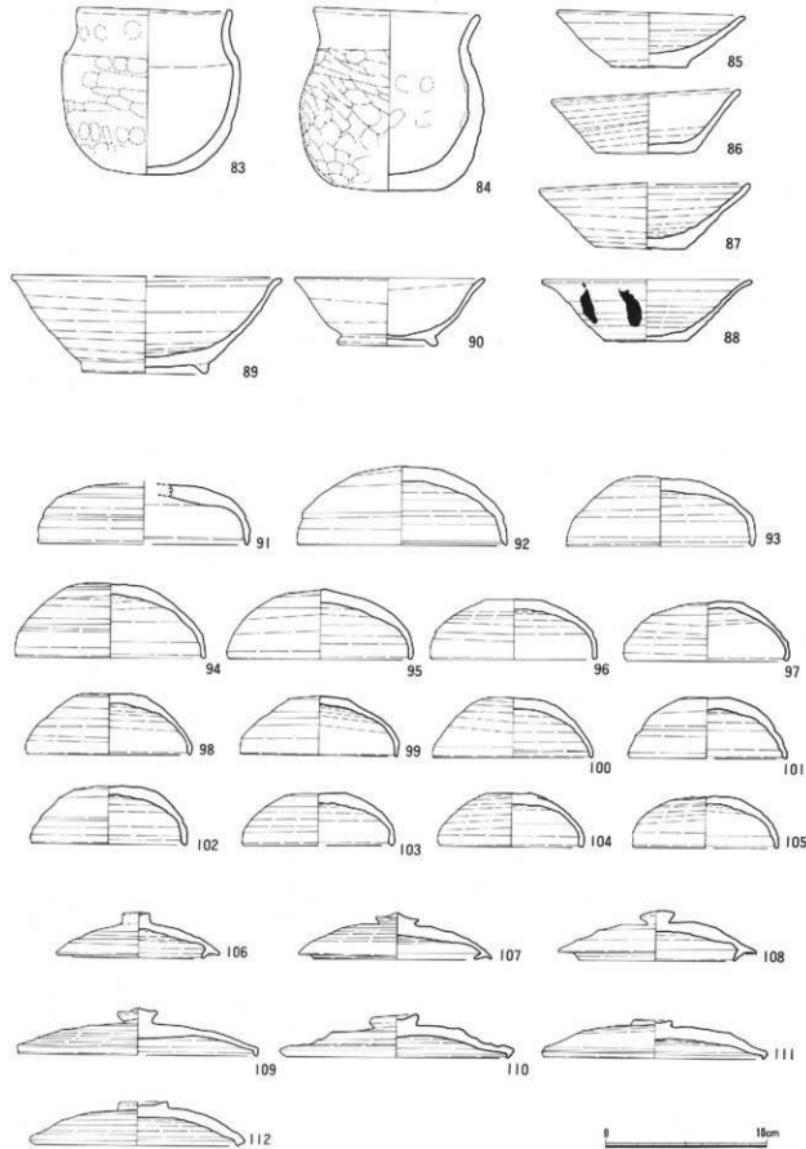
第22図 出土遺物実測図（土器 1）



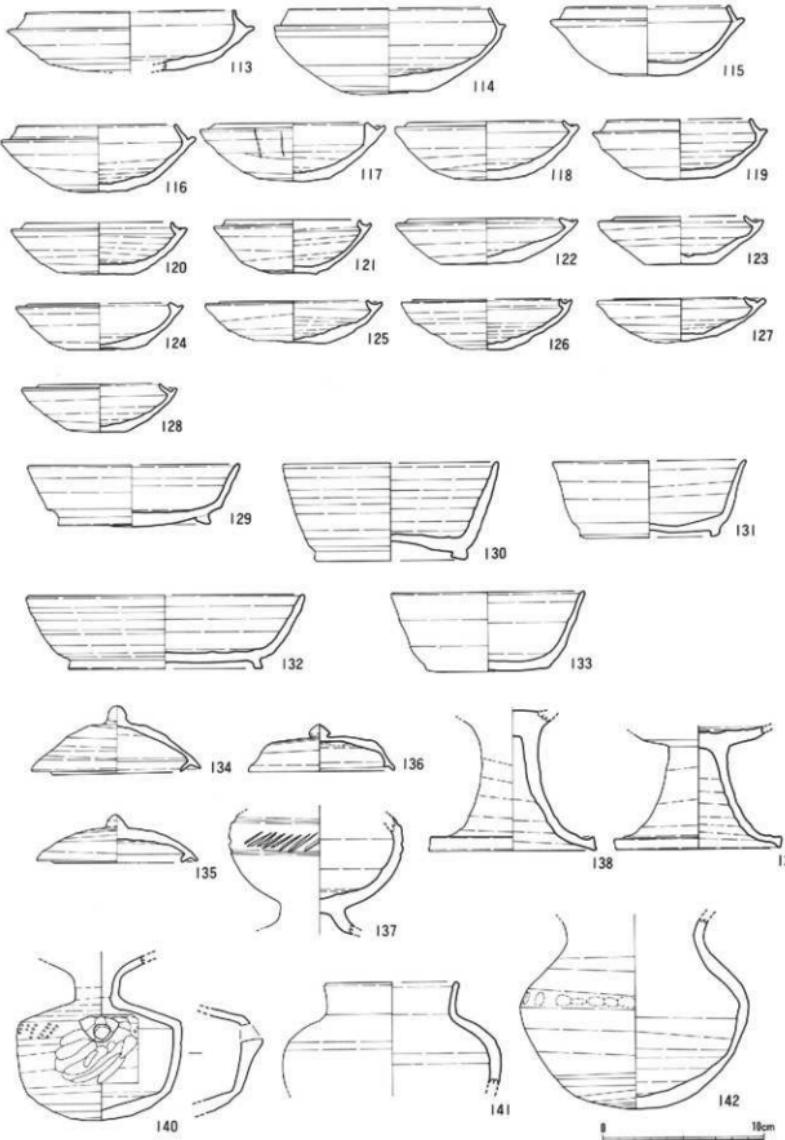
第23図 出土遺物実測図（土器 2）



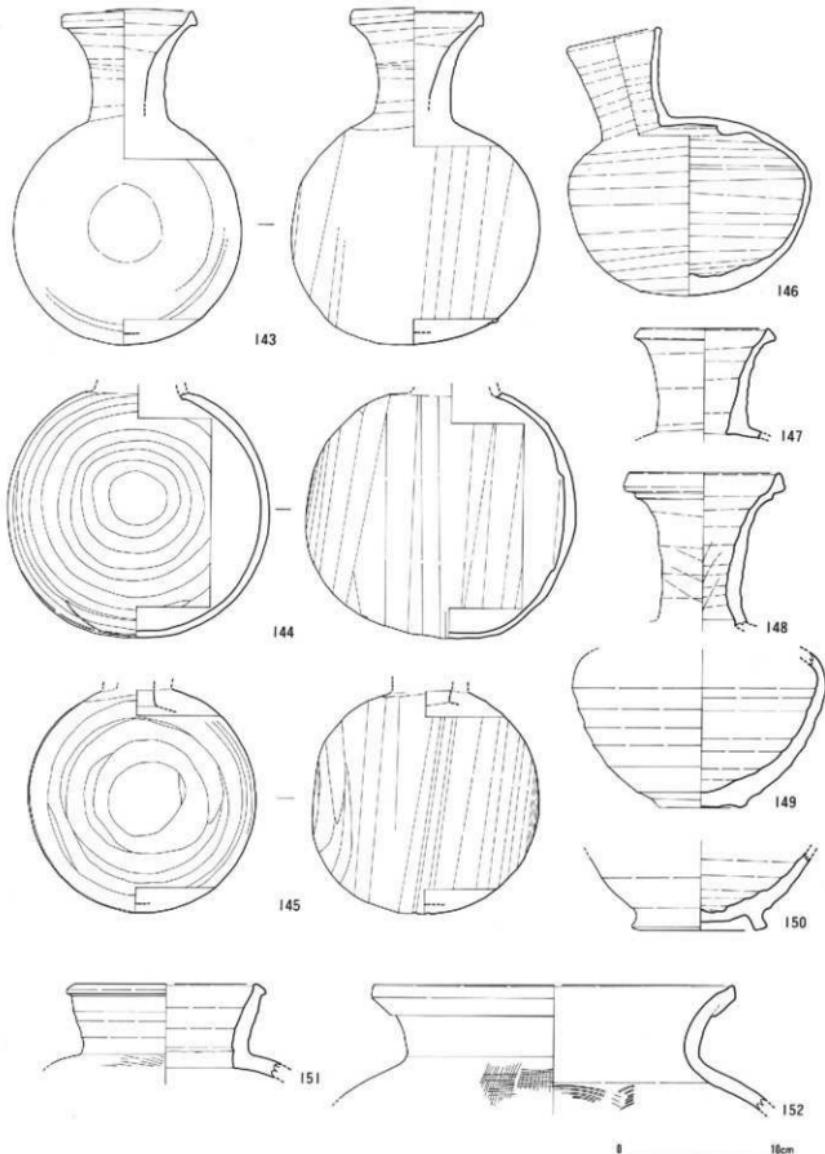
第24図 出土遺物実測図（土器 3）



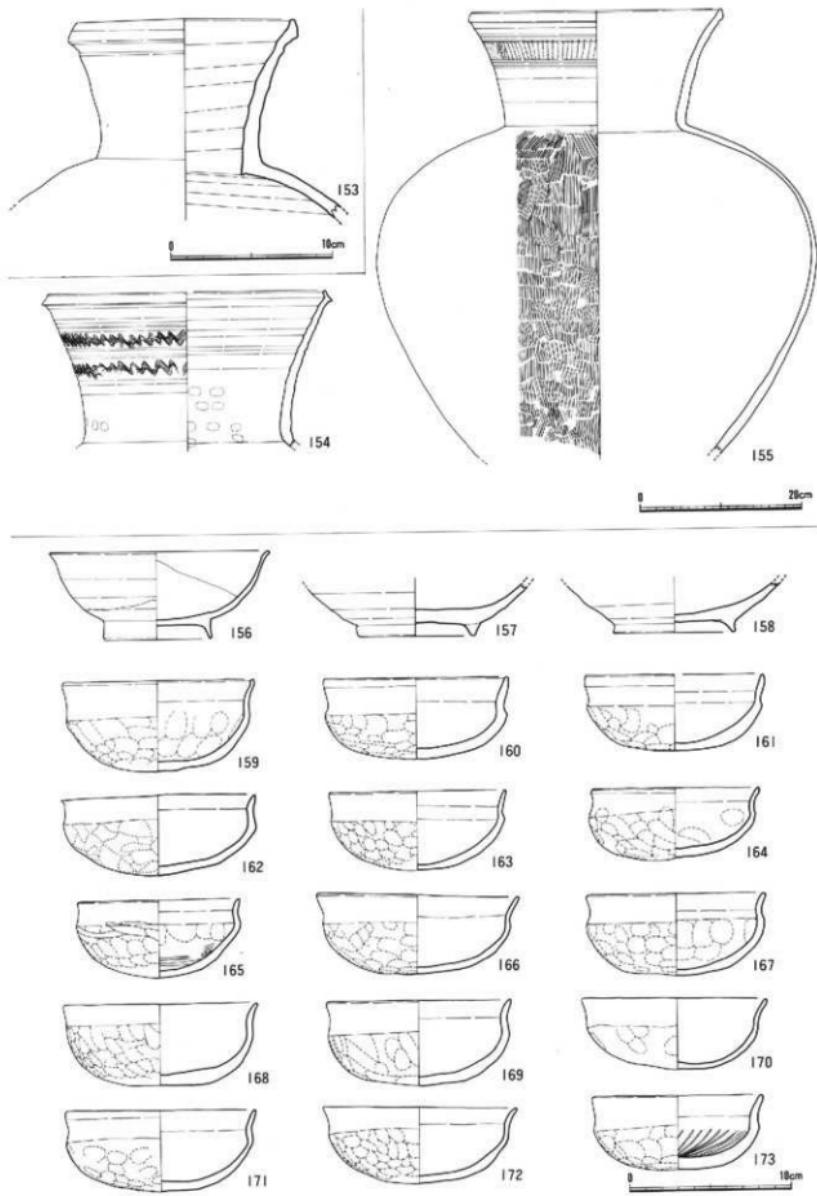
第25図 出土遺物実測図（土器 4）



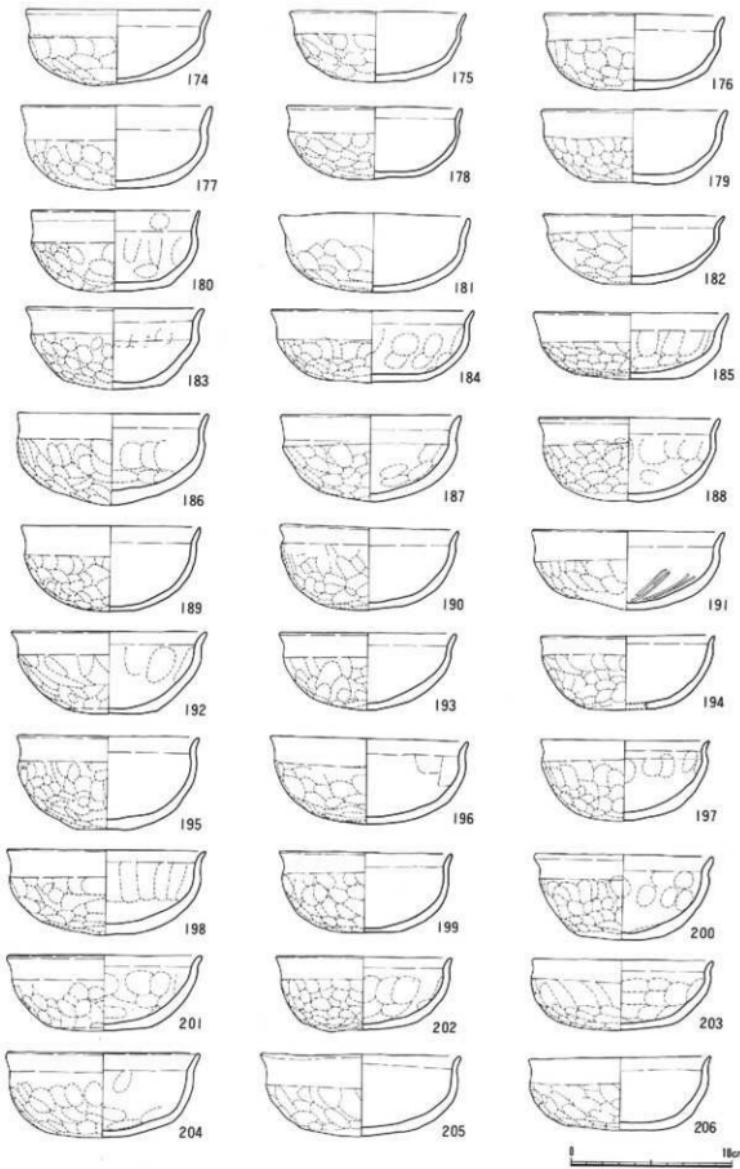
第26図 出土遺物実測図（土器 5）



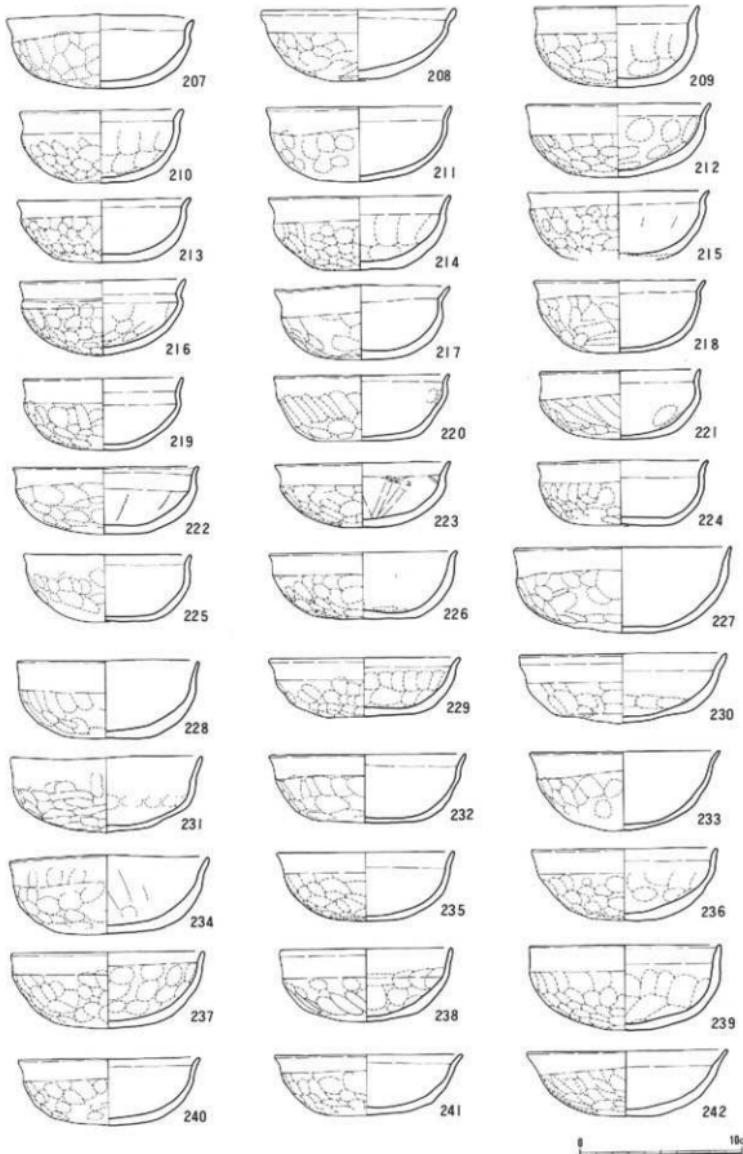
第27図 出土遺物実測図（土器 6）



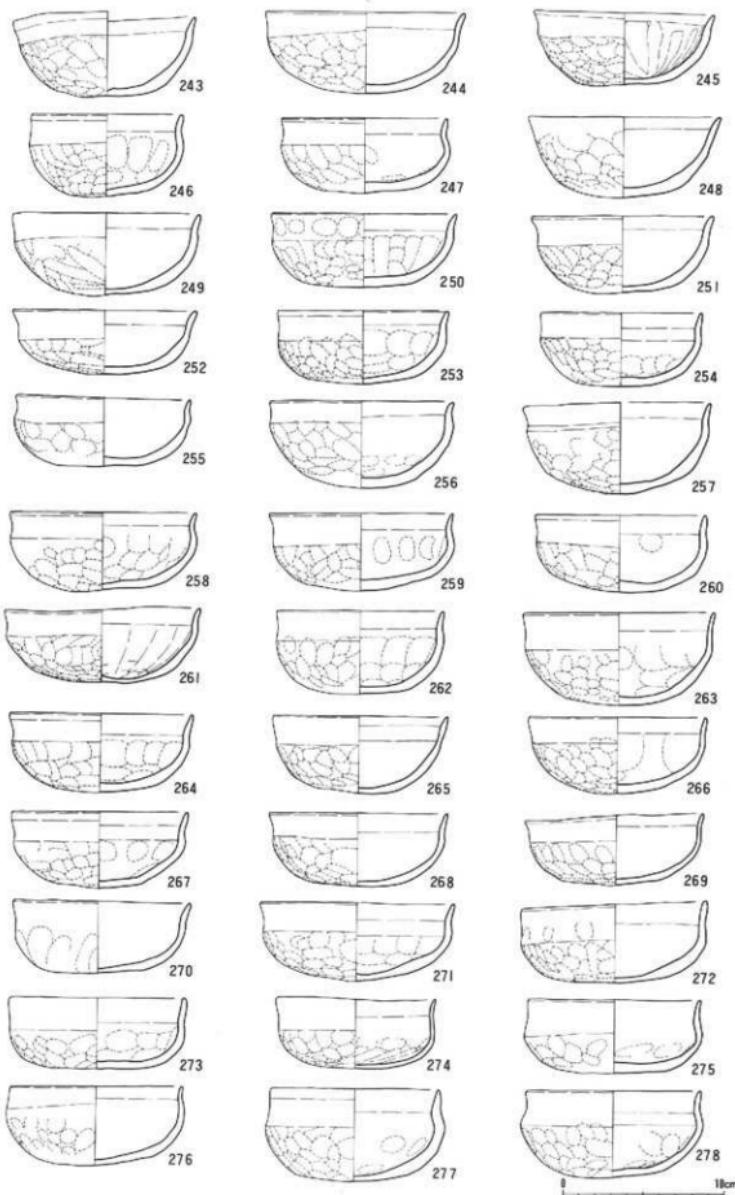
第28図 出土遺物実測図（土器7）



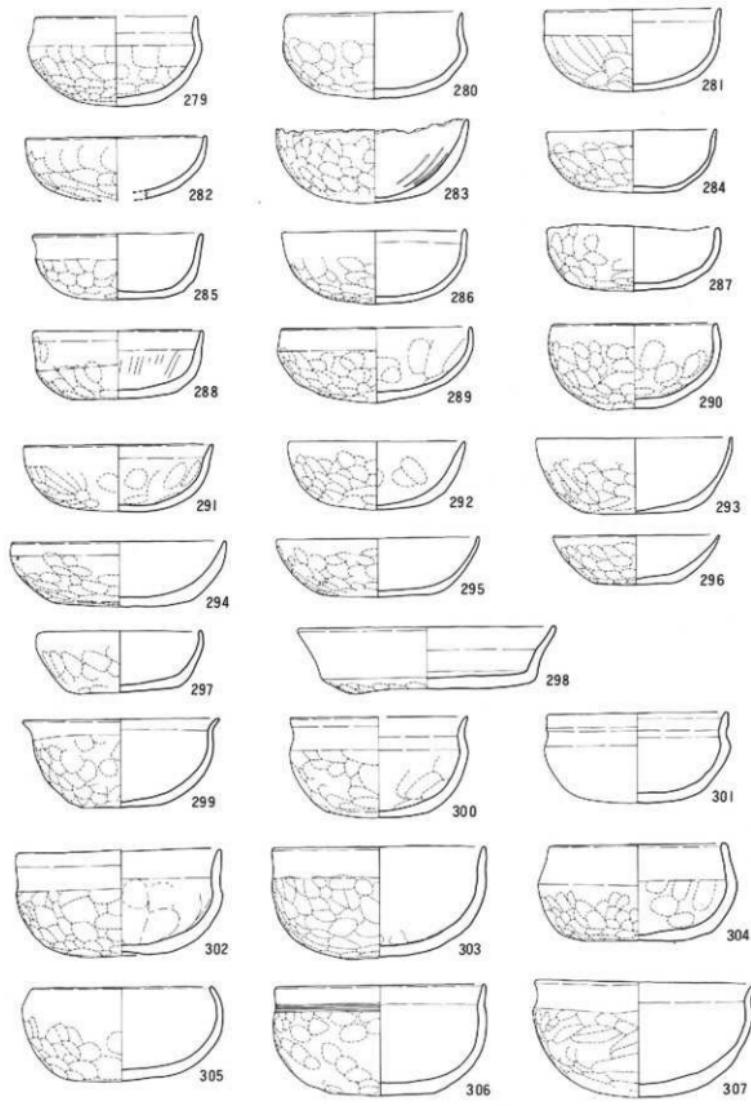
第29図 出土遺物実測図（土器 8）



第30図 出土遺物実測図（土器9）

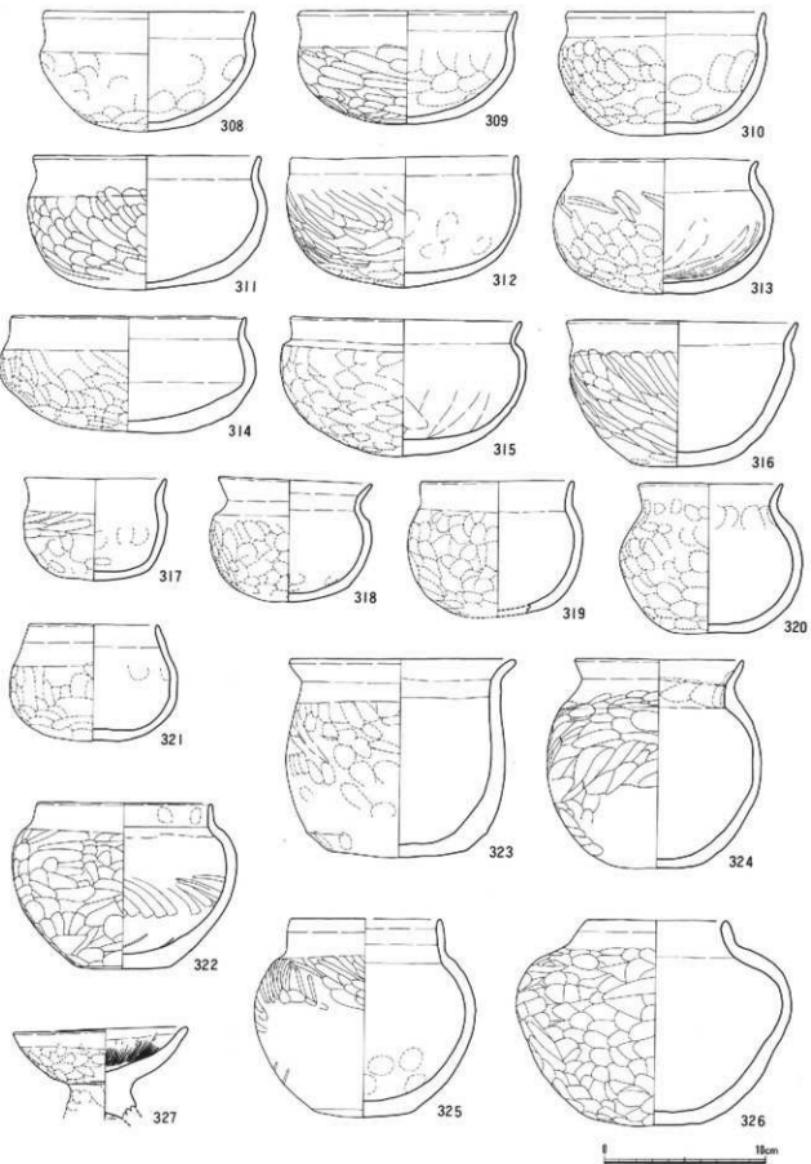


第31図 出土遺物実測図（土器10）

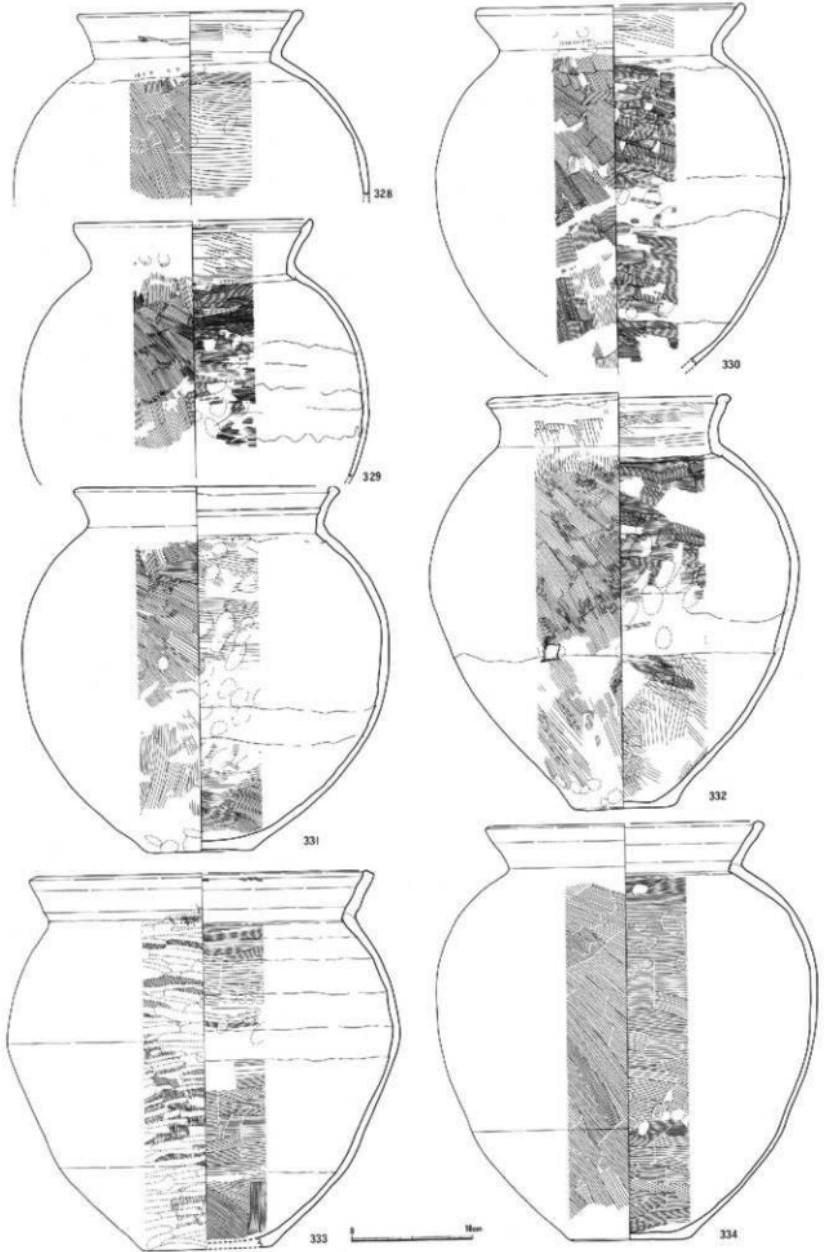


18cm

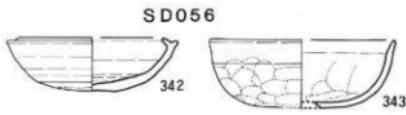
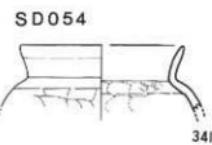
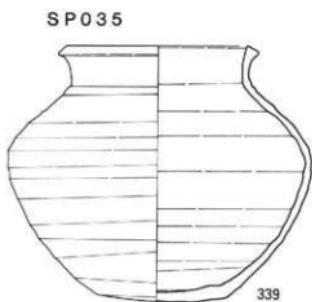
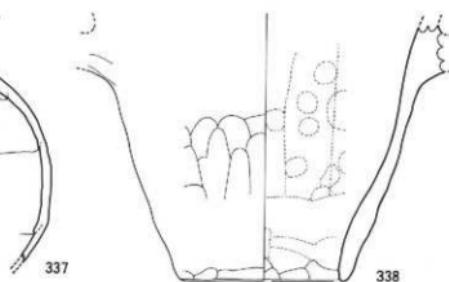
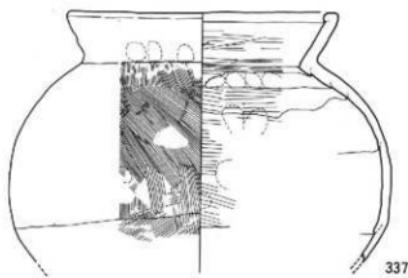
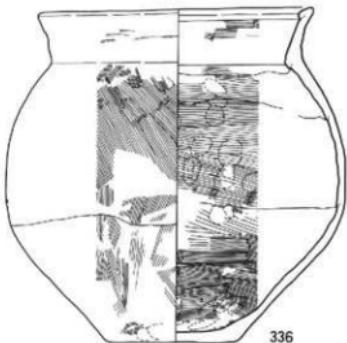
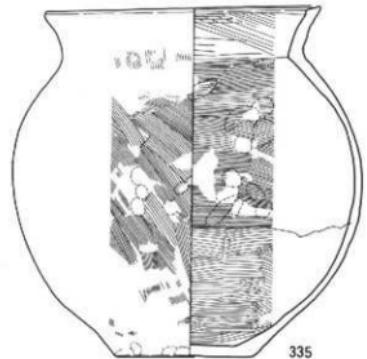
第32図 出土遺物実測図（土器11）



第33図 出土遺物実測図（土器12）

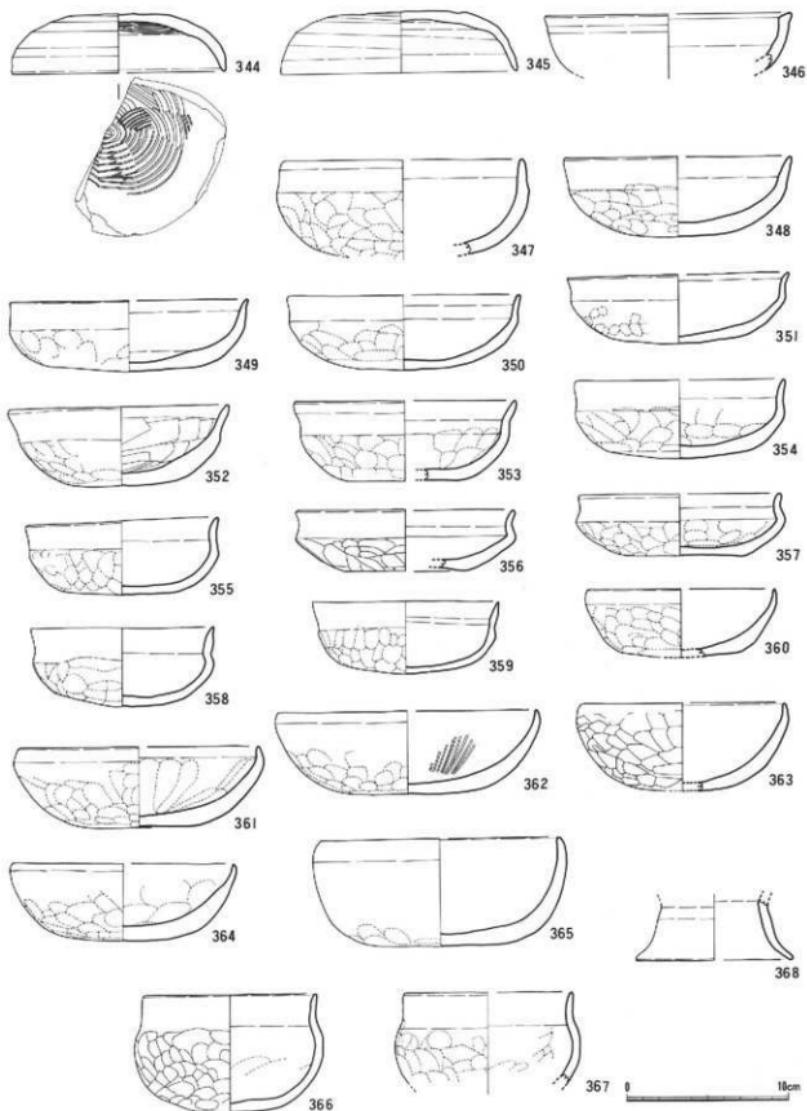


第34図 出土遺物実測図（土器13）



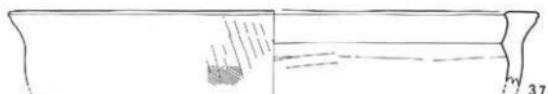
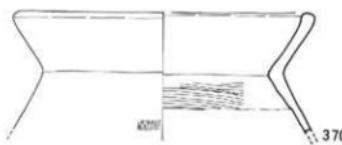
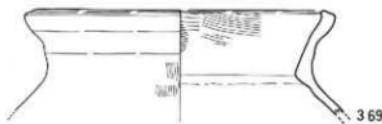
第35図 出土遺物実測図（土器14）

SD 051

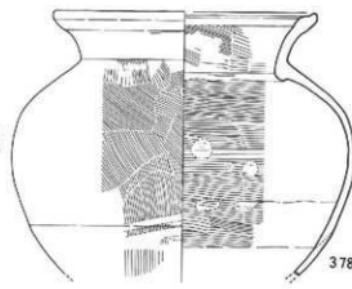
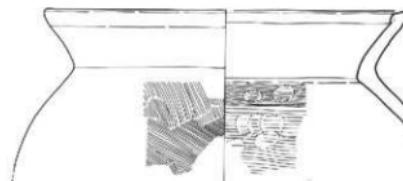
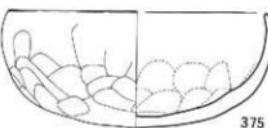
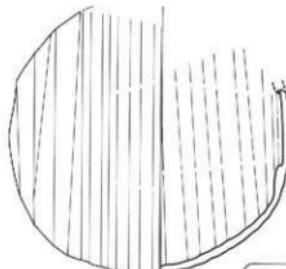
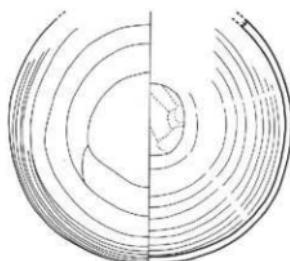


第36図 出土遺物実測図（土器15）

SD051

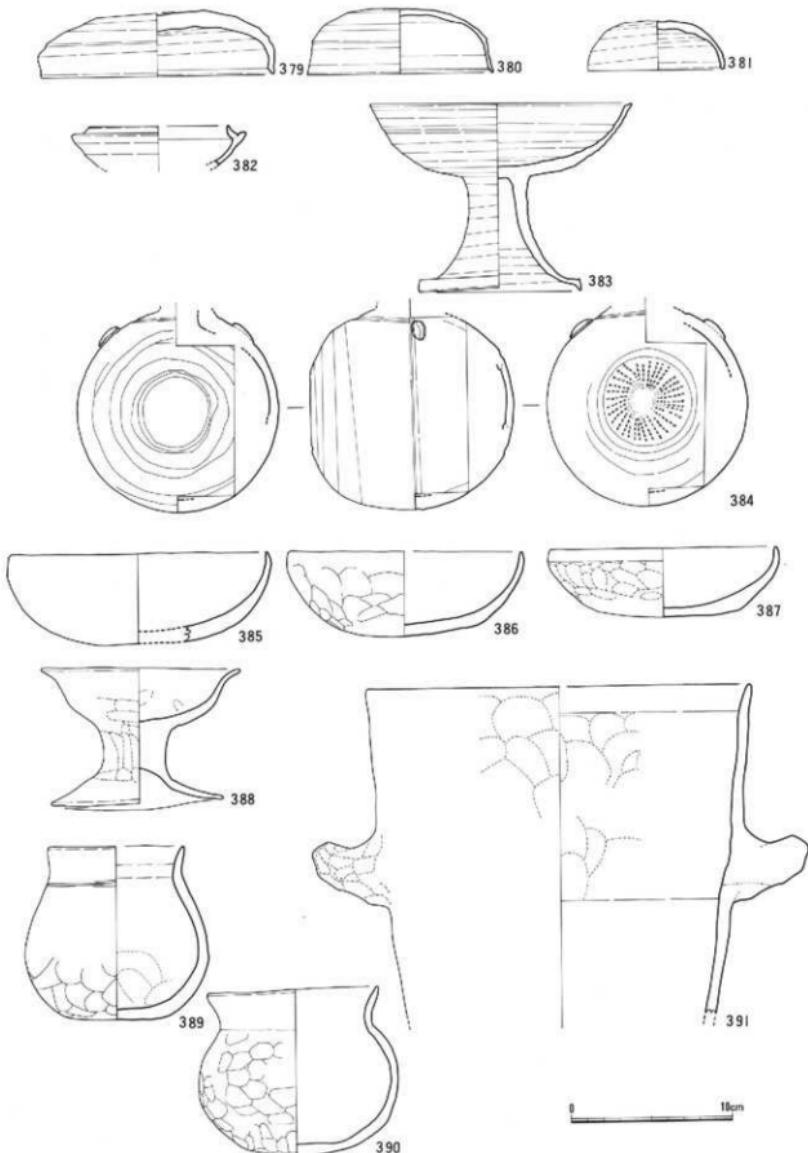


SX010

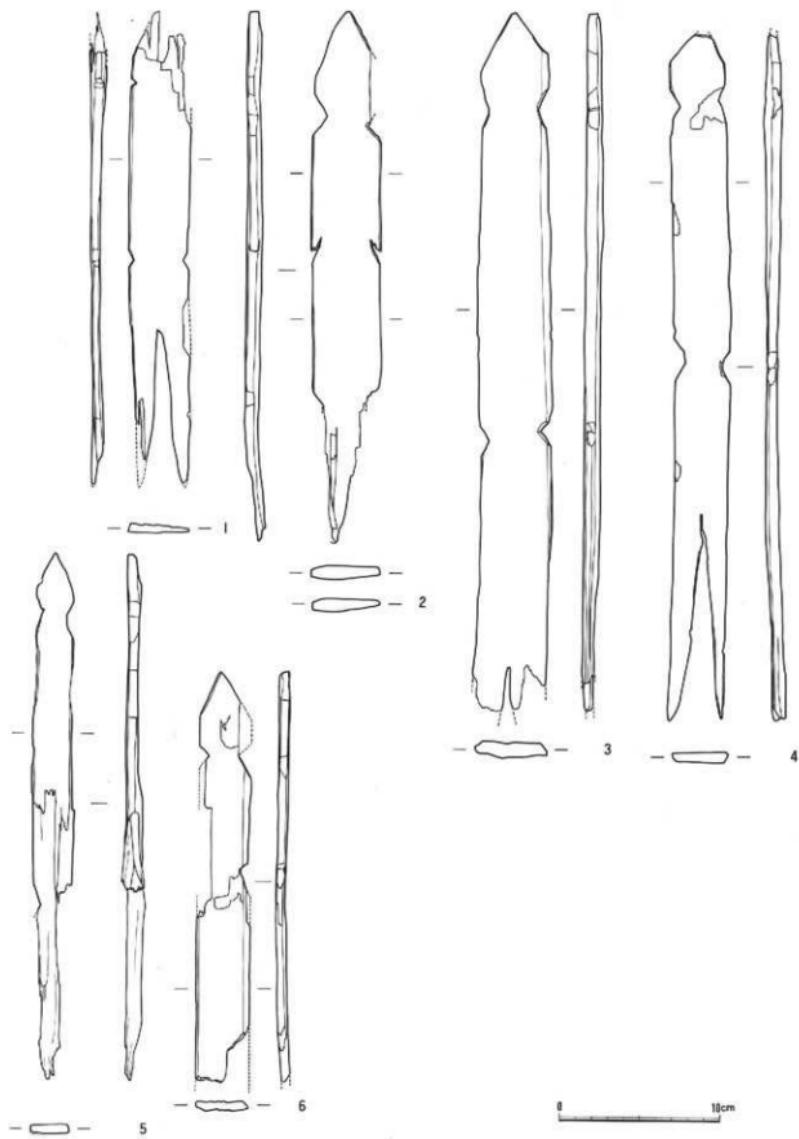


6 18cm

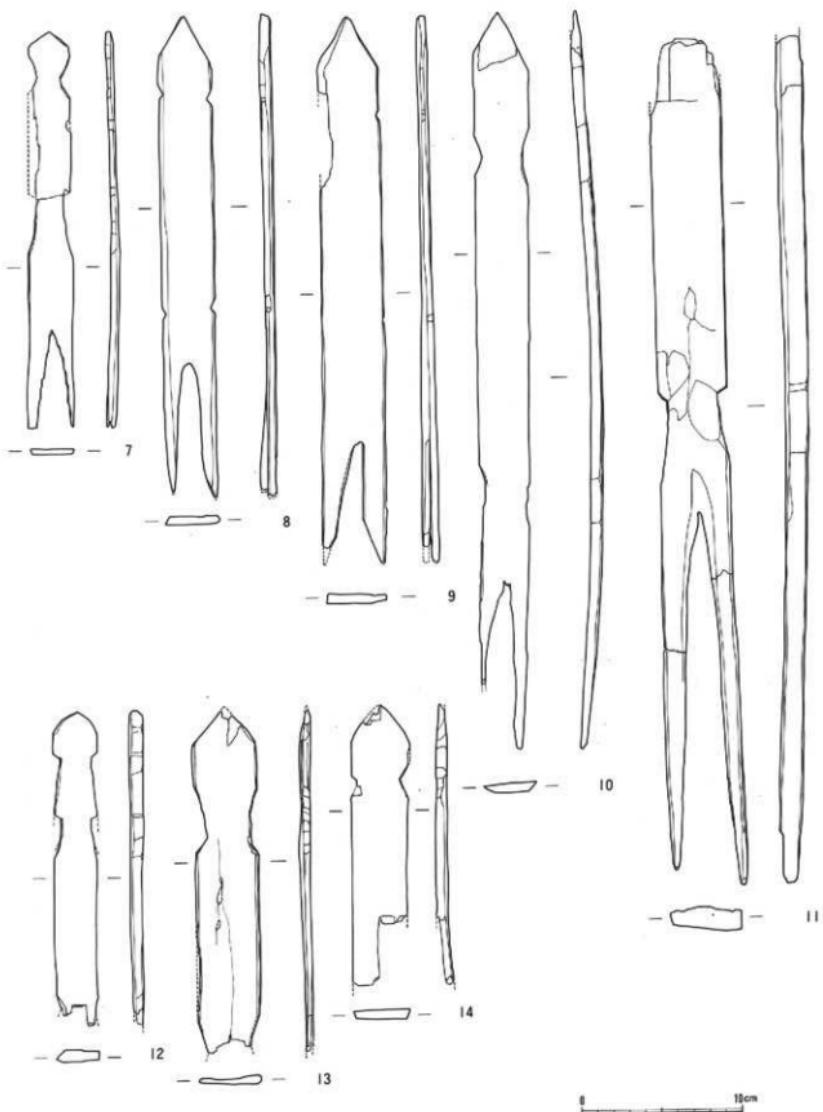
第37図 出土遺物実測図（土器16）



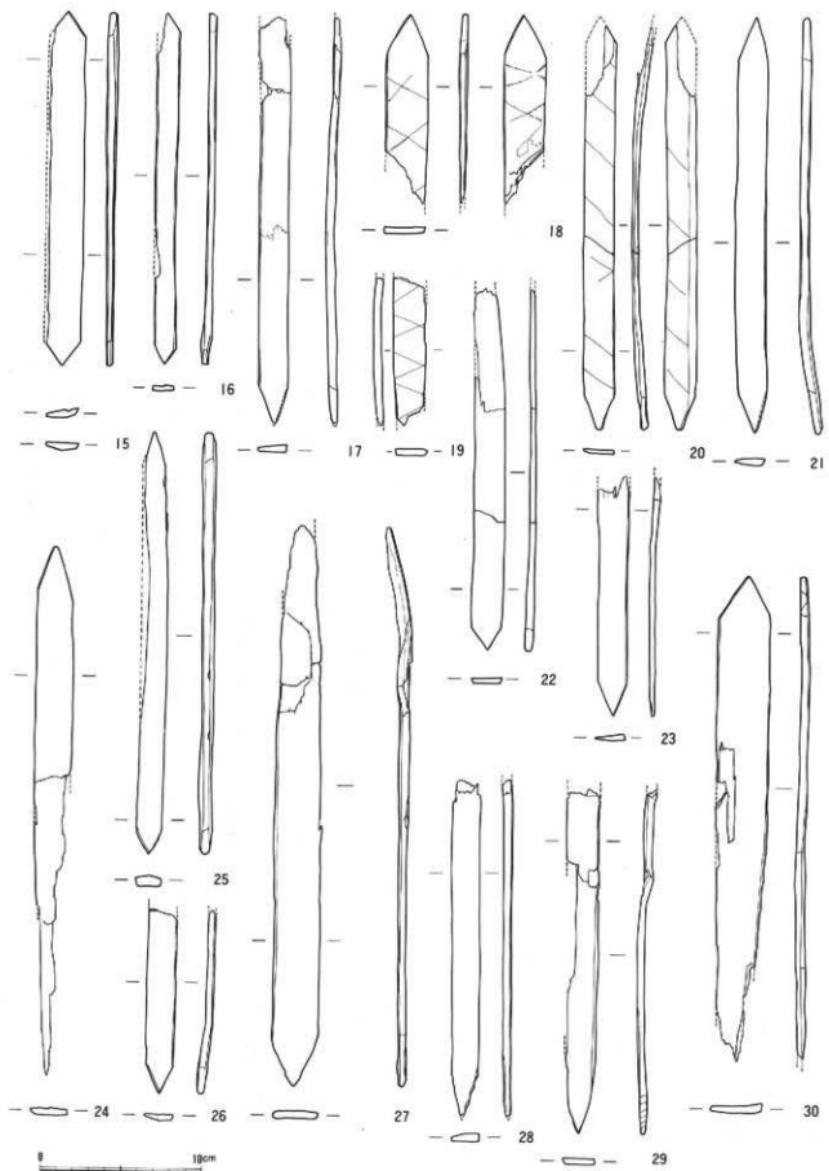
第38図 出土遺物実測図（土器17）



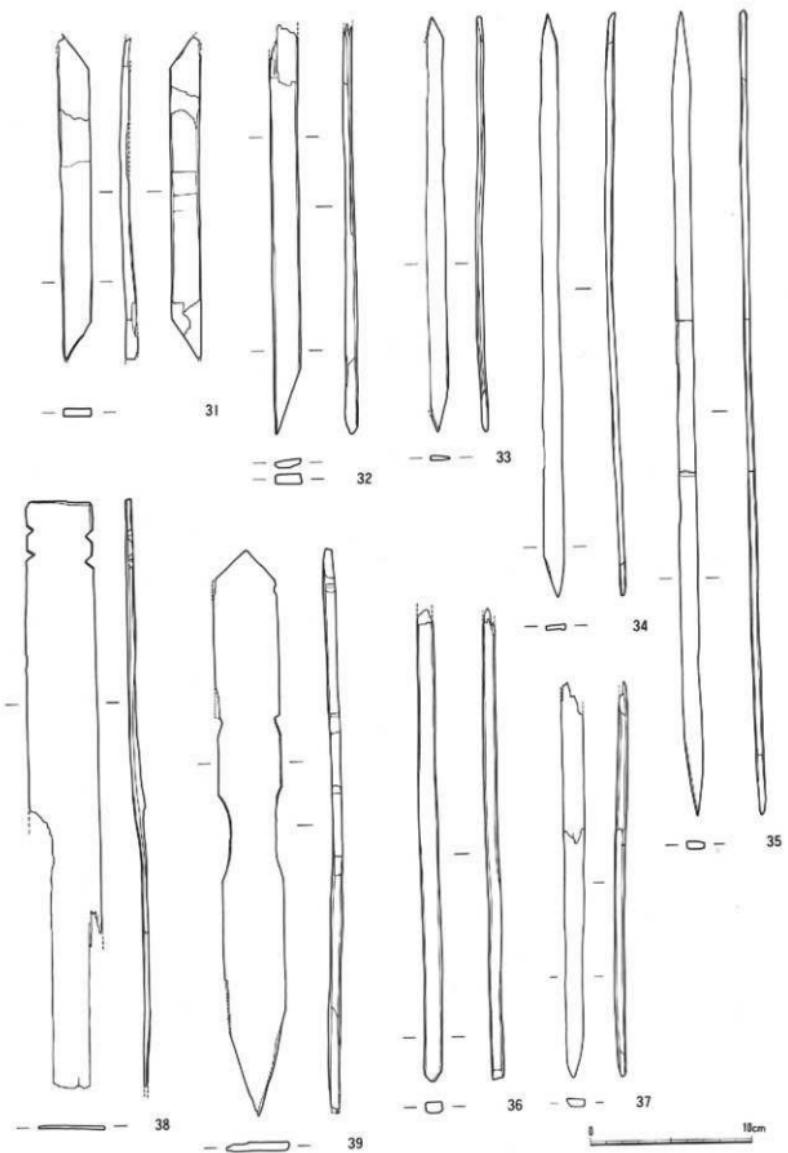
第39図 出土遺物実測図（木製品 1）



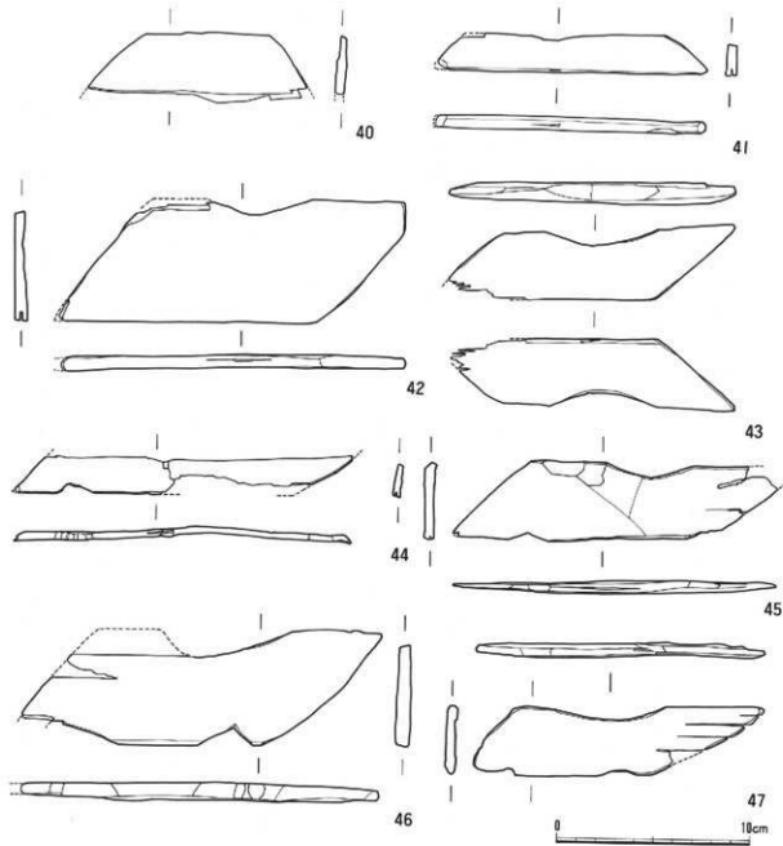
第40図 出土遺物実測図（木製品2）



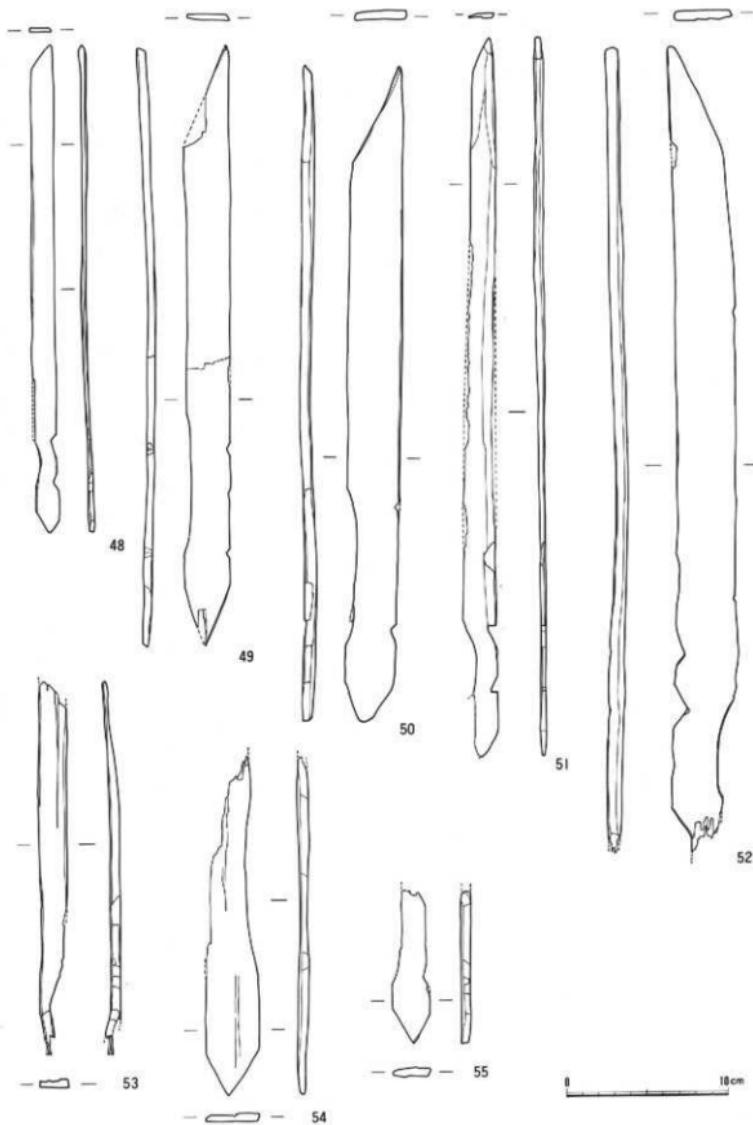
第41図 出土遺物実測図（木製品3）



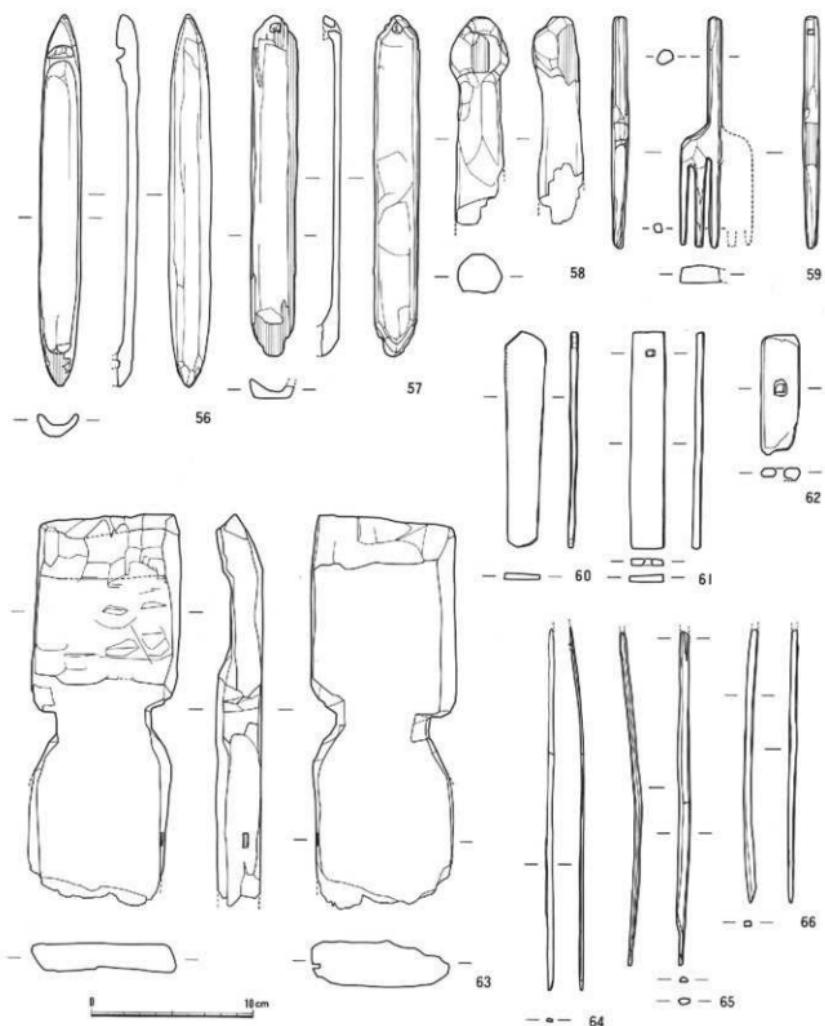
第42図 出土遺物実測図（木製品4）



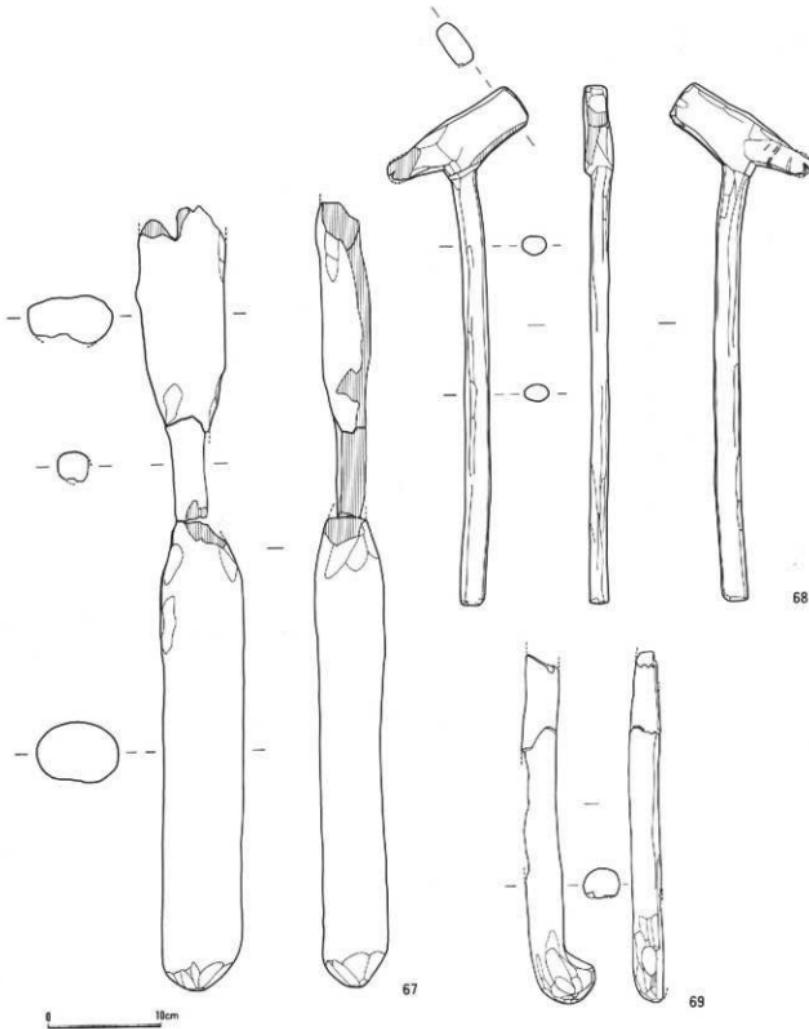
第43図 出土遺物実測図（木製品 5）



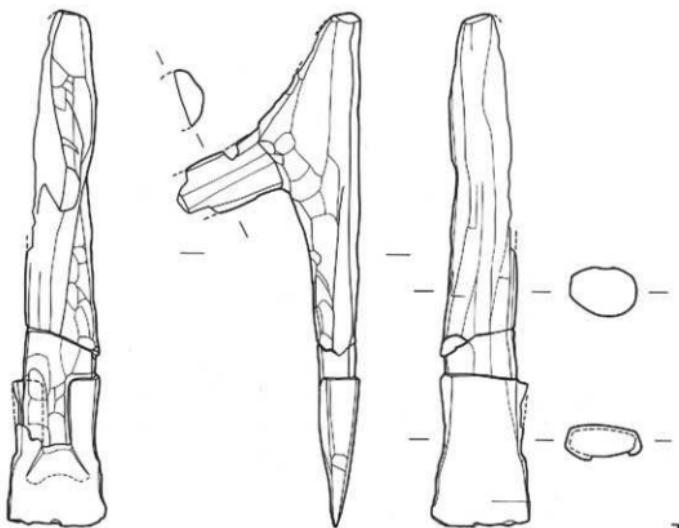
第44図 出土遺物実測図（木製品 6）



第45図 出土遺物実測図（木製品7）



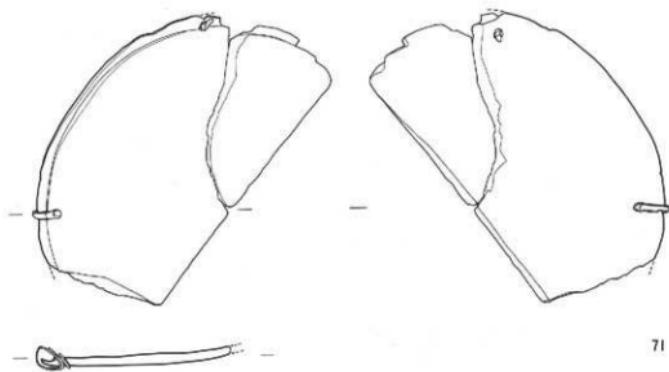
第46図 出土遺物実測図（木製品 8）



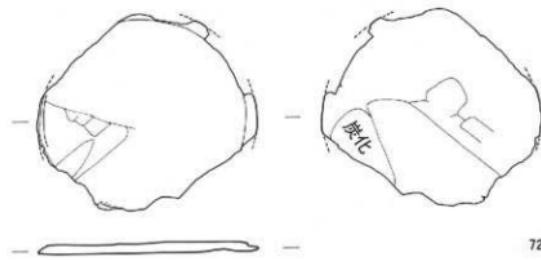
70



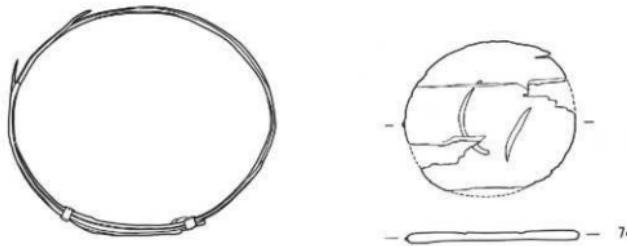
第47図 出土遺物実測図（木製品 9）



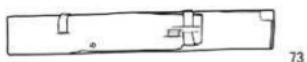
71



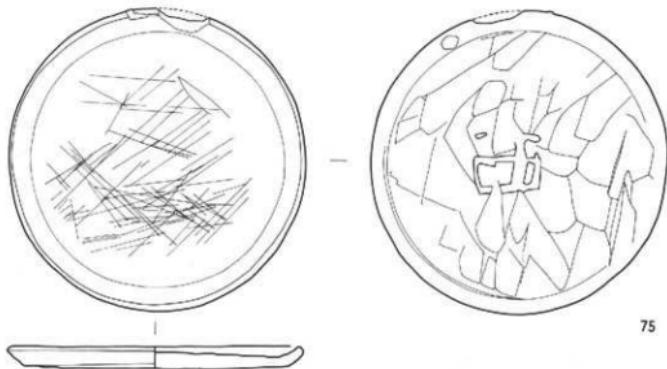
72



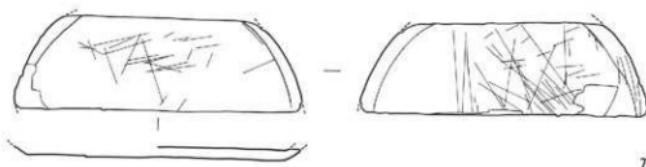
73



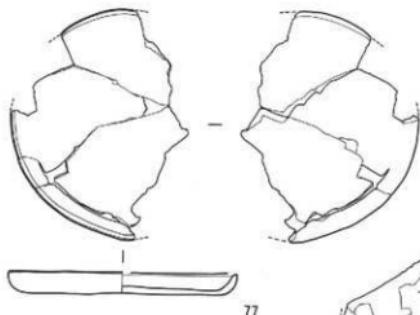
第48図 出土遺物実測図（木製品10）



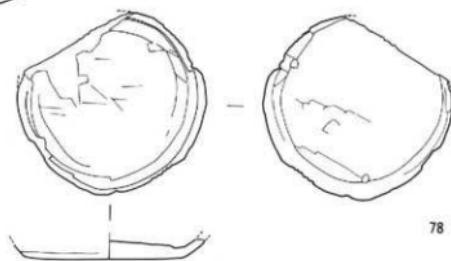
75



76



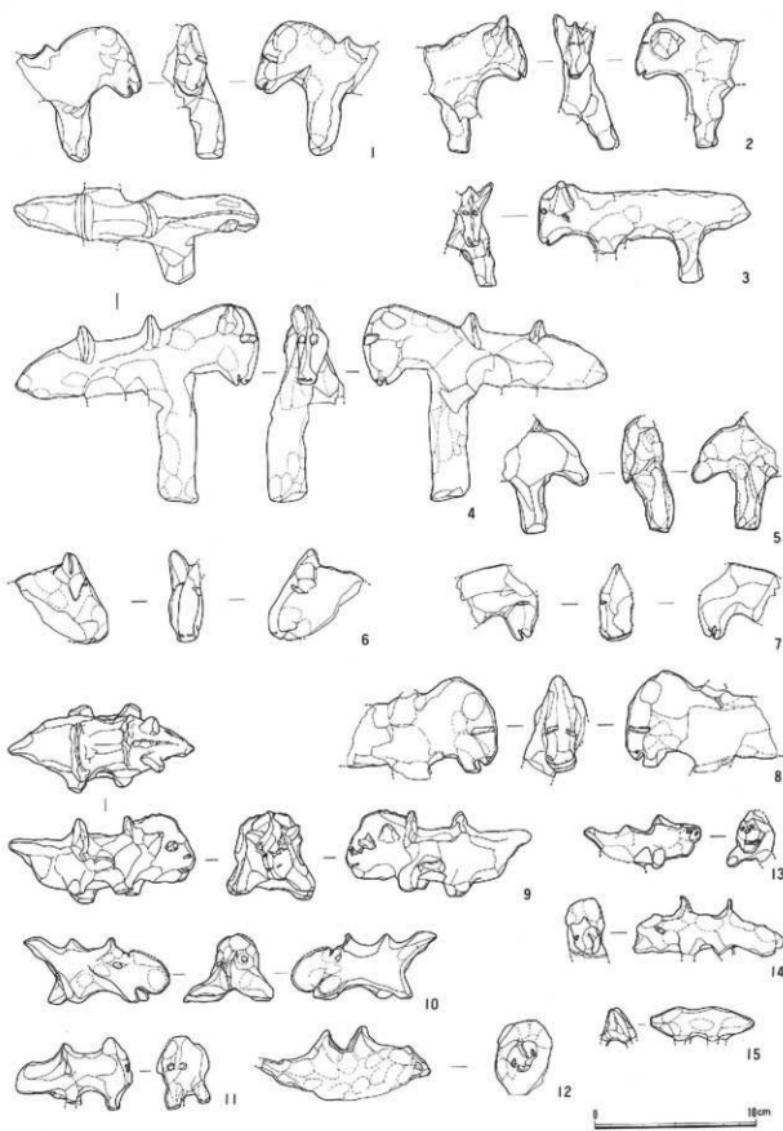
77



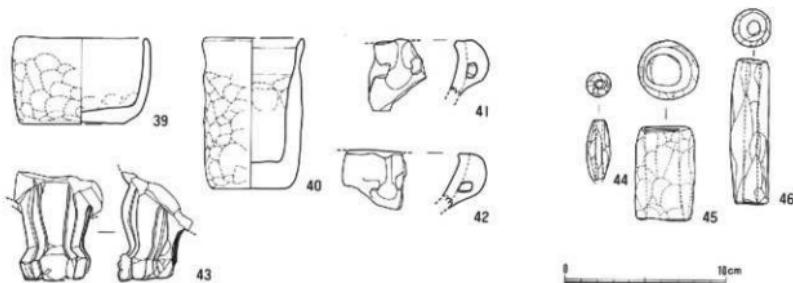
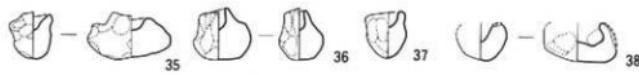
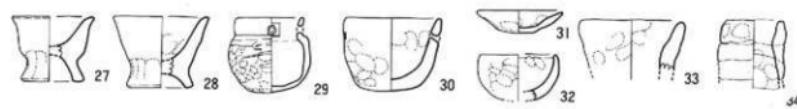
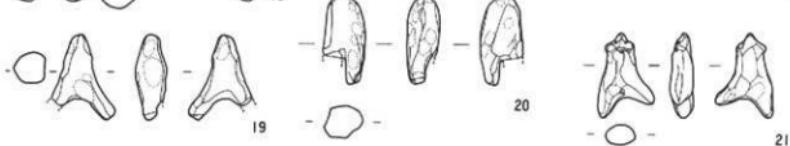
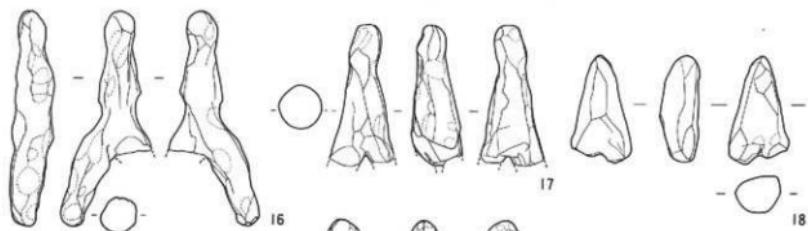
78



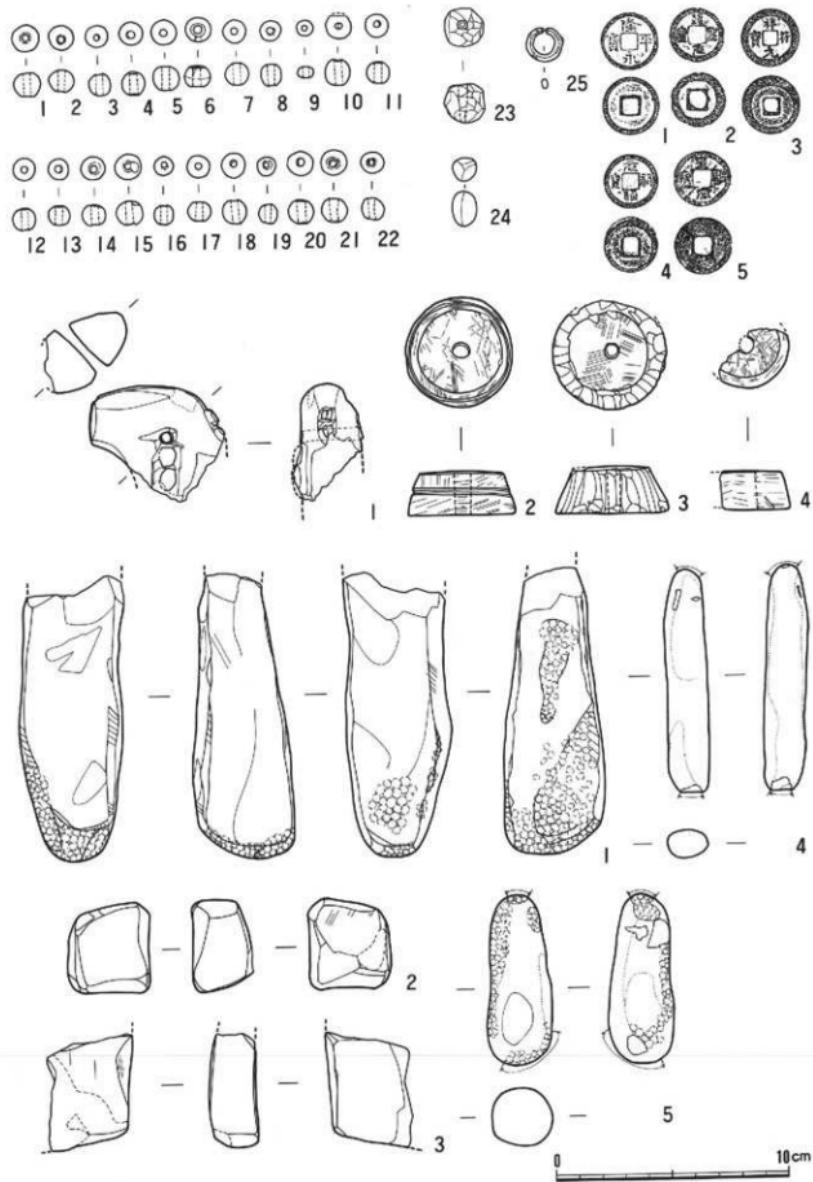
第49図 出土遺物実測図（木製品11）



第50図 出土遺物実測図（土製品1）



第51図 出土遺物実測図（土製品 2）



第52図 出土遺物実測図（その他の遺物）

第3表 土器観察表(1)

団番号	器種	グリット	計測値(cm)	形態の特徴	技法の特徴	土質・焼成・色調	備考
1	壺 环	D-1 1 1 NE-1	口 径 (11.8) 高 度 4.5	全体的に丸味を持つ。口唇部は突出して内側に凹む形となる。火焔部と口縁部に比較的持つ。	火焔部削除後へラケズリ。施は同軸ナテ調査。火焔部内面削除後へラケズリ。	粘土：やや粗、細粒を含む。 焼成：良好。 色調：灰褐色。	ロクロ右回転。 口縁部/3次焼。 流跡有。
2	壺 环	C-1 1 4 NE-2	口 径 10.4 高 度 4.6	全体的に丸味を持つ。口唇部はやや内側に凹む。	火焔部削除へラケズリ。施は同軸ナテ調査。	粘土：柔軟かいめん性。 焼成：良好。 色調：灰褐色。	ロクロ右回転。 火焔部/4次焼。 流跡有。
3	壺 环	D-1 1 4 NE-2	口 径 10.1 高 度 3.7	全体的に丸味を持つ。口縁部はやや内側に凹む。	天井部削除後へラケズリ。施は同軸ナテ調査。	粘土：粘土。 焼成：良好。 色調：暗灰色。	ロクロ右回転。 火焔部/4次焼。 流跡有。
4	壺 环	D-1 1 5 SE-1	口 径 9.4 高 度 3.7	全体的に丸味を持つ。口縁部は短くやや内側に凹む。	火焔部削除後へラケズリ。施は同軸ナテ調査。	粘土：粘土。 焼成：良好。 色調：深灰色。	ロクロ右回転。 口縁部/3次焼。 流跡有。
5	壺 环	E-1 0 9 NS-1	口 径 9.0 高 度 3.8	天井部削除後やや平坦となる。口唇部内側にやや凹む。天井部と口縁部の境に焼け跡あり。	天井部削除後へラケズリ。施は同軸ナテ調査。	粘土：やや粗、細粒を多く含む。 焼成：やや不良。 色調：深灰色。	ロクロ右回転。 口縁部/5次焼。 流跡有。
6	壺 环	D-1 1 4 SE-1	口 径 12.1 高 度 4.7 最大径 14.3	器身が膨らむ、深い鼓部である。立上がりは直線的で内側に凹む。	底部外表面削除へラケズリ。施は同軸ナテ調査。	粘土：やや粗、細粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：深灰色。	ロクロ右回転。 立上がり直線。 流跡有。
7	壺 环	D-1 1 1 SE-1	口 径 (10.0) 高 度 4.5 最大径 (12.6)	底部中央がやや平坦となり、受部は小さい。立上がりは直線的で内側に凹む。	底部外表面削除へラケズリ。施は同軸ナテ調査。	粘土：やや粗、細粒を含む。 焼成：良好。 色調：深灰色。	ロクロ右回転。 口縁部/2次焼。 流跡有。
8	壺 环	E-1 0 9 NE-1	口 径 9.2 高 度 3.5 最大径 11.8	底部中央が平坦となる。受部は小さく、立上がりは内側に凹む。	底部外表面削除へラケズリ。施は同軸ナテ調査。	粘土：粘土。 焼成：良好。 色調：青灰色。	ロクロ左回転。 受部直角。 流跡有。
9	壺 环	D-1 1 3 NE-1	口 径 9.0 高 度 3.9 最大径 11.5	底部中央やや平坦となる。受部は短く外に突き、立上がりはやや短く内側に凹む。	底部外表面削除へラケズリ。施は同軸ナテ調査。	粘土：粘土。 焼成：良好。 色調：淡灰色。	ロクロ右回転。 受部直角。 流跡有。
10	壺 环	D-1 1 5 NE-1	口 径 9.6 高 度 2.6 最大径 11.4	底部は丸底を呈する。受部は短く、立上がりは内側に凹む。	底部外表面削除へラケズリ。小舟にヘラ削り残す。施は同軸ナテ調査。	粘土：粘土。 焼成：良好。 色調：明灰色。	ロクロ右回転。 3/4残存。 流跡有。
11	壺 环	D-1 1 9 NE-1	口 径 9.5 高 度 3.7 最大径 11.3	底部は丸底を呈する。受部は短く、立上がりは直角外反柱に内側する。	底部外表面削除へラケズリ。施は同軸ナテ調査。底部内面に指痕压痕あり。	粘土：粘土。 焼成：良好。 色調：深灰色。	ロクロ右回転。 受部直角。 流跡有。
12	壺 环	D-1 1 4 SE-1	口 径 9.4 高 度 3.5 最大径 10.2	底部中央やや平坦となる。受部は膨らむ。立上がりは底に短く内側する。	底部外表面削除へラケズリ。施は同軸ナテ調査。	粘土：粘土。 焼成：良好。 色調：深灰色。	ロクロ右回転。 受部直角。 流跡有。
13	壺 环	E-1 1 6 SW-1	口 径 10.2 高 度 3.7	底部は丸底を呈する。口縁部は直線的で立つ。	底部内面へラケズリの性ナテ、底部外表面削除へラケズリ。施は同軸ナテ調査。	粘土：粘土。白色の細粒。 焼成：良好。 色調：灰色。	ロクロ左回転。 受部直角。 流跡有。
14	壺 环	D-1 1 6 SE-2	口 径 15.0 高 度 3.5	火焔部中央は平坦となり、底平なツマミを持つ。口縁部は下方に短く傾斜する。	火焔部外表面削除へラケズリ。施は同軸ナテ調査。	粘土：粘土。 焼成：やや不良。 色調：白緑灰色。	ロクロ左回転。 火焔部直角。 流跡有。
15	壺 环	D-1 1 2 NE-1	口 径 (15.0) 高 度 4.5 高内径 11.3	底部は底平を呈し、中央部がやや膨らむ。底部外表面削除後白い粉を拭う。全体は直角外反柱に内側する。	底部削除へラケズリ。中央部に木口筋のものによる開脚跡残る。施は同軸ナテ調査。	粘土：粘土。 焼成：良好。 色調：淡褐色。	ロクロ左回転。 受部直角/2次焼。 底部内面「前刀口」の跡有り。
16	壺 环	D-1 1 2 NE-2	口 径 (15.0) 高 度 4.1 高内径 11.1	底部底平を呈し、高台部に工具による整脚跡が見られる。火焔部から口縁部は直線的に外方に突き、全体に内側に凹む。	底部削除へラケズリ。高台部に工具による整脚跡が見られる。施は同軸ナテ調査。	粘土：粘土。 焼成：良好。 色調：淡褐色。	ロクロ左回転。 受部直角/3次焼。 流跡有。
17	壺 环	D-1 1 5 NE-1	口 径 (14.4) 高 度 4.2 高内径 10.3	底部は底平を呈し、中央部が膨らむ。底部外表面削除後白い粉を拭う。全体は直角外反柱に内側する。	底部外表面削除へラケズリ。施は同軸ナテ調査。	粘土：粘土。 焼成：良好。 色調：暗灰色。	ロクロ右回転。 1/4残存。 流跡有。
18	壺 环	C-1 1 4 NE-2	口 径 11.6 高 度 2.7 高内径 7.4	底部は底平を呈し、底部から口縁部は直線的に立ち上がる。	底部外表面削除へラケズリ。施は同軸ナテ調査。	粘土：粘土。 焼成：良好。 色調：灰色。	ロクロ右回転。 受部直角。 流跡有。
19	壺 环	D-1 1 2 NE-2	口 径 16.4 高 度 ? 高内径 9.6	底部は底平を呈し、底部から口縁部は直線的に立ち上がる。人型で窪、整形される。	底部外表面削除へラケズリ。施は同軸ナテ調査。天井部削除へラケズリ。	粘土：粘土。 焼成：良好。 色調：暗青灰色。	ロクロ右回転。 高内径及び口縁部の2/5欠損。 流跡有。
20	壺 环	D-1 1 1 NE-2	口 径 7.2 高 度 ? 高内径 9.6	天井部は削除で、丸味を持つ。受部は外反柱形に内方に延びる。マミを失く。	天井部外表面削除へラケズリ。施は同軸ナテ調査。天井部内面に指痕压痕有り。	粘土：やや粗。白色細粒。 焼成：良好。 色調：明灰色。	ロクロ右回転。 マミと欠損。 流跡有。

第4表 土器観察表(2)

番号	器種	グリット	計測値(cm)	形態の特徴	技術の特徴	胎土・焼成・色調	備考
21	圓底盤	E-1 1.5	口 径 7 高 7 内縫部大径 14.1	底部は丸底を呈し、脚部上半が張り出す。脚部に食卓の火鉢を持つ。	底面外周部へラケヅリ。底は内縫ナナ子。	胎土：細密。 焼成：良好。 色調：淡黄灰。	クロマ密板。 脚部下口横部火鉢。 流跡Ⅱ。
22	束腰盆	D-1 1.1 NE-2	口 径 7 高 7 内縫部大径 10.2	底部は丸底を呈し、脚部上半がやや張り出す。口縁部は僅かに内反する。脚部中央部に少しおよけがある。内縫部へによるキサギの火鉢が施される。	底面外周部へラケヅリ。底は内縫ナナ子。	胎土：平。表面颗粒を含む。 焼成：良好。 色調：灰色。	クロマ密板不規。 脚部下口横部火鉢。 流跡Ⅱ。
23	直縫盤	D-1 1.3 NE-2	口 径 7 高 7 内縫部大径 (15.2)	底部は丸底を呈する。	底面外周部へラケヅリ。他の内縫ナナ子。	胎土：平。白色細颗粒を含む。 焼成：良好。 色調：灰色。	クロマ密板。 脚部下口横部火鉢。 流跡Ⅱ。
24	直縫盆	D-1 1.3 NW-1	口 径 8.8 高 8 内縫部大径	底部は丸底を呈し、脚部はやや外反して成立し、口縁部は大きめに外反する。口縫部が上方につまみだされる。	全体に近似形で開口。脚部前面にクレハ状の調整痕が現る。	胎土：今や粗。砂礫を含む。 焼成：良好。 色調：灰色。	クロマ密板。 脚部下口以下火鉢。 自然釉飾。 流跡Ⅱ。
25	直縫盆	C-1 1.7 SE-2	口 径 17.7 高 7	口縫部は外反して上方に開く。口縁部は上につまみだされる。	脚部外側ハケナ子。	胎土：細密。 焼成：良好。 色調：明褐色。	クロマ密板。 脚部下口以下火鉢。 計上より川幅。
26	土師杯	D-1 1.4 NE-2	口 径 15.1 高 6.5	底部は丸底を呈し、体部と口縫部の境に斜を立てる。口縫部はほぼ直立する。	底面外周部内縫ナナ子。	胎土：白。 焼成：良好。 色調：白色。	底部の大底板をナナ子としている。 口縫部下口火鉢。 流跡Ⅱ。
27	土師杯	D-1 1.1 SE-2	口 径 (12.6) 高 (5.1)	底部は丸底を呈し、体部と口縫部の境に斜を立てる。口縫部は直立せず、斜度が大きい。	底面外周部内縫形の後脚持らへラケヅリ。内縫部は口縫部より脚持氣味にはね付せず。	胎土：今や粗。砂礫を含む。 焼成：良好。 色調：明褐色。	底部の大底板をへラケヅリしている。 1/2底存。 流跡Ⅱ。
28	土師杯	D-1 1.4 NE-2	口 径 13.4 高 5.0	底部は丸底を呈し、体部と口縫部の境に斜を立てる。口縫部はほぼ直立する。	底面外周部内縫持らへラケヅリの後脚持ナナ子。	胎土：白。 焼成：良好。 色調：浅褐色。	直側足水瓶風をナナ子としている。 口縫部下口火鉢。 流跡Ⅱ。
29	土師杯	D-1 1.4 SE-2	口 径 (12.3) 高 (5.0)	底部は丸底を呈し、体部と口縫部の境に斜を立てる。口縫部は外反脚持で直立する。	底面外周部内縫形。口縫部内外両側ナナ子。	胎土：今や粗。砂礫を含む。 焼成：良好。 色調：白色。	直側足水瓶風あり。 口縫部下口火鉢。 流跡Ⅱ。
30	土師杯	E-1 1.5 NW-1	口 径 12.1 高 5.3	底部は丸底を呈し、体部と口縫部の境に斜を立てる。口縫部は僅かに内反する。	底面外周部内縫形。口縫部内外両側ナナ子。	胎土：今や粗。砂礫を含む。 焼成：良好。 色調：赤褐色。	直側足水瓶風。 口縫部下口火鉢。 流跡Ⅱ。
31	土師杯	D-1 1.5 NE-1	口 径 10.8 高 5.2	底部は丸底を呈し、体部と口縫部の境に斜を立てる。口縫部は僅かに外反して立つ。	底面外周部内縫形。口縫部内外両側ナナ子。	胎土：白。 焼成：良好。 色調：暗褐色。	直側足水瓶風。
32	土師杯	D-1 1.4 SE-2	口 径 10.3 高 5.1	底部は一部平底風を呈し、体部と口縫部の境に斜を立てる。口縫部は弱く外反して立つ。	同 上	胎土：白。 焼成：良好。 色調：淡褐色。	直側足水瓶風。 1/2底存。 流跡Ⅱ。
33	土師杯	D-1 1.4 SE-1	口 径 9.6 高 4.8	底部は丸底を呈し、体部と口縫部の境に斜を立てる。口縫部は弱く外反して立つ。	底面外周部内縫持らへラケヅリの後脚持ナナ子。	胎土：白。砂礫を多く含む。 焼成：良好。 色調：淡褐色。	直側足水瓶風。 脚持による。
34	土師杯	D-1 1.4 SE-2	口 径 11.0 高 5.7	底部は丸底を呈し、体部と口縫部の境に斜を立てる。口縫部は弱く外反して立つ。	底面外周部内縫形。口縫部内外両側ナナ子。	胎土：白。砂礫を多く含む。 焼成：良好。 色調：白色。	直側足水瓶風。 脚持による。
35	土師杯	D-1 1.4 SE-2	口 径 10.9 高 5.2	底部は丸底を呈し、体部と口縫部の境に斜を立てる。口縫部は弱く外反して立つ。	同 上	胎土：白。砂礫を含む。 焼成：良好。 色調：赤褐色。	直側足水瓶風。 充気。
36	土師杯	D-1 1.4 SE-2	口 径 11.5 高 4.8	底部は丸底を呈し、体部と口縫部の境に斜を立てる。口縫部は僅かに外反して立つ。	同 上	胎土：白。細砂を含む。 焼成：良好。 色調：暗褐色。	直側足水瓶風。 脚持による。
37	土師杯	D-1 1.2 NE-1	口 径 12.2 高 (4.7)	底部は平底風を呈し、体部と口縫部の境に斜を立てる。口縫部は弱く、弱く外反して立つ。	底面外周部内縫形。口縫部内外両側ナナ子。	胎土：今や粗。砂礫を含む。 焼成：良好。 色調：暗褐色。	直側足水瓶風。 脚持による。
38	土師杯	D-1 1.4 SE-2	口 径 10.9 高 4.3	底部は平底風を呈し、体部と口縫部の境に斜を立てる。口縫部は弱く、弱く外反して立つ。	底面外周部内縫形。口縫部内外両側ナナ子。	胎土：今や粗。砂礫を含む。 焼成：良好。 色調：暗褐色。	直側足水瓶風。 充気。
39	土師杯	D-1 1.4 SE-1	口 径 10.5 高 4.4	底部は平底風を呈し、体部と口縫部の境に斜を立てる。口縫部は弱く、弱く外反して立つ。	底面外周部内縫形。口縫部内外両側ナナ子。	胎土：今や粗。砂礫を含む。 焼成：良好。 色調：暗褐色。	直側足水瓶風。
40	土師杯	D-1 1.4 SE-2	口 径 10.3 高 4.6	底部は平底風を呈し、体部と口縫部の境に斜を立てる。口縫部は直筒的にやや傾いて立つ。	底面外周部内縫形。口縫部ナナ子。	胎土：白。砂礫を多く含む。 焼成：良好。 色調：赤褐色。	直側足水瓶風。 充気。

第5表 土器観察表(3)

器名	器種	グリット	計測値(cm)	形 型 の 特 徴	技 法 の 特 徴	胎 土・焼成・色調	備 考
41	土 鋸 磨	E-1 0 9 NE-1	口 径 12.0 器 高 5.0	底面は平底状を呈し、体部と口縁部の端には内凹の様を持つ。口縁部は強く膨張してやや外に開く。	底体部外周縁部整形、口縁部内外面擴大子。底部は側面による丁寧なナデ。	胎土：粗。燒成：良。色調：淡褐色。	底部堅似木漆瓶。1/1強少。流れⅠ
42	土 鋸 磨	D-1 1 4 NE-2	口 径 13.0 器 高 5.0	底面はやや底盤に近く、体部と口縁部の端には内凹の様を持つ。口縁部は強く外反して外上方に開く。	同 上	胎土：粗。燒成：良。色調：内側一色系、外側二重色。	底部堅似木漆瓶。1/2強少。流れⅠ
43	土 鋸 磨	D-1 1 4 SE-1	口 径 12.0 器 高 5.0	底面は丸底を呈し、体部と口縁部の端には内凹の様を持つ。口縁部は強く外反して外上方に開く。	底体部外周縁部整形、口縁部内外面擴大子。底部内部内面には板状状のナデが見られる。	胎土：粗。砂礫多く含む。燒成：やや不良。色調：淡褐色。	底部堅似木漆瓶。口縁部3/3欠損。流れⅡ
44	土 鋸 磨	E-1 1 5 NW-1	口 径 12.2 器 高 4.5	底面はやや底盤に近く、体部と口縁部の端には内凹の様を持つ。口縁部は外反して外上方に開く。	底体部外周縁部整形、口縁部内外面擴大子。底部は側面による丁寧なナデ。	胎土：粗。砂礫多く含む。燒成：良。色調：淡明黄色。	底部堅似木漆瓶。口縁部3/3欠損。流れⅡ
45	土 鋸 磨	D-1 1 4 NE-2	口 径 11.3 器 高 4.8	底面は丸底を呈し、体部と口縁部の端には内凹の様を持つ。口縁部は強く外反して外上方に開く。	同 上	胎土：やや粗。砂礫粒を含む。燒成：不良。色調：暗褐色。	底部堅似木漆瓶。口縁部5/5欠損。流れⅡ
46	土 鋸 磨	D-1 1 3 NE-1	口 径 11.0 器 高 4.9	底面は丸底を呈し、体部と口縁部の端には内凹の様を持つ。口縁部は強く外反して外上方に開く。	底体部外周縁部整形、口縁部内外面擴大子。底部内部内面には指捺による板状状のナデが見られる。	胎土：粗。砂礫多く含む。燒成：やや不良。色調：淡褐色。	底部堅似木漆瓶。口縁部5/4欠損。流れⅠ
47	土 鋸 磨	D-1 1 5 NE-2	口 径 10.7 器 高 5.1	底面は平底に近く、体部と口縁部の端には内凹の様を持つ。口縁部は強く外反して外上方に開く。	底体部外周縁部整形、口縁部内外面擴大子。底部内部内面には指捺による板状状のナデが見られる。	胎土：粗。砂礫多く含む。燒成：不良。色調：淡褐色。	底部堅似木漆瓶。口縁部一部欠損。流れⅡ
48	土 鋸 磨	D-1 1 4 SE-1	口 径 9.6 器 高 4.3	底面は丸底を呈し、体部と口縁部の端には内凹の様を持つ。口縁部は外反して外上方に開く。	底体部外周縁部整形、口縁部内外面擴大子。底部内部内面には指捺による板状状のナデが見られる。	胎土：やや粗。燒成：やや不良。色調：淡褐色。	底部堅似木漆瓶。口縁部一部欠損。流れⅠ
49	土 鋸 磨	D-1 1 4 SE-1	口 径 12.1 器 高 4.7	底面は丸底を呈し、体部と口縁部の端には内凹の様を持つ。口縁部は強く外反して外上方に開く。	底体部外周縁部整形、口縁部内外面擴大子。底部内部内面には指捺による板状状のナデが見られる。	胎土：粗。砂礫多く含む。燒成：やや不良。色調：淡褐色。	底部堅似木漆瓶。1/1強少。流れⅡ
50	土 鋸 磨	D-1 1 4 SE-1	口 径 11.4 器 高 5.2	底面は丸底を呈し、体部と口縁部の端には内凹の様を持つ。口縁部は強く外反して外上方に開く。	底体部外周縁部整形、口縁部内外面擴大子。底部内部内面には指捺による板状状のナデが見られる。	胎土：粗。砂礫多く含む。燒成：やや不良。色調：淡褐色。	底部堅似木漆瓶。口縁部5/5欠損。流れⅡ
51	上 鋸 磨	D-1 1 4 SE-2	口 径 11.1 器 高 5.0	底面は平底状を呈し、体部と口縁部の端には内凹の様を持つ。口縁部は強く外反してやや外方に開く。	底体部外周縁部整形、口縁部内外面擴大子。底部内部内面には指捺による丁寧なナデ。	胎土：粗。砂礫多く含む。燒成：やや不良。色調：淡褐色。	底部堅似木漆瓶。口縁部5/5欠損。流れⅡ
52	土 鋸 磨	D-1 1 5 NE-2	口 径 11.6 器 高 4.8	底面はやや底盤に近く、体部と口縁部の端には内凹の様を持つ。口縁部は強く外反して外上方に開く。	同 上	胎土：やや粗。燒成：不良。色調：淡褐色。	底部堅似木漆瓶。口縁部5/4欠損。流れⅡ
53	土 鋸 磨	E-1 1 4	口 径 10.0 器 高 4.3	底面は丸底を呈し、体部と口縁部の端には内凹の様を持つ。口縁部は外反して外上方に開く。	同 上	胎土：粗。燒成：含む。燒成：やや不良。色調：淡褐色。	底部堅似木漆瓶。口縁部5/5欠損。流れⅡ
54	土 鋸 磨	E-1 0 9 NE-1	口 径 12.1 器 高 4.6	底面は丸底を呈し、体部と口縁部の端には内凹の様を持つ。口縁部は外反して外上方に開く。	同 上	胎土：粗。砂礫含む。燒成：良。色調：褐色。	底部堅似木漆瓶。口縁部5/4欠損。流れⅡ
55	七 鋸 磨	E-1 1 4 NE-1	口 径 12.2 器 高 4.6	底面は丸底を呈し、体部と口縁部の端には内凹の様を持つ。口縁部は外反して外上方に開く。	同 上	胎土：粗。砂礫含む。燒成：良。色調：淡褐色。	底部堅似木漆瓶。口縁部5/3欠損。流れⅡ
56	土 鋸 磨	D-1 1 4 NE-1	口 径 10.8 器 高 3.9	底面は丸底を呈し、中央部がやや深く、体部と口縁部の端には内凹の様を持つ。口縁部は外反して立つ。	同 上	胎土：粗。砂礫多く含む。燒成：やや不良。色調：淡褐色。	底部堅似木漆瓶。口縁部5/3欠損。流れⅡ
57	上 鋸 磨	D-1 1 4 SE-2	口 径 10.9 器 高 4.7	底面は丸底を呈し、体部と口縁部の端には内凹の様を持つ。口縁部は外反してやや開く。	同 上	胎土：粗。砂礫多く含む。燒成：良。色調：淡褐色。	木製瓶がナデ塗されている。元野。流れⅡ
58	上 鋸 磨	D-1 1 1 SE-2	口 径 10.6 器 高 5.0	底面は丸底を呈し、体部と口縁部の端には内凹の様を持つ。口縁部は外反してやや開く。	同 上	胎土：粗。砂礫多く含む。燒成：やや不良。色調：淡褐色。	底部堅似木漆瓶。元野。流れⅡ
59	上 鋸 磨	D-1 1 4 NW-2	口 径 11.0 器 高 5.0	底面は丸底を呈し、体部と口縁部の端には内凹の様を持つ。口縁部は強く外反して立つ。	同 上	胎土：粗。砂礫多く含む。燒成：良。色調：淡褐色。	底部堅似木漆瓶。1/1強少。流れⅡ
60	上 鋸 磨	E-1 1 4 NW-2	口 径 10.2 器 高 4.8	底面は丸底を呈し、体部と口縁部の端には内凹の様を持つ。口縁部は強く外反して立つ。	同 上	胎土：粗。砂礫多く含む。燒成：良。色調：淡褐色。	底部堅似木漆瓶。1/1強少。流れⅡ

第6表 土器觀察表(4)

番号	器種	グリット	計測値(cm)	形 勢 の 特 徴	技 法 の 特 徴	地土・施皮・色調	備 考
61	土 磁 环	D-113	口 径 10.2 厚 高 4.9	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境には幅広い腰を持つ。口縁部は僅く外反して立つ。やや傾いた形。	直体部外周指腹整型。口縁部内外面擦ナフ。他に表面によると丁寧なナフ。	粘土：山、砂粒を多く含む。 焼成：やや不良。 色調：青褐色。	直部疑似木彫風少し残る。 口縁部、全体1/4欠損。 流跡。
62	土 磁 环	E-109 NW-1	口 径 10.6 厚 高 4.9	底部は平底に近く、体部と口縁部の境に弱い腰を持つ。口縁部は僅かに外反して立つ。	円 上	粘土：泥、砂粒を含む。 焼成：やや不良。 色調：白褐色。	直部疑似木彫風。 口縁部/5欠損。 流跡。
63	土 磁 环	E-109 KW-1	口 径 11.8 厚 高 4.1	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境に弱い腰を持つ。口縁部は僅かに外反して立つ。	円 上	粘土：泥、砂粒を含む。 焼成：やや小良。 色調：灰褐色。	直部疑似木彫風。 口縁部/5欠損。 流跡。
64	土 磁 环	D-115 SE-2	口 径 12.2 厚 高 4.9	底部はやや平底状に近く、体部と口縁部の境に弱い腰を持つ。口縁部は僅かに外反して立つ。	直体部外周指腹整型。口縁部内外面擦ナフ。他に表面によると丁寧なナフ。	粘土：泥、砂粒を多く含む。 焼成：不良。 色調：浅褐色。	直部疑似木彫風。 口縁部一部欠損。 流跡。
65	土 磁 环	D-111 NW-1	口 径 12.5 厚 高 5.0	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境に弱い腰を持つ。口縁部は僅かに外反して立つ。	直体部外周指腹整型。口縁部内外面擦ナフ。他に表面によると丁寧なナフ。	粘土：泥、 焼成：やや不良。 色調：灰褐色。	直部疑似木彫風。 口縁部/5欠損。 流跡。
66	土 磁 环	D-114 SE-2	口 径 13.6 厚 高 4.6	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境に弱い腰を持つ。口縁部は僅かに外反して立つ。	直体部外周指腹整型。口縁部内外面擦ナフ。他に表面によると丁寧なナフ。	粘土：泥、砂粒を含む。 焼成：良。 色調：浅褐色。	直部疑似木彫風。 口縁部/5欠損。 流跡。
67	土 磁 环	D-114 SE-1	口 径 12.7 厚 高 4.8	底部は平底に近く、体部と口縁部の境に弱い腰を持つ。口縁部は僅かに外反して立つ。	直体部外周指腹整型。口縁部内外面擦ナフ。他に表面によると丁寧なナフ。	粘土：やや粗、砂粒を含む。 焼成：良。 色調：淡褐色。	直部疑似木彫風。 口縁部/5欠損。 流跡。
68	土 磁 环	D-114 NE-2	口 径 13.7 厚 高 4.8	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境に弱い腰を持つ。口縁部は僅かに外反して立つ。	直体部外周指腹整型。口縁部内外面擦ナフ。他に表面によると丁寧なナフ。	粘土：泥、 焼成：やや不良。 色調：褐色。	直部疑似木彫風。 口縁部/5欠損。 流跡 I
69	土 磁 环	D-114 SE-1	口 径 (14.1) 厚 高 (5.0)	底部は平底状に近く、体部から口縁部に内側へ立ち上がり、外方に立ち上がる。やや大型の形態。	直体部外周指腹整型。口縁部内外面擦ナフ。他に表面によると丁寧なナフ。	粘土：やや粗、砂粒を含む。 焼成：良。 色調：褐色。	直部疑似木彫風。 口縁部/5欠損。 流跡 II
70	土 磁 环	D-114 SE-1	口 径 12.7 厚 高 5.0	底部は平底状に近く、体部から口縁部に内側へ立ち上がり、外方に立ち上がる。やや内側へ向む。	直体部外周指腹整型。口縁部内外面擦ナフ。他に表面によると丁寧なナフ。	粘土：やや粗、砂粒を含む。 焼成：良。 色調：褐色。	直部疑似木彫風。 口縁部一部欠損。 流跡 I
71	土 磁 环	D-114 SE-2	口 径 ? 厚 高 ?	底部は丸底を呈し、体部は外方に開き、口縁部は内側へ向むて立つ。かなり歪んでいる。	直体部外周指腹整型。口縁部内外面擦ナフ。他に表面によると丁寧なナフ。	粘土：泥、 焼成：良。 色調：褐色。	直部疑似木彫風。 2/3残存。 流跡 I
72	土 磁 环	D-114 SE-1	口 径 12.8 厚 高 3.7	底部は丸底を呈し、体部から口縁部は内側へ向むて外方に開く。口縁部から側面にかけて歪が厚くなる。	直体部外周指腹整型。口縁部内外面擦ナフ。他に表面によると丁寧なナフ。	粘土：やや粗、砂粒を含む。 焼成：良。 色調：褐色。	直部疑似木彫風。 口縁部/5欠損。 流跡 I
73	土 磁 环	D-114 SE-1	口 径 10.6 厚 高 4.2	底部は平底に近く、体部から口縁部は内側へ向むて外方に開く。体部の基部は歪が厚くなる。	直体部外周指腹整型。口縁部内外面擦ナフ。他に表面によると丁寧なナフ。	粘土：やや粗、砂粒を多く含む。 焼成：良。 色調：褐色。	直部疑似木彫風。 1/3欠損。 流跡 I
74	土 磁 环	C-114 NE-2	口 径 12.0 厚 高 3.7	底部は平底を呈し、体部から口縁部は内側へ向むて外方に開く。	直体部外周指腹整型。口縁部内外面擦ナフ。	粘土：やや粗、砂粒を含む。 焼成：良。 色調：褐色。	直部疑似木彫風。 1/2欠损。 流跡 I
75	土 磁 环	D-114 SE-1	口 径 11.8 厚 高 5.1	底部は平底を呈し、体部から口縁部は内側へ向むて外方に開く。やや深い歪。	直体部外周指腹整型。口縁部内外面擦ナフ。内面は指腹による丁寧なナフ。	粘土：泥、砂粒を多く含む。 焼成：やや不良。 色調：淡褐色。	直部疑似木彫風。 口縁部/3欠损。 流跡 I
76	土 磁 环	D-114 SE-2	口 径 (10.0) 厚 高 5.2	底部は丸底で、全体として半球形を呈する。口縁部は僅かに外反して立つ。小形の浅い形態。	直体部外周指腹整型。口縁部内外面擦ナフ。他に表面によると丁寧なナフ。	粘土：泥、砂粒を多く含む。 焼成：良。 色調：淡褐色。	直部疑似木彫風。 1/2欠损。 流跡 I
77	土 磁 环	E-109 NE-2	口 径 14.1 厚 高 7.5	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境に弱い腰を持つ。口縁部は[S]字状に内側へ向むいて立つ。大型の深い形態。	直体部外周指腹整型。-部へラケズリ。口縁部内外面擦ナフ。他に表面によると丁寧なナフ。	粘土：泥、砂粒を含む。 焼成：良。 色調：褐色。	直部疑似木彫風。 2/3残存。 流跡 I
78	土 磁 环	D-114 SE-2	口 径 11.8 厚 高 7.8	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境に弱い腰を持つ。口縁部は[S]字状に内側へ向むいて立つ。大型の深い形態。	直体部外周指腹整型。-部へラケズリ。口縁部内外面擦ナフ。他に表面によると丁寧なナフ。	粘土：泥、砂粒を多く含む。 焼成：不良。 色調：淡褐色。	直部疑似木彫風。 口縁部/2欠损。 流跡 I
79	土 磁 环	D-114 NE-2	口 径 11.8 厚 高 8.2	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境に弱い腰を持つ。口縁部は[S]字状に内側へ向むいて立つ。大型の深い形態。	直体部外周指腹整型。-部へラケズリ。口縁部内外面擦ナフ。他に表面によると丁寧なナフ。	粘土：泥、砂粒を多く含む。 焼成：良。 色調：淡褐色。	直部疑似木彫風。 口縁部/2欠损。 流跡 I
80	土 磁 环	C-114 NE-2	口 径 12.7 厚 高 9.1	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境に弱い腰を持つ。口縁部は外反して立つ。大型の深い形態。	直体部外周指腹整型。口縁部内外面擦ナフ。他に表面によると丁寧なナフ。	粘土：泥、砂粒を含む。 焼成：良。 色調：褐色。	直部疑似木彫風。 3/4残存。 流跡 II

第7表 土器観察表(5)

器番号	器種	グリット	計測値(cm)	形態の特徴	技法の特徴	胎土・地衣・色調	備考
81	土 鋸 鋸	E-1 1.5 NW-2	口 径 12.8 基 高 8.3	底部は平底に近く、体部は湾曲しながら立ち上がる。底部と口縁部の間にには横縫合跡がある。口縁部はほぼ直立する。大型で深い鋸形。	底部外周側削痕跡。口縁部内外差接部ナジ。底部は指捺による丁寧なナジ。	胎土：粘，砂礫をやや含む。 地衣：中や不良。 色調：灰褐色。	底部端本面底。 I/3残存。 流路Ⅱ。
82	土 鋸 鋸	E-1 0.9 NW-1	口 径 10.8 基 高 7.3 最大径 11.9	底部は平底に近く、体部から口縁部は大きく内側して立ち上がる。大型で深い鋸形。	底部外周側削痕跡。作部外周側削痕跡の間へのものによるナジ。口縁部ナジ。底部内面には丁寧なナジ。	胎土：粘，砂礫を含む。 地衣：良。 色調：灰褐色。	底部端本面底。 完形。 流路Ⅰ。
83	土 鋸 鋸	D-1 1.4 NE-2	口 径 9.2 基 高 7.3 最大径 11.1	底部は丸底を呈し、両縁は僅かに膨らみ立つ。底部と口縁部の間に横縫合跡がある。口縁部は外反して立つ。	底部及び側面外周側削痕跡。口縁部内外差接部ナジ。側面内面には丁寧なナジ。	胎土：やや粗，砂粒を含む。 地衣：良。 色調：灰褐色。	完成。
84	上 鋸 鋸	D-1 1.4 NE-2	口 径 10.0 基 高 11.5 最大径 11.5	底部はやや平底に近く、脚部は僅かに膨らんで立つ。口縁部は外方に開く。全体に厚手。	底部及び側面外周側削痕跡。後脚部上下の隈の部分で内側である。口縁部内外差接部ナジ。脚部内面は指捺によるナジ。	胎土：やや粗，砂粒を含む。 地衣：良。 色調：灰色。	底部既存本面底。 D-1箱内1次焼。 流路Ⅱ。
85	土 鋸 鋸	E-1 1.5 NW-1	口 径 9.6 基 高 2.4 基 厚 4.8	底部は平底を呈し、両縁から口縁部は僅かに内側して立ち上がる。僅かに台状に形成がかかる。	底部外周側削痕跡。後脚部ナジ。	胎土：やや粗，砂粒を含む。 地衣：良。 色調：灰褐色。	ロクロ左回転。 五形。 流路Ⅲ。
86	土 鋸 鋸	C-1 1.4 NE-2	口 径 11.6 基 高 3.7 基 厚 6.2	底部は平底を呈し、体部から口縁部は直角的に立ち昇る。口縁部が僅かに外反する。	底部外周側削痕跡。後脚部ナジ。	胎土：粘。 地衣：良。 色調：褐色。	ロクロ右回転。 直腹一欠次鋸。 流路Ⅲ。
87	上 鋸 鋸	E-1 1.5 NW-1	口 径 (13.0) 基 高 4.7 基 厚 5.7	底部は平底を呈し、体部から口縁部は直角的に立ち昇る。僅かに外反する。	底部外周側削痕跡。後脚部ナジ。	胎土：細密。 地衣：良。 色調：白灰褐色。	ロクロ左回転。 ロクロ右回転。 一部脚部一欠次鋸。 流路Ⅳ。
88	上 鋸 鋸	E-1 1.6 SE-1	口 径 12.7 基 高 4.4 基 厚 (5.3)	底部は平底を呈し、体部から口縁部は直角的に立ち昇る。僅かに外反し、口縁部が僅かに三輪化する。	底部外周側削痕跡。後脚部ナジ。	胎土：粘，砂粒を含む。 地衣：良。 色調：白色。	ロクロ右回転。 ロクロ右回転。 直腹一欠次鋸。 流路Ⅳ。
89	山 斧 鋸	D-1 1.2 SE-2	口 径 (16.8) 基 高 6.0 基 厚 7.5	底部は平底を呈し、断面三角形の高台を持つ。体部内面は横縫合跡があり、口縁部はやや内側を立てる。	底部外周側削痕跡。後脚部ナジ。	胎土：やや粗，小要を含む。 地衣：良。 色調：灰褐色。	ロクロ右回転。 山脚部ノク少無。 流路Ⅳ。
90	山 斧 鋸	D-1 1.5 NE-2	口 径 11.9 基 高 4.2 基 厚 5.6	底部は平底を呈し、断面三角形の高台を持つ。体部内面は横縫合跡があり、口縁部はやや内側を立てる。	底部外周側削痕跡。後脚部ナジ。	胎土：粘。 地衣：良。 色調：中や不良。	ロクロ右回転。 完形。 流路Ⅳ。
91	夷 磬 鋸	G-1 1.9 SE-2	口 径 (12.0) 基 高 (3.7)	大骨部は丸底となり、口縁部は直立する。天井部と口縁部の間に横縫合跡がある。	大骨部外周側削痕跡。後脚部ナジ。	胎土：粘。 地衣：良。 色調：灰褐色。	ロクロ右回転不規。 I/3残存。 流路Ⅳ。
92	夷 磬 鋸	F-1 1.7 NE-2	口 径 12.9 基 高 4.9	天井部は丸底を持ち、口縁部は内壁排气溝に立つ。天井部と口縁部の間に横縫合跡を持つ。口縁部の内面には沈縫を持った。	大骨部外周側削痕跡。後脚部ナジ。	胎土：粘，砂粒を多く含む。 地衣：中や不良。 色調：灰褐色。	ロクロ右回転。 天井部ノク少無。 流路Ⅳ-Ⅴ。
93	夷 磬 鋸	G-1 1.8 SE-2	口 径 11.5 基 高 4.4	大骨部は丸底を持ち、口縁部は内壁排气溝に立つ。口縁部の内面には沈縫を持つ。	大骨部外周側削痕跡。後脚部ナジ。	胎土：粘。 地衣：良。 色調：灰褐色。	ロクロ右回転不明。 完形。 天井部ノク少無あり。 流路Ⅳ。
94	信 慶 鋸	G-1 1.8 SW-1	口 径 11.6 基 高 4.6	全体的に丸底を持つ。口縁部は外気排气溝に立つ。天井部と口縁部の間に横縫合跡を持つ。基 高 は高め。	天井部外周側削痕跡。後脚部ナジ。	胎土：粘，砂粒をやや含む。 地衣：良。 色調：灰褐色。	ロクロ右回転。 (H2記載)。 流路Ⅳ。
95	信 慶 鋸	F-1 1.7 SE-2	口 径 11.3 基 高 4.4	全体的に丸底を持つ。口縁部は内壁排气溝に立つ。	天井部外周側削痕跡。後脚部ナジ。	胎土：粘，砂粒を含む。 地衣：良。 色調：灰褐色。	ロクロ右回転。 完形。 流路Ⅳ-Ⅴ。
96	信 慶 鋸	F-1 1.7 NE-2	口 径 10.1 基 高 3.7	天井部中央下凹面をなす。口縁部は外気排气溝に立つ。天井部と口縁部の間に横縫合跡を持つ。	天井部外周側削痕跡。後脚部ナジ。	胎土：粘，砂粒を含む。 地衣：良。 色調：灰褐色。	ロクロ右回転。 完形。 流路Ⅳ-Ⅴ。
97	信 慶 鋸	G-1 1.8 SW-2	口 径 9.6 基 高 3.7	全体的に丸底を持つ。口縁部は内壁排气溝に立つ。	天井部外周側削痕跡。後脚部ナジ。	胎土：粘。 地衣：良。 色調：灰褐色。	ロクロ左回転。 山脚部ノク少無。 流路Ⅳ。
98	信 慶 鋸	F-1 1.7 NE-2	口 径 10.0 基 高 3.8	天井部中央は平坦面をなす。口縁部は横縫合跡を持つ。断面底部に浅い凹部を呈する。	天井部外周側削痕跡。後脚部ナジ。	胎土：粘，砂粒を多く含む。 地衣：良。 色調：灰褐色。	ロクロ右回転。 完形。 天井部ノク少無あり。 流路Ⅳ。
99	信 慶 鋸	G-1 1.8 SE-1	口 径 9.6 基 高 3.6	天井部中央は平坦面をなす。口縁部は横縫合跡を持つ。	天井部外周側削痕跡。後脚部ナジ。	胎土：粘，砂粒を含む。 地衣：良。 色調：中や悪い灰色。	ロクロ右回転。 完形。 天井部ノク少無あり。 流路Ⅳ。
100	信 慶 鋸	G-1 1.8 NW-1	口 径 9.8 基 高 3.7	全体に丸底を持つ。口縁部はそのまま内壁排气溝に外下方に開く。	天井部外周側削痕跡。後脚部ナジ。	胎土：粘，砂粒を僅かに含む。 地衣：良。 色調：灰褐色。	ロクロ右回転。 完形。 天井部ノク少無あり。 流路Ⅳ。

第8表 土器観察表(6)

器物名	形	種	アリット	計測値(cm)	形態の特徴	技法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
101 瓢箪形	口 径	G-1 1 8	口 径	9.6 高さ 3.7	天井部は丸味を持ち、口縁部は外下方にやや曲がる。天井部と口縁部の端には鋸い状をもつ。	天井部外周回転ヘラケズリ、他の回転ナメ調整。	胎土：やや粗、細砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：暗灰色。	ロクロ右回転。 ロ練回転/大切。 流路Ⅰ
102 瓢箪形	口 径	G-1 1 8 SE-1	口 径	9.5 高さ 3.6	天井部は丸味を持ち、口縁部は内厚肉壁に立つ。天井部と口縁部の端には鋸い状をもつ。	天井部外周回転ヘラケズリ、他の回転ナメ調整。	胎土：やや粗、細砂粒を含む。多く含む。 焼成：良好。 色調：暗灰色。	ロクロ右回転。 ロ練回転/大切。 流路Ⅰ
103 瓢箪形	口 径	F-1 1 7 NE-2	口 径	9.2 高さ 3.5	天井部は丸味を持つが、中央部が平坦となる。口縁部は内厚肉壁に立つ。	天井部外周回転ヘラケズリ、他の回転ナメ調整。	胎土：粗、細砂粒を含む。中に含む。 焼成：良好。 色調：暗灰色。	ロクロ右回転。 自然焼成。 外練回転付着。 流路Ⅰ-Ⅱ
104 瓢箪形	口 径	F-1 1 8 SE-1	口 径	9.1 高さ 3.4	天井部は丸味を持つが、中央部が平坦となる。口縁部は内厚肉壁に立つ。	天井部外周回転ヘラケズリ、他の回転ナメ調整。	胎土：粗、細砂粒を含む。 焼成：良。 色調：浅灰色。	ロクロ右回転。 充形。 流路Ⅱ
105 瓢箪形	口 径	F-1 1 7 SE-2	口 径	8.8 高さ 3.6	全体的に丸味を持ち、口縁部は内厚肉壁に立つ。	天井部外周回転ヘラケズリ、他の回転ナメ調整。	胎土：粗、砂粒を含む。 焼成：良。 色調：灰。	ロクロ右回転。 3/4回転。 流路Ⅱ-Ⅲ
106 瓢箪形	口 径	F-1 1 7 NE-2	口 径	7.9 高さ 2.8 最大径 10.0	天井部は穂かな丸味を持ち、中央部は斜面裏方底のつまみを持つ。内側には内下方に及びる縦の舟型をもつ。	天井部外周回転ヘラケズリ、他の回転ナメ調整。	胎土：やや粗、細砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：暗灰色。	ロクロ右回転。 既定完成。 流路Ⅱ-Ⅲ
107 瓢箪形	口 径	F-1 1 7	口 径	10.1 高さ 2.9 最大径 10.1	天井部は穂かな丸味を持ち、中央部は斜面裏方底のつまみを持つ。内側には内下方に及びる縦の舟型をもつ。	天井部外周回転ヘラケズリ、他の回転ナメ調整。	胎土：やや粗、細砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：暗灰色。	ロクロ右回転。 既定完成。 流路Ⅱ-Ⅲ
108 瓢箪形	口 径	F-1 1 7	口 径	10.0 高さ 2.8 最大径 12.3	天井部が少し削除なし。中央部に厚い斜面裏方底のつまみを持つ。内側には内下方に及びる縦の舟型をもつ。	天井部外周回転ヘラケズリ、他の回転ナメ調整。	胎土：粗、細砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：暗灰色。	ロクロ右回転。 1/4既存。 流路Ⅱ-Ⅲ
109 瓢箪形	口 径	F-1 1 6 SE-2	口 径	14.7 高さ 2.9 最大径 15.0	大舟型は平底形状をなし。中央部に厚い斜面裏方底のつまみを持つ。口縁部先端は削り下げる傾向がある。	天井部外周回転ヘラケズリ、他の回転ナメ調整。	胎土：粗、細砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：灰。	ロクロ右回転。 1/3大切。 流路Ⅱ
110 瓢箪形	口 径	F-1 1 7 NE-2	口 径	(13.8) 高さ 2.7 最大径 (14.6)	天井部中央は平底形状をなし。その尖は斜面裏方底に及びる。舟型を中心には斜面裏方底のつまみを持つ。口縁部は斜面裏方底に立つ。	天井部外周回転ヘラケズリ、他の回転ナメ調整。	胎土：粗、 焼成：良好。 色調：暗灰色。	ロクロ右回転不明。 1/4既存。 流路Ⅱ
111 瓢箪形	口 径	F-1 1 7 NE-1	口 径	12.7 高さ 2.8 最大径 14.0	天井部は平底となり、中央部に厚い斜面裏方底のつまみを持つ。口縁部は斜面裏方底に立つ。	天井部外周回転ヘラケズリ、他の回転ナメ調整。	胎土：粗、砂粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：暗灰色。	ロクロ右回転。 1/3大切。 流路Ⅱ
112 瓢箪形	口 径	F-1 1 7 NE-1	口 径	12.5 高さ 2.8 最大径 13.4	天井部は穂かな丸味を持ち、中央部には斜面裏方底のつまみを持つ。口縁部は穂かな丸味に立つ。	天井部外周回転ヘラケズリ、他の回転ナメ調整。	胎土：粗。 焼成：良好。 色調：暗灰色。	ロクロ左回転。 既定完成。 流路Ⅱ
113 瓢箪形	口 径	G-1 1 8 SE-1	口 径	(12.8) 高さ 2.8 最大径 (13.9)	底面部は丸味を持つ。底部は斜板(横)に立つ。上部は斜板(横)に立つ。舟型を中心には斜面裏方底に立つ。全体的にやや握平なる谷。	底面部外周回転ヘラケズリ、他の回転ナメ調整。	胎土：穂。 焼成：良好。 色調：暗灰色。	ロクロ右回転。 2/5既存。 外練自然落物用。 道筋Ⅱ
114 瓢箪形	口 径	G-1 1 7 SE-1	口 径	(12.5) 高さ 2.8 最大径 14.4	底面部は丸味を持つ。底部は斜板(横)に立つ。上部は斜板(横)に立つ。舟型を中心には斜面裏方底に立つ。立ち上がりは直角斜面裏方底に立つ。	底面部外周回転ヘラケズリ、中央部にヘラ切り底を残す。他の回転ナメ調整。	胎土：穂。 焼成：良好。 色調：暗灰色。	ロクロ右回転。 立ち上がり直角斜面裏方底。 流路Ⅱ-Ⅲ
115 瓢箪形	口 径	G-1 1 8 SW-1	口 径	9.6 高さ 4.2 最大径 (12.0)	底面部は斜板を削り、体盤は丸味を持たせ。受盤は斜板(横)に立つ。舟型を中心には斜面裏方底に立つ。立ち上がりは直角斜面裏方底に立つ。	底面部外周回転ヘラケズリ、他の回転ナメ調整。	胎土：穂。 焼成：良好。 色調：灰。	ロクロ右回転。 底面部外周ヘラ福き有り。 流路Ⅱ
116 瓢箪形	口 径	G-1 1 8 SW-2	口 径	9.7 高さ 4.2 最大径 12.1	底面部は丸味を持ち、受盤は外上方に立てる。立ち上がりは直角斜面裏方底に立つ。	底面部外周回転ヘラケズリ、他の回転ナメ調整。	胎土：粗、細砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：暗灰色。	ロクロ左回転。 既定完成。 流路Ⅱ
117 瓢箪形	口 径	G-1 1 8 SE-1	口 径	9.5 高さ 3.7 最大径 11.6	底面部は丸味を持ち、受盤は外上方に立てる。立ち上がりは直角斜面裏方底に立つ。	底面部外周回転ヘラケズリ、他の回転ナメ調整。	胎土：粗、細砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：暗灰色。	ロクロ右回転。 既定完成。 底面部外周ヘラ福き有り。 流路Ⅱ
118 瓢箪形	口 径	F-1 1 7 SE-1	口 径	9.0 高さ 3.7 最大径 11.4	底面部は丸味を持ち、受盤は外上方に立てる。立ち上がりは直角斜面裏方底に立つ。	底面部外周回転ヘラケズリ、他の回転ナメ調整。	胎土：穂、細砂粒を含む。 既定完成。 色調：暗灰色。	ロクロ右回転。 既定完成。 流路Ⅱ
119 瓢箪形	口 径	F-1 1 7 NE-2	口 径	9.8 高さ 3.8 最大径 (10.6)	底面部は丸味を持ち、受盤は斜面裏方底に立つ。舟型を中心には斜面裏方底に立つ。	底面部外周回転ヘラケズリ、他の回転ナメ調整。	胎土：密、石英粒、砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：暗灰色。	ロクロ右回転不明。 1/4既存。 外練自然落物用。 既定完成。■
120 瓢箪形	口 径	G-1 1 8 SW-2	口 径	9.0 高さ 3.2 最大径 10.9	底面部は平底状を呈し、舟型は丸味を持たせ。受盤は外上方に立てる。立ち上がりは直角斜面裏方底に立つ。	底面部外周回転ヘラケズリ、他の回転ナメ調整。	胎土：密、石英粒、砂粒を含む。 焼成：良好。	ロクロ右回転。 既定完成。

第9表 土器観察表(7)

番号	器種	グリット	片側量(cm)	形態の特徴	技法の特徴	粘土・焼成・色調	備考
121	直 环 席 身	F-1 1 7 NE-2	口 径 8.5 身 高 3.3 最大径 9.8	底部部は丸味を持ち、受部はそのまま外方に延び、内腹側方に内傾して立つ。	底部外周部には始上を施した痕跡が見られる。他は切削ナテ調整。	粘土：細密。 焼成：真好。 色調：淡青灰色。	ロクロ左回転。 完熟。 流路Ⅱ・Ⅲ。
122	直 环 席 身	G-1 8 8 NW-2	口 径 9.4 身 高 2.8 最大径 11.3	底面は平底状を呈し、側部はやや丸味を持つ。受部は口外方に延び、立ち上がりは極端に内傾して立つ。	底部外周部へラケズリ、他は切削ナテ調整。	粘土：セミ砂粒・右輪轉を含む。 焼成：良好。 色調：灰白色。	ロクロ回転不明。 ほぼ完熟。 流路Ⅲ。
123	直 环 席 身	F-1 1 7 NE-1	口 径 (6.0) 身 高 (2.0) 最大径 (10.2)	底面は平底状を呈し、側部は直線的に立ち上がり、受部は口外方に延び、立ち上がりは極端に内傾して立つ。	底部一部下部外周部にラケズリ、他は切削ナテ調整。	粘土：セミ砂粒を含む。 焼成：真好。 色調：淡青灰色。	ロクロ回転不明。 焼成Ⅰ/2強。
124	直 环 席 身	F-1 1 7 SE-1	口 径 (6.3) 身 高 (2.0) 最大径 (10.4)	底面は平底状を呈し、側部は丸味を持つ。受部は口外方に延び、立ち上がりは極端に内傾して立つ。	底部外周部へラケズリ後ナテ、他は切削ナテ調整。	粘土：やや粗、白色輪轉を含む。 焼成：良好。 色調：灰白色。	ロクロ右回転。 焼成Ⅰ/2強。
125	直 环 席 身	F-1 1 7 NE-2	口 径 9.1 身 高 3.1 最大径 10.9	底面は平底状を呈し、側部はやや丸味を持つ。受部は口外方に延び、立ち上がりは極端に内傾して立つ。全体的に洗い・整。	底部外周部へラケズリ、他は切削ナテ調整。	粘土：セミ砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：灰白色。	ロクロ右回転。 完熟。 流路Ⅱ・Ⅲ。
126	直 环 席 身	F-1 1 7 NE-2	口 径 9.1 身 高 3.1 最大径 (10.4)	底面は丸味を持ち、受部は口外方に延び、立ち上がりは極端に内傾して立つ。全体的に洗い・整。	底部外周部へラケズリ、他は切削ナテ調整。	粘土：セミ砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：灰白色。	ロクロ右回転。 I/2強。
127	直 环 席 身	F-1 1 7 NE-2	口 径 8.1 身 高 2.7 最大径 10.4	底面部は味を持ち、受部はやや丸味に延びる。受部は口外方に延び、立ち上がりは極端に内傾して立つ。全体的に洗い・整。	底部外周部へラケズリ、他は切削ナテ調整。	粘土：セミ砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：灰白色。	ロクロ右回転。 完熟。 流路Ⅱ・Ⅲ。
128	直 环 席 身	F-1 1 7 NE-2	口 径 7.6 身 高 2.0 最大径 9.7	底面は平底状を呈し、側部は丸味を持つ。受部は口外方に延びる。立ち上がりは極端に内傾して立つ。	底部外周部へラケズリ、他は切削ナテ調整。	粘土：切削痕を含む。 焼成：やや不良。 色調：灰白色。	ロクロ右回転。 完熟。 流路Ⅱ・Ⅲ。
129	直 环 席 身	G-1 1 5 NW-1	口 径 (12.0) 身 高 6.5 高台径 9.5	底面は丸味を呈し、側部は丸味がなくつく。側部が丸味から僅かに立ち上る。受部は直線的に口外方に延びる。	底部外周部へラケズリ、他は切削ナテ調整。高台部は削り付け。	粘土：セミ砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：淡青灰色。	ロクロ右回転。 焼成Ⅰ/2強。
130	直 环 席 身	F-1 1 7 NE-2	口 径 (12.0) 身 高 (6.0) 高台径 (9.3)	底面は平底状を呈し、中央の内腹に大きいくぼみ、側部が丸味から僅かに立ち上る。受部は直線的に口外方に延びる。	底部中央に切削痕を呈する。側部外周部へラケズリ、他は切削ナテ調整。高台部は削り付け。	粘土：セミ砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：淡青灰色。	ロクロ右回転。 I/2強。
131	直 环 席 身	F-1 1 7 NE-2	口 径 (12.0) 身 高 4.8 高台径 9.8	底面は平底状を呈し、中央部が若干膨らむ。側部外周部の高台部を持つ。側部が丸味から僅かに立ち上る。受部は直線的に口外方に延びる。	底部外周部へラケズリ、中央部に矢印切りの痕跡がある。他は切削ナテ調整。	粘土：セミ砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：淡青灰色。	ロクロ回転不明。 I/2強。
132	直 环 席 身	F-1 1 7 NE-1	口 径 (17.0) 身 高 4.6 最大径 12.0	底面は平底状を呈し、側部はやや内腹側輪轉等に外方に立ち上がる。側部が丸味から僅かに立ち上る。受部は直線的に口外方に延びる。	底部外周部へラケズリ。他は切削ナテ調整。	粘土：セミ砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：灰白色。	ロクロ右回転。 I/2強。
133	直 环 席 身	F-1 1 7 NE-2	口 径 (11.8) 身 高 4.9 最大径 (7.6)	底面は平底状を呈し、側部は直線的に外方に立ち上がる。	底部外周部へラケズリ。他は切削ナテ調整。	粘土：セミ砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：灰白色。	ロクロ右回転不明。 I/4強。
134	直 环 席	F-1 1 7 NE-2	口 径 8.0 身 高 10.5	大半部は丸味を持ち、中央に丸頭状の突起がある。側部が丸味から僅かに立ち上る。受部は丸味から僅かに立ち上る。	天井部外周部へラケズリ、つまみはナテ削付。他は切削ナテ調整。	粘土：セミ砂粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：灰白色。	ロクロ右回転。 完熟。
135	直 环 席	F-1 1 7 NE-2	口 径 8.0 身 高 10.0 最大径 10.0	大半部は丸味を持ち、中央に丸頭状の突起がある。側部が丸味から僅かに立ち上る。受部は丸味から僅かに立ち上る。	天井部外周部へラケズリ、つまみはナテ削付。他は切削ナテ調整。	粘土：セミ砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：灰白色。	ロクロ右回転。 完熟。
136	直 环 席	F-1 1 7 NE-1	口 径 9.1 身 高 2.9 最大径 10.0	大半部は丸味を持ち、中央に丸頭状の突起がある。側部が丸味から僅かに立ち上る。受部は丸味から僅かに立ち上る。	天井部外周部へラケズリ、他は切削ナテ調整。	粘土：やや粗、砂粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：灰白色。	ロクロ右回転。 完熟。
137	直 环 席 添付 黄頭垂?	G-1 1 8 SW-1	脚部径 10.8 脚部高 10.2	脚部はやや水平な縦縫を呈する。中央部分に2本の沈縫を持つ。	残存部分全体に切削ナテ調整。2本の沈縫の間に工具による削欠文が施される。	粘土：細密。 焼成：良好。 色調：暗灰色。	ロクロ回転不明。 I/3強。
138	直 环 席?	F-1 1 7 NE-2	脚部径 10.7 脚部高 8.0	脚部はカッパー状に開き、脚部は直角三形を呈する。	脚部全体は切削ナテ調整。	粘土：セミ砂粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：灰白色。	ロクロ右回転。 脚部残存。 流路Ⅱ。
139	直 环 席?	G-1 1 8 SW-2	脚部径 6.3	脚部は大きくV字状に開き、脚部は直角三形を呈する。	脚部全体は切削ナテ調整。	粘土：セミ砂粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：灰白色。	ロクロ左回転。 脚部残存。 流路Ⅱ。
140	直 环 席	G-1 1 8	脚部最大径 (10.0)	底面は丸味を呈し、当部は断面方形に近い形状を呈する。側部は丸味が強く現れる。底部近くに注口が付けられやすめである。	底部外周部へラケズリ。他は切削ナテ調整。底部内面には削る際の削欠文が施される。底部対部は手押捺へラケズリがなされる。	粘土：細密。 焼成：良好。 色調：灰白色。	ロクロ左回転。 脚部残存。 流路Ⅱ。

第10表 土器観察表(8)

調査号	器種	グリット	計測値(cm)	形態の特徴	技法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
141	須恵器 縦縫目蓋	F-1 1.8 SE-2	口 径 (7.9)	腹部は堅らみを持ち、口縁部はやや外反気味に開く。	全体に面板ナナ子調整。	胎土：白。 焼成：良好。 色調：淡緑色。	ロクロ同軸不明。 口縫目-側面-一部現存。 流跡Ⅱ
142	須 恵 器	G-1 1.8 SW-1	最大径 14.2	底部は丸底を呈し、腹部は中央やや下で強く張る。腹部は外反してのびる。	底部外縫目輪へラケズり、他は同軸ナナ子調整。腹部外縫目輪に指印圧痕が見られる。	胎土：白。織かい筋紋を含む。 焼成：良好。 色調：灰褐色。	ロクロ左回転。 口縫目欠損。 流跡Ⅲ
143	須 恵 器	G-1 1.7 NW-2	口 径 8.0 高 底 20.8 腹部最大径 15.4	腹部はほぼ球形を成す。口縁部は外反し、白線端面は上下に肥点する。	外表面裏側凹輪へラケズり、他は同軸ナナ子調整。	胎土：白。白色の砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：灰褐色。	ロクロ左回転。 口縫目-一部風化。 流跡Ⅱ
144	須 恵 器	F-1 1.7 NP-2	新縫目大底 16.8	腹部はほぼ球形を成す。	外表面裏側凹輪へラケズり、他は同軸ナナ子調整。	胎土：白。砂粒が多く含む。 焼成：良好。 色調：灰褐色。	ロクロ同軸不明。 口縫目欠損。 流跡Ⅰ-Ⅲ
145	須 恵 器	G-1 1.7 NW-1	新縫目大底 14.1	腹部は山字形球形を成す。	外表面裏側凹輪へラケズり、他は同軸ナナ子調整。	胎土：白。白色の砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：灰褐色。	ロクロ同軸不明。 口縫目欠損。 流跡Ⅰ
146	須 恵 器	F-1 1.7 SE-2 NE-2	口 径 16.7 新縫目大底 15.1	腹部は平板を呈し、腹部はやや扁平な形となり、質がやや重い。口縁部は弱く外反する。口縁部は丸く約1mmの厚さがある。	底部外縫目輪へラケズり、他は同軸ナナ子調整。	胎土：白。3mm以下の砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：灰褐色。	ロクロ右回転。 完好。 自然乾燥着付。 流跡Ⅰ-Ⅳ
147	須 恵 器	G-1 1.9 SE-1	口 径 5.7	口縁部は外反して狭く、口縫部は断面三角形を呈する。	口縁部は全体に面板ナナ子調整。	胎土：細粒。 焼成：良好。 色調：淡灰色。	ロクロ左回転。 口縫目のみ残存。 自然乾燥着付。 流跡Ⅱ
148	須 恵 器 長底足?	F-1 1.8 SE-2	口 径 9.5	口縁部は外反して狭く、口縫部は断面三角形を呈する。	口縫部はしづら筋が後、全体的に同軸な形で調整。	胎土：細密。 焼成：良好。 色調：淡青灰褐色。	ロクロ左回転。 口縫目のみ残存。 自然乾燥着付。 流跡Ⅲ
149	須 恵 器 長底足?	F-1 1.7 NE-1	高台径 5.5 新縫目大底 15.7	底部には僅かに高台を呈り出す。腹部は質がやや重い。	底部外縫目輪へラケズり、高台はナナ子により造り出される。他は同軸ナナ子調整。	胎土：細密。 焼成：良好。 色調：淡灰色。	ロクロ右回転不明。 底盤のみ残存。 自然乾燥着付。 流跡Ⅱ
150	須 恵 器	F-1 1.8 SE-2	高台径 8.4	底部には画面台形の高台が付く。	底部外縫目輪へラケズり、高台を貼り付けた。他は同軸ナナ子調整。	胎土：細密。 焼成：良好。 色調：暗灰褐色。	ロクロ左回転。 底部外縫目輪のみ残存。 自然乾燥着付。 流跡Ⅲ
151	須 恵 器	G-1 1.9 SE-1	口 径 (11.1)	口縫部は圓錐的に外方に開き、口縫部は内側に肥厚する。	外表面裏側凹輪へナナ子が見られる。他は同軸ナナ子調整。	胎土：細密。 焼成：良好。 色調：淡青灰褐色。	ロクロ同軸不明。 口縫目/3段ね。 流跡Ⅱ
152	須 恵 器	G-1 1.9 SW-1	口 径 (22.1)	口縫部は弱く外反して開く。口縫部は外に張り返される。	底部外縫目輪の切れ目、内面凹弧状の引き戻し残る。他は同軸ナナ子調整。	胎土：細密。 焼成：良好。 色調：灰褐色。	ロクロ同軸不明。 口縫目/4段ね。 流跡Ⅲ
153	須 恵 器	G-1 1.9 SW-1	口 径 (13.3)	口縫部は弱く外反して開く。口縫部は上方向に肥厚する。	全体に面板ナナ子調整。	胎土：細密。砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：淡灰色。	ロクロ右回転。 自然乾燥着付。 流跡Ⅱ
154	須 恵 器 大	F-1 1.7 F-1 1.8	口 径 (34.2)	口縫部は側く外反して開く。口縫部は下方向に張り返される。腰部中位に2~3条の横筋状紋を有する。	全体に面板ナナ子調整。腰部下部の内面に横筋状紋が残る。	胎土：細密。 焼成：良好。 色調：淡灰色。	ロクロ同軸不明。 口縫目/4段ね。 自然乾燥着付。 流跡Ⅲ-Ⅳ
155	須 恵 器 大	G-1 1.8	口 径 30.7 新縫目大底 (35.9)	底部は丸底を呈するが、側面は削ぎ取られ、腰部は側く外反して開く。口縫部は下方向にやや肥厚する。腰部中位に2~3条の横筋状紋を有する。	側面削ぎ取れ、腰部側面に横筋状紋を有する。腰部側面は下方向にやや肥厚する。	胎土：細密。 焼成：良好。 色調：淡灰色。	ロクロ同軸不明。 口縫目/4段ね。 自然乾燥着付。
156	灰陶陶器 高台付地	F-1 1.9 SE-1	口 径 13.7 高 底 5.4 高台径 6.5	下方やや外に丸く伸びて腰部を持つ。口縫部は外反する。腰部は丸く内側に張り付く。	腰部削ぎ取れ。他は同軸ナナ子調整。腰部側面は下方向にやや肥厚する。腰部中位に2~3条の横筋状紋を有する。	胎土：細密。 焼成：良好。 色調：淡灰色。	ロクロ右回転。 口縫目/3段ね。 流跡Ⅲ
157	山 東 器	G-1 1.9 SE-2	高台径 7.6	新縫目三角形の高台を持つ。	底部凹輪各切り。高台貼り付け。他は同軸ナナ子調整。	胎土：白。織かい筋紋を含む。 焼成：良好。 色調：灰褐色。	ロクロ右回転。 底盤のみ残存。 流跡Ⅲ。
158	山 東 器	G-1 1.9 SE-2	高台径 7.4	やや外に張く、新縫目三角形の高台を持つ。	底部凹輪各切り。高台貼り付け。他は同軸ナナ子調整。	胎土：細密。 焼成：良好。 色調：灰褐色。	ロクロ右回転。 底盤のみ残存。 流跡Ⅲ。
159	土 烧 器	G-1 1.8 NW-1	口 径 11.7 高 底 5.7	底部は丸底を呈し、体部と口縫部の境に弱く伸びて腰部を持つ。口縫部は外反時に立ち、口縫部は内側に張り付く。	底部凹輪各切り。腰部内側に内面縫目輪。他は指痕による丁寧なナナ子。	胎土：白。織かい筋紋を含む。 焼成：良好。 色調：淡褐色。	底盤焼入不完全。 口縫目/2段ね。 流跡Ⅱ
160	土 烧 器	G-1 1.8 SW-1	口 径 11.3 高 底 5.1	底部は丸底を呈し、体部と口縫部の境に弱く伸びて腰部を持つ。口縫部は外反時に立ち。	四 上	胎土：今やや砂粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：淡褐色。	底盤焼入不完全。 口縫目/2段ね。 流跡Ⅱ

第11表 土器觀察表（9）

器番号	基 種	グリット	計測値 (cm)	形 異 の 特 質	技 法 の 特 徵	胎 土・焼成・色調	備 考
161	土 鍋 环	G-1 1.9 SE-1	口 径 11.0 都 高 4.8	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境には縫い接を持つ。口縁部は外反気泡に立つ。	底体部外表面微凹形、口縁部内外面微凸形。他は指痕による丁寧なナヂ。	胎土：灰、細かい砂粒を含む。 焼成：良。 色調：明る褐色。	直腹輪伝木葉瓶。 口縁部に火捺目。 流れ Y。
162	土 鍋 环	G-1 1.8 SW-1	口 径 12.1 都 高 5.0	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境には縫い接を持つ。口縁部は外反気泡に立つ。	同 上	胎土：灰、細かい砂粒を含む。 焼成：良。 色調：明る褐色。	直腹輪伝木葉瓶。 完形。 流れ I。
163	土 鍋 环	G-1 1.8 SE-1	口 径 11.0 都 高 4.9	同 上	同 上	胎土：灰や白、細かい砂粒を含む。 焼成：良。 色調：黄褐色。	直腹輪伝木葉瓶。 完形。 流れ I。
164	土 鍋 环	F-1 1.7 SE-1	口 径 10.4 都 高 4.5	同 上	同 上	胎土：灰、繊細な砂粒を含む。 焼成：良。 色調：灰褐色。	直腹輪伝木葉瓶。 完形。 流れ II - III。
165	土 鍋 环	F-1 1.7 NE-2	口 径 9.9 都 高 4.9	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境には縫い接を持つ。口縁部は外反して立つ。	底体部外表面微凹形、底の上部をへラギゼンし、口縁部内外面微凸形。他は指痕によるナヂ、底部内面にヘラによる丁寧なナヂ。	胎土：灰、細かい砂粒を含む。 焼成：良。 色調：灰褐色。	直腹輪伝木葉瓶。 完形。 流れ II - III。
166	土 鍋 环	G-1 1.7 NW-1	口 径 12.4 都 高 5.2	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境には縫い接を持つ。口縁部は外反して開く。	底体部外表面微凹形、口縁部内外面微凸形。他は指痕による丁寧なナヂ。	胎土：灰や白、細かい砂粒を含む。 焼成：やや不良。 色調：淡褐色。	直腹輪伝木葉瓶。 底部一部欠損。 流れ I。
167	土 鍋 环	G-1 1.8 SW-1	口 径 10.9 都 高 5.1	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境には縫い接を持つ。口縁部は外反して立つ。	同 上	胎土：灰、繊細な砂粒を含む。 焼成：良。 色調：淡褐色。	直腹輪伝木葉瓶。 口縁部に火捺目。 流れ I。
168	土 鍋 环	G-1 1.8 SW-1	口 径 12.0 都 高 5.0	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境には縫い接を持つ。口縁部は外反気泡に立つ。	同 上	胎土：灰や白、細かい砂粒を含む。 焼成：良。 色調：淡褐色。	直腹輪伝木葉瓶。 口縁部に火捺目。 流れ I。
169	土 鍋 环	F-1 1.7 NE-1	口 径 11.3 都 高 5.3	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境には縫い接を持つ。口縁部は外反気泡に立つ。	同 上	胎土：灰、細かい砂粒を含む。 焼成：良。 色調：淡褐色。	直腹輪伝木葉瓶。 底部を非常に多く含む。 焼成：良。 色調：淡褐色。
170	土 鍋 环	G-1 1.8 左岸削鉢	口 径 11.4 都 高 4.7	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境には縫い接を持つ。口縁部は外反して開く。	同 上	胎土：灰や白、細かい砂粒を含む。 焼成：良。 色調：淡褐色。	直腹輪伝木葉瓶。 口縁部に火捺目。 流れ I - II。
171	土 鍋 环	F-1 1.7 SE-2	口 径 11.7 都 高 5.1	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境には縫い接を持つ。口縁部は外反気泡に立つ。	底体部外表面微凹形、口縁部内外面微凸形。他は指痕による丁寧なナヂ。	胎土：灰。 焼成：良。 色調：淡褐色。	直腹輪伝木葉瓶。 口縁部一部欠損。 流れ I - II。
172	土 鍋 环	G-1 1.8 NW-2	口 径 12.1 都 高 4.8	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境には縫い接を持つ。口縁部は外反気泡に開く。	同 上	胎土：灰、細かい砂粒を含む。 焼成：良。 色調：淡褐色。	直腹輪伝木葉瓶。 完形。 流れ I。
173	土 鍋 环	G-1 1.8 SW-1	口 径 10.4 都 高 4.6	同 上	底体部外表面微凹形、口縁部内外面微凸形。他は指痕による丁寧なナヂ。	胎土：灰、2 mm以上の砂粒を含む。 焼成：良。 色調：淡褐色。	直腹輪伝木葉瓶。 口縁部に火捺目。 流れ I。
174	土 鍋 环	G-1 1.8 NW-2	口 径 11.5 都 高 4.7	同 上	底体部外表面微凹形、口縁部内外面微凸形。他は指痕による丁寧なナヂ。	胎土：灰、砂粒が多く含む。 焼成：やや不良。 色調：淡褐色。	直腹輪伝木葉瓶。 口縁部に火捺目。 底部一部欠損。 流れ I。
175	土 鍋 环	G-1 1.8 底部切欠	口 径 11.0 都 高 4.4	同 上	同 上	胎土：灰や白、細かい砂粒を含む。 焼成：良。 色調：淡褐色。	直腹輪伝木葉瓶。 口縁部に火捺目。 流れ I - II。
176	土 鍋 环	F-1 1.6 NE-1	口 径 11.2 都 高 4.8	同 上	同 上	胎土：灰。 焼成：良。 色調：淡褐色。	直腹輪伝木葉瓶。 口縁部に火捺目。 流れ II - III。
177	土 鍋 环	G-1 1.8 SW-2	口 径 11.6 都 高 5.2	同 上	同 上	胎土：灰や白、細かい砂粒を含む。 焼成：良。 色調：淡褐色。	直腹輪伝木葉瓶。 口縁部に火捺目 / B。 流れ I - II。
178	土 鍋 环	F-1 1.6 NE-1	口 径 10.9 都 高 4.5	同 上	同 上	胎土：灰や白、細かい砂粒を含む。 焼成：良。 色調：淡褐色。	直腹輪伝木葉瓶。 完形。 流れ II - III。
179	土 鍋 环	G-1 1.9 NW-2	口 径 11.6 都 高 4.5	底部中央は平底に近くなり。体部は丸底を持つ。体部と口縁部の境に縫い接を持つ。口縁部は外反気泡に開く。	同 上	胎土：灰。 焼成：良。 色調：淡褐色。	直腹輪伝木葉瓶。 口縁部一部欠損。 流れ V。
180	土 鍋 环	G-1 1.8 SE-1	口 径 10.3 都 高 5.1	底部中央は平底に近くなり。体部は丸底を持つ。体部と口縁部の境に縫い接を持つ。口縁部は外反気泡に開く。	同 上	胎土：灰、砂粒を多く含む。 焼成：良。 色調：淡褐色。	直腹輪伝木葉瓶。 完形。 流れ I。

第12表 土器観察表(10)

番号	種類	グリット	計測値(cm)	形態の特徴	技法の特徴	地上・地底・色調	備考
181	土師器	F-1 1.7 SE-1	口 径 11.7 厚 級 4.9	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境には縦い棱を持つ。口縁部は外反して立ち、やや傾く。	底体部外表面規整形、口縁部内外面横擴ナギ。他の指標によるナギ。	粘土：灰。 地底：灰。 色調：淡褐色。	直脚側面木裏底。 口縫等一部欠損。 流跡Ⅱ、Ⅲ。
182	土師器	F-1 1.6 NE-1	口 径 11.3 厚 級 4.6	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境には縦い棱を持つ。口縁部は外反して傾く。	同 上	粘土：灰。 地底：灰。 色調：灰赤褐色。	直脚側面木裏底。 口縫等一部欠損。 流跡Ⅰ、Ⅲ。
183	土師器	F-1 1.8 SE-1	口 径 10.9 厚 級 6.0	底部は平底状を呈し、体部と口縁部の境には縦い棱を持つ。口縁部は外反して立ち、やや傾くように立つ。	底体部外表面規整形、口縁部内外面横擴ナギ。他の指標によるナギ。	粘土：灰や灰、細かい砂粒を含む。 地底：灰や灰、良。 色調：淡褐色。	直脚側面木裏底。 口縫等一部欠損。 流跡Ⅰ。
184	土師器	G-1 1.8 SE-1	口 径 12.4 厚 級 4.5	底部は平底に近くなり、体部と口縁部の境には縦い棱を持つ。口縁部は外反して立ち、やや傾くように立つ。	底体部外表面規整形、口縁部内外面横擴ナギ。他の指標によるナギ。	粘土：灰、砂粒を多く含む。 地底：灰。 色調：灰や灰い紫色。	直脚側面木裏底。 口縫等一部欠損。 流跡Ⅰ。
185	土師器	G-1 1.8 SE-1	口 径 11.9 厚 級 4.2	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境には縦い棱を持つ。口縁部は外反して立ち、やや傾くように立つ。	同 上	粘土：灰、砂粒を多く含む。 地底：灰。 色調：灰黄褐色。	直脚側面木裏底。 灰光。
186	土師器	G-1 1.8 NW-2	口 径 11.7 厚 級 5.7	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境には縦い棱を持つ。口縁部は外反して立ち、やや傾くように立つ。	同 上	粘土：灰、2 mm以下の砂粒を含む。 地底：灰。 色調：灰褐色。	口縫側Ⅱ/7欠損。 流跡Ⅱ。
187	土師器	G-1 1.8 SW-1	口 径 11.0 厚 級 5.4	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境には縦い棱を持つ。口縁部は外反して立ち、やや傾く。	同 上	粘土：灰、砂粒を含む。 地底：灰。 色調：淡褐色。	口縫側Ⅱ/7欠損。 流跡Ⅰ。
188	土師器	G-1 1.8 SW-1	口 径 11.1 厚 級 5.3	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境には縦い棱を持つ。口縁部は外反して立ち、やや傾く。	同 上	粘土：灰、砂粒を僅かに含む。 地底：灰。 色調：淡褐色。	直脚側面木裏底。 口縫等一部欠損。 流跡Ⅰ。
189	土師器	G-1 1.8 SW-1	口 径 11.0 厚 級 5.3	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境には縦い棱を持つ。口縁部は外反して立ち、やや傾く。	同 上	粘土：灰、細かな砂粒を含む。 地底：灰。 色調：淡褐色。	直脚側面木裏底。 流跡Ⅰ。
190	土師器	G-1 1.8 SW-1	口 径 11.1 厚 級 5.3	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境には縦い棱を持つ。口縁部は外反して立ち、やや傾く。	同 上	粘土：灰、細かい砂粒を含む。 地底：灰。 色調：淡褐色。	直脚側面木裏底。 口縫等一部欠損。 流跡Ⅰ。
191	土師器	G-1 1.8 NE-2	口 径 11.9 厚 級 4.9	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境には縦い棱を持つ。口縁部は外反して立ち、やや傾くように立つ。	底体部外表面規整形、口縁部内外面横擴ナギ。他の指標によるナギ。	粘土：灰、砂粒を僅かに含む。 地底：灰。 色調：灰褐色。	直脚側面木裏底。 口縫等一部欠損。 流跡Ⅰ。
192	土師器	G-1 1.8 SW-2	口 径 12.0 厚 級 5.2	底部は平底に近くなり、体部と口縁部の境には縦い棱を持つ。口縁部は外反して立ち、やや傾く。	底体部外表面規整形、口縁部内外面横擴ナギ。他の指標によるナギ。	粘土：灰、2 mm以下の砂粒を含む。 地底：灰。 色調：灰褐色。	直脚側面木裏底。 口縫等一部欠損。 流跡Ⅰ。
193	土師器	G-1 1.8 SW-2	口 径 10.8 厚 級 4.8	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境には縦い棱を持つ。口縁部は外反して立ち、やや傾くように立つ。	同 上	粘土：灰、砂粒を非常に多く含む。 地底：灰。 色調：淡褐色。	直脚側面木裏底。 口縫等一部欠損。 流跡Ⅰ。
194	土師器	F-1 1.7 SE-2	口 径 10.8 厚 級 4.6	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境には縦い棱を持つ。口縁部は外反して立ち、やや傾くように立つ。	同 上	粘土：灰。 地底：灰。 色調：明暗褐色。	直脚側面木裏底。 口縫等一部欠損。 流跡Ⅰ、Ⅲ。
195	土師器	G-1 1.8 SW-2	口 径 11.1 厚 級 5.8	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境には縦い棱を持つ。口縁部は外反して立ち、やや傾く。	同 上	粘土：灰、細かな砂粒を含む。 地底：灰。 色調：淡褐色。	直脚側面木裏底。 口縫等一部欠損。 流跡Ⅰ。
196	土師器	G-1 1.8 SW-1	口 径 12.2 厚 級 5.4	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境には縦い棱を持つ。口縁部は外反して立ち、やや傾く。	同 上	粘土：灰、砂粒を含む。 地底：灰。 色調：淡褐色。	直脚側面木裏底。 口縫等一部欠損。 流跡Ⅰ。
197	土師器	G-1 1.8 SW-2	口 径 10.4 厚 級 5.0	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境には縦い棱を持つ。口縁部は外反して立ち、やや傾く。	同 上	粘土：灰、砂粒を含む。 地底：灰。 色調：白色。	直脚側面木裏底。 口縫等一部欠損。 流跡Ⅰ。
198	土師器	G-1 1.8 SW-1	口 径 12.3 厚 級 5.3	底部は平底に近くなり、体部と口縁部の境には縦い棱を持つ。口縁部は外反して立ち、やや傾く。	同 上	粘土：灰、砂粒、石英粒を含む。 地底：灰。 色調：白色。	直脚側面木裏底。 流跡Ⅰ。
199	土師器	G-1 1.8 SW-1	口 径 10.7 厚 級 5.0	底部は平底に近くなり、体部と口縁部の境には縦い棱を持つ。口縁部は外反して立ち、やや傾く。	同 上	粘土：中や粗。 地底：灰や灰褐色。 色調：暗褐色。	1/4欠損。 流跡Ⅰ。
200	土師器	G-1 1.8 NW-1	口 径 10.9 厚 級 5.3	底部は平底に近くなり、体部と口縁部の境には縦い棱を持つ。口縁部は外反して立ち、やや傾く。	同 上	粘土：灰、砂粒を多く含む。 地底：灰。 色調：灰褐色。	直脚側面木裏底。 流跡Ⅲ。

第13表 土器観察表 (11)

図番号	品種	グリット	計測値 (cm)	形態の特徴	技法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
201	土 脚 环	G-1 1 6 NW-1	口径 11.5 基 高 4.7	底盤は平底に近くなり、全体と口縁部の端には長い脚を持つ。口縁部は短く、外反して開く。	底盤と外周部は斜形、口縁部は外側が丸みをもつ。手は指揮によるナード。	胎土：密、3mm以下の砂粒を含む。 焼成：やや不均。 色調：淡褐色。	直部斜木漬灰。 完全。流路Ⅱ。
202	土 脚 环	F-1 1 7 SE-1	口径 10.8 基 高 4.7	底盤は丸底を呈し、全体と口縁部の端には長い脚を持つ。口縁部はやや短く、外反して開く。	同 上	胎土：密、1mm以下の砂粒を含む。 焼成：やや不均。 色調：やや淡い褐色。	直部斜木漬灰。 完全。流路Ⅱ、Ⅲ。
203	土 脚 环	G-1 1 8 SW-1	口径 11.1 基 高 4.4	底盤は平底に近くなり、全体と口縁部の端には長い脚を持つ。口縁部は短く、外反して開く。	同 上	胎土：密、最も細かな砂粒を少し含む。 焼成：良。 色調：褐色。	直部斜木漬灰。
204	土 脚 环	G-1 1 8 SW-2	口径 11.5 基 高 5.3	底盤は丸底を呈し、全体と外周部の端には長い脚を持つ。口縁部は外反して開く。	同 上	胎土：密、1mm以下の砂粒を含む。 焼成：やや不均。 色調：淡褐色。	直部斜木漬灰。 完全。流路Ⅰ。
205	土 脚 环	G-1 1 9 SE-2	口径 12.3 基 高 6.1	底盤は丸底を呈し、全体と口縁部の端には長い脚を持つ。口縁部は外反して開く。	同 上	胎土：密、1mm以下の砂粒を含む。 焼成：良。 色調：淡褐色。	直部斜木漬灰。 完全。流路Ⅰ/3大量。 焼成Ⅱ。
206	土 脚 环	G-1 1 9 SW-1	口径 11.3 基 高 4.3	底盤は平底に近くなり、全体と口縁部の端には長い脚を持つ。口縁部は外反して開く。	同 上	胎土：密、1mm以下の砂粒を含む。 焼成：良。 色調：淡褐色。	直部斜木漬灰。 完全。流路Ⅰ。
207	土 脚 环	G-1 1 9 NE-2	口径 11.6 基 高 4.6	底盤は丸底を呈し、全体と口縁部の端には長い脚を持つ。口縁部は短く、外反して開く。やや薄い器壁。	同 上	胎土：密、細かい砂粒を含む。 焼成：良。 色調：淡褐色。	直部斜木漬灰。 完全。流路Ⅰ。
208	土 脚 环	G-1 1 9 NE-2	口径 12.1 基 高 4.4	底盤には丸底を呈し、全体と口縁部の端には長い脚を持つ。口縁部は全体からやや外反して開く。	同 上	胎土：中や粗。 焼成：良。 色調：帶質褐色。	直部斜木漬灰。 完全。流路Ⅰ。
209	土 脚 环	F-1 1 7 SE-1	口径 10.1 基 高 5.0	底盤には丸底を呈し、全体と口縁部の端には長い脚を持つ。口縁部は外反してやや開くようになつて、やや厚い器壁。	同 上	胎土：中、砂粒を多く含む。 焼成：良。 色調：带褐色。	直部斜木漬灰。 完全。流路Ⅱ、Ⅲ。
210	土 脚 环	F-1 1 7 NE-2	口径 9.9 基 高 4.5	底盤は丸底を呈し、全体と口縁部の端には長い脚を持つ。口縁部は短く、外反してやや開くようになつて。	同 上	胎土：密、砂粒を多く含む。 焼成：良。 色調：やや淡い褐色。	直部斜木漬灰。 完全。流路Ⅱ、Ⅲ。
211	土 脚 环	F-1 1 7 SE-2	口径 11.5 基 高 4.9	底盤は丸底を呈し、全体と口縁部の端には長い脚を持つ。口縁部は外反してやや開くようになつて。	全体底外周部は斜形、口縫部は外側が丸みをもつ。手は指揮によるナード。	胎土：密。 焼成：良。 色調：淡褐色。	直部斜木漬灰。 完全。流路Ⅱ、Ⅲ。
212	土 脚 环	G-1 1 8 SW-1	口径 11.4 基 高 4.6	底盤は丸底を呈し、全体と口縁部の端には長い脚を持つ。口縁部は短く、外反してやや開くようになつて。	同 上	胎土：中や粗、細かい砂粒を含む。 焼成：良。 色調：褐色。	直部斜木漬灰。 完全。流路Ⅰ。
213	土 脚 环	G-1 1 8 SW-1	口径 10.7 基 高 3.9	底盤は平底に近くなり、全体と口縁部の端には長い脚を持つ。口縁部は短く、外反してやや開くようになつて。	同 上	胎土：密、細かい砂粒を含む。 焼成：良。 色調：淡褐色。	直部斜木漬灰。 完全。流路Ⅰ。
214	土 脚 环	G-1 1 8 SW-1	口径 11.2 基 高 4.6	底盤は平底に近くなり、全体と口縁部の端には長い脚を持つ。口縁部は短く、外反してやや開くようになつて。	同 上	胎土：中や粗、細かい砂粒を含む。 焼成：良。 色調：淡褐色。	直部斜木漬灰。 完全。流路Ⅰ。
215	土 脚 环	G-1 1 8 SW-1	口径 11.2 基 高 4.7	底盤は丸底を呈し、全体と口縁部の端には長い脚を持つ。口縁部は短く、外反してやや開くようになつて。	同 上	胎土：密。 焼成：良。 色调：淡褐色。	直部斜木漬灰。 完全。流路Ⅰ。
216	土 脚 环	G-1 1 8 NE-2	口径 10.2 基 高 4.7	底盤は丸底を呈し、全体と口縁部の端には長い脚を持つ。口縁部は短く外反して開く。	同 上	胎土：中や粗、細かい砂粒を含む。 焼成：良。 色调：淡褐色。	直部斜木漬灰。 完全。流路Ⅰ。
217	土 脚 环	G-1 1 8	口径 10.8 基 高 4.7	底盤は丸底を呈し、全体と口縁部の端には長い脚を持つ。口縁部は短く外反して開く。	同 上	胎土：密、細かい砂粒を含む。 焼成：良。 色调：淡褐色。	直部斜木漬灰。 完全。流路Ⅰ。
218	土 脚 环	F-1 1 7 SE-2	口径 10.7 基 高 4.7	底盤は丸底を呈し、全体と口縁部の端には長い脚を持つ。口縁部は短く、外反して開く。	同 上	胎土：中や粗。 焼成：良。 色调：淡褐色。	直部斜木漬灰。 完全。流路Ⅱ、Ⅲ。
219	土 脚 环	G-1 1 8 SW-2	口径 9.7 基 高 4.5	底盤は丸底を呈し、全体と口縁部の端には長い脚を持つ。口縁部は外反してやや開くようになつて。	同 上	胎土：密、細かい砂粒を含む。 焼成：良。 色调：淡褐色。	直部斜木漬灰。 完全。流路Ⅱ。
220	土 脚 环	G-1 1 8 NE-2	口径 10.9 基 高 4.1	底盤は平底に近くなり、全体と口縁部の端には長い脚を持つ。口縫部は短く、外反してやや開くようになつて。	全体底外周部は斜形、口縫部は外側が丸みをもつ。底盤内面には指揮による放射状のナードが見られる。	胎土：密。 焼成：やや不均。 色调：淡褐色。	直部斜木漬灰。 完全。流路Ⅱ/5大量。 焼成Ⅱ。

第14表 土器観察表(12)

器番号	形 種	グリット	計測値(cm)	形 種 の 特 徴	技 法 の 特 徴	胎 土・焼成・色調	備 考
221	上 鋸 磨	F-1 1.7 NE-2	口 径 9.9 身 高 4.3	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の端には削り模様を持つ。口縁部は外反してやや傾いて立つ。	底体部外縫接痕形、口縁部内外両側ナダ。	胎土：粗、砂粒を非常に多く含む。 焼成：火炎不足。 色調：淡褐色。	直部延び木葉形。 口縁部火次強。 流路Ⅰ。
222	土 鋸 磨	G-1 1.7 SE-2	口 径 11.4 身 高 4.5	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の端には削り模様を持つ。口縁部は外反してやや傾いて立つ。底体部はやや厚く。	同 上	胎土：粗。 焼成：火炎不足。 色調：やや青白。	直部延び木葉形。 口縁部火次強。 流路Ⅰ・Ⅲ。
223	土 鋸 磨	G-1 1.8 NW-2	口 径 10.9 身 高 3.9	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の端には削り模様を持つ。口縁部は外反してやや傾いて立つ。	底体部外縫接痕形、口縁部内外両側ナダ。底体部外縫接痕形には底面による致折痕のナタ上げが見られる。	胎土：粗。 焼成：火炎不足。 色調：淡褐色。	直部延び木葉形。 口縁部火次強。 流路Ⅰ。
224	上 鋸 磨	F-1 1.7 NE-2	口 径 10.6 身 高 4.0	底部は平底に近くなり、体部と口縁部の端には削り模様を持つ。口縁部は外反してやや傾いて立つ。	底体部外縫接痕形、口縁部内外両側ナダ。底体部外縫接痕形には底面による致折痕のナタ上げが見られる。	胎土：粗。 焼成：火炎不足。 色調：淡褐色。	直部延び木葉形。 口縁部火次強。 流路Ⅰ・Ⅲ。
225	土 鋸 磨	G-1 1.7 NE-1	口 径 10.3 身 高 4.3	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の端には削り模様を持つ。口縁部は外反してやや傾いて立つ。	同 上	胎土：やや粗、砂粒を含む。 焼成：火炎不足。 色調：淡褐色。	直部延び木葉形。 火炎不足。 流路Ⅰ。
226	土 鋸 磨	G-1 1.8 NW-1	口 径 11.7 身 高 4.1	底部は平底に近くなり、体部と口縁部の端には削り模様を持つ。口縁部は外反してやや傾いて立つ。	同 上	胎土：粗。 焼成：火炎不足。 色調：淡褐色。	直部延び木葉形。 口縁部火次強。 流路Ⅰ・Ⅲ。
227	土 鋸 磨	F-1 1.6 NE-1	口 径 13.5 身 高 5.5	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の端には削り模様を持つ。口縁部は外反してやや傾いて立つ。やや厚く。	同 上	胎土：やや粗、砂粒を含む。 焼成：火炎不足。 色調：淡褐色。	直部延び木葉形。 口縁部火次強。 流路Ⅰ・Ⅲ。
228	土 鋸 磨	G-1 1.7 NW-1	口 径 11.2 身 高 4.9	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の端には削り模様を持つ。口縁部は外反してやや傾いて立つ。やや厚く。	同 上	胎土：やや粗、砂粒を含む。 焼成：火炎不足。 色調：淡褐色。	直部延び木葉形。 火炎不足。 流路Ⅰ。
229	土 鋸 磨	G-1 1.8 SW-1	口 径 11.7 身 高 3.7	底部は平底に近くなり、体部と口縁部の端には削り模様を持つ。口縁部は外反してやや傾いて立つ。やや薄く。	同 上	胎土：やや粗、砂粒を含む。 焼成：火炎不足。 色調：淡褐色。	直部延び木葉形。 火炎不足。 流路Ⅰ。
230	土 鋸 磨	G-1 1.8 NW-2	口 径 12.7 身 高 4.3	底部は平底に近くなり、体部と口縁部の端には削り模様を持つ。口縁部は外反してやや傾いて立つ。	同 上	胎土：やや粗、砂粒を多く含む。 焼成：火炎不足。 色調：淡褐色。	直部延び木葉形。 口縁部火次強。 流路Ⅰ・Ⅲ。
231	上 鋸 磨	G-1 1.8 SW-1	口 径 11.7 身 高 5.1	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の端には削り模様を持つ。口縁部は外反してやや傾いて立つ。	底体部外縫接痕ナダの後側面に上るナタナ。口縁部内外両側ナダ。底体部外縫接痕ナダの後側面に上るナタナ。	胎土：やや粗。 焼成：火炎不足。 色調：淡褐色。	直部延び木葉形。 口縁部火次強。 流路Ⅰ。
232	土 鋸 磨	F-1 1.7 SE-2	口 径 12.1 身 高 4.7	底部は平底に近くなり、体部と口縁部の端には削り模様を持つ。口縁部は外反してやや傾いて立つ。	底体部外縫接痕形、口縁部内外両側ナダ。	胎土：粗。 焼成：火炎不足。 色調：淡褐色。	直部延び木葉形。 火炎不足。 流路Ⅰ・Ⅲ。
233	土 鋸 磨	F-1 1.7 SE-2	口 径 11.8 身 高 5.2	全体に半球状を呈し、体部と口縁部の端には削り模様を持つ。口縁部は外反してやや傾いて立つ。	同 上	胎土：やや粗、砂粒を多く含む。 焼成：火炎不足。 色調：淡褐色。	直部延び木葉形。 火炎不足。 流路Ⅰ・Ⅲ。
234	土 鋸 磨	F-1 1.7 SE-2	口 径 12.1 身 高 4.9	底部は平底に近くなり、体部と口縁部の端には削り模様を持つ。口縁部は外反してやや傾いて立つ。	同 上	胎土：やや粗、砂粒を含む。 焼成：火炎不足。 色調：淡褐色。	直部延び木葉形。 口縁部火次強。 流路Ⅰ・Ⅲ。
235	土 鋸 磨	F-1 1.7 SE-2	口 径 11.0 身 高 4.3	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の端には削り模様を持つ。口縁部は外反してやや傾いて立つ。	同 上	胎土：粗。 焼成：火炎不足。 色調：淡褐色。	口縫部火次強。 流路Ⅰ・Ⅲ。
236	土 鋸 磨	G-1 1.8 SW-1	口 径 11.3 身 高 4.8	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の端には削り模様を持つ。口縁部は外反してやや傾いて立つ。	同 上	胎土：粗、砂粒を非常に多く含む。 焼成：火炎不足。 色調：淡褐色。	直部延び木葉形。 口縫部火次強。 流路Ⅰ。
237	土 鋸 磨	G-1 1.8 SW-1	口 径 11.8 身 高 4.8	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の端には削り模様を持つ。口縁部は外反してやや傾いて立つ。	同 上	胎土：粗、砂粒を非常に多く含む。 焼成：火炎不足。 色調：淡褐色。	直部延び木葉形。 口縫部火次強。 流路Ⅰ・Ⅲ。
238	土 鋸 磨	G-1 1.8 SW-1	口 径 10.6 身 高 4.6	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の端には削り模様を持つ。口縁部は外反してやや傾いて立つ。	底体部外縫接痕形、底面下平手持ハラケナリ。口縁部内外両側ナダ。底体部外縫接痕形には底面によるナタナ。	胎土：粗、砂粒を非常に多く含む。 焼成：火炎不足。 色調：淡褐色。	直部延び木葉形。 口縫部火次強。 流路Ⅰ・Ⅲ。
239	土 鋸 磨	F-1 1.7 SE-2	口 径 11.2 身 高 5.3	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の端には削り模様を持つ。口縁部は外反してやや傾いて立つ。	底体部外縫接痕形、口縁部内外両側ナダ。底体部外縫接痕形には底面によるナタナ。	胎土：粗、砂粒を多く含む。 焼成：火炎不足。 色調：淡褐色。	直部延び木葉形。 口縫部火次強。 流路Ⅰ・Ⅲ。
240	土 鋸 磨	G-1 1.8 SW-1	口 径 11.2 身 高 4.1	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の端には削り模様を持つ。口縁部は外反してやや傾いて立つ。	同 上	胎土：やや粗、砂粒を含む。 焼成：火炎不足。 色調：淡褐色。	直部延び木葉形。 火炎不足。 流路Ⅰ。

第15表 土器観察表 (13)

器番号	器種	グリット	計測値 (cm)	形質の特徴	技法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
241	土 壁 砥	G-118 SW-1	口 径 11.7 基 高 3.8	底面は丸底を呈し、体部と口縁部の境の傾きはつづりなし。口縁部は体部より側面を少し傾斜的に削く。	底部外表面彫刻。口縁部内外側削す。底は指標によるナヂ。	胎土：重。 焼成：真。 色調：淡黄褐色。	底部似木葉底。 口縁部一部欠損。 流れ1。
242	土 壁 砥	G-118 SE-1	口 径 12.4 基 高 4.0	底面は丸底を呈し、体部と口縁部の境の傾きはつづりなし。口縁部は底面よりやや削除して側面的に削く。やや長い唇部。	同 上	胎土：やや粗。砂粒を多く含む。 焼成：真。 色調：明黄褐色。	底部似木葉底。 口縁部1/6欠損。 流れ1。
243	土 壁 砥	G-118 SW-1	口 径 11.5 基 高 5.5	全体的に平底状を呈し、体部と口縁部の境には弱い傾きを持つ。口縁部は底面よりやや削除して側面的に削く。	同 上	胎土：やや粗。砂粒を多く含む。 焼成：真。 色調：明黄褐色。	底部似木葉底。 底火充てん。 流れ2。
244	土 壁 砥	G-118 SE-1	口 径 12.4 基 高 5.9	全体的に平底状を呈し、体部と口縁部の境には弱い傾きを持つ。口縁部は底面よりやや立つ。	同 上	胎土：重。 焼成：真。 色調：赤褐色。	底部似木葉底。 底火充てん。 全体的に火痕。 体部一部火痕。 流れ2。
245	土 壁 砥	G-118 SW-1	口 径 11.2 基 高 4.3	底面は丸底を呈し、体部と口縁部の境には弱い傾きを持つ。口縁部は外反気味に立つ。	真輪部外表面彫刻。口縁部内外側削す。底部内面では削除による鉛付状のナヂが見られる。	胎土：重。細かい砂粒を含む。 焼成：真。 色調：淡褐色。	底部似木葉底。 底火充てん。 流れ1。
246	土 壁 砥	G-118 SE-1	口 径 9.2 基 高 5.2	底面は丸底を呈し、体部と口縁部の境には弱い傾きを持つ。口縁部は外反気味に立つ。やや小窓で深く彫る。	底部外表面彫刻。口縁部内外側削す。底は指標によるナヂ。	胎土：重。細かい砂粒を多く含む。 焼成：真。 色調：淡褐色。	底部似木葉底。 底火充てん。 流れ1。
247	土 壁 砥	G-118 SW-1	口 径 10.2 基 高 4.7	底面は平底に近くなり、体部は彫みを呈す。口縁部は外反して立つ。	同 上	胎土：重。細かい砂粒を多く含む。 焼成：真。 色調：やや灰い褐色。	底部似木葉底。 充てん。 流れ1。
248	土 壁 砥	G-118 SE-1	口 径 11.9 基 高 3.0	底面は丸底を呈し、全体的に内側して立ち込める。口縁部は底面よりやや立つ。体部と口縁部の境には弱い傾きを持つ。	胎土：重。細かい砂粒を若干含む。 焼成：真。 色調：明黄褐色。	胎土に2箇所の解体木葉底。 底火充てん。 流れ1。	
249	土 壁 砥	G-119 NW-2	口 径 11.5 基 高 5.1	底面は丸底を呈し、体部と口縁部の境には弱い傾きを持つ。口縁部は外反気味に立つ。	同 上	胎土：重。細かい砂粒を含む。 焼成：真。 色調：淡褐色。	底部似木葉底。 口縁部1/6欠損。 流れ1。
250	土 壁 砥	G-118 SW-2	口 径 11.4 基 高 4.6	底面は平底に近くなり、体部と口縁部の境には弱い傾きを持つ。口縁部は外反気味にやや削る。	同 上	胎土：重。細かい砂粒を含む。 焼成：真。 色調：淡褐色。	充てん。 流れ2。
251	土 壁 砥	G-118 SW-1	口 径 11.1 基 高 4.8	底面は丸底を呈し、体部と口縁部の境には弱い傾きを持つ。口縁部は外反気味に立つ。やや削る。	底部外表面彫刻。口縁部内外側削す。底は指標によるナヂ。	胎土：重。砂粒を多量に含む。 焼成：真。 色調：淡褐色。	底部似木葉底。 口縁部充てん。 流れ1。
252	土 壁 砥	G-118 SW-1	口 径 11.2 基 高 4.0	底面は丸底を呈し、体部と口縁部の境には弱い傾きを持つ。口縁部は外反気味に立つ。全体的に浅く彫る。	同 上	胎土：重。細かい砂粒を多く含む。 焼成：真。 色調：淡褐色。	底部似木葉底。 口縁部充てん。 流れ1。
253	土 壁 砥	G-118 SE-1	口 径 10.4 基 高 4.6	底面は丸底を呈し、体部と口縁部の境には弱い傾きを持つ。口縁部は外反気味に立つ。やや削る。	同 上	胎土：重。細かい砂粒を含む。 焼成：真。 色調：淡褐色。	底部似木葉底。 充てん。 流れ1。
254	土 壁 砥	G-118 SW-1	口 径 9.9 基 高 4.9	底面は丸底を呈し、体部と口縁部の境には弱い傾きを持つ。口縁部は外反気味に立つ。	同 上	胎土：重。細かい砂粒を多く含む。 焼成：真。 色調：淡褐色。	底部似木葉底。 口縁部一部欠損。 流れ1。
255	土 壁 砥	F-117 SE-1	口 径 10.7 基 高 4.3	底面は丸底を呈し、体部と口縁部の境には弱い傾きを持つ。口縁部は外反気味に立つ。全体的に浅く彫る。	同 上	胎土：重。細かい砂粒を含む。 焼成：真。 色調：淡褐色。	底部似木葉底。 口縁部1/6欠損。 流れ1。
256	土 壁 砥	F-117 SE-1	口 径 11.3 基 高 5.5	全体的に平底状を呈し、体部と口縁部の境には弱い傾きを持つ。口縁部は底面より外反して立つ。深い彫り。	同 上	胎土：重。細かい砂粒を含む。 焼成：真。 色調：淡褐色。	底部に2箇所解体木葉底。 口縁部一部欠損。体部外反1/6欠損。 流れ1。
257	土 壁 砥	F-117 SE-1	口 径 11.5 基 高 5.7	全体的に平底状を呈し、体部と口縁部の境には弱い傾きを持つ。口縁部は外反気味にやや削って立つ。深い彫り。	同 上	胎土：やや粗。砂粒を含む。 焼成：真。 色調：淡褐色。	底部似木葉底。 口縁部1/6欠損。 流れ1。
258	土 壁 砥	G-118 左脚面	口 径 11.6 基 高 5.0	底面は丸底を呈し、体部と口縁部の境には弱い傾きを持つ。口縁部は外反気味に立つ。	同 上	胎土：重。細かい砂粒を多量に含む。 焼成：真。 色調：淡褐色。	底部似木葉底。 口縁部1/6欠損。 流れ1。
259	土 壁 砥	G-118 NE-2	口 径 11.3 基 高 4.8	底面は丸底を呈し、体部と口縁部の境には弱い傾きを持つ。口縁部は外反気味に立つ。やや深い彫り。	同 上	胎土：重。細かい砂粒を含む。 焼成：真。 色調：淡褐色。	底部似木葉底。 口縁部1/6欠損。 流れ1。
260	土 壁 砥	G-118 SW-1	口 径 10.5 基 高 4.8	底面は丸底を呈し、体部と口縁部の境には弱い傾きを持つ。口縁部は外反気味に立つ。	同 上	胎土：重。細かい砂粒と石粉を含む。 焼成：真。 色調：淡褐色。	底部似木葉底。 充てん。 流れ1。

第16表 土器観察表(14)

番号	器種	アリット	計測値(cm)	形態の特徴	技法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
261	土 諸 磁	G-118 SW-1	口 径 12.0 厚 高 4.7	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境には弱い棱を持つ。口縁部は外気灰地にやや傾いて立つ。	底体部外縫接整型、口縁部内外縫接ナラ。底部内面には指痕による放射状のナラが見られる。	胎土：やや粗、細かい砂粒を多く含む。 焼成：良。 色調：深褐色。	底部堅木更張。 山形県一部欠損。 流路1。
262	土 諸 磁	G-118 NW-1	口 径 10.2 厚 高 5.2	底部は平底に近くなり、体部と口縁部の境には弱い棱を持つ。口縁部は外気灰地にやや傾いて立つ。	底体部外縫接整型、口縁部内外縫接ナラ。底部内面には指痕によるナラ。	胎土：粗、砂粒を多量に含む。 焼成：やや不良。 色調：深褐色。	底部堅木更張。 山形県一部欠損。 流路1。
263	土 諸 磁	G-118 SW-2	口 径 11.8 厚 高 5.8	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境には弱い棱を持つ。口縁部は外気灰地にやや傾いて立つ。深い器形。	同 上	胎土：粗、砂粒を多量に含む。 焼成：良。 色調：深褐色。	底部堅木底有り。 口縫接/4大通。 底地：良。 色調：深褐色。
264	土 諸 磁	G-118 NE-2	口 径 11.2 厚 高 4.9	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境には弱い棱を持つ。口縁部は外気灰地にやや傾いて立つ。	同 上	胎土：粗、細かい砂粒を多く含む。 焼成：良。 色調：深褐色。	はざま形。流路1。
265	土 諸 磁	G-118 SW-1	口 径 10.9 厚 高 4.8	全体に半球形を呈し、体部と口縁部の境には弱い棱を持つ。口縁部は直線的にやや傾く。	同 上	胎土：やや粗、細かい砂粒を多く含む。 焼成：良。 色調：淡灰褐色。	底部に植物纖維の痕跡を見える。 流路1。
266	土 諸 磁	G-118 SE-1	口 径 10.9 厚 高 4.8	全体に半球形を呈し、体部と口縁部の境には弱い棱を持つ。口縁部は直線的にやや傾く。	同 上	胎土：粗、細かい砂粒を多く含む。 焼成：良。 色調：淡灰褐色。	光形。 流路1。
267	土 諸 磁	G-118 SW-2	口 径 10.8 厚 高 4.8	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境には弱い棱を持つ。口縁部は外気灰地にやや傾いて立つ。	同 上	胎土：粗、細かい砂粒を多く含む。 焼成：良。 色調：淡褐色。	底部堅木更張。 口縫接/3、底部一部欠損。 スズ吸着。 流路1。
268	土 諸 磁	F-117 SE-1	口 径 11.1 厚 高 4.5	底部は平底に近くなり、体部と口縁部の境には弱い棱を持つ。口縁部は外気灰地にやや傾いて立つ。	同 上	胎土：やや粗、細かい砂粒を多く含む。 焼成：良。 色調：淡赤褐色。	同上。
269	土 諸 磁	G-118 SW-1	口 径 11.1 厚 高 4.3	底部は平底に近くなり、体部と口縁部の境には弱い棱を持つ。口縁部は外気灰地にやや傾いて立つ。	同 上	胎土：粗、細かい砂粒を多く含む。 焼成：良。 色調：淡褐色。	底部堅木更張。 口縫接/5大通。 流路1。
270	土 諸 磁	F-116 NE-2	口 径 10.9 厚 高 4.3	底部は平底に近くなり、体部と口縁部の境には弱い棱を持つ。口縁部は外気灰地にやや傾いて立つ。	同 上	胎土：粗、細かい砂粒を多く含む。 焼成：良。 色調：淡灰褐色。	底部堅木更張。 口縫接/3大通。 流路1、Ⅲ。
271	土 諸 磁	G-118 SW-1	口 径 11.9 厚 高 4.9	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境には弱い棱を持つ。口縁部は外気灰地にやや傾いて立つ。やや浅い器形。	底体部外縫接整型、口縁部内外縫接ナラ。	胎土：粗、細かい砂粒を多く含む。 焼成：良。 色調：暗褐色。	直底堅木更張。
272	土 諸 磁	G-118 SW-1	口 径 11.4 厚 高 5.2	底部は平底に近くなり、体部と口縁部の境には弱い棱を持つ。口縁部は外気灰地にやや傾いて立つ。やや浅く、断面形は扁平な菱形に近い。	同 上	胎土：やや粗、細かい砂粒を多く含む。 焼成：良。 色調：暗褐色。	口縫接/4大通。 流路1。
273	土 諸 磁	G-118 SW-1	口 径 10.7 厚 高 4.5	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境には弱い棱を持つ。口縁部は外気灰地にやや傾いて立つ。全体に厚手。	同 上	胎土：粗、細かい砂粒を多く含む。 焼成：やや不良。 色調：淡褐色。	直底堅木更張。 口縫接/3大通。 流路1。
274	土 諸 磁	G-118 SW-1	口 径 9.9 厚 高 4.4	底部は平底に近くなり、体部と口縁部の境には弱い棱を持つ。口縁部は外気灰地にやや傾いて立つ。やや浅く。	底体部外縫接整型、口縫接内外縫接ナラ。底部内面には指痕による放射状のナラが見られる。	胎土：やや粗、細かい砂粒を多く含む。 焼成：良。 色調：暗褐色。	底木更張。
275	土 諸 磁	G-118 SW-1	口 径 10.7 厚 高 4.4	底部は平底に近くなり、体部と口縁部の境には弱い棱を持つ。口縁部は外気灰地にやや傾いて立つ。やや浅く。断面形は扁平な菱形に近い。	底体部外縫接整型、口縫接内外縫接ナラ。底部内面には指痕によるナラ。	胎土：粗、細かい砂粒を多く含む。 焼成：良。 色調：淡褐色。	底木更張。
276	土 諸 磁	G-118 NE-2	口 径 10.5 厚 高 4.3	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境には弱い棱を持つ。口縁部は短くやや傾いて立つ。	同 上	胎土：やや粗、細かい砂粒を多く含む。 焼成：良。 色調：暗褐色。	直底堅木更張。 流路1。
277	土 諸 磁	G-118 SW-1	口 径 10.4 厚 高 5.8	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境には弱い棱を持つ。口縁部は外気灰地にやや傾いて立つ。全体に厚手。	同 上	胎土：やや粗、細かい砂粒を多く含む。 焼成：良。 色調：暗褐色。	直底堅木更張。 口縫接/3大通。 流路1。
278	土 諸 磁	F-117 NE-2	口 径 10.7 厚 高 3.8	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境には弱い棱を持つ。口縁部は外気灰地にやや傾いて立つ。	同 上	胎土：粗、細かい砂粒を多く含む。 焼成：良。 色調：暗褐色。	直底堅木更張。 口縫接/3大通。 流路1、Ⅲ。
279	土 諸 磁	G-118 SW-1	口 径 9.8 厚 高 3.6	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境には弱い棱を持つ。口縁部は外気灰地にやや傾いて立つ。	同 上	胎土：粗、細かい砂粒を多く含む。 焼成：良。 色調：暗褐色。	直底堅木更張。 口縫接/3大通。 流路1。
280	土 諸 磁	G-118 流路左岸	口 径 10.8 厚 高 5.3	底部は丸底を呈し、体部と口縁部の境には弱い棱を持つ。口縁部は外気灰地にやや傾いて立つ。	同 上	胎土：粗。 焼成：良。 色調：暗褐色。	底木更張。 口縫接/4大通。 流路1。

第17表 土器観察表 (15)

番号	基 種	グリット	計測値 (cm)	形 異 の 特 徴	社 法 の 特 徴	地 上・底 材・色 調	備 考
281	土 席 环	G-1 1 8 SW-1	口 径 10.7 器 高 5.1	底盤は丸底を呈し、体部とは縦形の縫にはねり接着を持つ。口縁部は僅かに開いて立つ。	底体部外周面整形成、口縁部内外面横擴ナード。施は指標によるナード。	粘土・灰・細かい砂粒を含む。 焼成：良。 色調：淡褐色。	底盤似木葉底。 口縁部・底脚1/4、底部1/3大根。 流路Ⅰ。
282	土 席 环	G-1 1 8 左肩付	口 径 11.1 器 高 ?	底盤は丸底を呈し、体部は内側して立ち上がり、そのまま口縁部に至る。口縁部は丸底は認められる。	底体部外周面整形成、口縁部は底ナード。施は指標による丁寧なナード。	粘土・灰・細かい砂粒を多く含む。 焼成：やや不良。 色調：赤褐色。	口縁部・体部1/4、底部1/3大根。
283	土 席 环	G-1 1 8 SE-1	口 径 11.9 器 高 5.1	底盤は丸底を呈し、体部は内側して立ち上がり、そのまま口縁部に至る。口縁部の打ち大きさは底盤部のものと見えられる。	底体部外周面整形成、底体内部は指標によるナードの様、へラク状の工具によるナードが見られる。	粘土・灰・砂粒含む。 焼成：良。 色調：淡褐色。	底盤似木葉底。 口縁部に打ち焼き有。 流路Ⅰ。
284	土 席 环	F-1 1 6 NE-1	口 径 10.6 器 高 4.2	底盤は平底に近くとなり、体部と口縁部にはねり接着を持つ。口縁部は底盤部に外側して立つ。やや浅く、断面形は扇形を呈する。	底体部外周面整形成、口縁部内外面横擴ナード。施は指標によるナード。	粘土・灰・細かい砂粒を含む。 焼成：良。 色調：淡褐色。	底盤似木葉底。 口縁部・底脚1/4、欠損。 流路Ⅱ・Ⅲ。
285	土 席 环	G-1 1 8 SW-1	口 径 10.6 器 高 4.1	底盤は平底に近くとなり、体部と口縁部にはねり接着を持つ。口縁部は底盤部に外側して立つ。やや浅く、断面形は扇形を呈する。	同 上	粘土・灰・細かい砂粒を含む。 焼成：良。 色調：淡褐色。	完形。 流路Ⅰ。
286	土 席 环	F-1 1 7 SE-2	口 径 11.3 器 高 4.6	底盤は丸底を呈し、全体的に半球状を呈する。口縁部は体部から直角的に立つ。	同 上	粘土・灰・細かい砂粒を含む。 焼成：良。 色調：淡褐色。	口縁部・頸・欠損。 流路Ⅱ・Ⅲ。
287	土 席 环	F-1 1 7 SE-2	口 径 10.4 器 高 4.1	底盤は平底に近くとなり、体部は内側して立ち上がる。口縁部は底盤部のまま内側に立つ。	底体部外周面整形成、施は指標によるナード。	粘土・灰・細かい砂粒を含む。 焼成：良。 色調：褐色。	U型縫合一部を残して欠損。 流路Ⅱ・Ⅲ。
288	土 席 环	G-1 1 8 SE-1	口 径 10.4 器 高 4.3	底盤は平底に近くとなり、体部から口縁部にはねり接着を持つ。口縁部は底盤部に外側して立つ。やや浅く、断面形は扇形を呈する。	底体部外周面整形成、口縁部内外面横擴ナード。底盤内部には斜状のヘラミガナが見られる。	粘土・灰・細かい砂粒を含む。 焼成：良。 色調：褐色。	底盤似木葉底。 口縁部・底脚1/4欠損。 流路Ⅰ。
289	土 席 环	G-1 1 9 SE-1	口 径 11.7 器 高 4.7	底盤は丸底を呈し、体部は内側して立ち上がる。口縁部はやや傾いて立つ。やや浅く、断面形は扇形を呈する。	底体部外周面整形成、口縁部内外面横擴ナード。施は指標によるナード。	粘土・灰・細かい砂粒を含む。 焼成：良。 色調：淡褐色。	底盤似木葉底。 口縁部・底脚1/4欠損。 流路Ⅰ。
290	土 席 环	G-1 1 8 SW-2	口 径 10.9 器 高 5.3	底盤は丸底を呈し、体部は内側して立ち上がる。口縁部は底盤部のまま内側にして立つ。やや浅い器形。	同 上	粘土・灰・細かい砂粒を含む。 焼成：良。 色調：淡褐色。	完形。 流路Ⅰ。
291	土 席 环	G-1 1 8 SW-2	口 径 11.5 器 高 4.2	底盤は平底に近くとなり、体部は内側して立ち上がる。口縁部はやや傾いて立つ。やや浅く、断面形は扇形を呈する。	底体部外周面整形成、口縁部内外面横擴ナード。施は指標によるナード。	粘土・灰・細かい砂粒を含む。 焼成：良。 色調：淡褐色。	底盤似木葉底。 口縁部・底脚1/4欠損。 流路Ⅰ。
292	土 席 环	G-1 1 8 SW-1	口 径 10.9 器 高 4.3	底盤は丸底を呈し、体部は内側して立ち上がる。口縁部はやや傾いて立つ。やや浅く、断面形は扇形を呈する。	同 上	粘土・灰・細かい砂粒を含む。 焼成：良。 色調：淡褐色。	底盤似木葉底。 底盤部1/4欠損。 流路Ⅰ。
293	土 席 环	G-1 1 8 NE-2	口 径 12.1 器 高 4.7	底盤は平底に近くとなり、体部は内側して立ち上がり、そのまま口縁部に至る。	同 上	粘土・灰・細かい砂粒を含む。 焼成：やや不良。 色調：淡褐色。	底盤似木葉底。 口縁部・底脚1/4欠損。 流路Ⅰ。
294	土 席 环	F-1 1 6 SE-1	口 径 13.1 器 高 4.1	底盤は平底に近くとなり、体部から口縁部は内側にして立つ。やや浅く、断面形は扇形を呈する。	同 上	粘土・灰・細かい砂粒を含む。 焼成：やや不良。 色調：淡褐色。	底盤似木葉底。 口縁部・底脚1/4欠損。 流路Ⅰ。
295	土 席 环	G-1 1 8 SE-1	口 径 12.5 器 高 3.6	底盤は丸底を呈し、体部は内側して立ち上がる。口縁部は底盤部からそのままやや傾いて立つ。やや浅く、断面形は扇形を呈する。	同 上	粘土・灰・細かい砂粒を含む。 焼成：良。 色調：淡褐色。	底盤似木葉底。 口縁部・底脚1/4欠損。 流路Ⅰ。
296	土 席 环	G-1 1 8 SE-1	口 径 10.2 器 高 3.1	底盤は平底となり、体部から口縁部は内側にして立つ。やや浅く、断面形は扇形を呈する。	同 上	粘土・灰・細かい砂粒を含む。 焼成：やや不良。 色調：褐色。	底盤似木葉底。 口縁部・底脚1/4欠損。 流路Ⅰ。
297	土 席 环	G-1 1 8 SE-1	口 径 10.2 器 高 4.0	底盤は平底となり、体部から口縁部は内側にして立ち上がる。口縁部はやや内側にする。やや浅い器形。	同 上	粘土・灰・細かい砂粒を含む。 焼成：良。 色調：淡褐色。	底盤似木葉底。 完形。
298	土 席 环	F-1 1 7 SE-1	口 径 15.6 器 高 4.1	底盤は平底となり、そこから直角にして口縁部が外反して開くように立ち上がる。やや浅い器形。	底体部外周面整形成、口縁部内外面横擴ナード。底盤内部は指標による丁寧なナード。施は指標によるナード。	粘土・灰・細かい砂粒を多く含む。 焼成：良。 色調：淡褐色。	底盤似木葉底。 口縁部・底脚1/4欠損。 流路Ⅰ・Ⅱ。
299	土 席 环	F-1 1 7 SE-2	口 径 12.1 器 高 5.9	底盤は丸底を呈し、体部は内側して立ち上がり、そのまま口縁部に至る。口縁部は底盤部からそのままやや傾いて立つ。やや浅い器形。	底体部外周面整形成、口縁部内外面横擴ナード。施は指標によるナード。	粘土・やや粗・細かい砂粒を含む。 焼成：良。 色調：淡褐色。	底盤似木葉底。 口縁部・底脚1/4欠損。 流路Ⅰ・Ⅱ。
300	土 席 环	G-1 1 8 NW-1	口 径 (10.9) 器 高 6.2	底盤は丸底を呈し、体部は内側して立ち上がり、そのまま口縁部に至る。口縁部は外反して立つ。やや浅い器形。	同 上	粘土・灰・細かい砂粒を含む。 焼成：良。 色調：淡褐色。	底盤似木葉底。 口縁部・底脚1/3・2・3欠損。 流路Ⅰ。

第18表 土器觀察表 (16)

調査号	器種	グリット	計測値(cm)	形質の特徴	技法の特徴	焼七・焼成・色調	備考
301	土 耳 壺	G-1 1 8 NW-2	口 径 11.0 器 高 5.5	底部は平底に近くなり、体部は内側して立ち上りがある。口縁部は外側に突出する。口縁部と体部の境には接着を立つ。	底体部外周指壓整形、口縁部内外面削り。他は指捺によるナダ。	粘土：重、細かい砂粒を多く含む。 焼成：丸。 色調：淡褐色。	底部延び木葉底、 口縁部一側欠損。 底部延び木葉底、 口縁部1/3欠損。 底部延び木葉底、 口縁部1/4欠損。 底部延び木葉底、 口縁部1/3欠損。
302	土 耳 壺	G-1 1 8 SW-1	口 径 12.5 器 高 6.5	底部は平底に近くなり、やや膨らむ。体部は内側して立ち上り、口縁部との境には接着を立つ。口縁部は外側に突出する。	底体部外周指壓整形、口縁部内外面削り。他は指捺によるナダ。	粘土：粗、細かい砂粒を多く含む。 焼成：丸。 色調：褐色。	底部延び木葉底、 口縁部1/3欠損。 底部延び木葉底、 口縁部1/4欠損。 底部延び木葉底、 口縁部1/3欠損。
303	土 耳 壺	F-1 1 6 NE-1	口 径 13.2 器 高 6.0	底部は平底に近くなり、やや膨らむ。体部はそのまま内側して立ち上りする。口縁部との境には接着を立つ。口縁部は外側に突出する。	底体部外周指壓整形、口縁部内外面削り。他は指捺によるナダ。	粘土：重、細かい砂粒を多く含む。 焼成：丸。 色調：淡褐色。	底部延び木葉底、 口縁部1/3欠損。
304	土 耳 壺	G-1 1 8 SW-1	口 径 10.8 器 高 6.0	底部は平底に近くなり、体部が内側して立ち上りする。口縁部との境には接着を立つ。口縁部は外側に突出する。	同 上	粘土：重、細かい砂粒を多く含む。 焼成：丸。 色調：淡褐色。	底部延び木葉底、 口縁部1/3欠損。 底部延び木葉底、 口縁部1/4欠損。 底部延び木葉底、 口縁部1/3欠損。
305	土 耳 壺	G-1 1 8 SW-1	口 径 11.0 器 高 5.8	底部は平底となり、体部は内側して立ち上りがある。口縁部は体部から内側に突出する。	同 上	粘土：重、細かい砂粒を多く含む。 焼成：丸。 色調：淡褐色。	底部延び木葉底、 口縁部1/3欠損。
306	土 耳 壺	G-1 1 8 NE-2	口 径 13.0 器 高 6.8	底部は平底となり、内側して立ち上りがある。体部と口縁部の境には3条の凹線を持つ。口縁部は外側に、やや膨らんで立つ。	同 上	粘土：重、細かい砂粒を多く含む。 焼成：丸。 色調：淡褐色。	底部延び木葉底、 口縁部1/3欠損。
307	土 耳 壺	F-1 1 7 SE-2	口 径 13.7 器 高 7.2	底部は丸底を呈し、体部はそのまま内側して立ち上りする。口縁部との境には接着を持つ。口縁部はやや膨らみ、外側に突出する。(後・腹面)。	同 上	粘土：重、細かい砂粒を多く含む。 焼成：丸。 色調：淡褐色。	同 上
308	土 耳 壺	F-1 1 7 SW-2	口 径 12.0 器 高 7.5	底部は丸底を呈し、体部はそのまま内側して立ち上りする。口縁部との境には接着を持つ。口縁部は外側に突出する。	同 上	粘土：重、細かい砂粒を多く含む。 焼成：丸。 色調：淡褐色。	底部延び木葉底、 口縁部1/3欠損。
309	土 耳 壺	G-1 1 8 SW-1	口 径 13.4 器 高 7.0	底部は丸底を呈し、体部はそのまま内側して立ち上りする。体部と口縁部の境には接着を持つ。口縁部は外側に突出する。今や開く。	底体部外周面持ち手へラケツリ、口縁部内外面削り。他は指捺による丁寧なナダ。	粘土：重、細かい砂粒を多く含む。 焼成：丸。 色調：淡褐色。	同 上
310	土 耳 壺	G-1 1 8 NW-1	口 径 15.1 器 高 7.7	底部は平底に近くなり、体部は内側して立ち上りする。やや膨らむ。口縁部は外側に突出する。深い裂形。	底体部外周指壓整形、口縁部内外面削り。他は指捺による丁寧なナダ。	粘土：重、細かい砂粒を多く含む。 焼成：丸。 色調：淡褐色。	底部延び木葉底、 口縁部1/3欠損。
311	土 耳 壺	G-1 1 8 NE-2	口 径 13.0 器 高 6.4	底部は平底に近くなり、体部は内側して立ち上りする。口縁部との境には接着を持つ。口縁部は外側に突出する。今や開く。	底体部外周面持ち手へラケツリ、口縁部内外面削り。他は指捺によるナダ。	粘土：重、細かい砂粒を多く含む。 焼成：丸。 色調：淡褐色。	底部延び木葉底、 口縁部1/3欠損。
312	土 耳 壺	F-1 1 7 NE-1	口 径 (14.0) 器 高 6.1	底部は丸底を呈し、体部は内側して立ち上りする。口縁部との境には接着を持つ。口縁部は外側に突出する。大型の裂形。	底体部外周指壓整形、体部外周面持ち手へラケツリ、口縁部内外面削り。他は指捺によるナダ。	粘土：重、細かい砂粒を多く含む。 焼成：丸。 色調：淡褐色。	底部延び木葉底、 口縁部1/3欠損。
313	土 耳 壺	F-1 1 7 NE-1	口 径 11.4 器 高 13.6	底部は丸底を呈し、内側して立ち上りする。口縁部は外側に突出して、やや膨らくように立つ。大型の裂形。	底部から脚部外周指壓整形、脚部上半工具によるナダ。口縁部内外面削り。内側面から脚部へ傾斜によるナダ。指捺法のナダ。	粘土：重、細かい砂粒を多く含む。 焼成：丸。 色調：淡褐色。	底部延び木葉底、 脚部外周指壓整形、脚部上半工具によるナダ。口縁部内外面削り。内側面から脚部へ傾斜によるナダ。指捺法のナダ。
314	土 耳 壺	G-1 1 8 SE-1	口 径 14.4 器 高 7.3	底部は丸底を呈し、体部は内側して立ち上りする。やや膨らむ。口縁部との境には接着を持つ。口縁部は外側に、やや開くよう立つ。大型の裂形。	底部から脚部外周指壓整形、脚部内外面削り。他は指捺によるナダ。	粘土：重、細かい砂粒を多く含む。 焼成：丸。 色調：淡褐色。	同 上。
315	土 耳 壺	F-1 1 7 SE-2	口 径 14.3 器 高 8.8	底部は丸底を呈し、体部は内側して立ち上りする。やや膨らむ。口縁部との境には接着を持つ。口縁部は外側に、やや開くよう立つ。大型の裂形。	底部外周指壓整形、口縁部内外面削り。他は指捺によるナダ。	粘土：重、細かい砂粒を多く含む。 焼成：丸。 色調：淡褐色。	同 上。
316	土 耳 壺	F-1 1 7 SE-2	口 径 14.2 器 高 9.0	底部は平底に近くなり、体部は内側して立ち上りする。口縁部は外側に突出する。口縁部は外側に、やや開くよう立つ。	底部外周指壓整形、口縁部内外面削り。他は指捺によるナダ。	粘土：重、細かい砂粒を多く含む。 焼成：丸。 色調：淡褐色。	底部延び木葉底、 口縁部1/2欠損。
317	土 耳 壺 小柄輪底	F-1 1 7 SE-1	口 径 8.8 器 高 6.2 内側最大径 8.0	底部は平底に近くなり、内側して立ち上りする。口縁部は外側に突出する。口縁部は外側に、やや開くよう立つ。	底部から脚部外周指壓整形、脚部上半工具から脚部へ傾斜によるナダ。口縁部内外面削り。他は指捺による丁寧なナダ。	粘土：重、細かい砂粒を多く含む。 焼成：丸。 色調：淡褐色。	底部延び木葉底、 1/2欠損。
318	土 耳 壺 小柄輪底	F-1 1 7 SE-1	口 径 9.0 器 高 6.8 内側最大径 10.1	底部は丸底を呈し、内側して立ち上りする。口縁部は外側に突出する。口縁部は外側に、やや開く。	底部から脚部外周指壓整形、脚部上半工具から脚部へ傾斜によるナダ。口縁部内外面削り。他は指捺による丁寧なナダ。	粘土：重、細かい砂粒を多く含む。 焼成：丸。 色調：淡褐色。	底部延び木葉底、 口縁部1/3、脚部一 脚欠損。
319	土 耳 壺 小柄輪底	G-1 1 8 SW-1	口 径 9.4 器 高 8.0 内側最大径 10.0	底部は平底に近くなり、内側して立ち上りする。口縁部は外側に突出する。口縁部は外側に、やや開くよう立つ。	底部外周指壓整形、口縁部内外面削り。他は指捺による丁寧なナダ。	粘土：重、細かい砂粒を多く含む。 焼成：丸。 色調：淡褐色。	底部延び木葉底か？ 底部延び木葉底。
320	土 耳 壺 小柄輪底	F-1 1 6 NE-1	口 径 8.9 器 高 10.3 内側最大径 11.3	底部は平底に近くなり、内側して立ち上りする。口縁部は外側に突出する。口縁部は外側に、やや開く。	底部外周指壓整形、口縁部内外面削り。他は指捺による丁寧なナダ。	粘土：重。 焼成：丸。 色調：淡褐色。	底部延び木葉底、 口縁部1/3、脚部一 脚欠损。

第19表 土器観察表 (17)

番号	器種	グリット	計測値 (cm)	形態の特徴	技法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
321	土器	G-1 1 8 SE-1	口 径 7.9 高 7.2 最大径 10.4	底盤は平底に近くなり、側部は内側へとぞら上がる。外縁と口縁部の間に斜めに溝を2つ。口縁部より内傾して立つ。	底盤部外周面斜削形。口縁部内外面削り。底盤部内側は手持ちヘラケズリ。	胎土: 黒。砂粒を多く含む。 焼成: 高温。 地質: 灰白色。	底盤部本來黒。はげ完剥。底跡目。
322	土 壺	G-1 1 9 NW-2	口 径 10.7 高 10.3 側面最大径 13.6	底盤は平底を呈し、側部は底盤の高さに立ちます。口縁部は弧く、底盤す。	底盤部外周面斜削形。底盤部内側は手持ちヘラケズリ。口縁部内外面削り。底盤部内側は手持ちヘラケズリ。	胎土: やや粗。砂粒を多く含む。 焼成: 高温。 地質: 灰白色。	胎土: 黑。腰部分が3次脚。底跡目。
323	土 壺	F-1 1 7 SE-1	口 径 13.9 高 12.5 側面最大径 13.6	底盤は平底を呈し、側部はやや膨らみます。口縁部は斜めに外側へとぞら上がる。	側部外周面斜削形。底盤部内側は手持ちヘラケズリ。口縁部内外面削り。底盤部内側は手持ちヘラケズリ。	胎土: やや粗。砂粒を多く含む。 焼成: 高温。 地質: 灰白色。	底盤部本來黒。はげ完剥。底跡目。
324	土 壺	G-1 1 8 SW-1	口 径 10.3 高 12.9 側面最大径 13.3	底盤は平底に近くなり、側部は底盤部を呈する。底盤部は「く」の字状に外側へとぞら上がる。	側部外周面斜削形。底盤部内側は手持ちヘラケズリ。底盤部内側は手持ちヘラケズリ。	胎土: 黒。砂粒を多く含む。 焼成: 高温。	底盤部本來黒。はげ完剥。底跡目。
325	土 壺	G-1 1 8 SW-2	口 径 (9.2) 高 12.3 側面最大径 (12.7)	底盤は平底に近くなり、側部は底盤部を呈する。口縁部は弧く、底盤す。	側部外周面斜削形。底盤部内側は手持ちヘラケズリ。口縁部内外面削り。底盤部内側は手持ちヘラケズリ。	胎土: 黒。細かい砂粒を多く含む。 焼成: 高温。	底盤部本來黒。はげ完剥。底跡目。
326	土 壺	F-1 1 7 SE-1	口 径 8.5 高 12.8 側面最大径 17.0	底盤は平底に近くなり、側部は底盤部を呈する。口縁部は弧く、底盤す。	側部外周面斜削形。底盤部内側は手持ちヘラケズリ。口縁部内外面削り。底盤部内側は手持ちヘラケズリ。	胎土: 黑。細かい砂粒を多く含む。 焼成: 高温。	はげ完剥。底跡目。
327	土 壺	G-1 1 9 SE-2	口 径 10.6 高 8.0 ?	耳部は底盤から口縁部へとゆるやかに内傾して立ち上がる。やや厚壁。	耳部の底盤部外周面斜削形。口縁部内外面削り。底盤部内側は手持ちヘラケズリ。口縁部内外面削り。底盤部内側は手持ちヘラケズリ。	胎土: やや粗。細かい砂粒を多く含む。 焼成: 高温。	口縫跡目。耳部欠損。底跡目。
328	土 壺	G-1 1 8 SW-1	口 径 18.0 高 20.5 側面最大径 29.3	底盤は平底を呈し、口縁部は側部より側面へとぞら上がる。底盤部内側は手持ちヘラケズリ。	側部外周面斜削形。底盤部内側は手持ちヘラケズリ。底盤部内側は手持ちヘラケズリ。	胎土: 黑。細かい砂粒を多く含む。 焼成: 高温。	底盤部下以下欠損。底跡目。
329	土 壺	G-1 1 8 SW-2	口 径 19.5 高 19.5 側面最大径 28.5	底盤は平底を呈し、口縁部は側部から側面へとぞら上がる。口縁部の内側が肥厚する。	側部外周面斜削形。底盤部内側は手持ちヘラケズリ。底盤部内側は手持ちヘラケズリ。	胎土: 黑。細かい白色砂粒を含む。 焼成: やや低温。	口縫跡目。耳部缺損。底跡目。
330	土 壺	G-1 1 9 SW-2	口 径 (21.0) 高 19.5 側面最大径 (29.3)	底盤は平底に近くなり、側部は底盤部を呈する。口縁部は側部から側面へとぞら上がる。口縁部は平らに底へとぞら上がる。側部は側面に肥厚する。	側部外周面斜削形。底盤部内側は手持ちヘラケズリ。底盤部内側は手持ちヘラケズリ。	胎土: 黑。細かい砂粒を含む。 焼成: 高温。	近部及び側部から底盤部の外周面が分離。側部の外周面が剥離する。底盤部の外周面が剥離する。
331	土 壺	G-1 1 8 SW-1	口 径 (20.5) 高 30.2 側面最大径 30.2 底 径 8.7	底盤は平底を呈し、側部は底盤部を呈する。口縁部は側部から側面へとぞら上がる。口縁部は平らに底へとぞら上がる。側部は側面に肥厚する。口縁部は底盤部内側に凹み立つ。	側部外周面斜削形。底盤部内側は手持ちヘラケズリ。底盤部内側は手持ちヘラケズリ。	胎土: やや粗。細かい砂粒を含む。 焼成: 高温。	近部本來黒。底盤部本來黒。口縫跡目。耳部欠損。底盤部外周面が剥離する。
332	土 壺	G-1 1 8 SW-2	口 径 19.4 高 20.5 側面最大径 30.5 底 径 8.4	底盤は平底を呈し、側部は底盤部を呈する。口縁部は側部から側面へとぞら上がる。口縁部は平らに底へとぞら上がる。側部は側面に肥厚する。口縁部は底盤部内側に凹み立つ。	側部外周面斜削形。底盤部内側は手持ちヘラケズリ。底盤部内側は手持ちヘラケズリ。	胎土: やや粗。細かい砂粒を含む。 焼成: 高温。	底盤部本來黒。口縫跡目。耳部欠損。底盤部外周面が剥離する。
333	土 壺	G-1 1 8	口 径 (27.3) 高 38.0 側面最大径 40.6	底盤は平底を呈し、側部は底盤部を呈する。口縁部は側部から側面へとぞら上がる。口縁部は平らに底へとぞら上がる。側部は側面に肥厚する。	側部外周面斜削形。底盤部内側は手持ちヘラケズリ。底盤部内側は手持ちヘラケズリ。	胎土: やや粗。細かい砂粒を含む。 焼成: 高温。	底盤部本來黒。口縫跡目。耳部欠損。底盤部外周面が剥離する。
334	土 壺	G-1 1 8 F-1 1 7 SE-1	口 径 22.0 高 20.7 側面最大径 (31.1) 底 径 10.0	底盤は平底を呈し、側部は底盤部を呈する。口縁部は側部から側面へとぞら上がる。口縁部は平らに底へとぞら上がる。側部は側面に肥厚する。	側部外周面斜削形のハケ口調査。底盤部内側は手持ちヘラケズリ。	胎土: やや粗。細かい砂粒を含む。 焼成: 高温。	底盤部本來黒。口縫跡目。耳部欠損。底盤部外周面が剥離する。
335	土 壺	G-1 1 8 SW-1	口 径 26.1 高 27.0 側面最大径 31.5 底 径 8.3	底盤は平底を呈し、側部は底盤部を呈する。口縁部は側部から側面へとぞら上がる。口縁部は平らに底へとぞら上がる。側部は側面に肥厚する。口縁部は底盤部内側に凹み立つ。	側部外周面斜削形のハケ口調査。底盤部内側は手持ちヘラケズリ。底盤部内側は手持ちヘラケズリ。	胎土: やや粗。細かい砂粒を含む。 焼成: 高温。	底盤部本來黒。側面一部剥離。底跡目。
336	土 壺	F-1 1 7 SE-1	口 径 16.7 高 20.8 側面最大径 21.0 底 径 8.0	底盤は平底を呈し、側部は底盤部を呈する。口縁部は側部から側面へとぞら上がる。口縁部は平らに底へとぞら上がる。側部は側面に肥厚する。小型の底盤である。	側部外周面斜削形のハケ口調査。底盤部内側は手持ちヘラケズリ。	胎土: やや粗。細かい砂粒を含む。 焼成: 高温。	底盤部本來黒。口縫跡目。耳部欠損。底盤部外周面が剥離する。
337	土 壺	F-1 1 7 NB-1	口 径 16.9 高 7.7 側面最大径 23.8 底 径 (9.0)	底盤は平底を呈し、側部は底盤部を呈する。口縁部は側部から側面へとぞら上がる。口縁部は平らに底へとぞら上がる。側部は側面に肥厚する。小型の底盤である。	側部外周面斜削形のハケ口調査。底盤部内側は手持ちヘラケズリ。底盤部内側は手持ちヘラケズリ。	胎土: やや粗。細かい砂粒を含む。 焼成: 高温。	底盤から脚部/3脚残存。底跡目。耳部欠損。
338	土 壺	F-1 1 7 NE-1	口 径 7.7 高 7.7 側面最大径 9.0	底盤は平底を呈し、側部は底盤部を呈する。口縁部は側部から側面へとぞら上がる。口縁部は平らに底へとぞら上がる。側部は側面に肥厚する。小型の底盤である。	底盤部内側は手持ちヘラケズリ。底盤部内側は手持ちヘラケズリ。	胎土: 黑。細かい砂粒を含む。 焼成: 高温。	ロクロ右回転。1/2欠損。底盤部外周面に自然剥離が見られる。
339	土 壺	D-1 2 1 SP0 3.5	口 径 11.2 高 18.7 側面最大径 13.8	底盤は平底を呈し、側部は底盤部を呈する。口縁部は側部から側面へとぞら上がる。口縁部は平らに底へとぞら上がる。側部は側面に肥厚する。小型の底盤である。	底盤部内側は手持ちヘラケズリ。底盤部内側は手持ちヘラケズリ。	胎土: 黑。細かい砂粒を含む。 焼成: 高温。	ロクロ右回転。1/2欠損。底盤部外周面に自然剥離が見られる。
340	土 壺	G-1 1 4 SD0 4.9	口 径 7.5 高 7.7 側面最大径 9.0	底盤は平底を呈し、側部は底盤部を呈する。口縁部は側部から側面へとぞら上がる。口縁部は平らに底へとぞら上がる。側部は側面に肥厚する。	底盤部外周面斜削形のハケ口調査。底盤部内側は手持ちヘラケズリ。	胎土: 黑。細かい砂粒を含む。 焼成: 高温。	ロクロ右回転。1/2欠損。底盤部外周面に自然剥離が見られる。

第20表 土器觀察表 (18)

器番号	基 標	グリット	計測値 (cm)	形 異 の 特 徴	技 法 の 特 徴	鉢七・焼成・色調	備 考
341	土 壁 磁 瓶	G-H-113 SD 0.54	口 径 10.1 高 7	腹部は丸底を持ち、口縁部は腹部より弧度高く、直脚的に外方に傾く。	腹部外面上半手持らへラケズリ。口縫部直脚ナシ。脚部内面直脚によるナナ、脚部直脚が見られる。	鉢上: 黒、細かい砂粒を多く含む。 直脚: 黑、直脚。 色調: 淡白。	直脚全表面、直脚の一部粗粒。
342	直 筒 瓶	G-H-115 SD 0.56	口 径 (8.9) 高 3.3 底大径 (10.6)	底部は丸底を有する。腹部は小さく、立ち上がりは短く内側する。	直筒外表面直脚へラケズリ。脚部内面直脚。	鉢上: 黑、細かい砂粒を多く含む。 直脚: 直脚合む。 色調: 黑。	ロクロ右側面、口縫部、体部1/4、直脚2/3焼存。
343	土 線 瓶	G-H-115 SD 0.56	口 径 (11.4) 高 4.2	腹部は直底に近くなり、体部と口縫部の境には弱い棱を持つ。口縁部は腹部より弧度高く、直脚的に外方に傾くよう立つ。	直筒外表面直脚、口縫部内外直脚ナナ。脚部内面直脚によるナナ。直脚直立に見られる。	鉢上: 黑、細かい砂粒を多く含む。 直脚: 直脚。 色調: 黑。	直脚中央を除き1/3焼存。
344	直 筒 瓶	G-H-113 SD 0.51	口 径 (13.1) 高 5.7	天井部は平底となり、口縫部は下方や外方に傾む。全体に直底な形状。	天井部外表面直脚へラケズリ。後は直筒ナナ。直筒外表面直脚によるナナ。直脚直立に見られる。	鉢上: 黑、砂粒を多く含む。 直脚: やや不良。 色調: 黑。	ロクロ右側面不規則、口縫部の一部、天井部の1/2焼存。
345	直 筒 瓶	G-H-113 SD 0.51	口 径 14.5 高 3.8	大容器は平底となり、口縫部は下方や外方に傾む。全体に直底な形状。	天井部外表面直脚へラケズリ。後は直筒ナナ。直筒外表面直脚によるナナ。直脚直立に見られる。	鉢上: 黑、細かい砂粒を多く含む。 直脚: 直脚。 色調: 淡灰。	ロクロ右側面、1/6焼残。
346	直 筒 瓶?	G-H-113 SD 0.51	口 径 (15.0) 高 ?	颈部の内部は内側にして立ち上がる。口縫部は外側的に平底となる。やや厚手。	直筒ナナ直脚。	鉢上: 黑、細かい砂粒を多く含む。 直脚: 直脚。 色調: 黑。	直筒部右端部1/3焼部1/6焼残、外腹直脚。
347	J. 筒 瓶	G-H-113 SD 0.51	口 径 (14.6) 高 7	底部は丸底を呈し、体部と口縫部の境には弱い棱を持つ。口縫部は外方底にしてやや傾いて立つ。	直筒外表面直脚整形。山根部内外直脚ナナ。後は直筒によるナナ。	鉢上: 黑、細かい砂粒を多く含む。 直脚: 直脚。 色調: 黑。	直筒部右端部1/3焼部1/6焼残。
348	上 筒 瓶	G-H-113 SD 0.51	口 径 (13.9) 高 4.9	底部は丸底を呈し、体部と口縫部の境には弱い棱を持つ。口縫部は外方底にしてやや傾いて立つ。	直筒上	鉢上: 黑、細かい砂粒を多く含む。 直脚: やや不良。 色調: 淡灰。	直筒部右端部、口縫部、体部2/3焼存。
349	上 筒 瓶	G-H-113 SD 0.51	口 径 (14.6) 高 4.4	底部は平底に近くなり、体部と山根部の境には弱い棱を持つ。口縫部は外方底にしてやや傾いて立つ。全体に直底な形状。	直筒外表面直脚整形。山根部内外直脚ナナ。後は直筒によるナナ。	鉢上: 黑、砂粒を多く含む。 直脚: 直脚。 色調: 淡灰。	直筒部右端部、直脚。
350	土 筒 瓶	G-H-113 SD 0.51	口 径 (14.1) 高 4.7	底部は丸底を呈し、体部と口縫部の境には弱い棱を持つ。口縫部は外方底にしてやや傾いて立つ。全体に直底な形状。	直筒上	鉢上: 黑、細かい砂粒を多く含む。 直脚: やや不良。 色調: 淡灰。	直筒部右端部、1/3焼部1/6焼残、直筒部1/2焼存。
351	上 筒 瓶	G-H-113 SD 0.51	口 径 (13.7) 高 4.3	底部は丸底を呈し、体部と口縫部の境には弱い棱を持つ。口縫部は外方底にしてやや傾いて立つ。全体に直底な形状。	直筒上	鉢上: 黑、細かい砂粒を多く含む。 直脚: 直脚。 色調: 淡灰。	直筒部右端部、山根部1/3焼部1/6焼残。
352	上 筒 瓶	G-H-113 SD 0.51	口 径 13.5 高 5.5	底部は丸底を呈し、体部と口縫部の境には弱い棱を持つ。口縫部は外方底にしてやや傾いて立つ。全体に直底。	直筒外表面直脚整形。山根部内外直脚ナナ。直筒部内面へラケズリによるナナ。	鉢上: 黑、細かい砂粒を多く含む。 直脚: 直脚。 色調: 淡灰。	直筒部右端部、直筒部1/2、直筒部1/3焼存。
353	土 筒 瓶	G-H-113 SD 0.51	口 径 (13.0) 高 4.9	底部は平底に近くなり、体部と口縫部の境には弱い棱を持つ。口縫部は外方底にしてやや傾いて立つ。	直筒外表面直脚整形。山根部内外直脚ナナ。後は直筒によるナナ。	鉢上: 黑、細かい砂粒を多く含む。 直脚: 直脚。 色調: 淡灰。	直筒部右端部、1/3焼部1/6焼残。
354	上 筒 瓶	G-H-113 SD 0.51	口 径 (2.0) 高 (4.8)	底部は平底に近くなり、体部と山根部の境には弱い棱を持つ。山根部は外方底にしてやや傾いて立つ。やや薄い。	直筒上	鉢上: 黑、細かい砂粒を多く含む。 直脚: 直脚。 色調: 淡灰。	直筒部右端部、直筒部1/2、直筒部1/3焼存。
355	土 筒 瓶	G-H-113 SD 0.51	口 径 11.9 高 4.7	底部は平底に近くなり、体部と口縫部の境には弱い棱を持つ。口縫部は外方底にして直する。	直筒外表面直脚整形。口縫部内外直脚ナナ。後は直筒によるナナ。	鉢上: 黑、細かい砂粒を多く含む。 直脚: 直脚。 色調: 淡灰。	直筒部右端部、直筒部1/2、直筒部1/3焼存。
356	土 筒 瓶	G-H-113 SD 0.51	口 径 (10.2) 高 5.8	底部は平底に近くなり、やや厚む。体部と口縫部の境には弱い棱を持つ。口縫部は外方底にして立つ。浅い基部。	直筒外表面手持らへラケズリ。口縫部内外直脚ナナ。後は直筒によるナナ。	鉢上: 黑、細かい砂粒を多く含む。 直脚: 直脚。 色調: 淡明褐色。	直筒部右端部、直筒部1/2、直筒部1/3焼存。
357	上 筒 瓶	G-H-113 SD 0.51	口 径 (12.4) 高 3.9	底部は平底を呈し、やや厚む。体部と口縫部の境には弱い棱を持つ。口縫部は外方底にして立つ。浅い基部。	直筒外表面直脚整形。口縫部内外直脚ナナ。直筒部内面直脚によるナナ。直筒部直脚によるナナ。	鉢上: 黑、砂粒多く含む。 直脚: 直脚。 色調: 淡灰。	直筒部右端部、直筒部1/2、直筒部1/3焼存。
358	土 筒 瓶	G-H-113 SD 0.51	口 径 11.4 高 4.3	底部は丸底を呈し、体部と口縫部の境には弱い棱を持つ。口縫部は外方底にして立つ。	直筒外表面直脚整形。口縫部内外直脚ナナ。後は直筒によるナナ。	鉢上: 黑、細かい砂粒を多く含む。 直脚: 直脚。 色調: 淡灰。	直筒部右端部、直筒部1/2、直筒部1/3焼存。
359	土 筒 瓶	G-H-113 SD 0.51	口 径 11.5 高 4.7	底部は平底に近くなり、体部と口縫部の境には弱い棱を持つ。口縫部は外方底にして立つ。	直筒外表面直脚整形。口縫部内外直脚ナナ。後は直筒によるナナ。	鉢上: 黑、細かい砂粒を多く含む。 直脚: 直脚。 色調: 淡灰。	直筒部右端部、直筒部1/2、直筒部1/3焼存。
360	土 筒 瓶	G-H-113 SD 0.51	口 径 (11.0) 高 (3.7)	底部は平底に近くなり、体部はやや内側にして立ち上がる。口縫部は短く、内側傾斜にせん。	直筒上	鉢上: 黑、細かい砂粒を多く含む。 直脚: やや不良。 色調: 淡灰。	直筒部右端部、直筒部中央を除き1/4焼存。

第21表 土器観察表 (19)

図面番号	器種	グリット	計測値 (cm)	形態の特徴	社法の特徴	粉土・焼成・色調	備考
361	土 耳 环	G-H-113 SD051	口 径 (14.7) 厚 高 5.0	底盤は平底になり、体部は内側にして立ち上がり。口縁部は幅く短く、内輪裏味に立つ。全体に丸い器形。	底盤部外周部微弱膨らみ。口縁部内外面擴大ナード。底盤内面放射状のヘラミキが見られる。	粘土: 宅、砂粒・石英粒を含む。 焼成: やや不良。 色調: 淡白色。	白粉部1/4、体部1/3、底盤3/4残存。
362	七 鍋 罐	G-H-113 SD051	口 径 (16.1) 厚 高 5.2	底盤は平底に近くなり、体部は内側にして立ち上がる。口縁部は幅く短く、内輪裏味に立つ。全体に丸い器形。	底盤部外周部微弱膨らみ。口縁部内外面擴大ナード。底盤内面放射状のヘラミキが見られる。	粘土: 宅、細かい砂粒を多く含む。 焼成: 良。 色調: 白。	底部堅板本底底、 口縫部1/4、全体部2/3残存。
363	土 耳 环	G-H-113 SD051	口 径 (16.7) 厚 高 (5.4)	底盤は丸底に近くし、全体は内側にして立ち上がる。口縁部は幅く短く、内輪裏味に立つ。全体に丸い器形。	底盤部外周部微弱膨らみ。口縁部内外面擴大ナード。底盤内面放射状のヘラミキが見られる。	粘土: 宅、細かい砂粒を多く含む。 焼成: 不良。 色調: 可も淡褐色。	底部堅板本底底、 1/2残存。
364	土 耳 环	G-H-113 SD051	口 径 (13.7) 厚 高 4.8	底盤は平底に近くなり、体部は内側にして立ち上がる。口縁部は幅く短く、内輪裏味に立つ。全体に丸い器形。	底盤部外周部微弱膨らみ。口縁部内外面擴大ナード。底盤内面放射状のヘラミキが見られる。	粘土: 宅、細かい砂粒を多く含む。 焼成: 良。 色調: 白。	底部堅板本底底、 口縫部1/4、全体部2/3、底部1/4残存。
365	土 耳 环	G-H-113 SD051	口 径 (14.7) 厚 高 5.7	底盤は平底に近くなり、体部は内側にして立ち上がる。口縁部は幅く短く、内輪裏味に立つ。全体に丸い器形。	底盤部外周部微弱膨らみ。口縁部内外面擴大ナード。底盤内面放射状のヘラミキが見られる。	粘土: 宅、砂粒を多く含む。 焼成: やや不良。 色調: 白。	底部堅板本底底、 口縫部1/2、全体部2/3、底部1/4残存。
366	上 缘 罐 盖	G-H-113 SD051	口 径 10.6 厚 高 7.3 柄部最大径 11.7	底盤は平底に近くなり、体部は内側にして立ち上がる。口縁部は幅く短く、内輪裏味に立つ。全体に丸い器形。	底盤部外周部微弱膨らみ。口縁部内外面擴大ナード。底盤内面放射状のヘラミキが見られる。	粘土: 宅、細かい砂粒を多く含む。 焼成: 良。 色調: 白。	底部堅板本底底、 口縫部1/3残存、 表面は氯化し難い。
367	土 耳 罐 盖	G-H-113 SD051 柄部最大径 11.6	口 径 (10.3) 厚 高 7.0	底盤は丸底を持ち、口縁部はそのまま内側に折る形で立つ。	底盤部外周部微弱膨らみ。口縁部内外面擴大ナード。底盤内面放射状のヘラミキが見られる。	粘土: 宅、細かい砂粒を多く含む。 焼成: 良。 色調: 白。	口縫部・底部1/4残存。
368	土 耳 罐 高 等?	G-H-113 SD051	口 径 (9.4)	高井の脚跡か? テッパ法に閉く。	摩滅のためはっきりしない。	粘土: 宅、細かい砂粒を多く含む。 焼成: やや不良。 色調: 淡灰色。	脚部1/4残存。
369	土 耳 罐	G-H-113 SD051	口 径 (17.0) 厚 高 ?	口縁部は斜面より「く」の字形に削りして外方に開く。口縁部は手作と見られ、内側に擦き出されるように肥厚する。	脚部外側ハケ豆調整。口縁部内外面擴大ナード。内側は斜面のハケ豆調整。	粘土: 宅、細かい砂粒を多く含む。 焼成: 良。 色調: 淡灰色。	口縫部1/2残存。
370	土 耳 罐	G-H-113 SD051	口 径 (17.7) 厚 高 ?	口縁部は斜面より「く」の字形に削りして外方に開いて立つ。口縁部は手作と見られるが内側にやや追加的削く。口縫部は	脚部外側面のハケ豆調整。口縁部内外面擴大ナード。内側は斜面のハケ豆調整。	粘土: 宅、細かい砂粒を多く含む。 焼成: やや不良。 色調: 白。	口縫部1/4、脚部一部残存、 表面は氯化している。
371	土 耳 罐	G-H-113 SD051	口 径 (20.0) 厚 高 ?	口縁部は平底となり、断面逆卵形を呈する。	脚部外側面のハケ豆調整。口縁部内外面擴大ナード。内側は斜面のハケ豆調整。	粘土: 宅、砂粒・石英粒を含む。 焼成: 良。 色調: 淡灰色。	脚部一部残存。
372	便 息 罐	H-I-112 SX010	胸 部 大 瓶 17.6	脚部は吹形を呈する。	脚部表面吹形ハケ豆調整。脚部内側は外側にまで未焼成。	粘土: 細密、細かい砂粒を多く含む。 焼成: 良。 色調: 淡灰色。	口縫部1/4、脚部多く残存、 自然物伴存。
373	便 息 罐	H-I-112 SX010	口 径 (16.4) 厚 高 ?	脚部は大きく膨らみ、口縁部は斜面より「く」の字形に削りて、外方に開く。	脚部内側面吹形ハケ豆調整。脚部内側は外側にまで未焼成。	粘土: 細密、細かい砂粒を含む。 焼成: 良。 色調: 淡灰色。	脚部1/3、脚部上部一部残存。
374	土 耳 罐	H-I-112 SX010	口 径 (11.3) 厚 高 5.2	底盤は丸底を持ち、体部は内側にして立ち上がる。口縁部は斜面より「く」の字形に削りして外方に開く。口縫部は内側に削り落され、肥厚する。	脚部外側面手打ちハケ豆調整。口縁部内外面擴大ナード。底盤内面放射状のヘラミキが見られる。	粘土: 細密、細かい砂粒を含む。 焼成: 良。 色調: 淡灰色。	口縫部・体部2/3、底部1/3残存。
375	土 耳 罐	H-I-112 SX010	口 径 (15.9) 厚 高 7.2	底盤は丸底に近くし、体部は内側にして立ち上がる。口縁部は斜面より「く」の字形に削りして外方に開く。	脚部外側面手打ちハケ豆調整。脚部のハケ豆は細い。口縫部横狭ナード。脚部内側面放射状のヘラミキが見られる。	粘土: 宅、砂粒を多く含む。 焼成: 良。 色調: 淡灰色。	底部堅板本底底、 口縫部1/3、脚部2/3、底部1/4、底部残存。
376	上 缘 罐 盖	H-I-112 SX010	口 径 (22.0) 厚 高 ? 柄部最大径 21.3	脚部は膨らみを持ち、口縁部は斜面より「く」の字形に削りして、外方に開く。口縫部は内側に削り落され、肥厚する。	脚部外側面手打ちハケ豆調整。脚部のハケ豆は細い。口縫部横狭ナード。脚部内側面放射状のヘラミキが見られる。	粘土: 宅、細かい砂粒・石英粒を含む。 焼成: やや不良。 色調: 淡灰色。	口縫部1/7、脚上部一部残存、 外縫部化粧材。
377	土 耳 罐 盖	H-I-112 SX010	口 径 (13.6) 厚 高 ? 柄部最大径 21.3	脚部は膨らみを持ち、口縁部は斜面より「く」の字形に削りして、外方に開く。その後各S字形に削り落す。口縫部は内側に削り落され、肥厚する。	脚部外側面手打ちハケ豆調整。脚部のハケ豆は細い。口縫部横狭ナード。脚部内側面放射状のヘラミキが見られる。	粘土: 宅、細かい砂粒・石英粒を含む。 焼成: やや不良。 色調: 淡灰色。	口縫部1/5、脚上部一部残存。
378	上 缘 罐 盖	H-I-112 SX010	口 径 (16.1) 厚 高 7.7 柄部最大径 21.3	脚部外縫形を呈し、やや上位が鋸歯。口縁部は斜面より「く」の字形に削りして、外方に開く。口縫部は内側に削り落され、肥厚する。	脚部外側面手打ちハケ豆調整。脚部のハケ豆は細い。口縫部横狭ナード。脚部内側面放射状のヘラミキが見られる。	粘土: 宅、細かい砂粒・石英粒を含む。 焼成: やや不良。 色調: 淡灰色。	口縫部1/5、脚部1/4残存。
379	便 息 罐	H-I-112 全 金 屋	口 径 (4.4) 厚 高 4.1	天井部は平底に近くなり、口縫部は下位に傾いて立つ。口縫部はやや瘦いて下方に傾ける。口縫部は内側が光底狀に覆る。	天井部は天井中央部吹形ハケ豆。天井部は斜面より「く」の字形に削りて立つ。口縫部横狭ナード。	粘土: 宅、細かい砂粒を含む。 焼成: 良好。 色調: 淡灰色。	ロウ左側面、 口縫部1/2残存。
380	瓶 扇 形	G-I-115 金 屋	口 径 11.6 厚 高 4.0	大骨部は丸底を持ち、天井部と口縫部には接着を持つき。口縫部はやや瘦いて下方に傾ける。口縫部は内側が光底狀に覆る。	天井部外側面吹形ハケ豆調整。天井部は斜面より「く」の字形に削りて立つ。口縫部横狭ナード。	粘土: やや粗、細かい砂粒を多く含む。 焼成: 良好。 色調: 淡灰色。	ロウ左側面、 口縫部1/3残存。

第22表 土器観察表(20)

団番号	目 標	グリット	計測値 (cm)	形 異 の 特 徴	技 法 の 特 徴	紹土・焼成・色調	備 考
351	束 帯 环	G-115 包 合 帯	口 径 8.5 高 3.1	両面部は丸味を持ち、口縁部はそのままやや傾いて下方に及びる。小形の特徴。	火井部外側中央斜面へラケズリ、後部腹によるテナ、他は指輪ナナテ。	紹土：細粒。 焼成：良好。 色調：青灰色。	口縁部1/2欠損。
352	颈 环	H-111 包 合 帶	口 径 8.6 高 7.7 底径 10.9	体部は丸味を持ち、受部は幅くびく、外やや上方に膨らむ。立ち上がり部は鋭く、外反状態に内傾して立つ。	残存する部分は全体に削輪ナナテ削型。	紹土：細粒。 焼成：良好。 色調：灰色。	ロクロ剥離不規。体部から立ち上がり部が研磨。
353	腹 环	G-111 包 合 帯	口 径 16.3 高 11.7 底径 10.1	体部は丸味を持った刃で立ち上がる。腹部はカーブで窪む。底部は下方に凹曲する。縁部中央に比較的1孔状態。	縁部底部外側同様へラケズリ。他は削輪ナナテ削型。	紹土：細粒、頗るかい砂 焼成：良好。 色調：灰黑色。	ロクロ古田形。腹部窪み、縁部削輪1/4欠損。自然施作者。
354	颈 环	G-111 包 合 帯	底径 12.7 高 7.7	断面は丸味を有するが、基部中央が平坦となる。肩部に一対等半柱状の内縫孔と上端に張り付けられる。	腹部外側裏側斜面へラケズリ。他は削輪ナナテ削型。	紹土：細粒。 焼成：良好。 色調：灰黑色。	ロクロ古田形。腹部窪み、口縁部1/4欠損。自然施作者。
355	土 袋 环	H-111 包 合 帶	口 径 15.8 高 5.9	底部は平面に近く、体部は内側し立ち上がる。口縁部はそのままやや内傾する形で立つ。	表面の厚感が強いためはっきりしない。	紹土：粘土。 焼成：良。 色調：灰褐色。	底部延長本量底1/2欠損。
356	上 頸 环	H-111 包 合 帶	口 径 9.5 高 5.3	底部は平面に近くなり、体部は内側し立ち上がる。口縁部はそのまま立直する形となる。	体部外側手物ちへラケズリ、口縁部削子。他は指輪によるナナテ削型。	紹土：粘土、砂粒を多く含む。 焼成：やや不良。 色調：明暗褐色。	直部延長本量底、口縁部1/4欠損。
357	土 袋 环	H-111 包 合 帶	口 径 14.0 高 4.3	底部は半圓に近くなり、体部は斜め上方に立ち上がる。口縁部は斜め上方に立直る形となる。	体部外側指輪形、口縁部削ナナ。他は指輪によるナナテ。	紹土：やや粗、砂粒を多く含む。 焼成：やや不良。 色調：灰。	底部延長本量底1/2縁部第一大穴欠損。
358	土 頸 环	H-111 包 合 帶	口 径 (12.3) 高 (8.7) 底径 16.7	断面延長に丸味を持ち、口縁部は大きめに反してやく、脚部・底部は斜めを呈し、自然に山かって大きく開く。	全体に指輪形、口縁部削及び脚部削ナナ。	紹土：やや粗、頗るかい砂粒を多く含む。 焼成：やや不良。 色調：明るい淡灰色。	縫隙2/3、脚部削輪1/4欠損。
359	土 頸 环	H-111 包 合 帶	口 径 (4.3) 高 10.8 底径 11.4	底部は平面に近くなり、断面は断面の形となる。口縁部はやや斜めにやや傾いて立つ。	脚部外側下半部分へラケズリ、上半部分のへラナナ。口縁部削ナナ。他は指輪によるナナテ。	直部延長本量底。 口縁部1/4、脚部1/3、底部1/2欠損。	
360	上 頸 环	H-111 包 合 帶	口 径 10.6 高 10.3 底径 大径 12.4	底部は平面に近くなり、脚部は斜めな形状を呈する。口縁部は外反状態にやや傾いて立つ。	底部から脚部外側下半部分へラケズリ。口縁部削ナナ。他は指輪によるナナテ。	紹土：やや粗、砂粒を多く含む。 焼成：やや不良。 色調：明暗褐色。	直部延長本量底、口縁部1/4欠損。
361	上 頸 环	H-111 包 合 帶	口 径 12.7	脚部から口縁部は下位がややすぼむ特徴を呈する。脚部下位には舟状の把手が一片付くと思われる。	全体に指輪形、口縁部削ナナ。	紹土：粘土、砂粒を多く含む、石系、基部母母層に僅かに含む。 焼成：良。 色調：棕色。	口縁部の一舟、肩部1/4把手1個残存。

第23表 木製品計測表(1)

※()内は現存長、< >内は推定

No.	遺物No.	遺物名	出土地点	計測値(cm)	備考
1	W-012	人 形	E-109	(29.0) × 3.8 × 0.5	11011 頭部・片脚破損
2	W-083	人 形	E-109	(32.8) × 4.3 × 0.85	111?1 腰以下破損
3	W-173	人 形	E-109	(43.05) × 4.6 × 0.9	11011 脚部破損
4	W-190	人 形	E-109	42.3 × 4.5 × 0.65	11011
5	W-082	人 形	E-109	(32.4) × 2.45 × 0.6	110?1 腰以下破損
6	W-184	人 形	D-114	(25.3) × 3.3 × 0.6	1102? 脚破損
7	W-268	人 形	G-118	24.35 × 2.8 × 0.4	11021
8	W-231	人 形	F-117	(29.7) × 3.3 × 0.55	11011 脚先ごく少し欠損
9	W-618	人 形	F-117N E-1	33.6 × 3.9 × 0.6	11001
10	W-269	人 形	G-118	45.25 × 3.4 × 0.6	11021
11	W-265	人 形	G-117NW-1	(52.1) × 4.5 × 1.4	??021 頭部欠損
12	W-522	人 形	G-118S E-1	(19.3) × 2.75 × 0.75	221?2 脚部欠損
13	W-546	人 形	G-118N E-2	(21.05) × 4.0 × 0.55	130?1 脚部以下破損 胸部に3つの小穿孔
14	W-586	人 形	F-117S E-2	(17.2) × 3.6 × 0.6	110?1 胸部以下破損
15	W-086	斎 串	E-109	21.8 × (2.15) × 0.5	A類
16	W-175	斎 串	東側流路下層	(16.6) × 1.3 × 3.5	A類
17	W-189	斎 串	E-109	(25.0) × 1.9 × 0.5	A類 片端破損
18	W-002	斎 串	E-111	(11.7) × 2.6 × 0.4	A類 端部のみ、線刻有り(×)
19	W-001	斎 串	E-111	(9.2) × 2.0 × 0.4	? 端部なし、線刻有り(>)
20	W-584	斎 串	2区	(24.8) × 1.9 × 0.25	A類 片端なし、線刻有り(?)
21	W-266	斎 串	G-118南西端	25.8 × 1.9 × 0.45	A類
22	W-549	斎 串	G-118N E-2	(22.3) × 1.9 × 0.4	A類 片端なし
23	W-344	斎 串	F-117	(14.8) × 2.0 × 0.4	A類 片端なし
24	W-267	斎 串	G-118	(32.6) × 2.3 × 0.4	A類 片端なし
25	W-590	斎 串	F-117S E-1	25.9 × 1.6 × 0.7	A類
26	W-352	斎 串	G-118	(11.4) × 1.8 × 0.4	A類 片端なし
27	W-233	斎 串	F-117	(34.5) × 2.59 × 0.5	A類 片端破損
28	W-304	斎 串	G-117	(20.6) × 1.7 × 0.5	A類 片端破損
29	W-271	斎 串	G-118	(21.2) × 2.0 × 0.4	A類 片端破損
30	W-270	斎 串	G-118南流路	(29.8) × 3.3 × 0.5	A類 片端破損
31	W-373	斎 串	G-118	(19.6) × 1.8 × 0.5	B類 片側の一端一部欠損
32	W-548	斎 串	G-118N E-2	(25.4) × 1.7 × 0.65	B類 一端欠損
33	W-277	斎 串	G-118流路内	25.5 × (1.2) × 0.3	C類? 側辺欠損
34	W-547	斎 串	G-118N E-2	36.0 × 1.2 × 0.35	C類 完形
35	W-306 -307	斎 串	G-118流路内	49.5 × 1.15 × 0.5	C類 完形
36	W-633	斎 串	G-119 SW-2	(29.1) × (1.15) × 0.75	C類 片端欠損、端部は尖らない
37	W-612	斎 串	F-117N E-1・2	(24.3) × 1.4 × 0.5	C類 片端欠損
38	W-621	斎 串	F-117N E-1	36.0 × 4.35 × 0.5	D類 頭部の両側に2ヶ所ずつ切り込み、下端部破損
39	W-554	斎 串	G-118N E-2	34.75 × 4.0 × 0.55	D類 左右対称に両側に2ヶ所の切り込みと中央に弧状の切り込み、上下端は尖る

第24表 木製品計測表(2)

※()内は現存長、< >内は推定

No.	遺物No.	遺物名	出土地点	計測値(cm)	備考
40	W-353	馬 形	D-114 S E-2	(11.4) × (3.6) × 0.5	A?類 下端部欠損
41	W-177	馬 形	E-109	(13.9) × 1.9 × 0.6	A1類 背表現有り、小孔有り
42	W-617	馬 形	F-117 N E-1	(17.8) × 6.3 × 0.3	B1類 小孔有り
43	W-166	馬 形	D-114	(14.7) × 3.5 × 1.2	B1類 小孔有り
44	W-583	馬 形	F-117 S E2	(17.4) × 1.9 × 0.4	B2類 後下端破損、小孔有り
45	W-272	馬 形	G-117 北西流路	(16.7) × 4.2 × 0.6	B2類 後部一部破損、小孔有り
46	W-608	馬 形	F-117 N E-1・2	(18.4) × 6.0 × 0.8	B2類 前部一部破損
47	W-235	馬 形	G-117	(14.9) × 3.6 × 0.5	B2類 一部破損、腹部小孔有り
48	W-300	刀 形	G-119 南西	30.1 × 1.45 × 0.25	-部破損
49	W-299	刀 形	G-117 NW-1	37.5 × 2.9 × 0.55	一部破損
50	W-545	刀 形	G-118 SW-1	40.4 × 3.4 × 0.5	完形
51	W-529	刀 形	G-118 SW-1	44.2 × 2.1 × 0.5	一部破損
52	W-084	刀 形	E-109 流路	(49.6) × 3.7 × 0.7	柄頭欠損
53	W-008	刀 形	E-115	(23.0) × 1.8 × 0.5	両端とも大きく欠損
54	W-273	刀 形	G-117 北西	(20.9) × 3.4 × 0.55	握部のみ残存
55	W-402	刀 形	G-118 流路	(9.5) × 2.35 × 0.55	握部のみ残存
56	W-228	舟 形	F-117	22.9 × 2.55 × 1.4	ほぼ完形
57	W-521	舟 形	F-117 S E-1	20.95 × 2.8 × 1.2	上面を破損
58	W-085	有 頭 棒	E-109 流路	(12.8) × 3.6 × (2.9)	裏側破損
59	W-508	7t-ク救木製品	F-117 N E-2	14.3 × (2.55) × 1.05	フォーク部1/2欠損
60	W-050	木簡状木札	I区	13.3 × 2.5 × 0.4	
61	W-411	木簡状木札	G-118 流路	13.4 × 2.2 × 0.45	穿孔有り
62	W-428	不明 木材	D-112 N E-1	(7.4) × (2.35) × (0.8)	穿孔有り
63	W-530	不明 木材	G-118 SW-1	(24.2) × 8.9 × 2.7	建材か?
64	W-628	細棒状木製品	F-117 N E-2	(22.3) × 0.4 × 0.2	
65	W-515	細棒状木製品	G-119 流路	(20.6) × 0.75 × 0.4	先端をうすく尖らせる
66	W-616	細棒状木製品	F-117 N E-1・2	(16.8) × 0.45 × 0.35	
67	W-263 -390 -301	堅 件	G-119	(69.0) × 7.2 × 6.1	片面を破損
68	W-264	斧 柄	G-119	45.6 × 12.4 × 2.5	縦斧柄、着柄角度84.5°
69	W-595	鍔(?)柄	F-117	(30.5) × 6.2 × 2.65	基部のみ残存
70	W-441	斧 柄	G-118	(斧台) 18.05 × 3.0 × 2.0 (握部残存長)4.3	鉄斧装着、握部欠損 鉄斧部6.3×4.0cm 着柄角度63.5°
71	W-219	曲 物	D-111 N E-2	(残存値) 20.04 × 11.8 × 0.65	底板のみ1/2程度残存 推定径24cm程度
72	W-054	曲 物	D-115 流路	(径)13.6 × 0.65(厚)	底板のみ、周辺部破損
73	W-524	曲 物	F-118 S E-1	(径)16.4 × 14.05 × 2.4(厚)	側板のみほぼ完存
74	W-091 -092	曲 物	D-114 流路	(径)10.6 × 9.1 × 0.65(厚)	底板か、蓋物か
75	W-262	挽 物	G-119 流路	(径)18.7 × 18.3 × 1.35(厚)	内面に擦痕、内面中央は凹む 底部外面中央に「西」の焼印?

第25表 出土木製品計測表(3)

※()内は現存長、< >内は推定

No.	遺物No.	遺物名	出土地点	計測値(cm)	備考
76	W-279	刺物	G-119流路	(残)17.8×5.5 ×0.65(厚)	推定径18cm程度の皿か、内外面に切り傷、底面のみ1/3程残存
77	W-075	刺物	E-116	(残)14.2×11.0 ×1.35(高)	約1/2程度残存、4つに分かれている
78	W-278	刺物	G-119流路	(径)11.7×1.3(残高)	口縁部は残らず、内面に切り傷、外面にノミ痕あり

第26表 土製品計測表(1)

※()内は現存長、< >内は推定

No.	遺物No.	遺物名	出土地点	計測値(cm)	備考
1	E-004	馬形	D-115	(7.6) × (8.3) × (3.6)	頭部、前片脚・胸部の一部のみ残存。脚・鞍・耳は接合、目・口は棒状工具押付け、鼻は刺突?
2	E-079	馬形	F-117	(6.3) × (8.2) × (3.4)	頭部、前片脚・胸部の一部のみ残存。脚・耳は接合、目は切り込みで線状に表現、口は棒状工具を押付けて表現。
3	E-053	馬形	G-117	13.1 × 6.4 × (3.1)	櫛部を表現、脚は3本欠く。脚・耳は貼付け、口は棒状工具を押し当て、目は刺突による。背もたてがみ状に稜線が通る。
4	E-076	馬形	F-117	15.05 × 12.2 × (4.8)	脚3本・片耳欠失。脚・耳・鞍は胴に貼付け、目・口・鼻は刺突・切り込みにより表現。
5	E-036	馬形	D-114	(5.1) × (6.8) × (3.2)	尾部・後片脚のみ残存。脚・鞍は貼付け。
6	E-082	馬形	F-117	(4.9) × (6.8) × (2.0)	頭部のみ残存。耳貼付け。目・鼻を刺突、口を切り込みで表現。
7	E-080	馬形	F-117	(4.7) × (4.6) × (2.1)	頭部のみ残存。口は棒状工具を押付け、目・鼻は刺突で表現。
8	E-075	馬形	F-117	(9.2) × (6.1) × (3.8)	胸前半および頭部のみ残存。鞍・耳・脚は接合部から欠損。口は棒状工具を押し当て表現。
9	E-021	馬形	F-117	11.5 × 5.4 × 5.4	太い脚部に脚・耳・鞍・頭を貼付け整形。目・鼻・口は刺突・切り込みによって表現。
10	E-003	馬形	D-114	9.0 × 4.1 × 5.6	つまみ出しで全体を整形。頭部は鼻梁のつまみ出しで表現され、刺突による目は鞍近くに付く。
11	E-040	馬形	1区	7.2 × 4.4 × 2.35	左前面部・脚2本を欠く。脚は接合、頭部の表現はなく鞍の前端に目を刺突で付け顔を表現。
12	E-037	馬形	D-115	10.45 × 4.5 × 3.5	筋縫形の胴体に鞍を接合、指頭により頬面部を作り、目は刺突で表現。脚があつたかは不明。
13	E-008	馬形	E-115	7.2 × 3.3 × (3.0)	脚は3本欠く。脚は貼付けた粘土をつまみ出したか? 口は工具押付け。目・鼻孔(1コ)は刺突による。
14	E-002	馬形	D-113	9.3 × 3.2 × (2.5)	脚部から鼻梁・鞍・脚をつまみ出して整形。口はつまみ出した鼻梁を垂めて表現。目は刺突。脚部欠損。
15	E-022	馬形	G-118	6.35 × 2.1 × 2.1	脚先是若干欠く。脚・頭・尾をつまみ出して整形。背中は中央を凹めているが、鞍を意識したものか?
16	E-023 -025	人形	G-118	13.2 × (5.6) × 2.7	片脚欠損。頭部は頸部をつまみ上げて表現。
17	E-024	人形	G-119	(8.6) × (3.9) × 3.2	両脚欠損。頭部は頸部をつまみ上げ、少しひねって表現。
18	E-039	人形	D-113	(6.6) × (3.7) × (2.4)	両脚欠損。頭部表現なし。
19	E-005	人形	D-115	5.2 × (4.0) × 1.9	片足欠損。顔面にあたる部分に刺突有り、あるいは顎か?
20	E-068	人形	F-117	5.5 × 2.7 × 2.0	片脚欠損。脚以外は人間の表現なし。
21	E-041	人形	F・G-118	5.2 × 3.5 × 1.9	頭部は上と左右につまみ出し造り出す。鼻はつまみ出し、目・口は刺突で表現。

第27表 土製品計測表(2)

※()内は現存長、< >内は推定

No.	遺物No.	遺物名	出土地点	計測値(cm)	備考
22	E-006	ミナミ土器(瓶)	E-115	(口径) <6.5> (器高) <5.8> (底部径) <1.2>	手捏、1/4残存
23	E-007	ミナミ土器(取)	C-114	(口径) 4.0 (器高) 5.7 (底部径) 2.9	手捏、完形
24	E-029	ミナミ土器(瓶)	G-118	(口径) 4.8 (器高) 5.5 (底部径) 3.2	手捏、口縁部を1/2欠損
25	E-054	ミナミ土器(瓶)	F-117	(口径) 5.5 (器高) 5.4 (底部径) 3.2	手捏、口縁部一部欠損
26	E-064	ミナミ土器(瓶)	F-117	(口径) <3.3> (器高) 5.4 (底部径) <3.1>	手捏、1/3残存
27	E-031	ミナミ土器(高环)	H-111	(口径) <4.9> (器高) 4.0 (脚部径) <3.2>	手捏、1/2弱残存
28	E-001	ミナミ土器(高环)	D-115	(口径) <5.8> (器高) 4.3 (脚部径) <3.6>	手捏、1/3残存
29		ミナミ土器(短頸壺)	G-118	(口径) <4.25> (器高) 5.6 (最大径) 5.1	頭部に左右2個の穿孔有り、口縁部1/4欠損
30	E-065	ミナミ土器(塊)	F-117	(口径) 5.8 (器高) 4.5	手捏、口縁部一部欠損、口縁部穿孔有り
31		ミナミ土器(塊)	H-112	(口径) <4.7> (器高) ? (最大径) 5.0	手捏、1/4残存
32		ミナミ土器(皿)	F-118	(口径) 5.3 (器高) 1.4	手捏
33	E-048	ミナミ土器(?)	F-117	(口径) <6.1>	手捏、口縁部の1/3残存
34		ミナミ土器(?)	E-115		手捏、輪積み
35	E-034	ミナミ土器(横瓶)	D-113	(口径) 2.5~2.7 (最大幅) 5.2 (器高) 2.9	手捏
36	E-050	ミナミ土器(横瓶)	F-118	(口径) 1.3~1.7 (最大幅) 3.6 (器高) 3.2	手捏
37	E-066	ミナミ土器(短頸壺?)	F-118	(口径) 2.5 (器高) 2.9	手捏
38	E-026	ミナミ土器(?)	G-118	(最大幅) 3.1	手捏

第V章 まとめ

大谷川（稻妻地区）の発掘調査については、第Ⅰ章で述べたような発端の調査であり、工事計画も押し迫り、調査の準備や期間等も十分とることができないものであった。しかしながら、そうした状況のなかでも、関係者等の協力により航空写真測量の実施等、限られた期間のなかで最善の努力をしたつもりである。報告書をまとめるにあたってはなるべく多くの資料を載せることに主眼を置き、事実報告を主とした。本地区的調査の成果を簡単にまとめれば、

- 1 大谷川の旧河道路の検出であり、その堆積層中に含まれる多量の祭祀遺物の検出である。特に本地区では古墳時代後期～7世紀代を中心とする祭祀遺物が多量に出土した。
- 2 大谷川旧河道両岸の微高地上の遺構の検出。溝状遺構を主にするが、井戸等集落に関係すると考えられる遺構も検出されている。

ということになる。

ここではまとめとして、本地区における祭祀について若干述べてみたい。特に、本地区で行なわれた祭祀の中心となる7世紀を中心とする時期のものについて少し考えてみたい。

本地区的祭祀に関連すると考えられる遺物はそのほとんどが大谷川旧河道から出土している。そうした状況からみて、川へこうしたものを持棄する、いわゆる「水辺のまつり」が行なわれていたと考えられる。同時に行なわれた大谷川の他の地区的調査では古墳時代前期から13・14世紀までの祭祀の遺構を検出しているが、本地区では土器等の時期からみて7世紀を中心とする時期に盛んに行なわれていたと考えられる。この時期の祭祀に関連すると考えられる遺物には以下のものがある。

土師器…壺がその大半をしめる。その他の器種としては碗・短頸壺・球腹壺・瓶等がある。

須恵器…土師器と比較するとその量は少ないが、多くの器種が出土している。蓋壺・長頸壺・横瓶・短頸壺・碗等がある。

土製模造品…馬形・人形・ミニチュア土器等がある。馬形については、比較的写実的なものと抽象的なものがある。人形はいずれも抽象的なものである。また、ミニチュア土器には瓶（わりと量が多く、手捏ねのものや比較的精巧に造られたもの等バラエティに富んでいる。）・高壺・横瓶・皿・短頸壺・碗等がある。

木製模造品…馬形・人形・刀形・舟形等がある。また、明らかに祭祀用の木製品として斎串がある。

石製模造品…滑石製の子持ち勾玉が1点出土している。上部の1/3が残存するものである。

装身具…玉類・耳環がある。

獸骨…馬の頭や脚の骨と考えられるものが出土している。

これらの他にいわゆる実用品ではあるが、祭祀に伴い投棄されたと考えられるものに斧柄や馬鍔等の木製の農耕具・工具や石製の紡錘車等も出土している。

こうした遺物の中で量的には土師器壺がほとんどを占める。そうした意味でここでの祭祀は土器を中心に投棄する祭祀といえる。そうした中に土製模造品・木製模造品等が混じる形となる。しかし、これ

らの遺物が川の中からの出土であることから考えた場合、すべてが同時期のものと考えることはできず、ある程度の年代幅が想定されよう。

町田章氏は7世紀以降の祭祀遺物を大きく三種類にわけている。³¹⁾

1. 4世紀以来の古墳祭祀の系統をひくもの…主として形代の類であり、古墳時代の滑石や土でつくる珠・鏡・劍等や7世紀以降でも装身具・武器・工具・紡織具・食器・樂器・舟などがある。
2. 5世紀乃至は6世紀の横穴式古墳や同時期の祭祀遺跡から発見される祭祀遺物の系統に属するもの…外国系の祭祀遺物であり、馬形・龜形がこれに属する。
3. 7世紀以降に出現する祭祀遺物で、8世紀に盛行するもの…人形・人面土器・神符・斎串がこれにあたる。

本地区で出土している遺物をこれにあてはめてみれば、

1. 子持ち勾玉・ミニチュア土器・木製刀形・木製舟形等がある。
2. 土製馬形・木製馬形がある。
3. 土製人形・木製人形・斎串がある。

こうしてみてみれば、本地区における祭祀というものが伝統的なものと新たに中国等から導入された一いわゆる、律令的なものが混在していることがわかる。土師器の壺を中心とする土器の投棄という伝統的な祭祀形態、当然その中には古墳祭祀の系統を引く形態類もみられる。これが、本来的には本地区における祭祀の中心であったと考えられる。そして、そうした祭祀形態の中に律令的な祭祀形態が取り入れられていったのではないかと考えられる。しかし、前述のように旧河道の中からこうした遺物が混在する形で出土している状況ではそうした変遷を明確につかむことは不可能であった。ただ、遺物からの類推であり、そこに祭祀に対する意識の変化があったと考えることもできようし、また、祭祀を行う者の変化とを考えることもできよう。さらにこうした祭祀行為をささえる社会構造の変化ということも考えることができるかもしれない。しかし、それについては、稻妻地区という狭い範囲の中の状況で考えることは不可能であり、神明原・元宮川遺跡全体の祭祀遺跡としての在り方の検討、そしてそれを取り巻く静岡平野の他の遺跡の在り方の検討の中で考えていかなければならないものと考える。そうした検討から、本地域における古墳時代から律令時代への推移が次第に明らかにされていくであろう。今回の調査ではそうした検討を行っていくうえで必要な一つの資料を提示し得たと思うし、「巴川総合治水対策特定期河川事業」に伴う発掘調査の成果と併せれば、特に本地域における古代の祭祀を考えていくうえでかなりの事実が明らかにされてきたと言うことができよう。

註1 町田 章「祭祀と信仰の遺物」『世界考古学大系』日本編補遺抜刷 総 天山舎 1987

参考文献一覧

- 愛知県教育委員会 1983：「愛知県古窯跡群分布調査報告（III）（尾北地区・三河地区）一付・猿投窯の編年についてー」
- 石上七輔 1985：「仏教伝来のころの俗信仰」「別冊考古学ジャーナル」（通巻第255号）
ニュー・サイエンス社
- 大阪府教育委員会 1976：『陶邑I』
- 大場磐雄編 1981：『神道考古学講座第3巻 原始神道期2』 雄山閣
- 小野真一 1982：『祭祀遺跡』考古学ライブラリー10 ニュー・サイエンス社
- 金閥惣 1986：『7 呪術と祭』岩波講座日本考古学4 集落と祭祀』 第1巻 岩波
書店
- 金子裕之 1980：「古代の木製模造品」「研修論集IV」奈良国立文化財研究所学報38
奈良国立文化財研究所
- 金子裕之 1985：「奈良・平安時代の律令的祭祀」「別冊考古学ジャーナル」（通巻
255号） ニュー・サイエンス社
- 金子裕之 1985：「平安京と祭場」「共同研究「古代の祭祀と信仰」」国立歴史民俗博
物館研究報告第7集 国立歴史民俗博物館
- 亀井正道 1985：「浜松市坂上遺跡の土製模造品」「共同研究「古代の祭祀と信仰」」
国立歴史民俗博物館研究報告第7集 国立歴史民俗博物館
- 桜井市教育委員会 1987：『桜井市芝 芝遺跡大三輪中学校改築にともなう発掘調査報告書』
- 財団法人静岡県埋蔵
文化財調査研究所 1987：『大谷川II（遺構編）』
- 静岡県教育委員会 1979：『静岡県遺跡地図』・『静岡県遺跡地名表』
- 静岡県教育委員会 1983：『有東遺跡I』
- 静岡県考古学会 1979：『須恵器—古代陶質土器—の編年』静岡県考古学会シンポジウム
2
- 静岡県考古学会 1985：『古墳時代の土師器』静岡県考古学会シンポジウム6
- 静岡県埋蔵文化財調査研究所 1984：『大谷川I』
- 田辺昭三編 1966：『陶邑古窯址I』 平安学園考古学クラブ
- 玉口時雄・小金井靖 1984：『土師器・須恵器の知識』 東京美術
- 奈良国立文化財研究所 1984：『木器集成図録 近畿古代編』奈良国立文化財研究所史料第27集
- 浜松市教育委員会 1978：『伊場遺跡遺物編I』
- 町田章 1987：『祭祀と信仰の遺物』『世界考古学大系』日本編補遺抜刷 第1天山
舍

水野正好

1985：「招福・除災－その考古学－」「共同研究「古代の祭祀と信仰」」

国立歴史民俗博物館研究報告第7集 国立歴史民俗博物館

向坂鋼二

1964：「浜松市都田町中津坂上出土の祭祀遺物」「考古学雑誌』第50巻 第

1号 日本考古学会

図 版



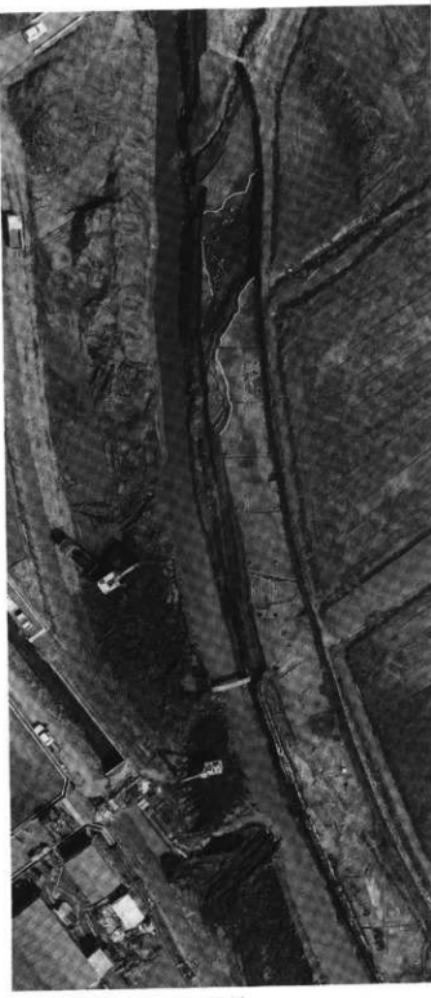
1. 遺跡遠景 (西より)



2. 発掘区全景 (北より)



1. 稲妻 1 区全景（航空写真）



2. 稲妻 2 区全景（航空写真）



稻妻Ⅰ区完掘状況（南より）



1. 稲妻 I 区南半部（北より）



2. 稲妻 I 区 E-115付近（北より）



1. 稲妻 I 区
旧流路内遺物
出土状況
E-109・110区



2. 同上
E-109区



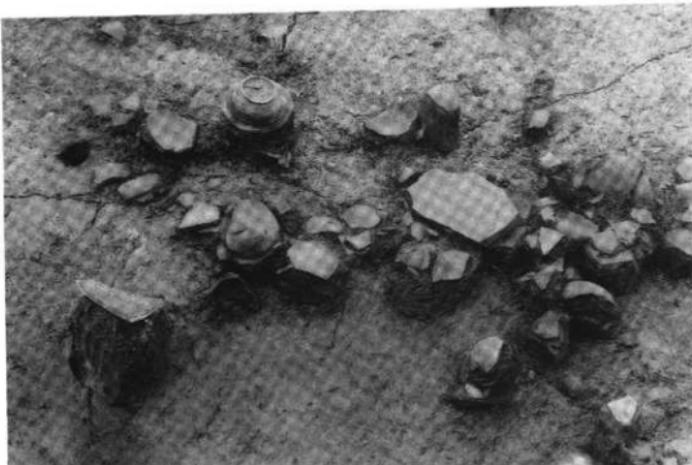
3. 同上
D-111区



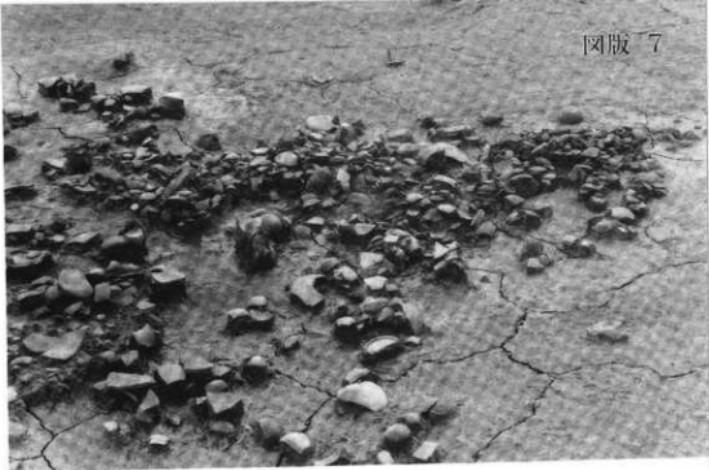
1. 稲妻 I 区
旧流路内遺物
出土状況
D-113区



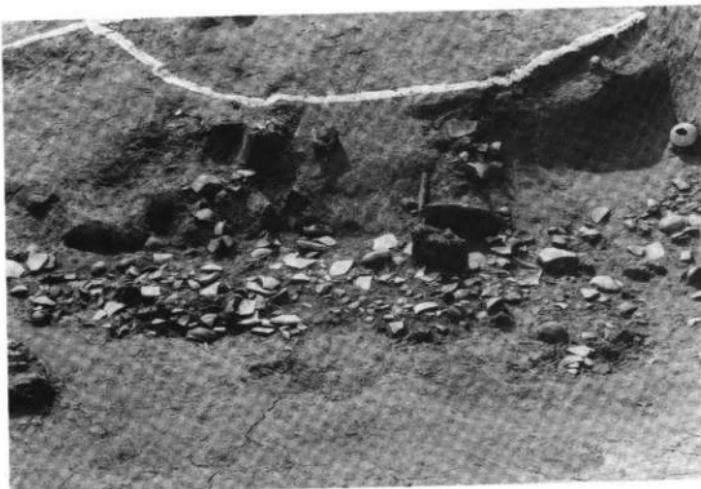
2. 同上
D-114区東側



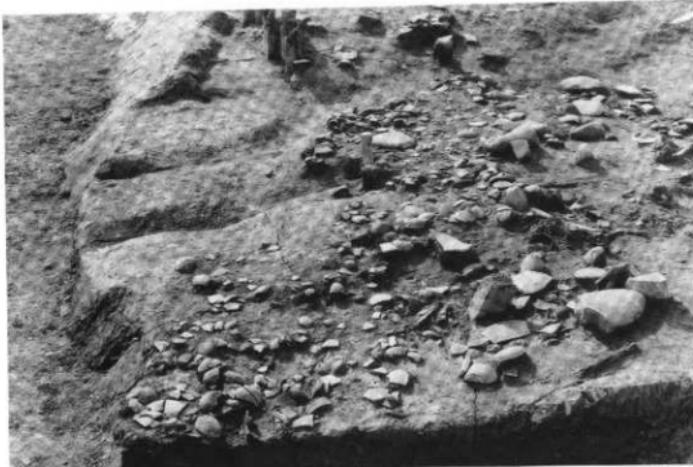
3. 同上
D-114区北西侧



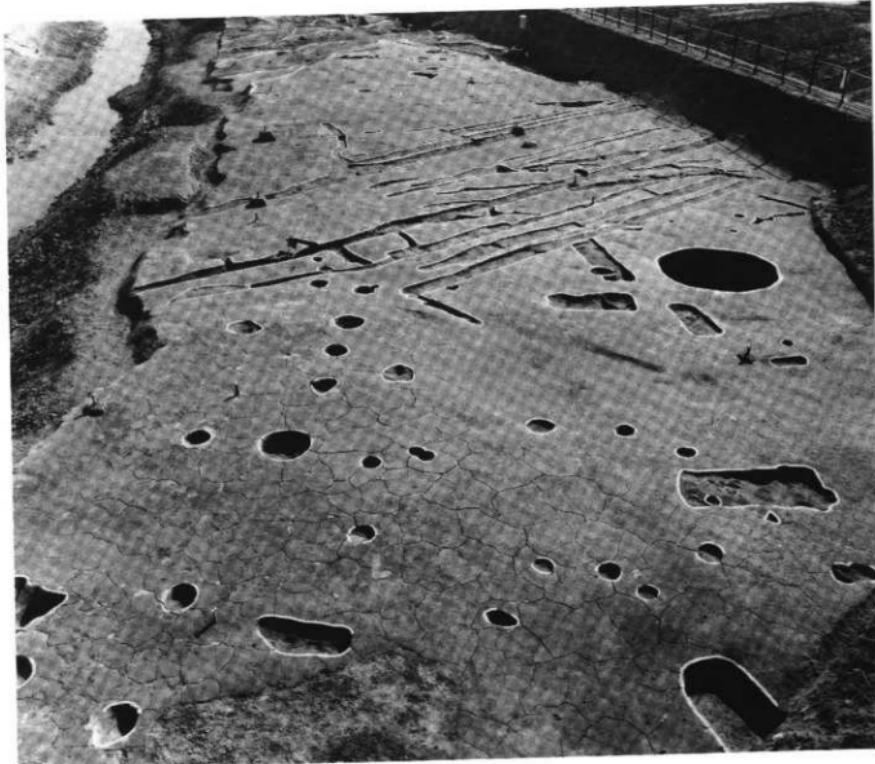
1. 稲妻 I 区
旧流路内遺物
出土状況
D-115区



2. 同上
E-115 + 116区



3. 同上
E-116区

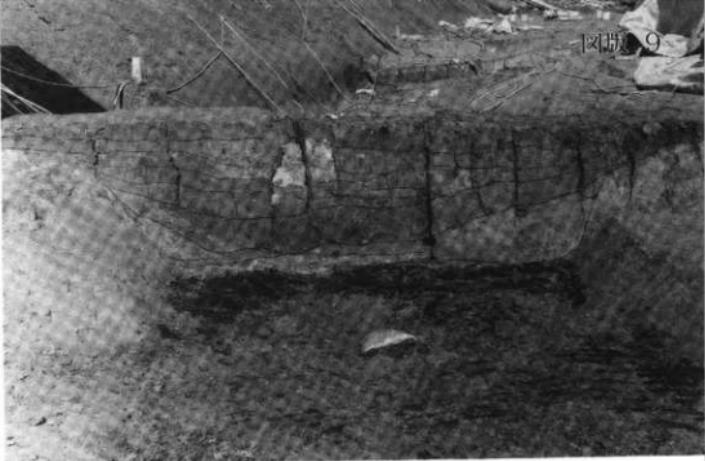


1. 稲妻 I 区
微高地土上遺構群
(北より)



2. 稲妻 I 区
溝状遺構群

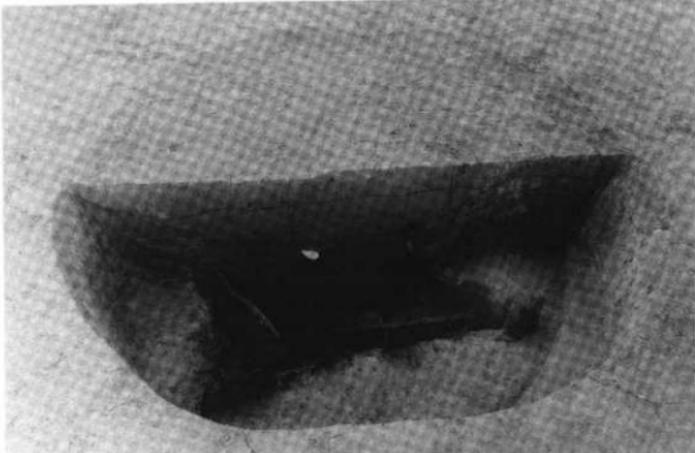
1. 稲妻 I 区
こまり川旧流路
断面



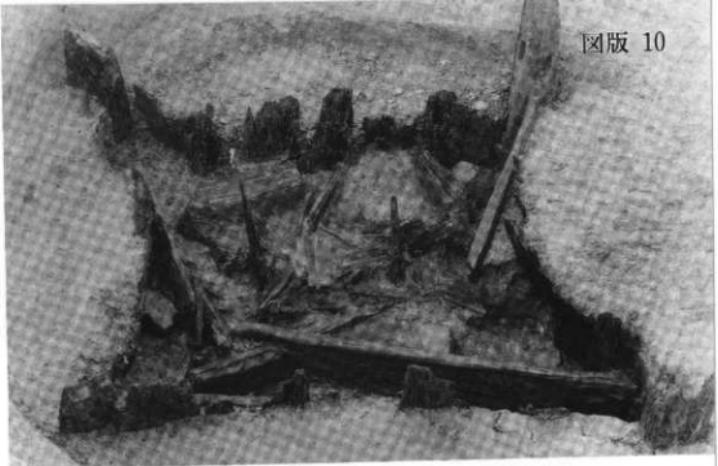
2. 稲妻 I 区
S P035



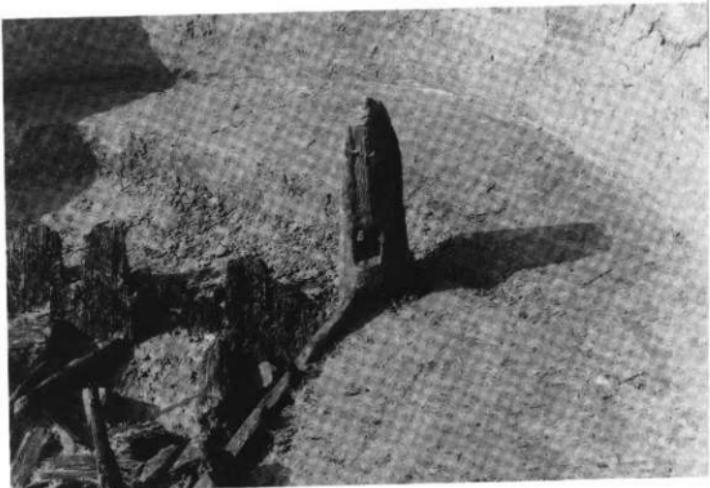
3. 稲妻 I 区
S E001
断面



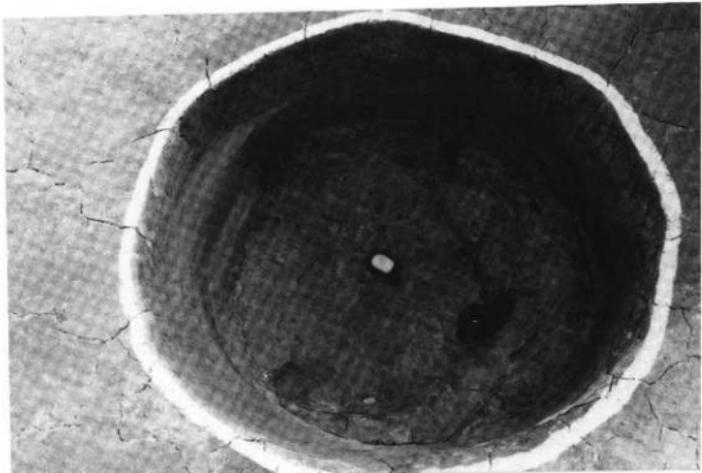
1. 稲妻 I 区
S E 001
井戸枠



2. 稲妻 I 区
S E 001
井戸枠 (転用材)

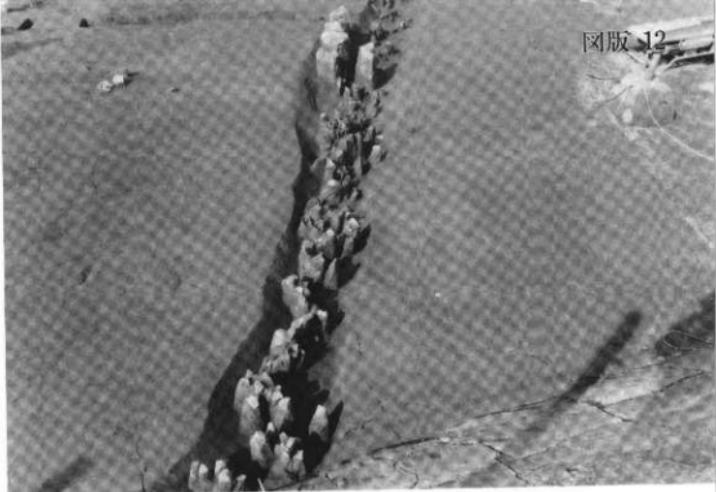


3. 稲妻 I 区
S E 001
穴掘状況

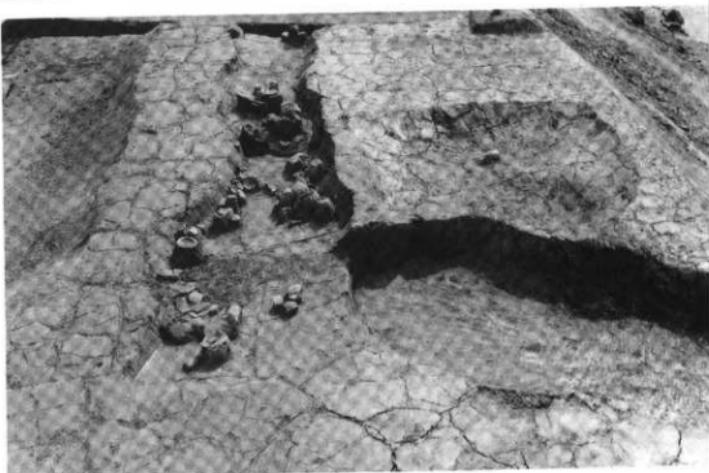




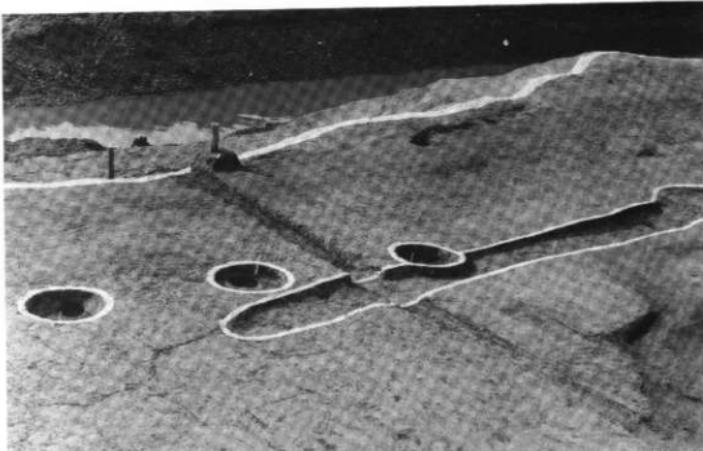
稲妻 2 区完掘状況（南より）



1. 稲妻 2 区
S D 051
遺物出土状況



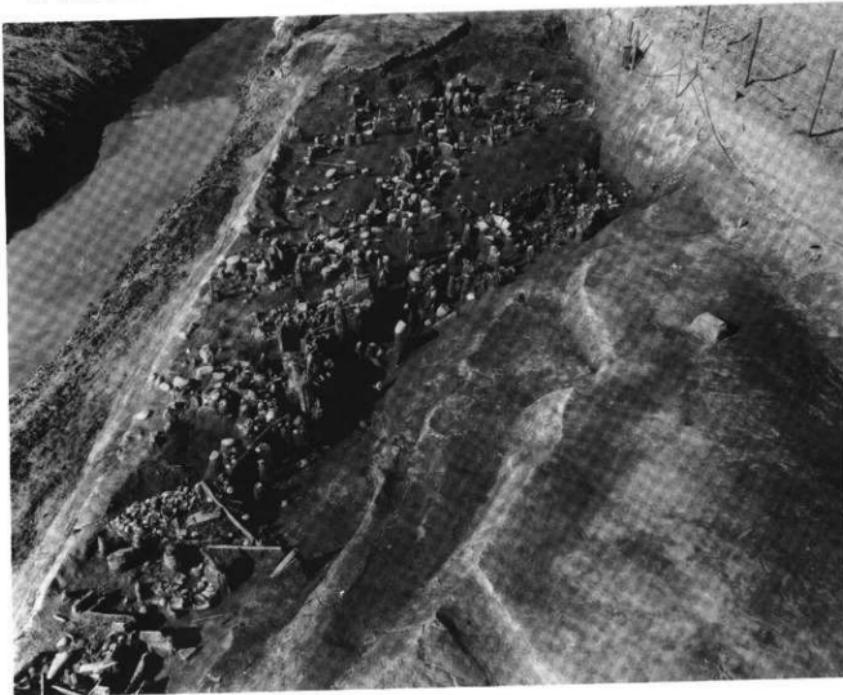
2. 稲妻 2 区
S D 048・S D 049
S X 008



3. 稲妻 2 区
G-115・116区



1. 稲妻2区北半部完掘状況（北より）



2. 稲妻2区旧流路内遺物出土状況（南より）



1. 稲妻2区
旧流路内遺物
出土状況
F-I17区

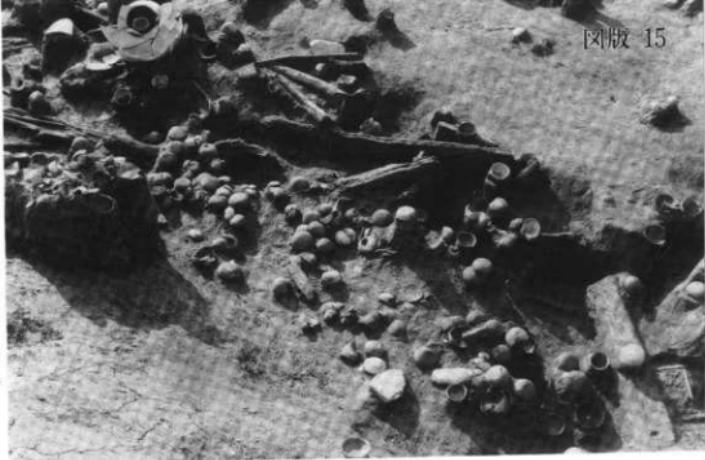


2. 同上
F・G-I18区



3. 同上
G-I19区

1. 稲妻 2 区
旧流路内遺物
出土状况
G-118区

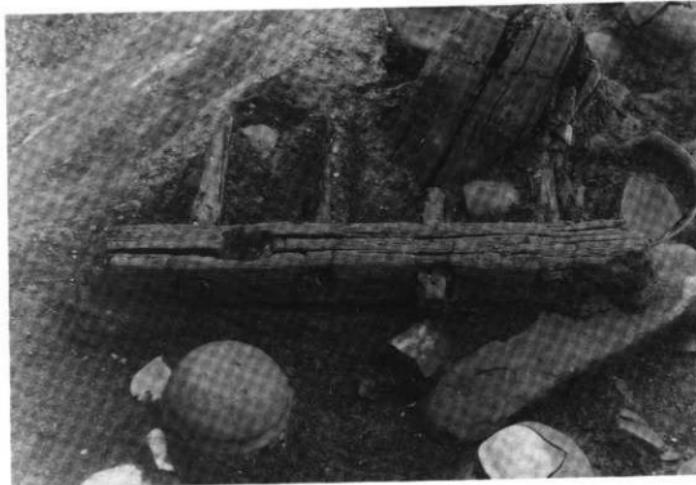
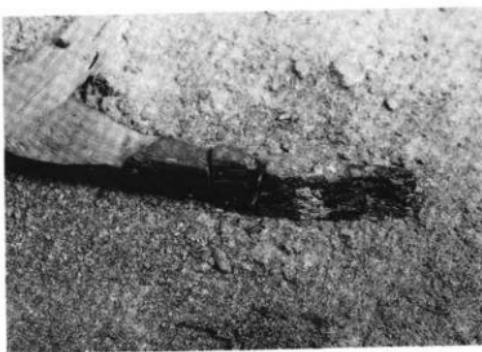


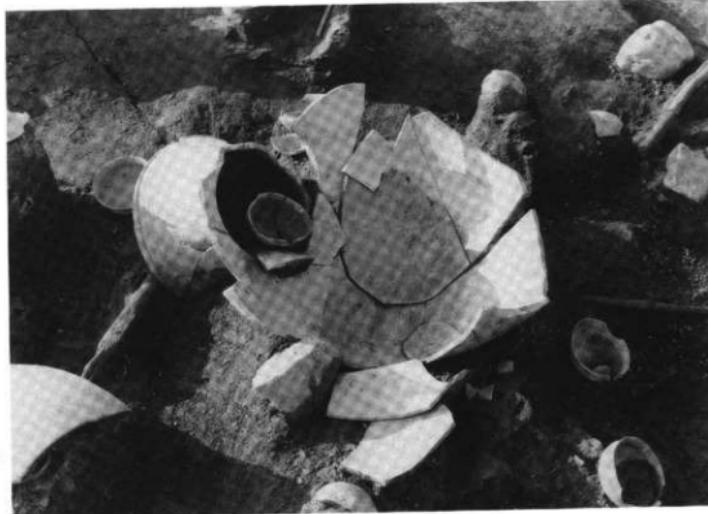
2. 同上



3. 同上







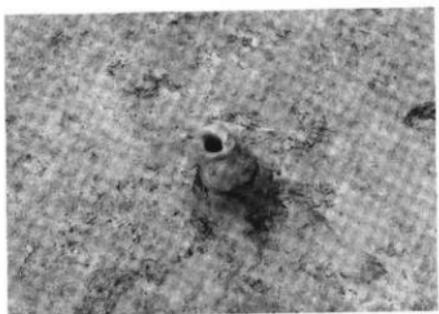
1. 須恵器大甕
出土状況



2. 土師器甕・甕出土状況



3. 子持勾玉出土状況



4. ミニチュア土器（瓶）出土状況



5. ミニチュア土器（短頸壺）出土状況



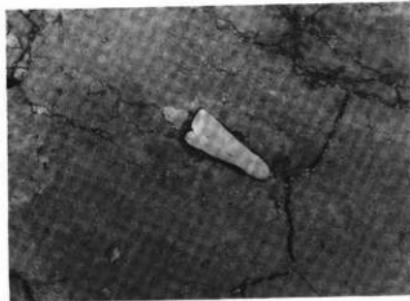
1. ミニチュア土器（埴）・馬形土製品出土状況



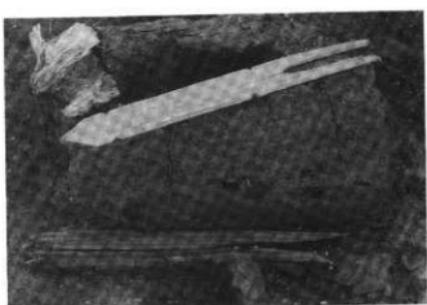
2. 馬形土製品出土状況



3. 馬形土製品出土状況



4. 人形土製品出土状況



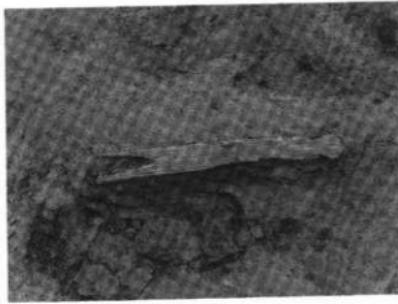
5. 人形木製品出土状況



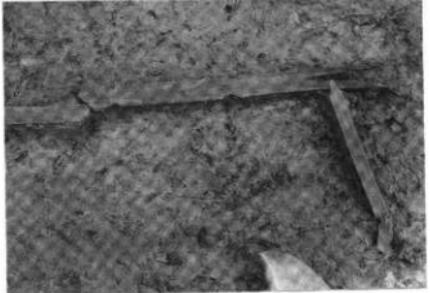
6. 人形木製品出土状況



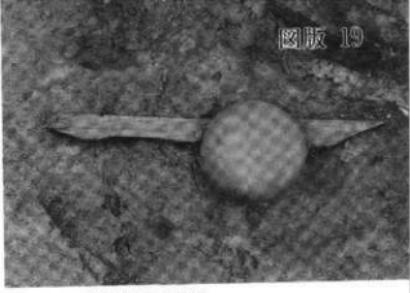
7. 人形木製品出土状況



8. 人形木製品出土状況



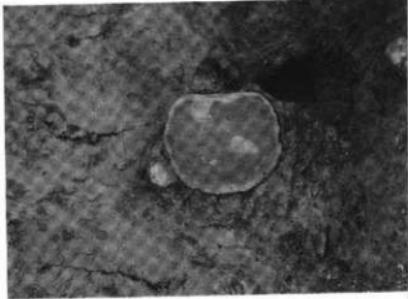
1. 人形木製品・斎串出土状況



2. 刀形木製品出土状況



3. 斧柄出土状況



4. 木皿出土状況



5. 杵出土状況



6. 曲物・木盆出土状況

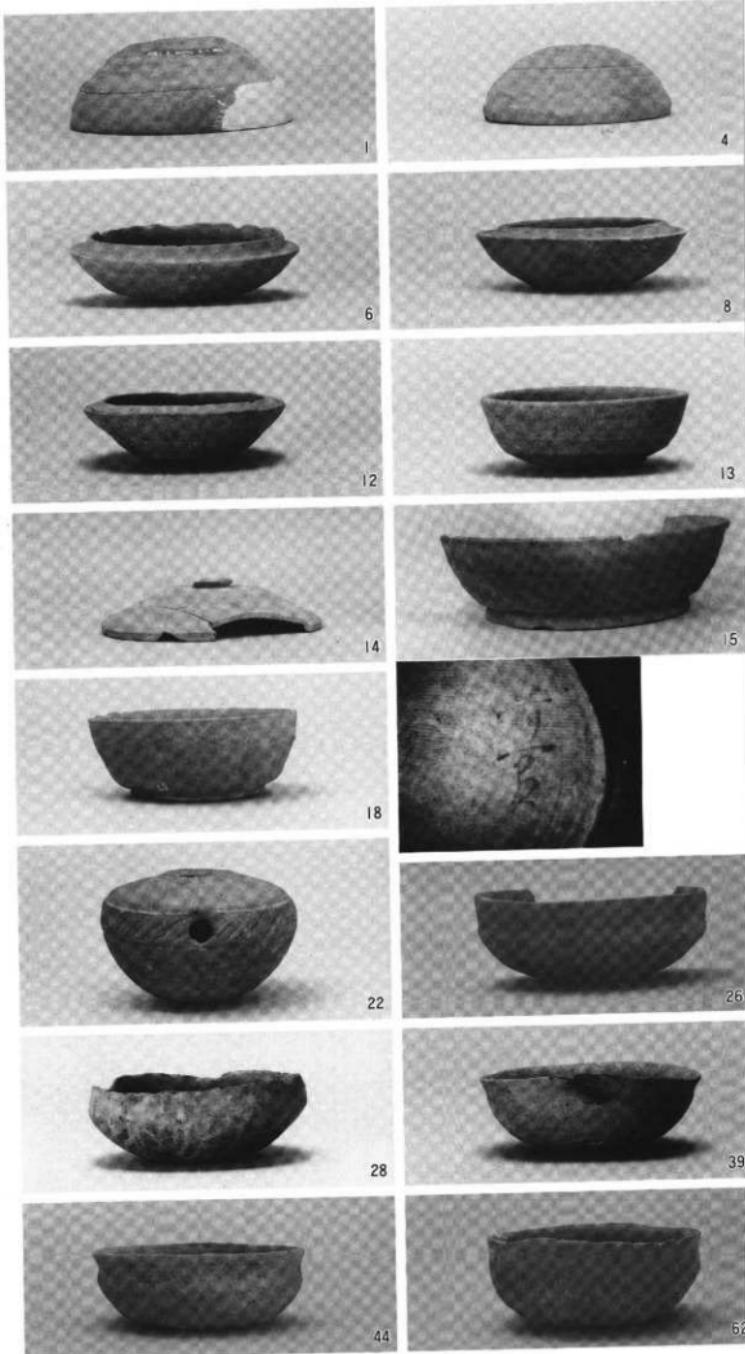


7. ヘリコプターによる航測実施状況

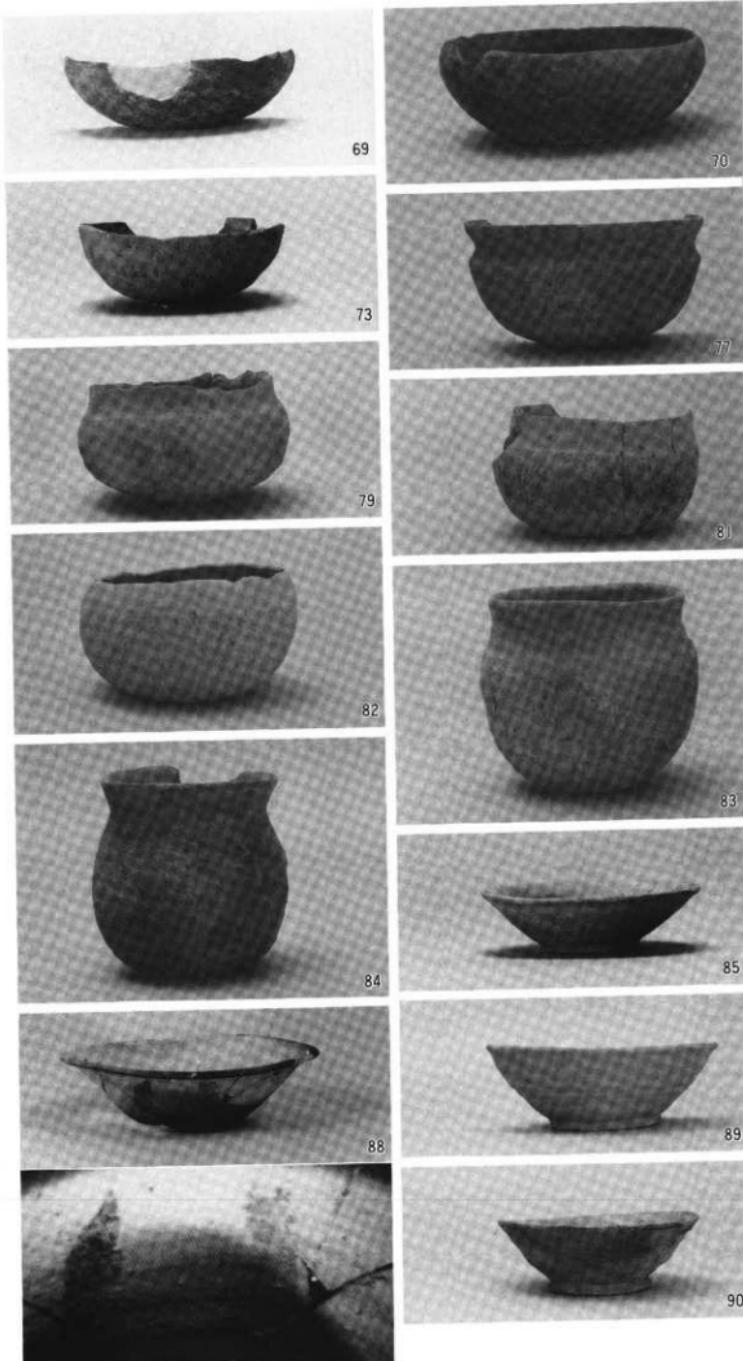


8. 同 左

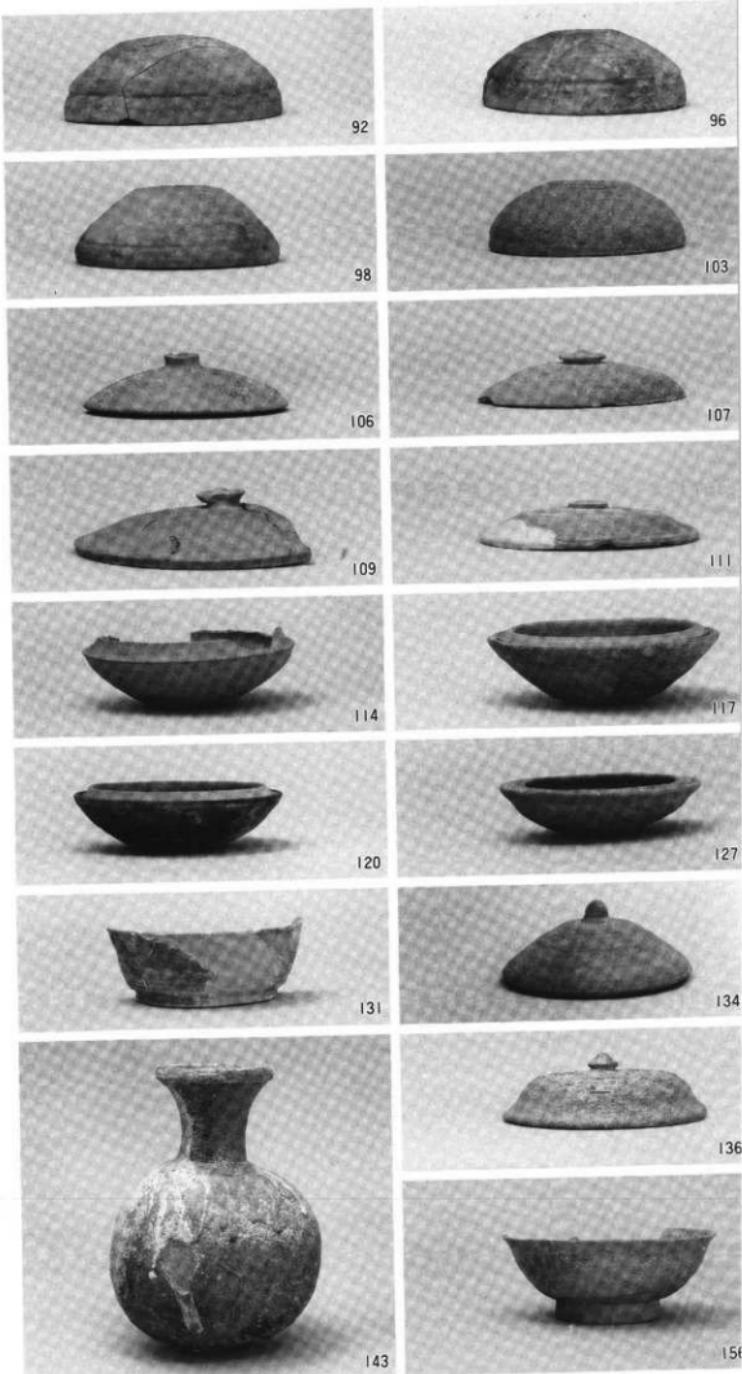
出土遺物 I
土器 I
(稻妻 I 区
大谷川旧流域)



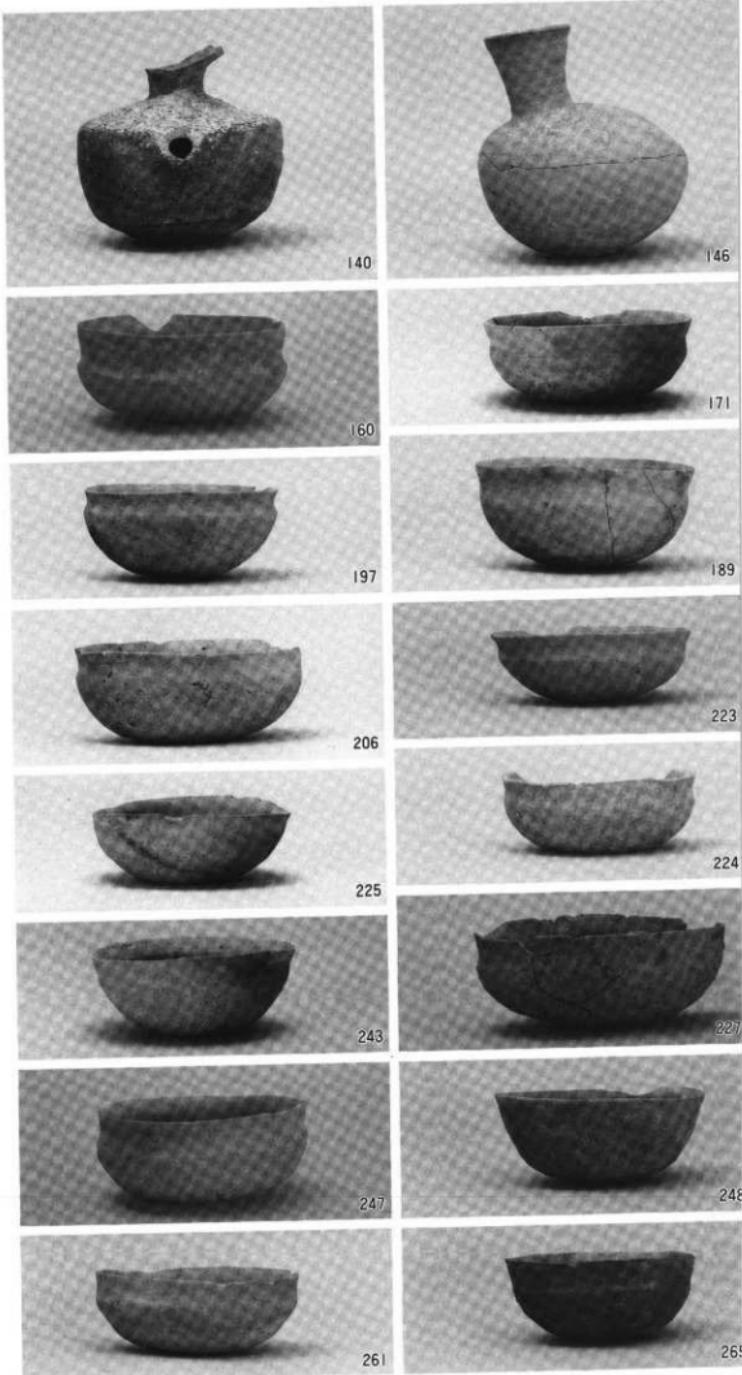
出土遺物 2
土器 2
(福島 1 区
大谷川旧流路)



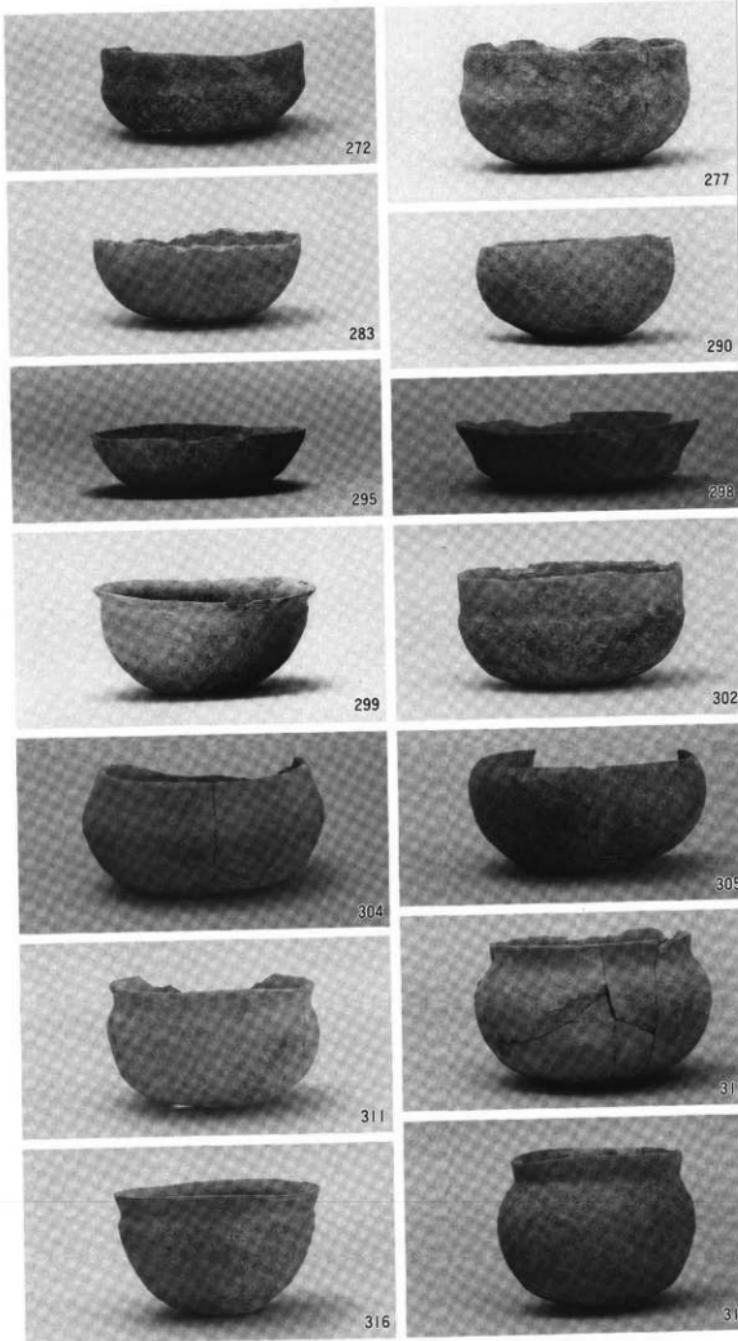
出土遺物 3
土器 3
(稻妻 2 区
大谷川旧流路)



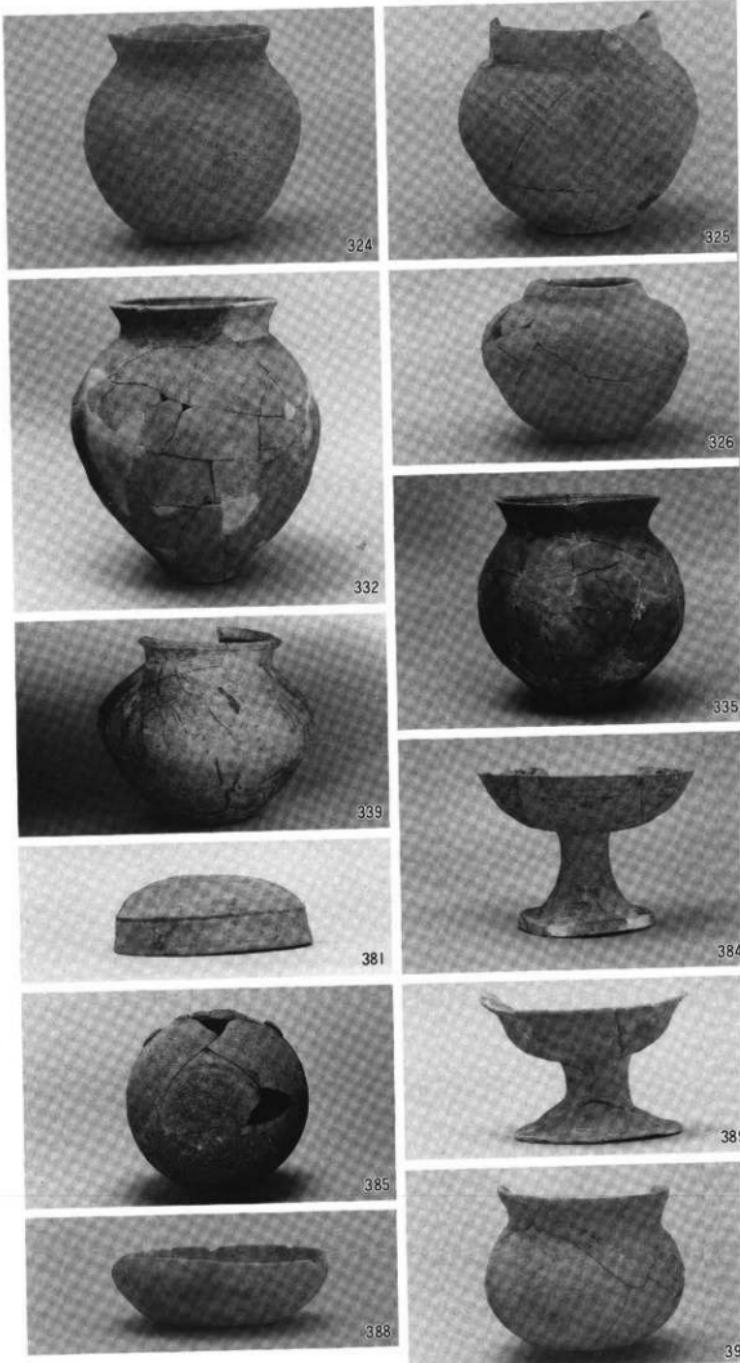
出土遺物 4
土器 4
(稻妻 2 区
大谷川旧流路)



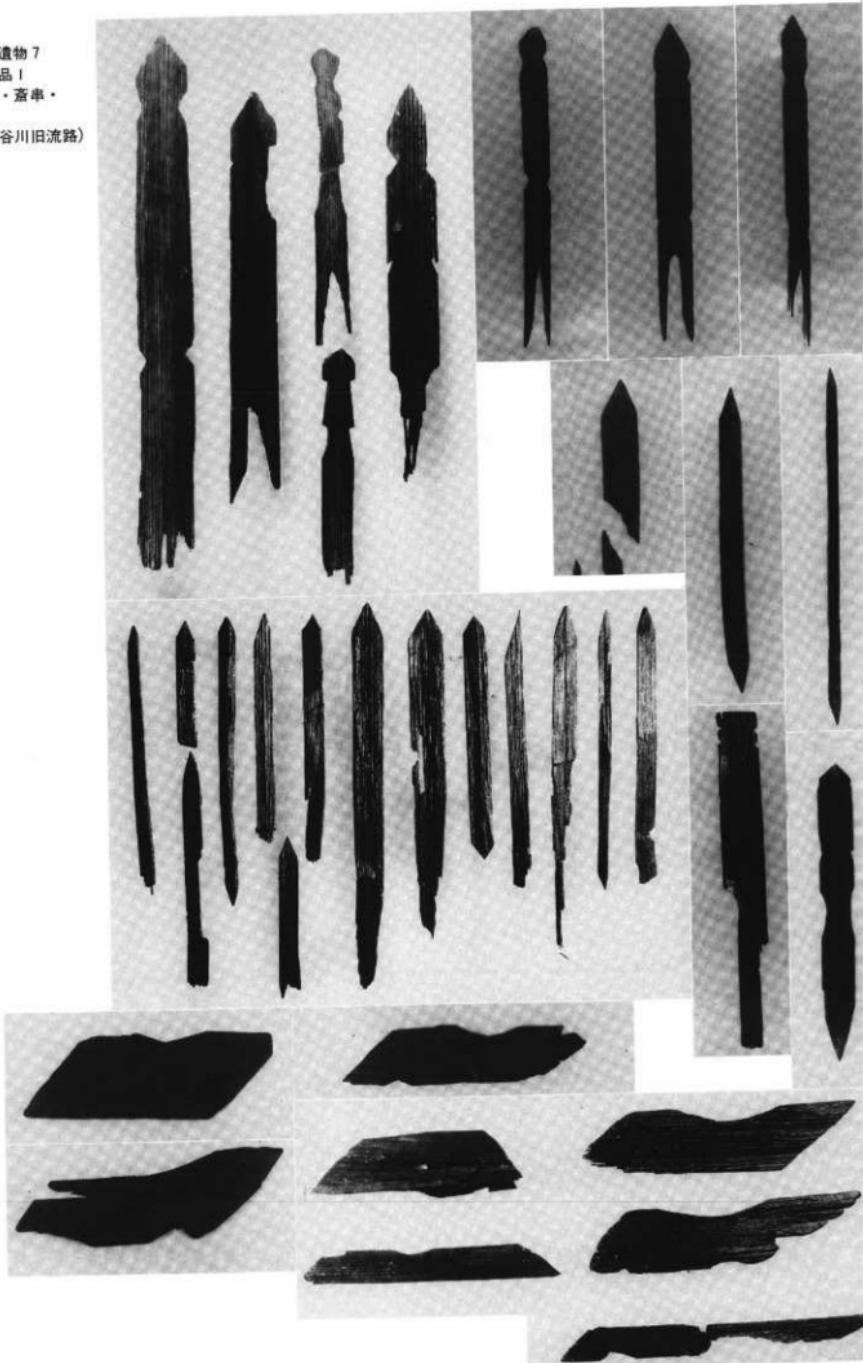
出土遺物 5
土器 5
(稻妻 2 区
大谷川旧流路)



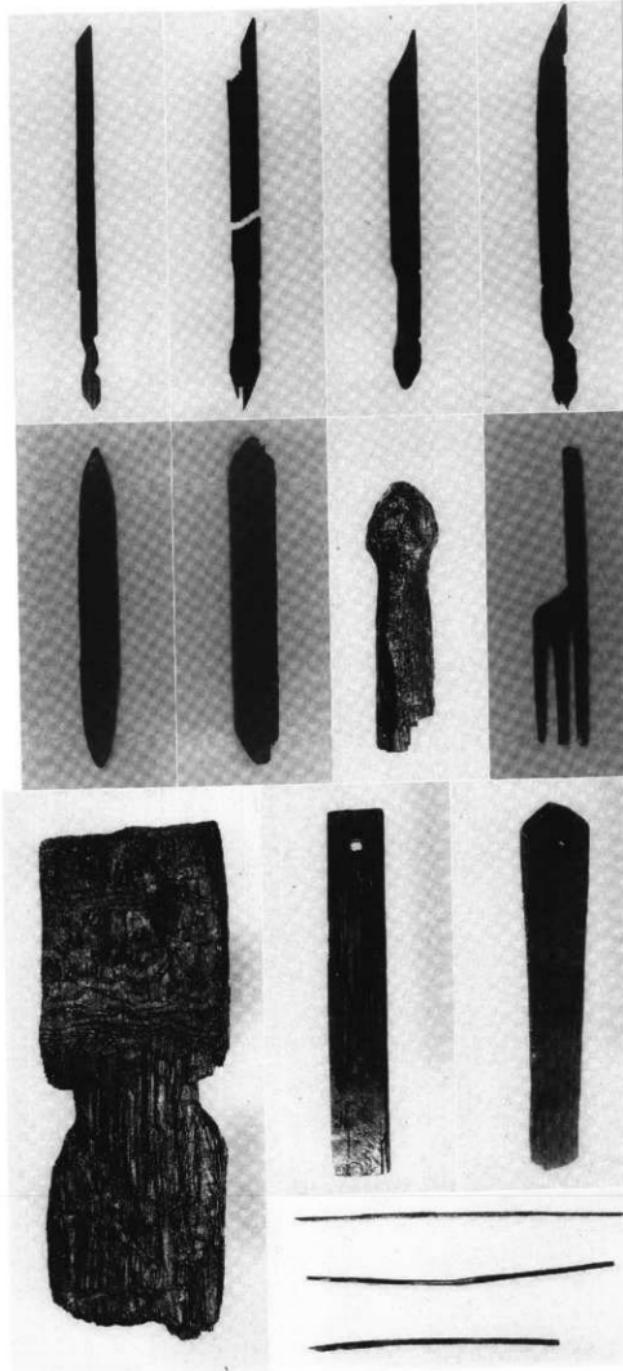
出土遺物 6
土器 6
(稻妻 1 区
339、S P 035
稻妻 2 区
324~335
大谷川旧流路
381~391
包含層)



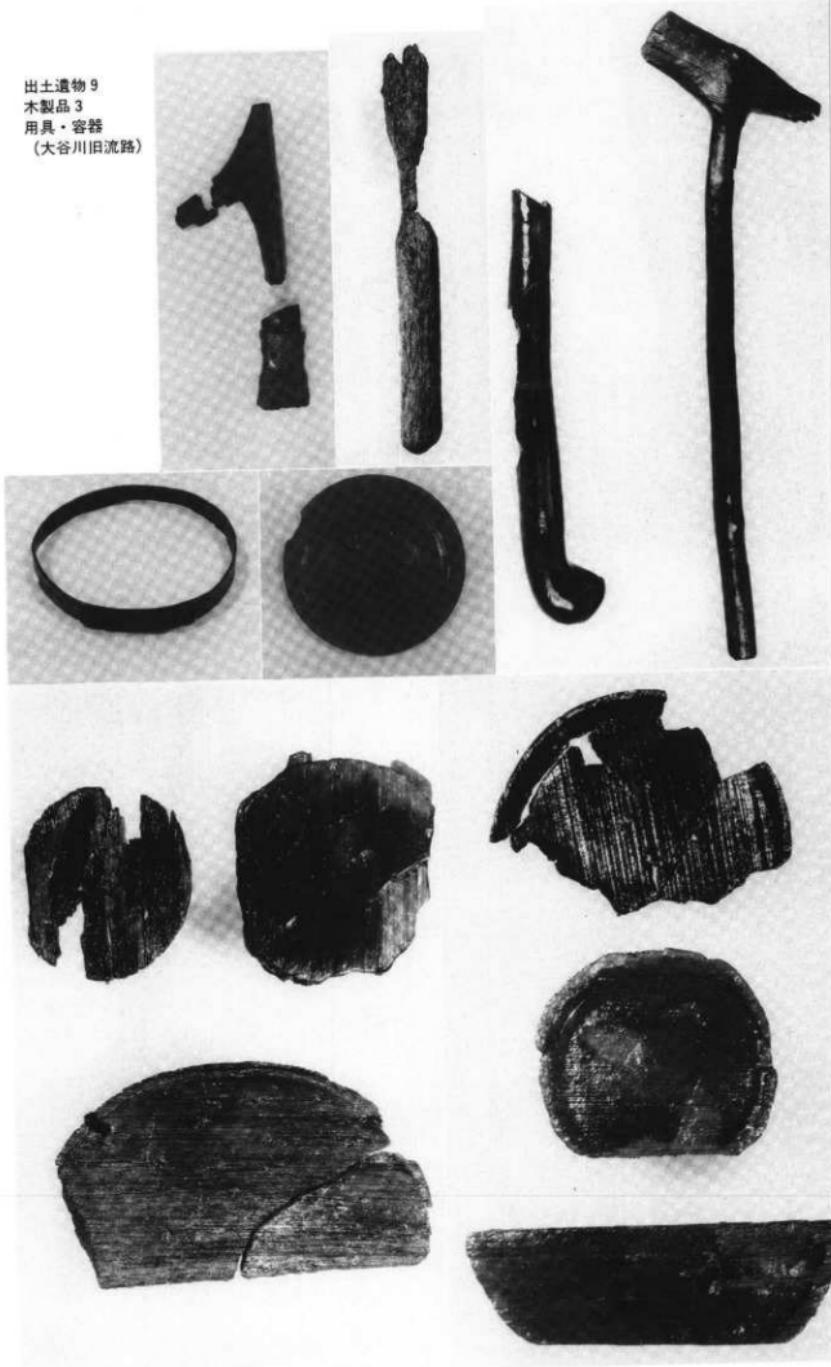
出土遺物 7
木製品 I
人形・蒼串・
馬形
(大谷川旧流路)



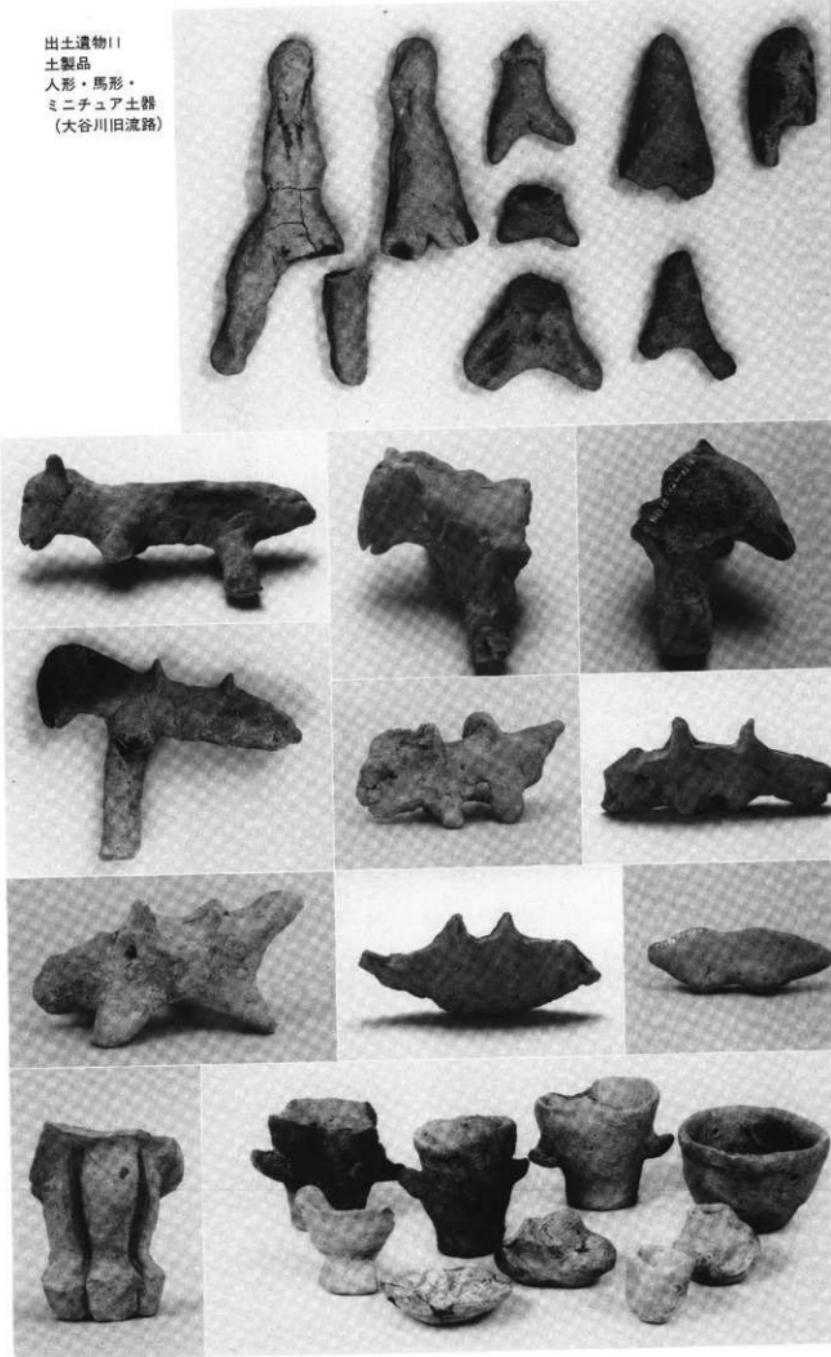
出土遺物 8
木製品 2
刀形・舟形他
(大谷川旧流路)



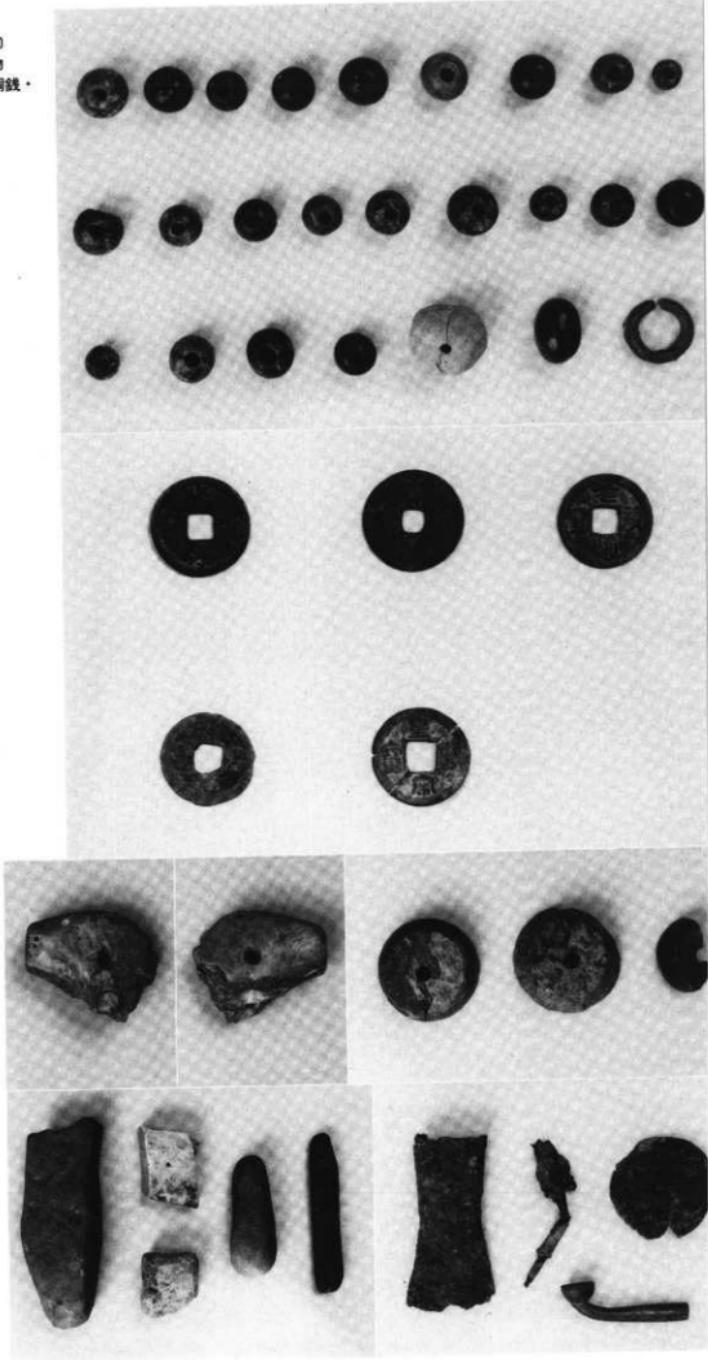
出土遺物 9
木製品 3
用具・容器
(大谷川旧流路)



出土遺物II
土製品
人形・馬形・
ミニチュア土器
(大谷川旧流路)



出土遺物10
その他遺物
装飾品・銅錢
石製品他



大谷川(稻妻地区)

昭和60年度巴川(大谷川放水路工区)
特定河川緊急整備事業
埋蔵文化財発掘調査報告書
(仲明原・元宮川流域)

昭和63年3月31日

編集発行 財團法人
静岡県埋蔵文化財調査研究所

印刷所 株式会社 三 創
静岡市中村町166番地の1
TEL (0542) 82-4031